

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第547集

なかしま

中嶋遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業関連遺跡発掘調査

2010

国土交通省東北地方整備局
岩手河川国道事務所
(財)岩手県文化振興事業団

中嶋遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業関連遺跡発掘調査



SK03井戸跡全景（北東から）



井戸内遺物出土状況（東から）



井戸外枠（東から）



井戸内枠（東から）



井戸内枠工具痕（南から）

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、東北横断自動車道釜石秋田線直轄事業に関連して平成19年度と平成20年度に発掘調査された中嶋遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、平安時代の堅穴住居跡、井戸跡をはじめとする各種の遺構が検出され、集落の姿が明らかになるとともに、土器、石器などたくさんの遺物も出土いたしました。当地域における歴史を解明する上で貴重な資料を提供することができたと考えております。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北整備局岩手河川国道事務所、花巻市教育委員会を始めとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成22年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武田牧雄

例　　言

- 1 本報告書は、岩手県花巻市東和町安俵 11 区 149-1 ほかに所在する中嶋遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡登録台帳における遺跡番号・調査略号は、次のとおりである。
　　遺跡番号：NE28-2198 遺跡略号：NS-07（平成 19 年度）・NS-08（平成 20 年度）
- 3 本遺跡の発掘調査は、東北横断自動車道釜石秋田線直轄事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の委託を受けた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
- 4 野外調査及び室内整理期間・調査面積・担当者は、次のとおりである。

野外調査	平成 19 年 6 月 18 日～9 月 14 日／2,900m ² ／中村絵美・太田代一彦
	平成 20 年 8 月 1 日～10 月 17 日／2,702m ² ／福島正和・高橋静歩
室内整理	平成 20 年 1 月 16 日～3 月 31 日／中村絵美
	平成 20 年 11 月 4 日～3 月 31 日／高橋静歩
- 5 基準点測量は、有限会社島設計事務所に委託した。
- 6 本報告書の執筆は、福島・中村・太田代・高橋が分担しておこなった。
- 7 分析・鑑定・委託業務は次の機関に委託した（順不同・敬称略）。

石質鑑定	花崗岩研究会
炭化材同定	阿部利吉（前岩手県木炭協会）
樹種・種子同定	古代の森研究会
放射性炭素年代測定	加速器分析研究所
漆製品分析	赤沼英男（岩手県立博物館）
井戸枠実測	株式会社 ラング
- 8 野外調査では、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、東日本高速道路株式会社、花巻市教育委員会ならびに遺跡周辺住民の方々より多大なるご協力をを得た。
- 9 上層の観察は、『新版標準土色帖』（小山・佐竹：1989）によった。
- 10 基準点および調査区内のグリッド杭の打設には、平面直角座標第 X 系（世界測地系）を用いた。
- 11 発掘調査及び報告書作成にあたり、以下の方々のご指導・ご協力をいただいた。（順不同・敬称略）
　　平川 南（国立歴史民俗博物館）、北野博司（東北芸術工科大学）、瀬川司男・橋本征也（東和ふるさと歴史資料館）、中村良幸・酒井宗孝（花巻市教育委員会）、西野修（矢巾町教育委員会）、石崎高臣（奥州市役所）
- 12 調査結果の一部は現地説明会資料や調査略報、遺跡報告会等にてその時点での概略を公表しているが、本書との記載事実が異なる場合はすべて本報告書を優先する。
- 13 本遺跡の出土遺物及び諸記録類の一切は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I	調査に至る経緯と経過	1
1	調査 経緯	1
2	調査 経過	1
II	遺跡の立地と環境	2
1	遺跡の位置と地理的環境	2
2	周辺の歴史的環境	2
III	野外調査と室内整理の方法	5
1	野外調査	5
2	室内整理	6
IV	平成19年度調査	9
1	豎穴住居跡	9
2	井戸跡	13
3	土坑	21
4	溝跡	22
5	遺物包含層	28
V	平成20年度調査	47
1	豎穴住居跡	47
2	掘立柱建物跡	79
3	土坑・溝	79
4	遺物包含層	84
5	遺構外出土遺物	89
VI	分析	110
1	中鳩遺跡より出土した種実	110
2	中鳩遺跡より出土した加工材の樹種	119
3	A M S 測定	124
4	出土漆の分析	129
VII	調査のまとめ	135
1	平成19年度調査	135
2	平成20年度調査	135
3	まとめ	138
	報告書抄録	219

図版目次

第1図 遺跡位置図	54
第2図 周辺の地形分類図	3
第3図 周辺の遺跡	4
第4図 遺構配置図（平成19年度）	7
第5図 遺構配置図（平成20年度）	8
第6図 SI02堅穴住居跡	10
第7図 SI02堅穴住居跡カマド	11
第8図 SI02堅穴住居跡出土遺物	12
第9図 SK03井戸跡（1）	14
第10図 SK03井戸跡（2）	15
第11図 SK03井戸枠材（1）	16
第12図 SK03井戸枠材（2）	17
第13図 SK03井戸枠材（3）	18
第14図 SK03井戸枠材（4）	19
第15図 SK03井戸枠材（5）	20
第16図 SK01・02・04土坑	21
第17図 SD05溝・SK03井戸跡出土遺物（1）	23
第18図 SK03井戸跡出土遺物（2）	24
第19図 SD01～04溝	25
第20図 SD05溝	26
第21図 SD07・8溝	27
第22図 SD09溝	27
第23図 包含層出土遺物（1）	29
第24図 包含層出土遺物（2）	30
第25図 包含層出土遺物（3）	31
第26図 包含層出土遺物（4）	32
第27図 包含層出土遺物（5）	33
第28図 包含層出土遺物（6）	34
第29図 包含層出土遺物（7）	35
第30図 包含層出土遺物（8）	36
第31図 包含層出土遺物（9）	37
第32図 包含層出土遺物（10）	38
第33図 SI0801堅穴住居跡	47
第34図 SI0801堅穴住居跡出土遺物	48
第35図 SI0802・0803堅穴住居跡	48
第36図 SI0802堅穴住居跡	49
第37図 SI0802堅穴住居跡カマド（1）	50
第38図 SI0802堅穴住居跡カマド（2）	51
第39図 SI0802堅穴住居跡出土遺物	53
第40図 SI0803堅穴住居跡	54
第41図 SI0803堅穴住居跡出土遺物	55
第42図 SI0804・0807・0812堅穴住居跡	56
第43図 SI0804堅穴住居跡カマド	57
第44図 SI0804堅穴住居跡出土遺物（1）	58
第45図 SI0804堅穴住居跡出土遺物（2）	59
第46図 SI0805堅穴住居跡	60
第47図 SI0805堅穴住居跡出土遺物	60
第48図 SI0806堅穴住居跡	61
第49図 SI0806堅穴住居跡カマド（1）	62
第50図 SI0806堅穴住居跡カマド（2）	63
第51図 SI0806堅穴住居跡出土遺物（1）	64
第52図 SI0806堅穴住居跡出土遺物（2）	65
第53図 SI0807堅穴住居跡	65
第54図 SI0807堅穴住居跡出土遺物	66
第55図 SI0808・0810堅穴住居跡	67
第56図 SI0808堅穴住居跡	68
第57図 SI0808堅穴住居跡カマド	69
第58図 SI0808堅穴住居跡出土遺物（1）	71
第59図 SI0808堅穴住居跡出土遺物（2）	72
第60図 SI0808堅穴住居跡出土遺物（3）	73
第61図 SI0809堅穴住居跡	74
第62図 SI0809堅穴住居跡出土遺物	75
第63図 SI0810堅穴住居跡	76
第64図 SI0810堅穴住居跡出土遺物	76
第65図 SI0811堅穴住居跡	77
第66図 SI0811堅穴住居跡出土遺物	78
第67図 SI0812堅穴住居跡	78
第68図 SI0812堅穴住居跡出土遺物	79
第69図 SB0801掘立柱建物跡	80
第70図 SK0801・0803～0809・0812土坑	83
第71図 土坑出土遺物	84
第72図 SD0801溝	85
第73図 包含層断面	86
第74図 包含層出土遺物（1）	87
第75図 包含層出土遺物（2）	88
第76図 包含層出土遺物（3）	89
第77図 石製品	90
第78図 遺構外出土遺物	91

表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧	4	第3表 掲載遺物一覧（平成19年度）	39
第2表 基準点・区画割付統一覧	5	第4表 掲載遺物一覧（平成20年度）	92

写真図版目次

写真図版1	全景	141	写真図版40	SI0804	180
写真図版2	調査前・湿地	142	写真図版41	SI0805	181
写真図版3	SI02	143	写真図版42	SI0806 (1)	182
写真図版4	SK03	144	写真図版43	SI0806 (2)	183
写真図版5	土坑・溝跡（1）	145	写真図版44	SI0806 (3)	184
写真図版6	溝跡（2）	146	写真図版45	SI0807	185
写真図版7	溝跡（3）、湿地	147	写真図版46	SI0808 (1)	186
写真図版8	出土遺物（1）	148	写真図版47	SI0808 (2)	187
写真図版9	出土遺物（2）	149	写真図版48	SI0809 (1)	188
写真図版10	出土遺物（3）	150	写真図版49	SI0809 (2)、作業風景	189
写真図版11	出土遺物（4）	151	写真図版50	SI0810	190
写真図版12	出土遺物（5）	152	写真図版51	SI0811	191
写真図版13	出土遺物（6）	153	写真図版52	SI0812	192
写真図版14	出土遺物（7）	154	写真図版53	SB0802 (1)	193
写真図版15	出土遺物（8）	155	写真図版54	SB0802 (2)	194
写真図版16	出土遺物（9）	156	写真図版55	SD0801、SK0801・SK0802	195
写真図版17	出土遺物（10）	157	写真図版56	SK0803～SK0806	196
写真図版18	出土遺物（11）	158	写真図版57	SK0808	197
写真図版19	出土遺物（12）	159	写真図版58	SK0807・0809～0811	198
写真図版20	出土遺物（13）	160	写真図版59	遺物包含層（1）	199
写真図版21	出土遺物（14）	161	写真図版60	遺物包含層（2）、作業風景	200
写真図版22	出土遺物（15）	162	写真図版61	堅穴住居出土遺物（SI0801・0802）	201
写真図版23	出土遺物（16）	163	写真図版62	堅穴住居出土遺物（SI0802）	202
写真図版24	出土遺物（17）	164	写真図版63	堅穴住居出土遺物（SI0803）	203
写真図版25	出土遺物（18）	165	写真図版64	堅穴住居出土遺物（SI0803・0804）	204
写真図版26	出土遺物（19）	166	写真図版65	堅穴住居出土遺物（SI0804）	205
写真図版27	出土遺物（20）	167	写真図版66	堅穴住居出土遺物（SI0804・0805・0806）	206
写真図版28	出土遺物（21）	168	写真図版67	堅穴住居出土遺物（SI0806）	207
写真図版29	出土遺物（22）	169	写真図版68	堅穴住居出土遺物（SI0807・0808）	208
写真図版30	出土遺物（23）	170	写真図版69	堅穴住居出土遺物（SI0808）	209
写真図版31	出土遺物（24）	171	写真図版70	堅穴住居出土遺物（SI0808・0809）	210
写真図版32	出土遺物（25）	172	写真図版71	堅穴住居出土遺物（SI0809）	211
写真図版33	調査区全景（平成20年度）	173	写真図版72	堅穴住居出土遺物（SI0809～0810）	212
写真図版34	基本層序	174	写真図版73	土坑出土遺物（SK0805）・遺物包含層出土遺物	213
写真図版35	SI0801	175	写真図版74	遺物包含層出土遺物	214
写真図版36	SI0802 (1)	176	写真図版75	遺物包含層出土遺物	215
写真図版37	SI0802 (2)	177	写真図版76	遺物包含層出土遺物、堅穴住居出土石製品	216
写真図版38	SI0803 (1)	178	写真図版77	堅穴住居出土石製品、遺構外出土遺物	217
写真図版39	SI0803 (2)	179	写真図版78	遺構外出土遺物	218



第1図 遺跡位置図

I 調査に至る経緯と経過

1 調査経緯

中嶋遺跡は、東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）の施工に伴って、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することになったものである。

東北横断自動車道は、釜石市を起点として、遠野市、奥州市を経由し、花巻市にて東北縦貫自動車道（東北道）に合流し、さらに北上市にて分岐し、西和賀町、横手市、大仙市を経由して秋田市に至る総延長212km（内岩手県内113km）で供用区間は45km）の高規格道路である。

本路線は、釜石港、大船渡港といった重要港湾や観光資源豊富な陸中海岸国立公園を有する三陸地方拠点都市地域と、先端技術産業の集積が著しい北上中部地方拠点都市地域、花巻空港等の岩手県内と秋田県を結び、周辺地域のみならず岩手・秋田両県全域の産業・経済発展を担うことを目的に遠野～東和間に於いては平成10年度に遠野～宮守間で整備計画、宮守～東和間では施行命令がなされる。また、平成16年度には新直轄方式による整備が決定している。

中嶋遺跡については、過年度において岩手県教委員会が試掘調査を実施し、当路線事業地内が埋蔵文化財包蔵地であることが確認されたものであり、その結果に基づいて岩手県教育委員会と国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所が協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることにした。

これにより平成20年7月10日付けで岩手河川国道事務所長と岩手県文化振興事業団理事長との間で受託契約を締結し、中嶋遺跡の発掘調査に着手した。

（国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所）

2 調査経過

中嶋遺跡の発掘調査は、5,602m²の事業用地を対象として、平成19年度と平成20年度の2回にわたっておこなった。

平成19年度調査は平成19年6月18日～9月14日の期間、2,900m²の事業予定地北側を対象としておこなった。この際に事業予定地南側についても表土除去作業までをおこなっており、この南側2,702m²については協議の結果、次年度以降の調査とすることとなった。そのため、シート等により遺構面を養生し撤収した。この調査に関する整理作業は、平成20年1月16日～3月31日の期間おこなった。

平成20年度調査は先述した表土除去済みの範囲を対象として、平成20年8月1日～10月17日の期間、発掘調査を実施した。調査は平成19年度に養生した遺構面を検出し、順次調査をおこなった。この調査では、事業予定地の西側の一部を用地取得等の都合により調査区からあらかじめ除外されている。そのため、遺構の大半が西側へ統くと考えられる箇所については遺構の検出を留め、その部分についてはシート等による養生をおこない、撤収し引き渡した。この調査に関する整理作業は、平成20年11月4日～3月31までの期間おこない、調査成果については平成19年度分と併せて本報告書に収録することとなった。

（福島・中村）

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と地理的環境

中嶋遺跡が所在する花巻市は、平成18年1月1日に花巻市、大追町、石鳥谷町、東和町の1市3町が合併し、新たに「花巻市」として発足した。人口は105,026人、面積は908.32km²である。岩手県内陸部中央のやや南西に位置し、北は盛岡市、紫波町、零石町、東は遠野市、南は北上市、奥州市、西は西和賀町と接している。東和町は花巻市内では東側に位置する。中嶋遺跡は東和町の中央部で、JR東日本釜石線土沢駅から西約1km、岩手県花巻市東和町安俵11区148-1ほかに位置する。

岩手県の北上盆地を南流する北上川の流域は、盛岡以北が上流域、盛岡～前沢間が中流域、前沢以南を下流域と、大きく3区域に区分される。花巻市は北上川中流域のちょうど中央部にあたる。中流域の西側と東側では地形が異なっている。西側は、松倉山、円森山などの標高200～900m級の奥羽山脈系の支脈をなす山地からなる。新第三紀中新世のグリーンタフ活動による安山岩～流紋岩質岩を主体とし砂岩・礫岩・頁岩を伴うこの山地から、農沢川、瀬川などの北上川支流が東流する。洪水堆積物と流路の変遷を起因とする扇状地が形成されている。またその東側では南流する北上川の旧河床が段丘かした河岸段丘が発達している。河岸段丘は上・中・下の新旧3段以上に分類される。上位段丘は村崎野北側の西根段丘、中位段丘は村崎野周辺の村崎野段丘、下位段丘は金ヶ崎段丘である。東側は、古生層、花崗岩類、蛇紋岩、安山岩、砂岩、頁岩を基岩とし、北上山地の山麓部と標高150～250m前後の丘陵が比較的の勾配をもって、入り組んで発達している。

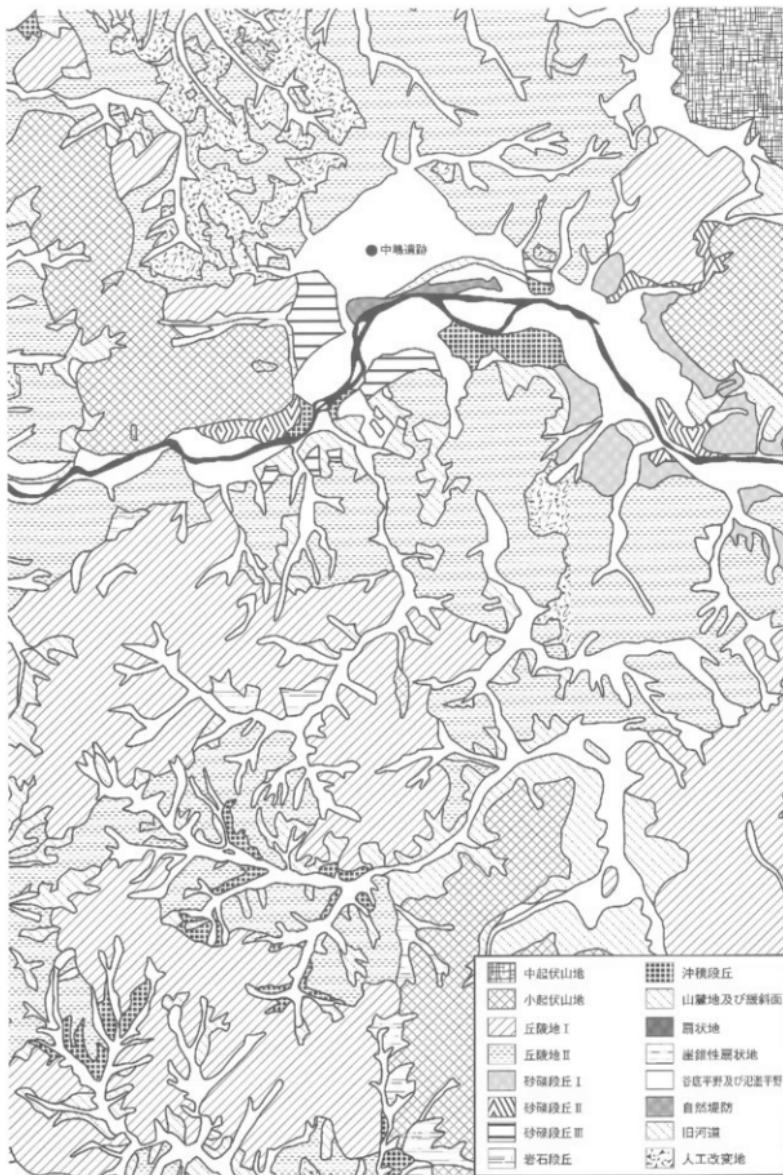
花巻市東和町は周囲を北上山地の支脈丘陵や山地に囲まれ、盆地状となっている。北は鷹巣山(435.0m)、三郡塚山(588.0m)、権現堂山(476.3m)、東は遠野市境に砥森山(670.1m)、黒日影山(446.1m)、飛竜山(598.8m)、南は北上市境に物見山(268.0m)、奥州市境に明神山(623.1m)、金成山(540.8m)などの山が周囲にあり、西側には高松丘陵地がある。盆地内を北上川支流の猿ヶ石川が東から西へ大きく蛇行しながら、毒沢川、子通川を集めて流れる。館追地区、安俵地区、成島地区で小規模な河岸段丘、谷底平野、沖積段丘を形成するが、段丘の発達は不良であり、その範囲は狭い。

安俵地区的谷底平野一帯は、かつて大沼(オオヌマ)で、3つの中島(ナカシマ)があったという伝承がある。安俵6区遺跡の調査で、縄文時代には大沼(オオヌマ)が存在し、中島(ナカシマ)ががあったことが確認されている。しかし、この大沼(オオヌマ)および中島(ナカシマ)がどの時期にまで遡ることができるか、いつまで存在していたかは不明である。

中嶋遺跡は、猿ヶ石川に開析された安俵地区的谷底平野である東和低地にあり、先述した大沼(オオヌマ)の中島(ナカシマ)があった場所と考えられている。中嶋遺跡周辺は、水田が広がる一帯となっており、中嶋遺跡も周辺同様、調査前は水田として利用されていた。遺跡の標高約175mで、現地表面では周辺との比高差はほとんどみられない。

2 周辺の歴史的環境

東和町内では295箇所の遺跡が確認されており、そのほとんどが縄文時代と平安時代の遺跡である。奈良時代の遺跡は東和町ではまだ確認されていない。東和町内では分布・試掘調査がほとんどで、本調査が行われた遺跡は少ない。第3図周辺の遺跡の図・表には連番で87から図示した。1～86の遺跡



第2図 周辺の地形分類

については、倉沢3区I・II遺跡の報告書で掲載しているので、そちらを参照していただきたい。

遺跡は猿ヶ石川やその支流の小河川、沢の流域付近に形成された、小規模な河岸段丘や谷底平野、沖積段丘に分布が多く見られる。中嶋遺跡のある安俵地区周辺では、猿ヶ石川流域の谷底平野と、高松丘陵の裾野緩斜面に分布が見られる。中嶋遺跡周辺の縄文時代から中世の主要遺跡について概観する。縄文時代の遺跡は、西上町Ⅲ遺跡で縄文時代早期の貝殻腹縁文土器片が出土している。中期の集落跡である甚五郎遺跡では、多数の貯蔵穴と複式炉を持つ大型住居跡が検出されている。遺物は亀型土製品や特殊注口土器が出土している。縄文時代中～後期の集落跡の安俵6区遺跡は、大沼の中島に、多量に捨てられた土器の廃棄場、住居状に石を配した環状列石、集石道構が多数確認されている。朱塗り土器の出土や、石塚埋納遺構などが検出され、祭祀場の可能性も考えられる。安俵6区遺跡から東に約300mにある縄文時代後期の清水屋敷Ⅱ遺跡では、別の大沼の中島が確認され、環状配石を中心として多数の配石遺構群が検出された。縄文晩期の田光遺跡では、小範囲の調査であるが、住居跡や貯蔵穴と墓壙がまとまって見つかっている。平安時代の遺跡は、清水屋敷Ⅱ遺跡で、石回いの煙出しをもつカマドや、平窓跡が多数検出されている。縄文時代との複合遺跡の畠中遺跡では、竪穴住居跡と掘立柱建物跡が見つかっている。前郷遺跡、羽黒田遺跡、中屋敷遺跡、新丁遺跡では、試掘調査や分布調査のみだが、ロクロ使用土器片の出土が確認されている。図示していないが、浮田地区に9世紀前半～後半の住居跡が確認された高野畠遺跡がある。この住居跡からはロクロビットが見つかり、住居跡周辺からは平窓跡が多数検出されており、陶工の存在も考えられる。中世の遺跡は、城館跡がほとんどで、丘陵地や段丘上に19箇所確認されている。田瀬地区の城館跡を除いて、ほかの城館跡は、和賀氏の家臣によって築城されたものと文献等から判明している。本遺跡周辺では、安俵小原氏が築城した、安俵城跡、擬六木本館跡、擬釜塚館跡、擬安俵高館跡、擬押熊館跡といわれる安俵五館があり、西側の鷹巣山丘陵から張り出す斜面上に立地している。五館

のうち、本調査が行われたのは安俵城のみである。河岸段丘上に作られた三連郭の平城跡で、掘立柱建物跡や、多数の柱穴跡が検出されている。また、東和町で確認された城館跡で平城は安俵城だけで、城内に職人、商人を住まわせる城内町を取り込んでいる。

(太田代)



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧（おもに平安時代）

No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
87	宮崎	平安	113	安俵9区	縄文
88	中内山の池	平安	114	大石	縄文・平安
89	上中内	平安	115	勝場日向	縄文・平安
90	西内門	平安	120	津島原	縄文？・平安
91	龍屋	平安	121	安俵3区II	平安
93	索良野	縄文・平安	122	安俵3区	平安
94	一反田	平安	123	安俵4区	縄文？・平安
95	北成島上	縄文？・平安	125	安室	平安
97	行人塚	不明	126	愛宕舗町	平安
98	北成島B	縄文・平安	129	擬釜塚館跡	中世
99	中久口	縄文・平安	134	中嶋	平安
101	田子野	縄文・平安	135	清水屋敷II	縄文・平安
105	白上町II	平安	136	清水屋敷	縄文・平安
106	西上町III	縄文	137	新	平安
107	和田I	平安	138	羽黒田	平安
108	和田II	平安	141	前郷	平安
109	町井II	平安	142	中屋敷	平安
110	畦中	縄文・平安	143	熊谷	平安
111	下屋敷	平安	145	河敷山	平安

III 野外調査と室内整理の方法

1 野外調査

(1) 調査面積

平成19年度は2900m²、平成20年度は2,702m²、合計5,602m²を調査対象とした。

(2) グリッドの設定(第4図)

グリッドの設定については、両年度ともに平面直角座標第X系(世界測地系)を用いて基準点2点、補点3点を打設した。これを基本として一辺100×100mの大グリッドを組み、西から東へローマ数字のI・II・・・・北から南へアルファベット大文字のA・B・C・・・として「IA」「IB」と表した。小グリッドは、西から東へ算用数字の1～20、南から北へアルファベット小文字のa～tとして、「I Alb」「IB2c」と大グリッドと組み合わせて表現した。

第2表 基準点・区画割付杭一覧

	世界測地系		H	グリッド
	X	Y		
基1	-68800.000	33420.000	100.882	II B5a
基2	-68855.000	33440.000	100.864	II B91
補1	-68800.000	33400.000	100.834	II B1a
補2	-68855.000	33400.000	100.727	II B11
補3	-68875.000	33420.000	101.011	II B5p

(3) 粗掘り・遺構検出

調査区内に任意の試掘トレンチを設定し人力掘削を行い、土層の堆積状況と遺構検出面を観察した。その後遺構確認面まで重機で掘り下げ、鍛錬・両刃ガマ等で遺構検出作業を行った。

(4) 遺構名について

①野外調査

住居跡は「SI-01」、土坑は「SK-01」溝は「SD-01」など、遺構種類ごとに略号を用いて、仮名称をつけた。また、平成20年度(2008年)に検出、調査した遺構については、調査時より遺構番号頭に「08」と冠し、平成19年度(2007年)調査分のものと区別した。

②報告書掲載

野外調査時および室内整理時には、検出時に命名した仮名称を変更することなく、報告書掲載時に新たに掲載名称をついた。

(5) 遺構精査・遺物の取り上げ

精査は、遺構の規模に応じて2分法・4分法を用いて断面を残し埋土の堆積状況を記録した。遺構内遺物の大半は層別で取り上げず、上層・下層・埋土一括と区分した。遺構外の遺物は出土した小グリッド、層序を記録した。

(6) 実測

遺構の実測は、平面図及び断面図の作成を行った。平面実測は、1m方眼を基準にした簡易造り方測量を主に採用し、遺構配置図・溝跡などについては光波トランシットによる実測も併用した。縮尺は1/20を基本としたが、堅穴住居跡のカマド等では1/10を用いる等、必要に応じて任意の縮尺で実測した。土層注記は層中混入物の量の表現が統一されていないが、おむね極微量1%以下、微量1~5%、少量5~10%、やや多量10~30%、多量30~50%、大量50%程度としている。

(7) 写真撮影

写真撮影は、メインカメラとして中判カメラ(モノクロ)、サブカメラとして35mm判カメラ(モノクロ・リバーサル)、メモ用にデジタルカメラを使用した。これらのカメラでは、各遺構の全景・断面・遺物出土状況を中心に撮影を行った。

2 室内整理

(1) 遺物の処理

土器・陶磁器は、器形復元可能なもの、口縁・底部が残存するもの、文様が確認できるもの(縄文)を中心に選別した。石器は製品、土製品、石製品、金属製品・木製品は全点仮登録して、実測、写真掲載、表掲載に分類した。

遺物は登録時に土器・石器など、遺物の種類ごとに仮番号を付した。室内整理中は仮番号のまま作業を行った。その後集段階で全ての遺物に改めて掲載順の番号を付し、これを掲載番号とした。遺物観察表についてはそれぞれの年度で作成した。したがって、表に示した項目等はあえて統一していない。

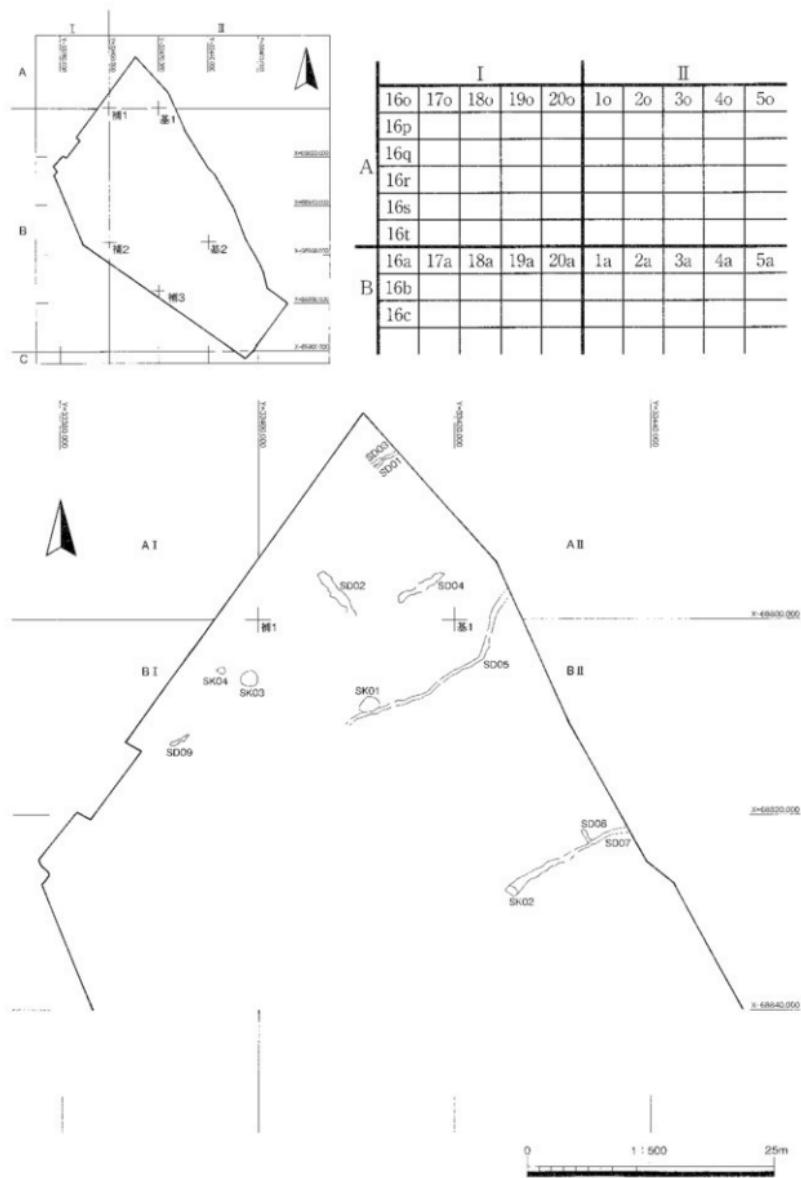
(2) 遺構の処理

遺構の実測図は整理及び点検を行った後に、必要に応じて図面を合成し第二原図を作成し、これとともにトレースを進めた。

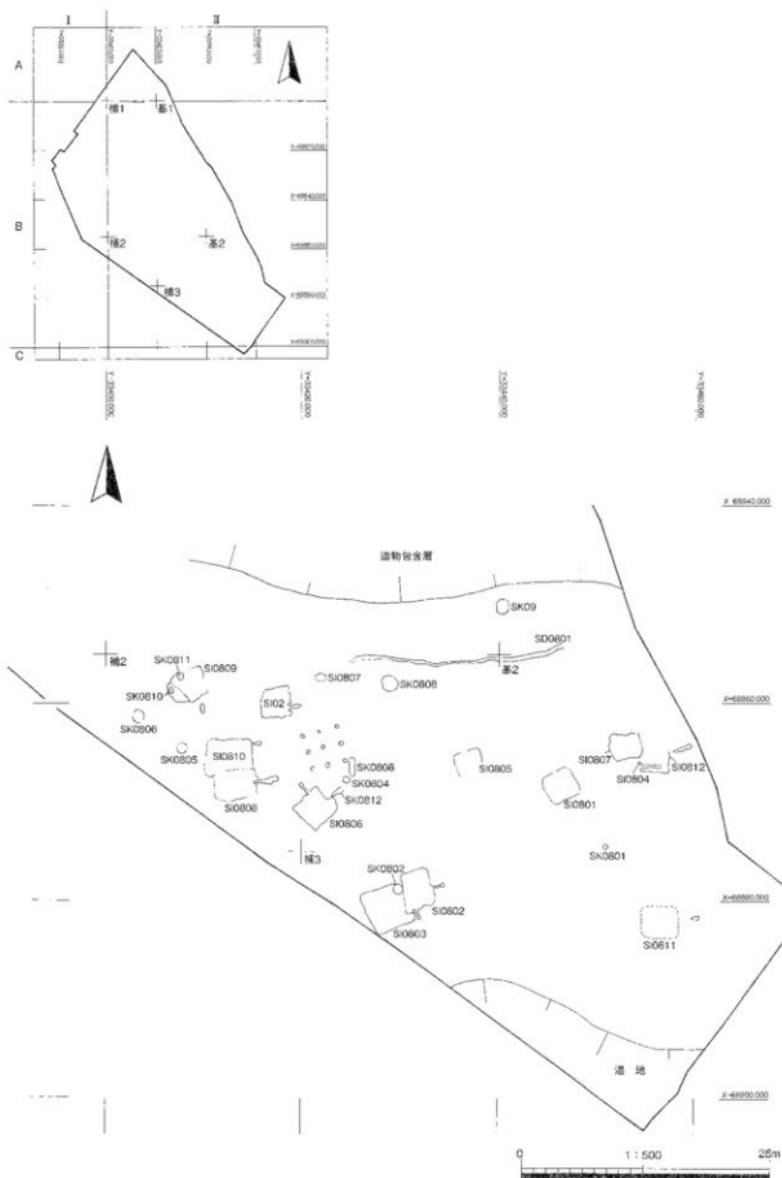
(3) 図版について

遺構ごとに平面・断面図を作成し掲載した。遺構図版には縮尺率を表すスケールと方位を付した。遺物の縮尺は、土器1/3、土製品・石製品・金属製品1/2、剥片石器2/3、錢貨1/1とした。

なお、遺物写真図版の掲載番号は遺物図版と統一している。



第4図 遺構配置図（平成19年度）



第5図 遺構配置図（平成20年度）

IV 平成19年度調査

1 穴住居跡

S102 穴住居跡（第7・8図、写真図版3）

〈位置・検出状況・重複〉 II B41～4mグリッドに位置する。

〈規模・形状〉 形状は方形、北壁2.43m、南壁3.95、東壁3.20m、西壁2.76m。主軸方位はN-84°-Eである。

〈堆積状況〉 上部に暗褐色土、下部に黒褐色土が堆積する。下部には炭化材・炭化物を多く含んでおり、上屋は焼失したものと考えられる。

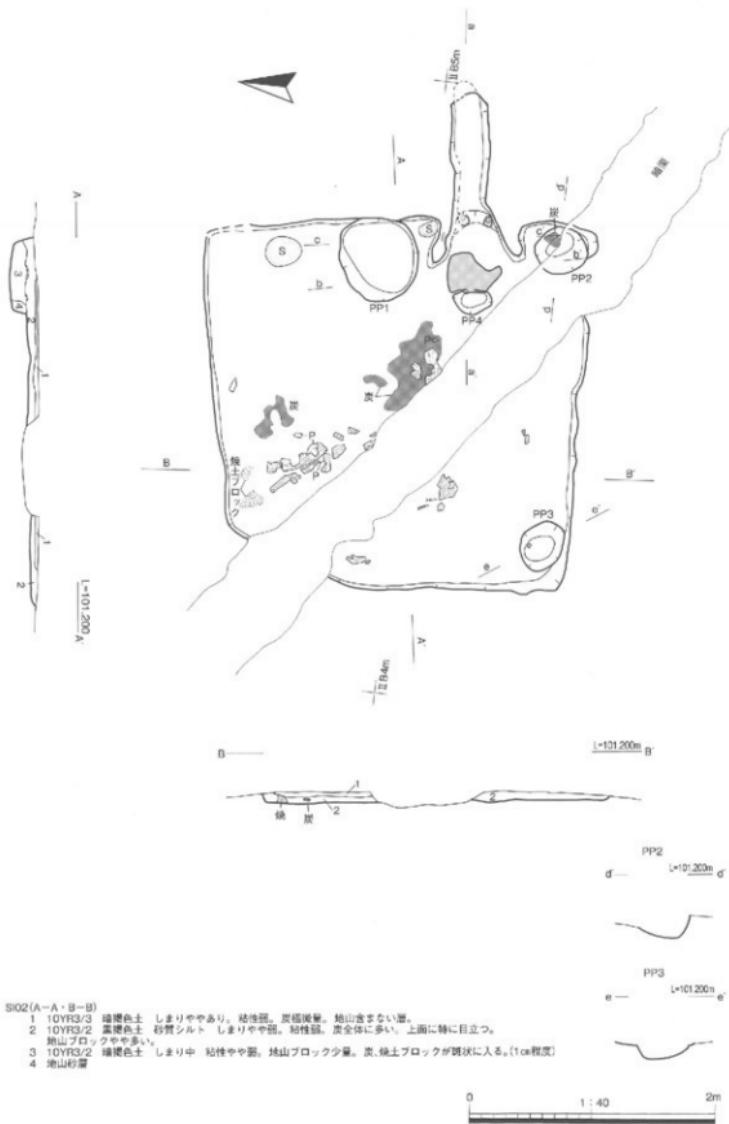
〈床面・壁〉 地山を床とし、攤方は確認されなかった。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、検出面からの深さは10cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 4基の小穴を検出した。PP1はカマド北側に隣接する。68×65cmの円形底面はやや丸味を帯びるがおおむね平坦である。その位置から貯蔵穴と考えられる。埋土は炭化物・焼土ブロックを多く含む。PP2・3はそれぞれ南東・南西隅に位置し、径40cmの円形である。柱穴と考えられるが、深さ10cm程度と非常に浅い。

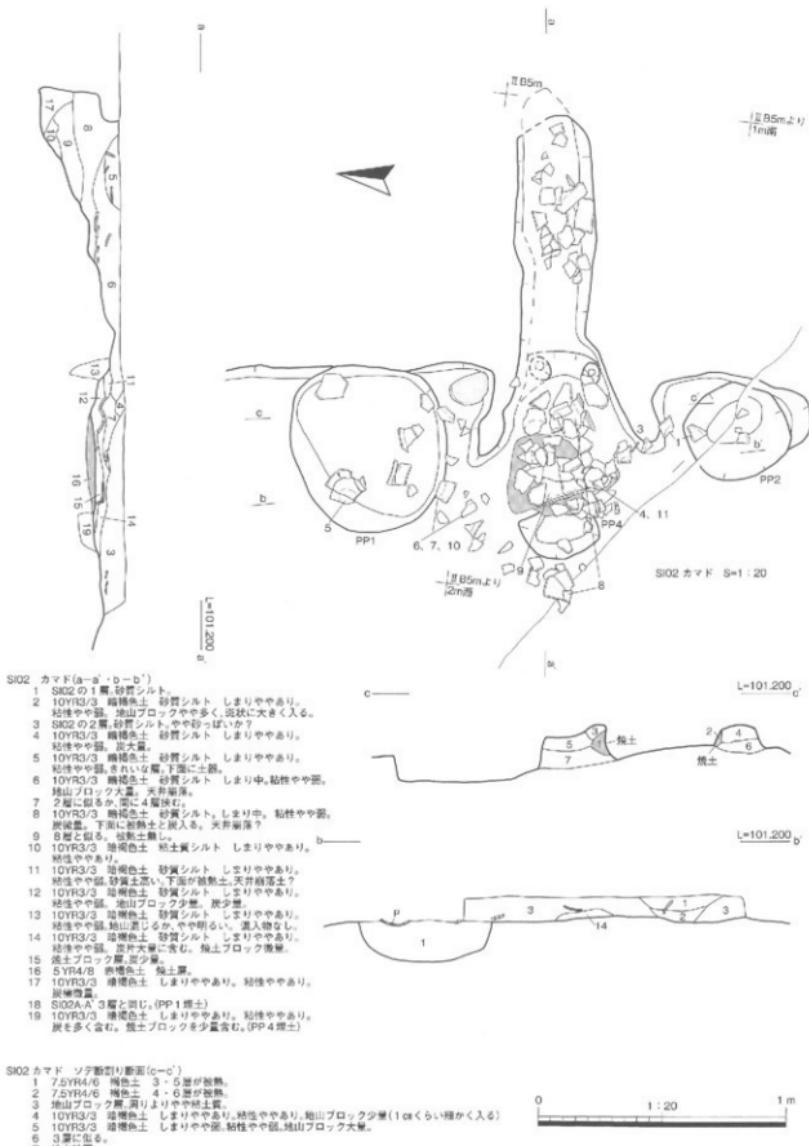
〈カマド〉 東壁の西よりに位置する。主軸方位はN-81°-Eである。補は暗褐色土と地山ブロックを構成土とし、内壁側が被熱する。燃焼部底面には46×33cmの不整形な焼成面が形成される。被熱の及ぶ深さは最大4cm程度である。焼成面の上には焼土ブロック、炭化物層が堆積する。燃焼部内住居壁際には小穴が2個確認された。煙道部は全長106cm、煙出し部へ向って底面が下がっていく。燃焼部・煙道部内の埋土は、暗褐色土を主体としており、これに炭・焼土・地山ブロックが混入する。6層に大量に地山ブロックを含み、8・11層下面に焼土ブロックを多く含むことから、煙道部はくり抜き式で天井部が崩落している可能性が高い。

〈遺物〉 1～12（第8図、写真図版8・9）。カマド付近から集中して出土している。土師器壺3点、甕7点、須恵器壺1点、甕1点、計12点を掲載した。土師器壺はすべてロクロ成形後内面が磨かれ黒色処理される。3は、底部周縁をヘラケズリ再調整している。甕は非ロクロ成形5点、ロクロ成形2点、非ロクロ成形の甕は外面をヘラナデ、内面はヘラナデもしくはハケメが施される。4は、内面が黒色処理されている可能性がある（鉢か？）。須恵器壺は、わずかに丸みを帯びるが、底部から直線的に外傾して立ち上がる。遺物の時期は平安時代（9世紀後半～10世紀初頭）と考えられる。

1 壁穴住居跡

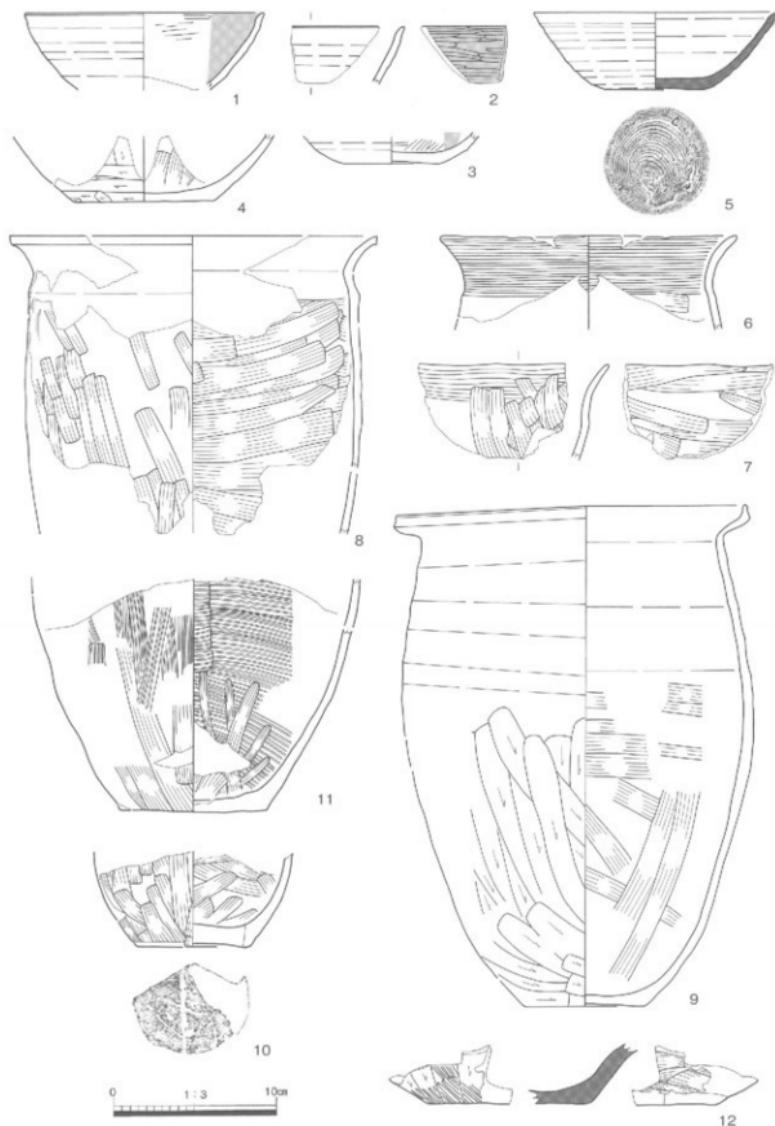


第6図 S102 壁穴住居跡



第7図 SI02 壁穴住居跡カマド

1 壁穴住居跡



第8図 SI02壁穴住居跡出土遺物

2 井戸跡

SK03井戸跡（第9・10図、写真図版4）

〈位置・検出状況・重複〉 I B9bグリッドに位置する。満水底面（VI層）で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 2.32×2.16mの円形の掘方内に、木枠が2重に埋め込まれている。内側は丸太をくり抜いた直径80cm円柱状の枠で、長さ80～90cm程度、上部は腐食してしまっている。その外側には板材を並べ、内枠を囲んでおり、外枠の直径は90cm程度である。各板材の長さは40cm～80cm程度、幅・形状も様々で、転用材と考えられる。板材のそれぞれの長さは異なるが、短いものは掘り方土で上げ底してあり、上面（枠検出面）では高低差なく弧を描いている。木枠の外側には、直径1.2～1.4mの範囲を礫が囲む。礫は一段もしくは二段積まれており、木枠の残存する上面とほぼ同じ高さに位置し、それより下には埋め込まれていない。掘方は砂礫層まで掘り込み、木枠を設置している。砂礫層からは湧水しており底面をはっきり確認できなかったが、検出面からの深さは1m程度である。調査時の湧水量は多く、木枠内には常に多量の水が溜まる状態であった。

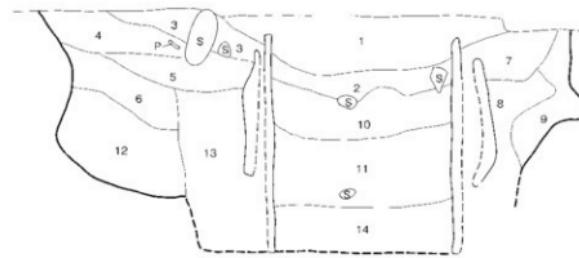
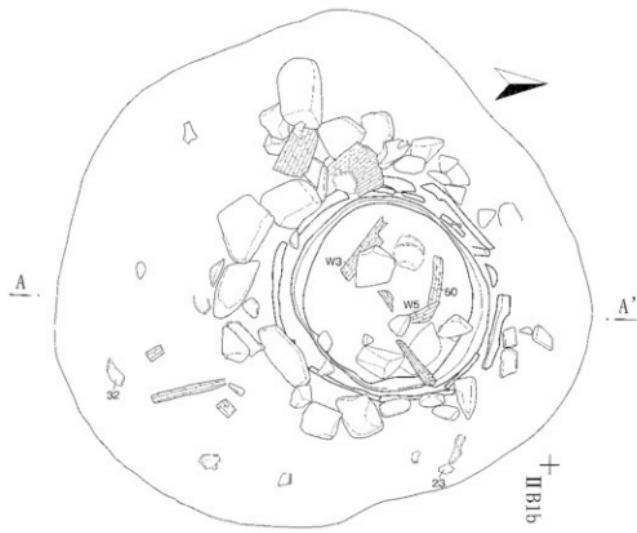
〈堆積状況〉 掘り方は、中心が一段深く、周りが浅い断面形状をもっている。一段低くなった箇所には粘性的な黒色土（8・13層）で木枠を埋め込み固定し、上部には礫を置きさらに補強している。浅い外周には掘削時に礫が崩落したような様相が見られ、南壁側は地山砂と黒褐色土の混土が堆積する（6・12層）。木枠内は黒色土が主体となり、底面付近には腐食した植物が多く堆積し、上部には土器片や木材などが混入する。埋土には、主体上以外の地山ブロックなど混入土の量は少なく、おそらく自然に埋没したものと考えられる。

〈遺物〉 14～57（第10～15・17・18図、写真図版9～18）。井戸内側の木枠は丸太をくり抜いたもので、外面には、削った工具痕がはっきりと残る（カラー写真図版、第10・11図）。内面は腐食・摩滅のためか加工痕を確認できなかった。外側の板材は上述のとおり形状が様々で、他で利用した部材を転用したものと考えられる。加工痕のあるもの（A・C・D・F1・F2・H～N）も多い。L～Nはもともと一枚の板材で、出土地点が離あうもの同士が接合する。板材は、内枠を囲っていた外側を表面、内側（内枠側）を表面として図化している。樹種は内枠がケヤキ、外枠もケヤキが多くコナラ節と続く（分析2）。年代測定の結果は7世紀～8世紀前半代とういう伐採年代がでた（分析3）。

本製品は、曲物片2点、椀（もしくは皿）が1点出土しており、漆が塗布されている。

土器は、土師器壺12点（うち内黒8点）・高台付壺（内黒）1点・甕6点（うち黒色処理2点）、須恵器瓶1点、計20点を掲載した。14・15は完形の土師器壺で、井戸内底面より2つ重なり伏せた状態で出土した。2点とも内面が磨かれ黒色処理されており、遺跡内の他の遺物に比べ磨減が少なくミガキが顕著に確認できた。下に重なる14は、胴部に墨書きされている。出土状況から意図的に井戸内に入れられたものと考えられる。この他の出土遺物は、破片が多く掘り方内に混入または井戸枠内に土と一緒に流入したものと判断される。掘り方および井戸底内の土器は、平安時代（9世紀後半）と推測される。

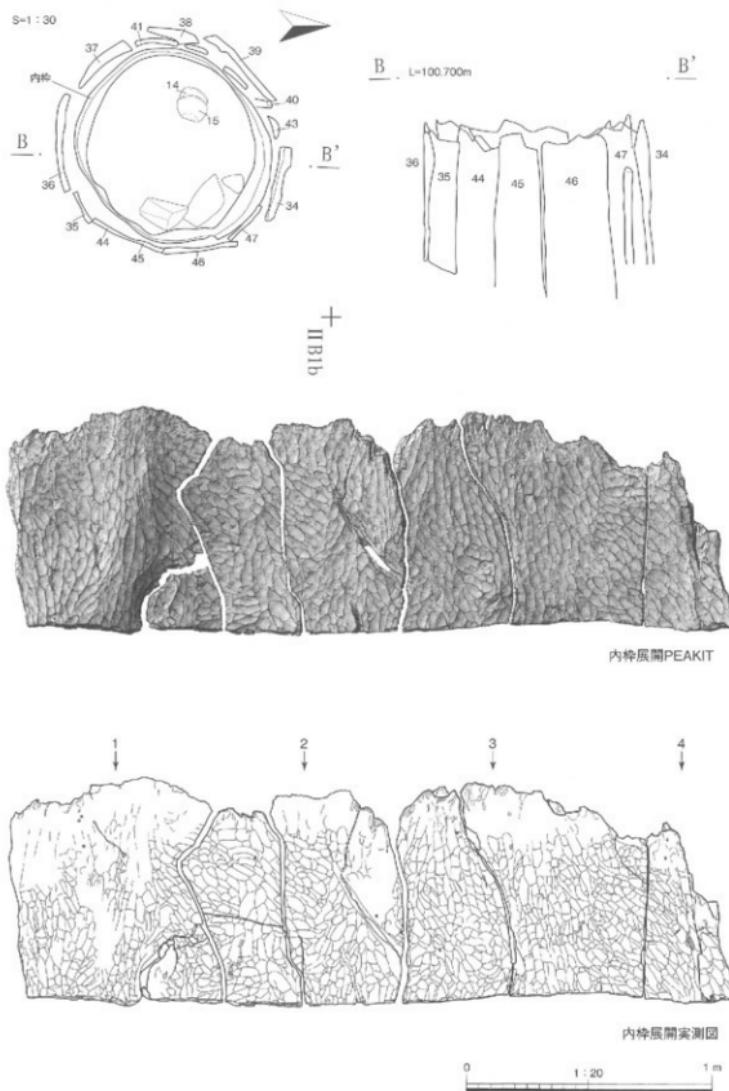
種子も大量に出土した。調査時に肉眼で確認できたものがクルミ・トチ・モモ各2点、その他井戸枠内の土をフローテーションし抽出した種子類は分析1の通りである。



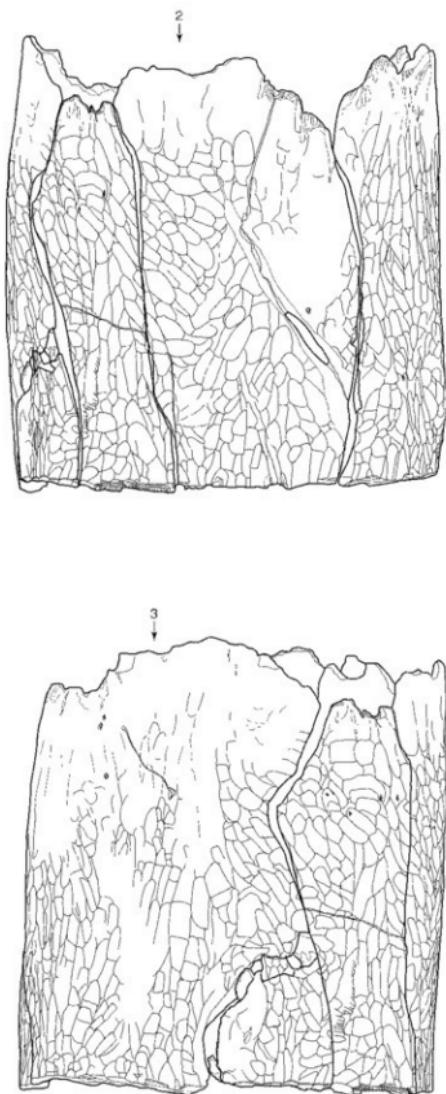
- 1 2.5Y2/1 黒色土 砂質シルト しまり中。粘性やや弱。白粒(?)を全体に含む。炭微量。
- 2 2.5Y2/1 黒色土 シルト(やや粘質) しまりやや弱。粘性ややあり。1層より茶色底強い、暗い、混ざりものない層。炭種腐葉量含む。
- 3 1層に似るが、1層より白粒多い。1層は3層が崩落したものと白っぽい。
- 4 2.5Y2/1 黒色土 シルト(やや粘質) しまり中。粘性やや弱。10YR1.7/1 を微量。地山ブロック(-5cm)を底材にやや多く含む。
- 5 2.5Y2/1 黒色土 シルト(やや粘質) しまりやや弱。粘性ややあり。地山ブロック(5cm)を微量。2~8層のような茶色味無し。
- 6 地山付大層量。是色土塊量。しまりやや弱。粘性ややあり。
- 7 2.5Y2/1 黒色土 粘性ややあり。1層に似る。白粒少い。
- 8 2層に似る。
- 9 日原と地山ブロックを細かく(10cm)少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 10 2.5Y2/1 黒色土 粘性ややあり。木片、木板片多量含む。
- 11 10層と土性同じだが、木片、ワラみたいいものが大量にあり。底面附近に木板片多い。谷地山から湧いている水によって浸れた? 北側には置いてあったが、水圧でなくなる。
- 12 2.5Y2/1 黒色土 地山付と粘土ブロックで現状に少量入る。
- 13 2/1 黒色土 やや茶味 5層に似る。粘土質の弱い。地は、粘土ブロック少量。球状に細かく入る。

0 1 : 20 1 m

第9図 SK03 井戸跡 (1)

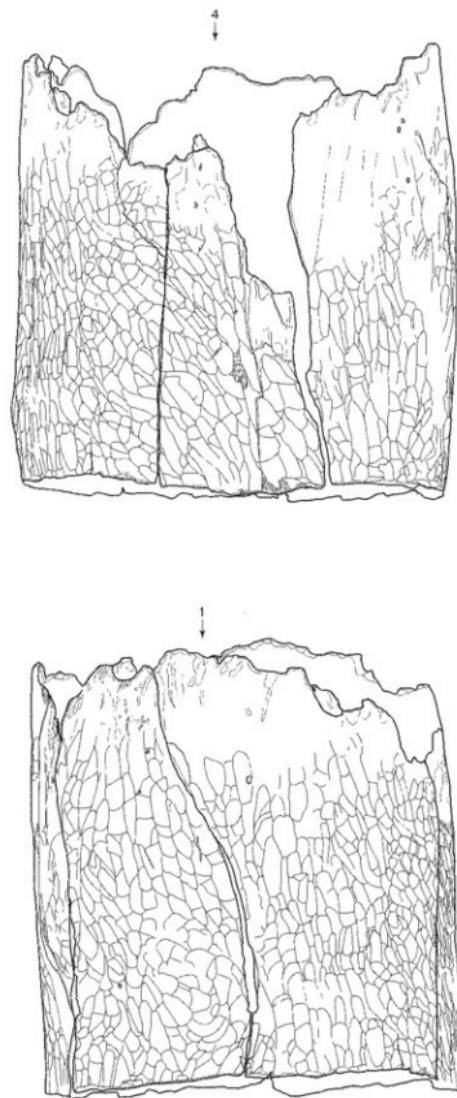


第 10 図 SK03 井戸跡 (2)



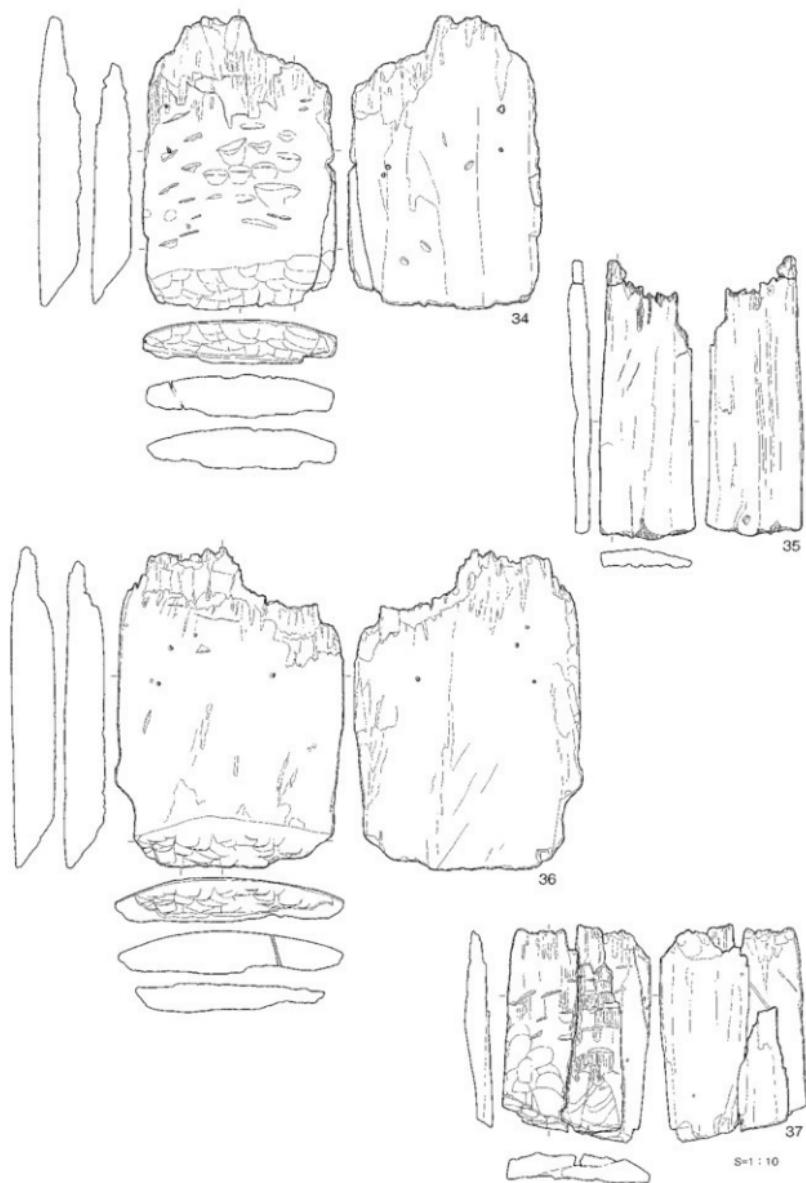
S=1 : 10

第11図 SK03 井戸枠材 (1)

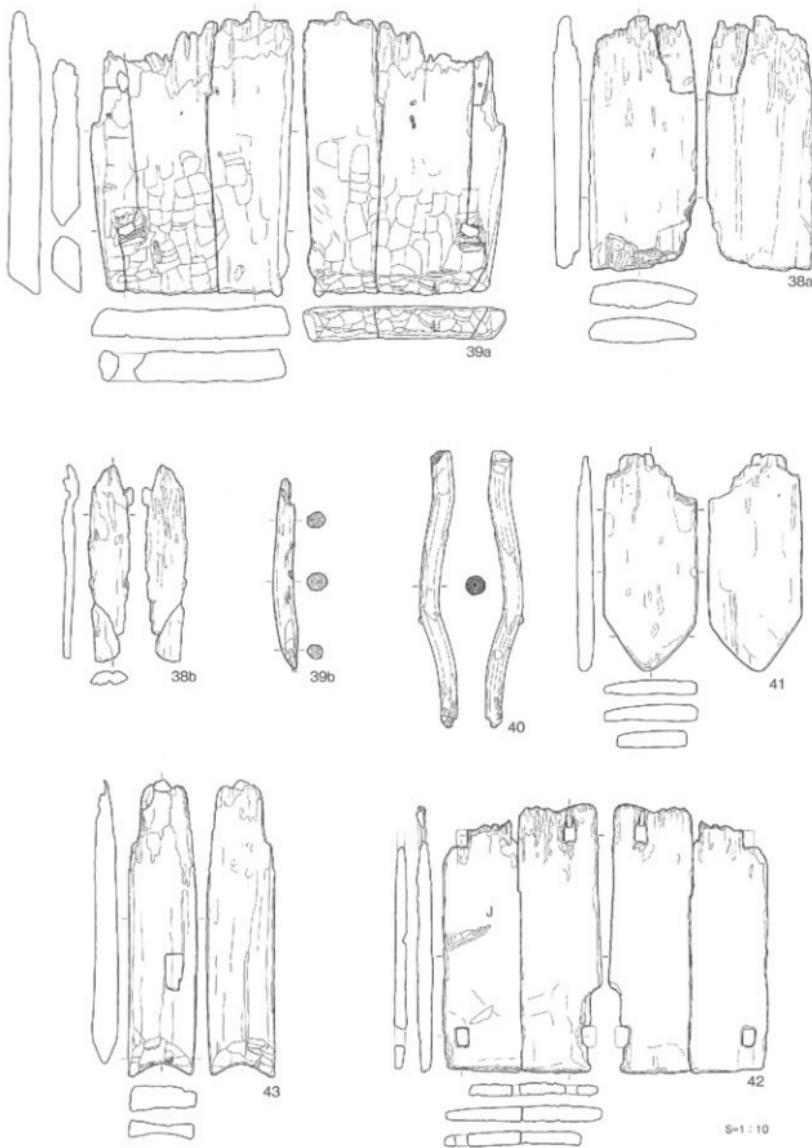


S=1:10

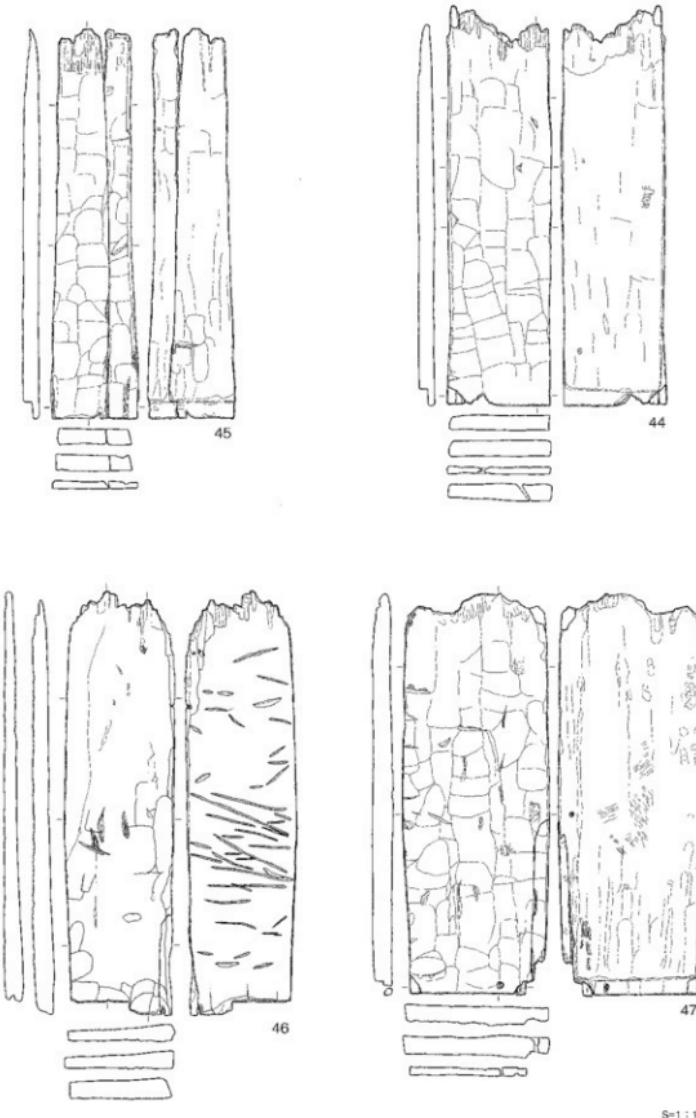
第 12 図 SK03 井戸桿材 (2)



第13図 SK03 井戸枠材 (3)



第 14 図 SK03 井戸枠材 (4)



第15図 SK03 井戸枠材 (5)

3 土 坑

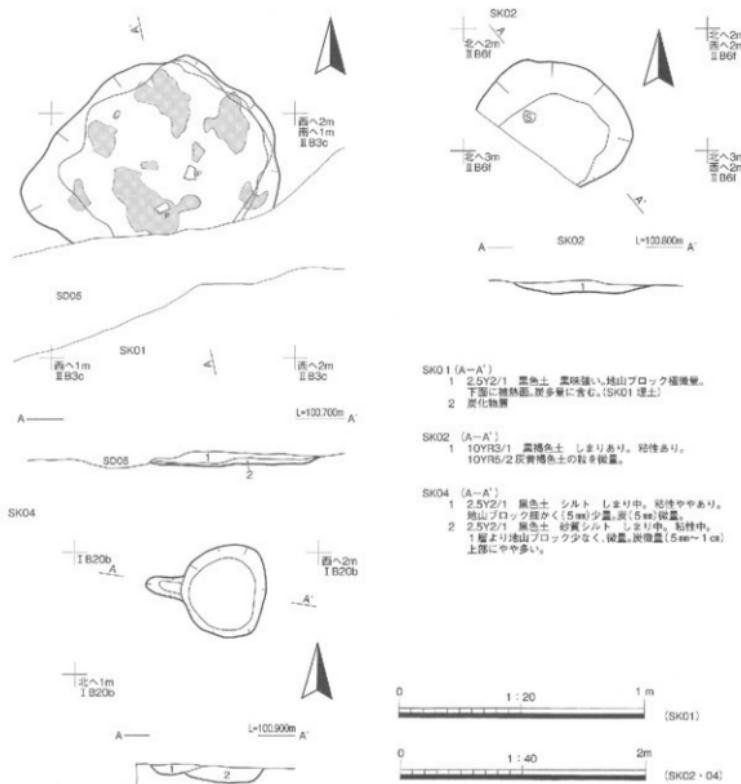
SK01土坑（第16図、写真図版5）

〈位置・検出状況・重複〉 II B3bグリッドに位置する。湿地内地山面で黒褐色土の広がりを確認した。SD05溝と重複しこれよりも古い。

〈規模・形状〉 南側をSD05溝に切られ消失する。残存部の径は、東西1.07m、南北0.7m、楕円形と推定される。壁から底面にかけて浅皿状に窪み、検出面からの深さは5cm程度である。

〈堆積状況〉 黒色土を主体とする。底面には被熱する範囲が認められ、直上に炭化物層が堆積する。遺構内で焼成が行なわれていた可能性ある。

〈遺物〉 炭化物層中に土器器片が出土しているが、小片のため図化していない。



第16図 SK01・02・04 土坑

SK02土坑（第16図、写真図版5）

〈位置・検出状況・重複〉 II B6fグリッドに位置する。地山面で黒褐色土の広がりを検出した。SD07溝と重複するが新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 検出面からの深さが浅く、南側を消失している。残存する径は東西1.20×0.82m、円～椭円形と推定される。壁から底面にかけて浅皿状に窪み、検出面からの深さは10cm程度である。

〈堆積状況〉 黒褐色土を主体とする単層である。

〈遺物〉 出土していない。

SK04土坑（第16図、写真図版5）

〈位置・検出状況・重複〉 I B20bグリッド付近に位置する。地山面で黒色土の広がりを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 0.75×0.70mの円形プランの西側に、長さ29cm、幅15cm程度の溝状の突出部を持つ。底面は平坦で、突出部は一段浅くなる。検出面からの深さはそれぞれ13cm、8cmである。壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒色土を主体とする。炭化物を含み上部ほど多い。

〈遺物〉 出土していない。

4 溝 跡

SD01溝（第19図、写真図版5）

〈位置・検出状況・重複〉 II A3qグリッドに位置する。地山面で確認した。重複するSD03溝に切られる。

〈規模・形状〉 北東～南西方向。北東側は調査区外へと延び、南西側は暗渠との重複部で消失する。全長は2.2m、上幅が30cm、下幅が10cm、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは5cm程度である。

〈埋土〉 黒色土を主体とする。

〈遺物〉 土師器・須恵器小片が出土している。

SD02溝（第19図、写真図版6）

〈位置・検出状況・重複〉 II A2tグリッド付近に位置する。地山面で検出し重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 北西～南東方向。北西側は深さを減じ、南東側は暗渠との重複部で消失する。全長は6.1m、上幅が50～100cm、下幅が70～40cm。底面は凹凸が多く、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは10cm程度である。

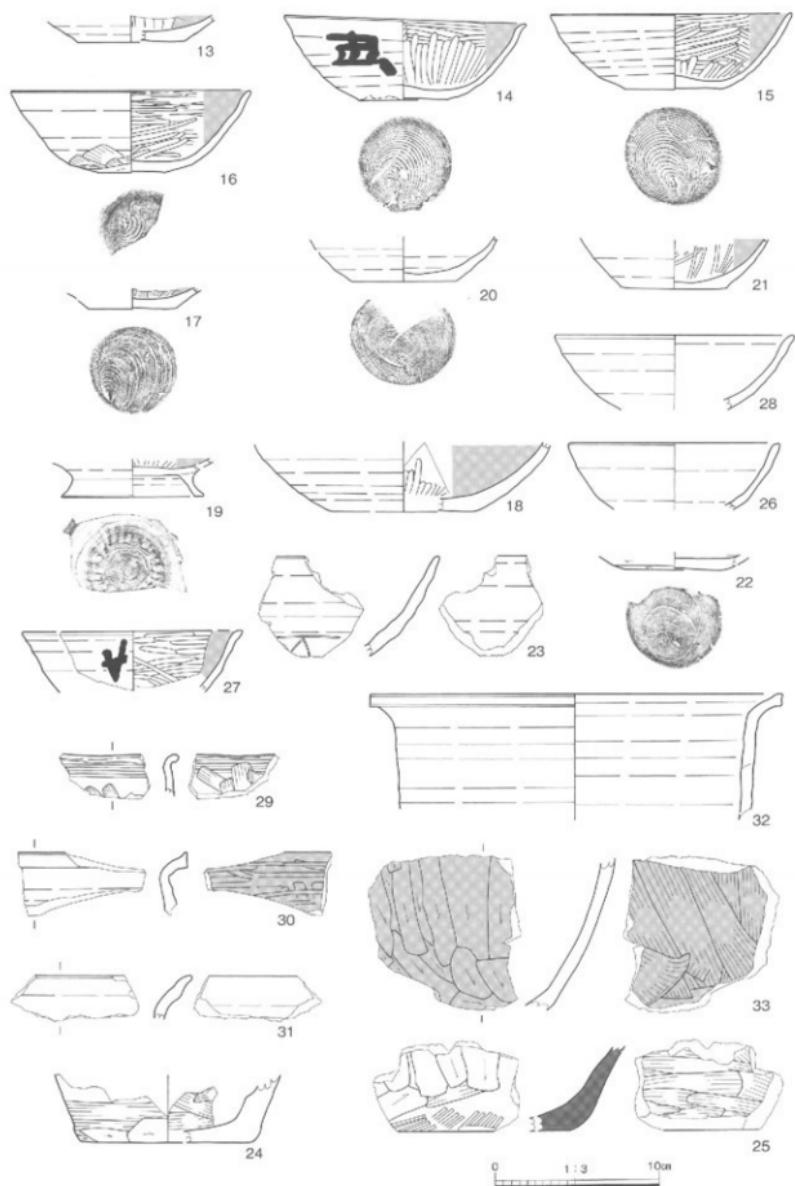
〈埋土〉 地山ブロックを少量含む黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉 土師器須恵器小片が出土している。

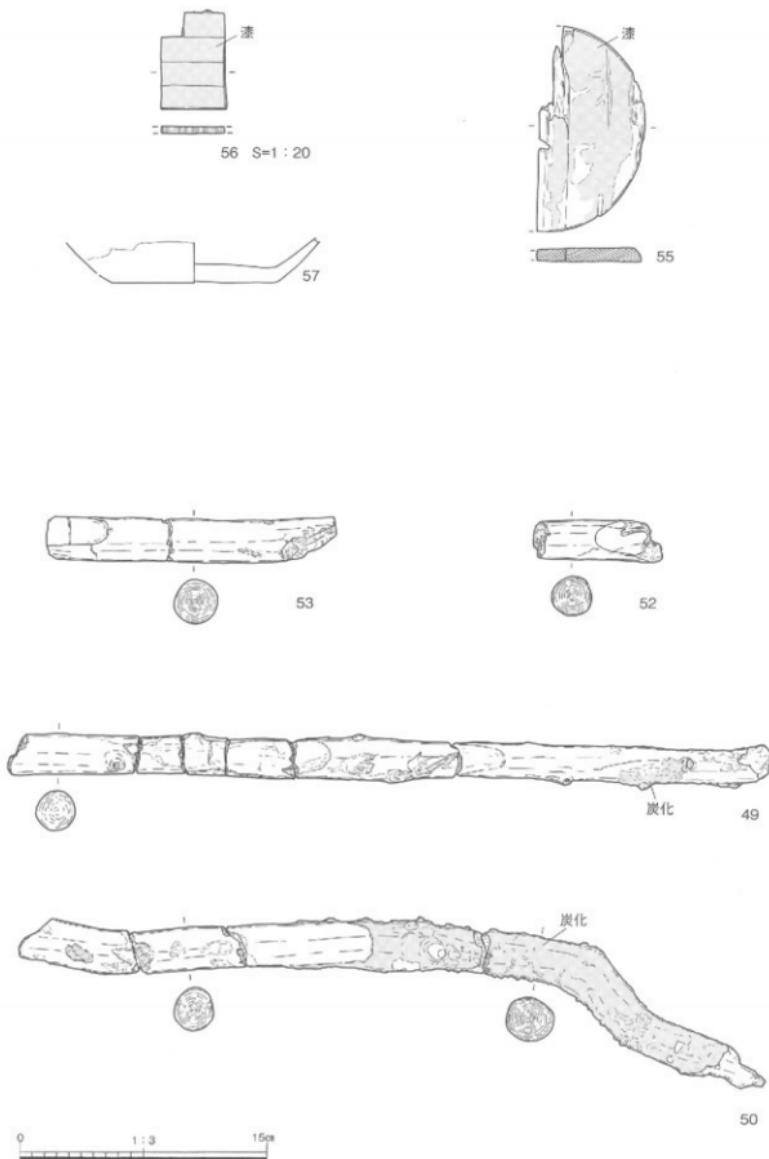
SD03溝（第19図、写真図版5）

〈位置・検出状況・重複〉 II A3qグリッドに位置する。地山面で検出した。SD01溝と重複しこれよりも新しい。

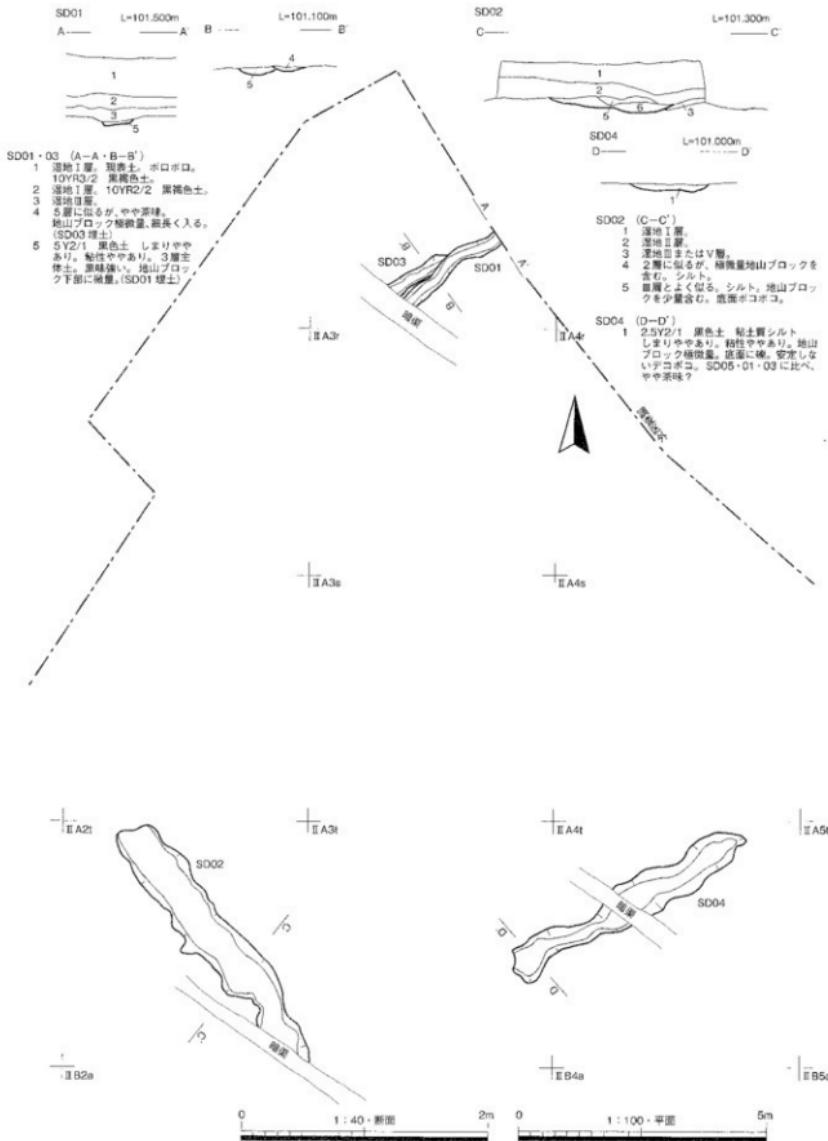
〈規模・形状〉 重複するSD01溝と同様、北東～南西方向。南西側は暗渠との重複部で消失、北東側は調査区壁の断面で確認できなかつたため、これより南で深さを減じ消失するものと考えられる。全長は1.3m、上幅が30cm、下幅が15cm、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは5cm以下である。



第17図 SD05溝・SK03井戸跡出土遺物 (1)

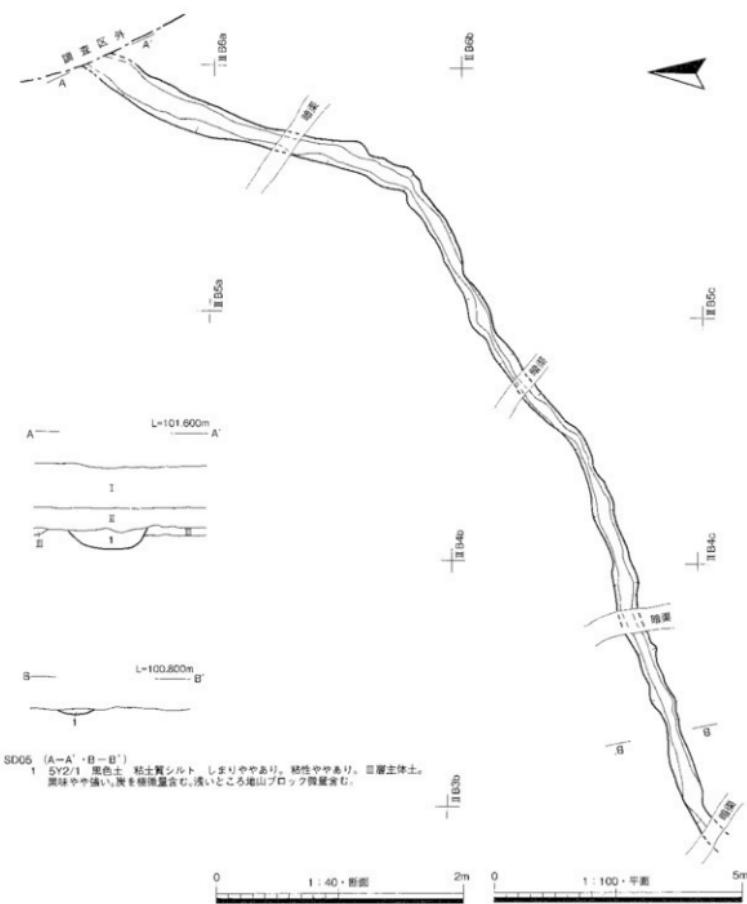


第18図 SK03井戸跡出土遺物（2）

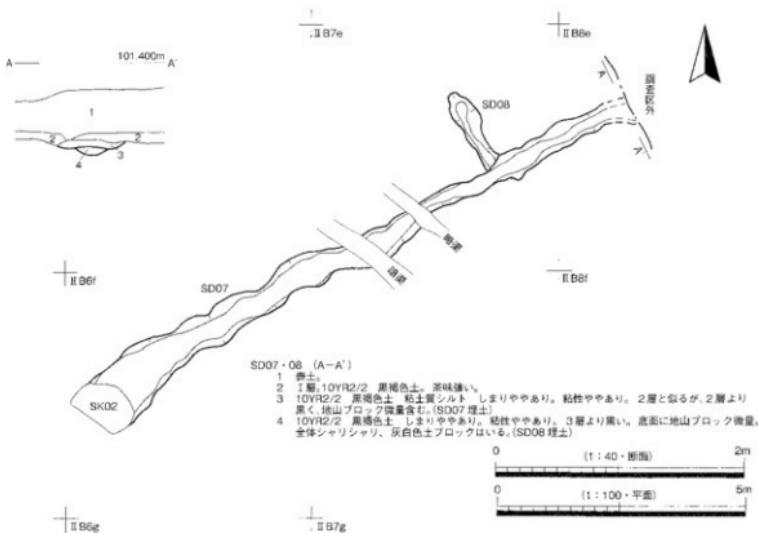


第19図 SD01～04溝

4 溝跡



第20図 SD05溝



第21図 SD07・08溝

〈埋土〉 黒色土を主体とする。SD01溝の埋土と似るがやや茶味が強い。

〈遺物〉 SD01溝との重複部で須恵器片出土している。

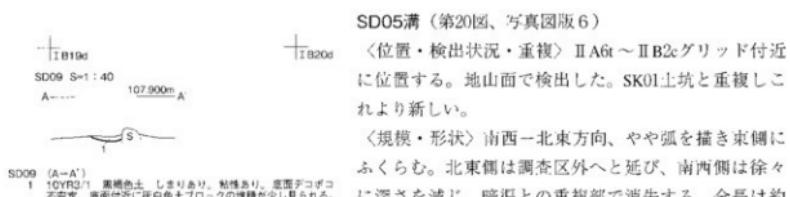
SD04溝 (第19図、写真図版6)

〈位置・検出状況・重複〉 II A3t ~ 4t グリッドに位置する。地山面で検出し、重複する造構はない。

〈規模・形状〉 北東 - 南西方向。両端は深さを減じ消失する。全長は5.4m、上幅が40~80cm、下幅が30~40cm、断面形は浅皿状となる。底面は凹凸が激しく、検出面からの深さは5cm程度である。

〈埋土〉 地山ブロックを極微量含む黑色土を主体とする。

〈遺物〉 剥片が出土している。



第22図 SD09溝

21m、上幅は20～70cm、下幅は10～50cm、断面形は浅皿状～U字状となる。検出面からの深さは、最大18cmである。

〈埋土〉 黒色土を主体とする。

〈遺物〉 土師器坏（13）が出土している（第17図、写真図版9）。

SD07溝（第21図、写真図版7）

〈位置・検出状況・重複〉 II B6f～II B8eグリッド付近に位置する。地山面で検出した。SD08溝とSK02土坑と重複しており、溝より新しく土坑との新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 南西一北東方向。北東側は調査区外へと延び、南西側は土坑との重複部で消失する。全長は12.2m、上幅が30～110cm、下幅が10～100cm、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは5cm程度である。

〈埋土〉 地山ブロックを微量含む黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉 SD08溝との重複部で近世陶磁器が出土している。

SD08溝（第21図、写真図版7）

〈位置・検出状況・重複〉 II B7e～8eグリッドに位置する。地山面で検出した。SD07溝と重複しこれよりも古い。

〈規模・形状〉 南北方向に延び北側は深さを減じ消失する。南側はSD07溝の重なり、東側へ折れ調査区外へと続く。両遺構を同時に掘り下げてしまったため重複部の形状は不明であるが、L字状形を持つと推定される。全長は約5.0m、上幅が25～50cm、下幅が10～20cm、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは5cm程度である。

〈埋土〉 黒褐色土を主体とする。SD07溝より黒味が強く、灰白色土のブロックを混入する。

〈遺物〉 SD07溝との重複部で近世陶磁器が出土している。

SD09溝（第22図、写真図版7）

〈位置・検出状況・重複〉 I B19cグリッドに位置する。地山面で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 南西一北東方向。両端は深さを減じて消失する。全長は2.2m、上幅が10～40cm、下幅が5～15cm、断面形は浅皿状となる。底面は凹凸が激しく、検出面からの深さは5cm程度である。

〈埋土〉 黒褐色土を主体とする。底面付近に灰白色のブロック（火山灰？）が堆積する。

〈遺物〉 土師器片が出土している。

5 遺物包含層

大グリッドB内、小グリッドkの東西ラインを境界に北側が湿地、南側が微高地（集落域）となる。湿地は、落ち葉から北側へ向って緩やかに下り一度東西方向に走る旧河道に切られ深くなるが、それ以北は比較的平坦面が広がる。湿地内の基本層序は以下のとおりである。

I層 黒褐色土。ボロボロ。現表土（水田土）。※集落域ではI層下すぐVI層地山層となる。

II層 黒褐色土。他層に比べ茶味が強い。旧表土（水田土）。

III層 黒褐色土。グレー味強い。地山ブロックを含む箇所あり。間に黑色土の薄層を挟む場所もみられる。洪水堆積層（中～近世）。

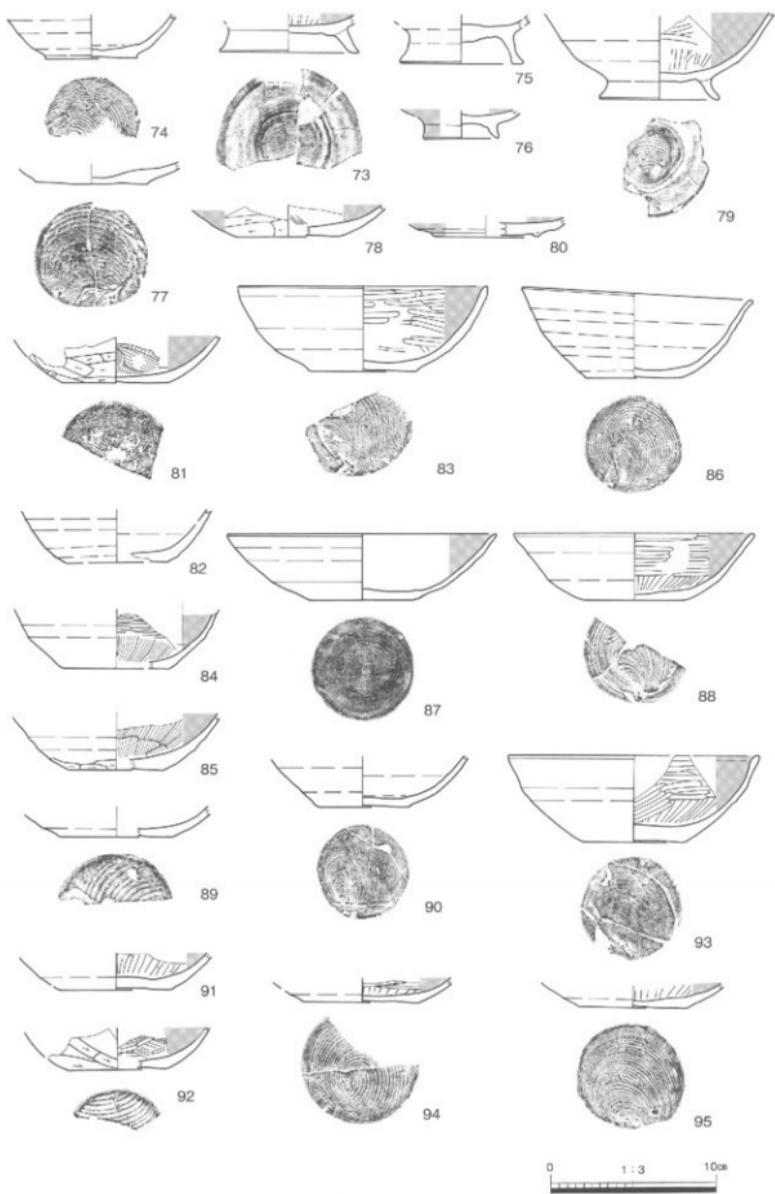
IV層 黒色土。下面が凸凹で湿地の落ち際のみ堆積する洪水層。以下粘性強くなる。(古代以降)
 V層 黒褐色土。茶味強い。層中に十和田a降下火山灰層が堆積する。火山灰を確認できた地点では上下2層に分かれる。(古代)※下部には縄文から弥生の層含むか?

VI層 地山層。グライ化する。

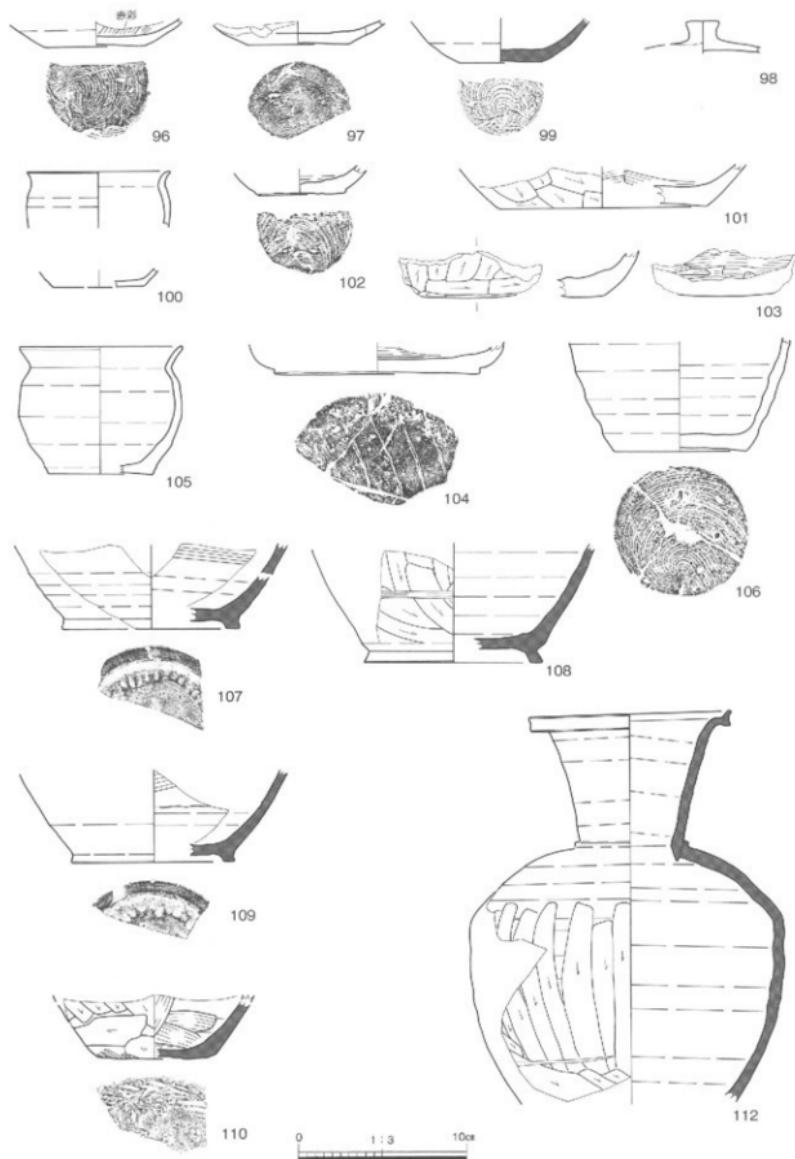
遺物は上記の湿地の落ち際と調査区北西部から多く出土している。落ち際ではIV~V層に遺物が含まれ小片が多いことから、南側の集落域から流入したものと考えられる。しかし、東端落ち際に限っては、「一」と墨書された須恵器がまとまって出土していることから、意図的な投棄と推測される(図掲載は20年度分)。調査区北西部は、南側の落ち際から一度遺物分布が途切れていることから、別地点(調査区外)から流入・投棄の可能性がある。



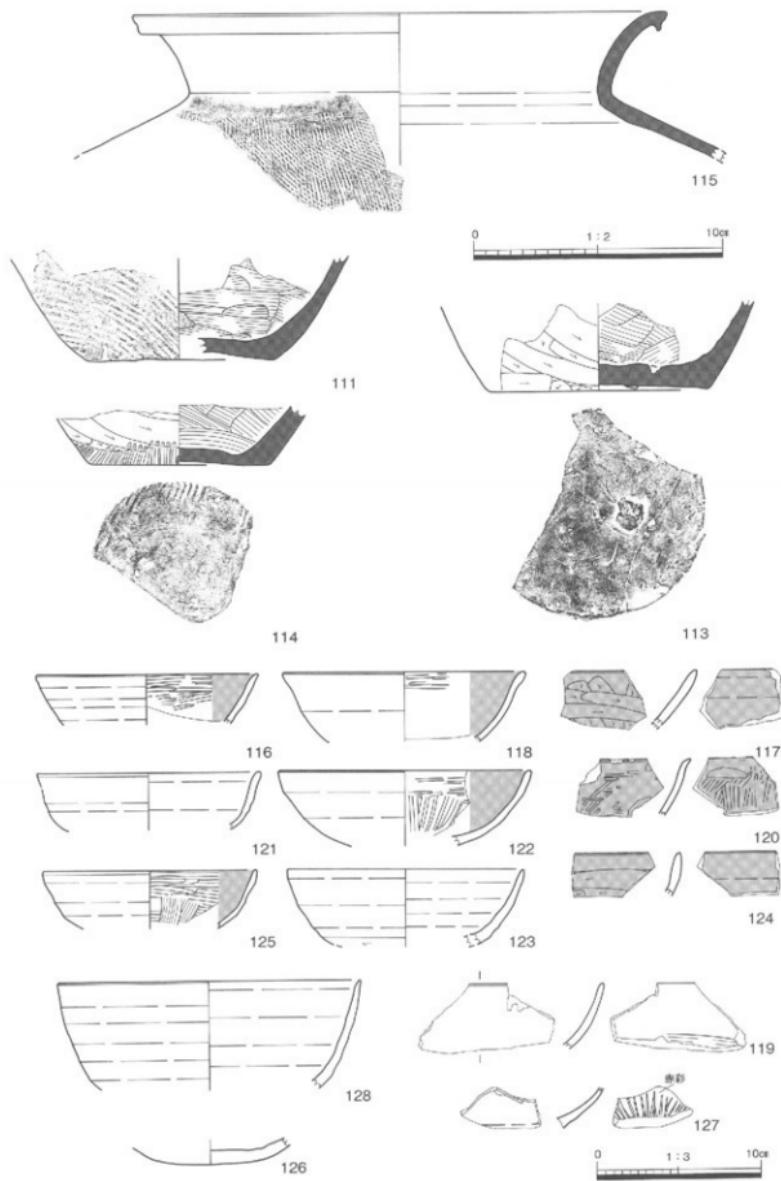
第23図 包含層出土遺物(1)



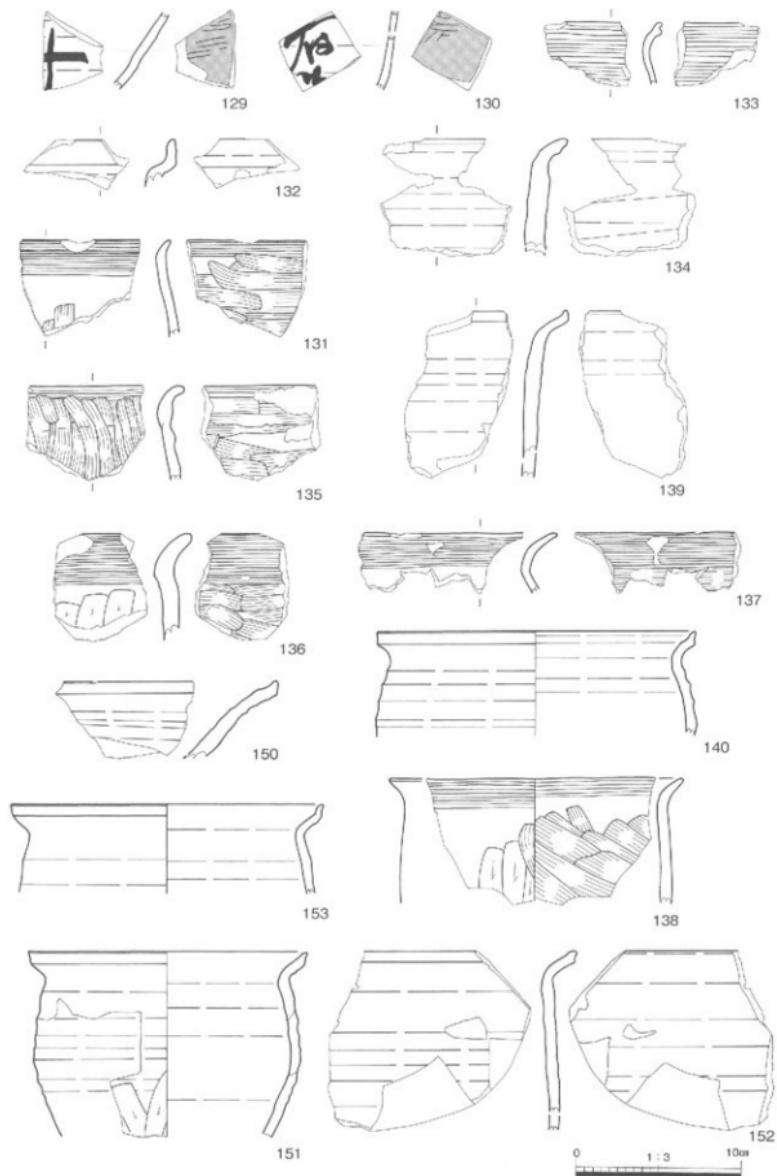
第24図 包含層出土遺物 (2)



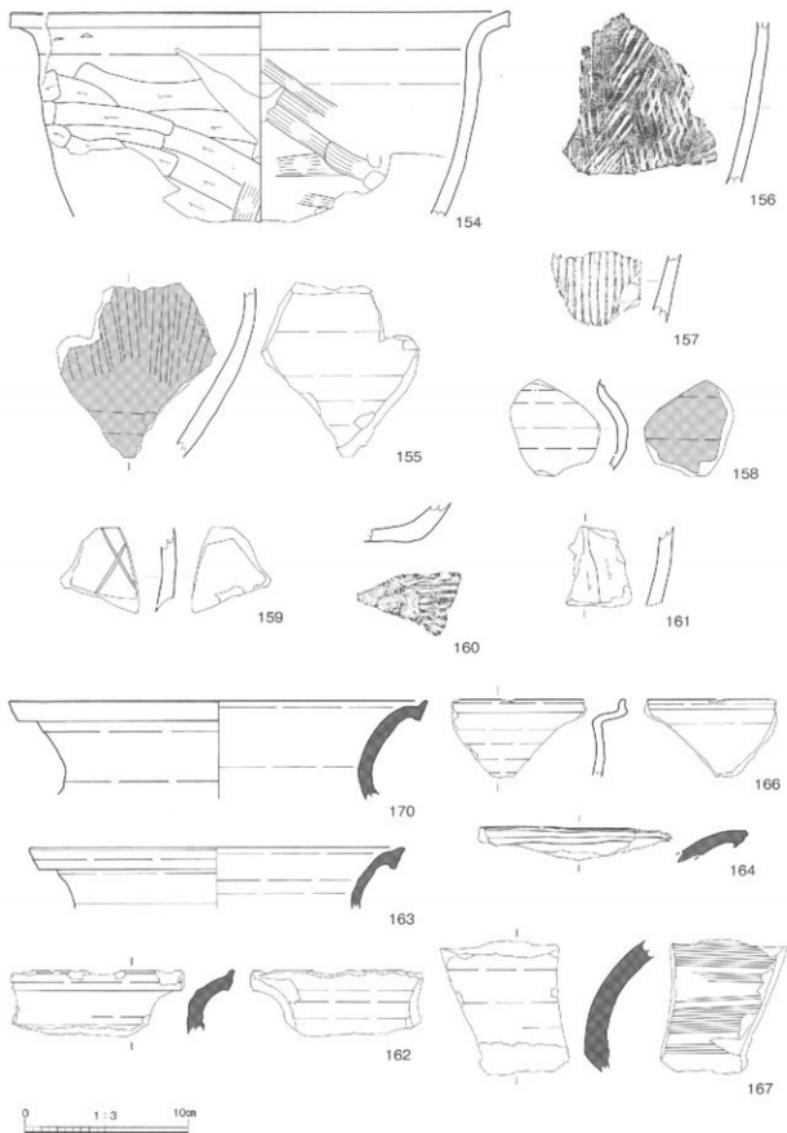
第25図 包含層出土遺物 (3)



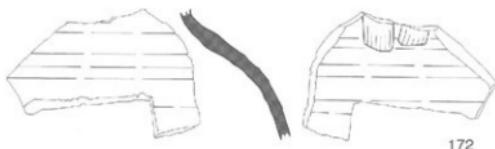
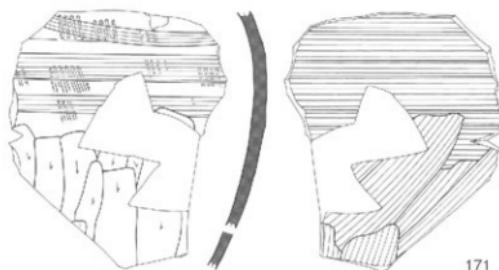
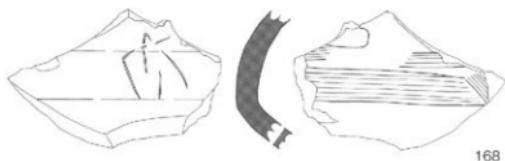
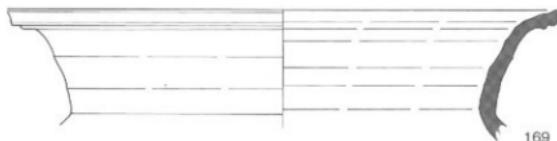
第26図 包含層出土遺物（4）



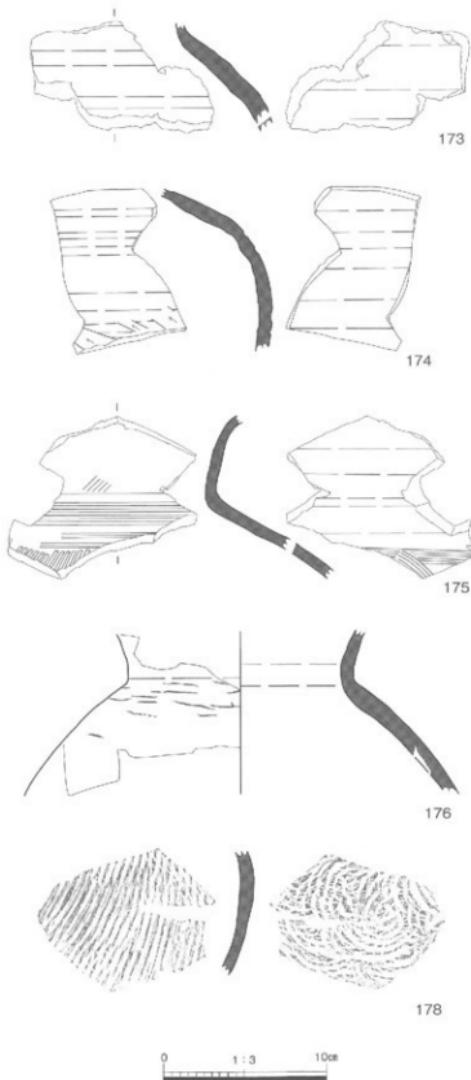
第27図 包含層出土遺物 (5)



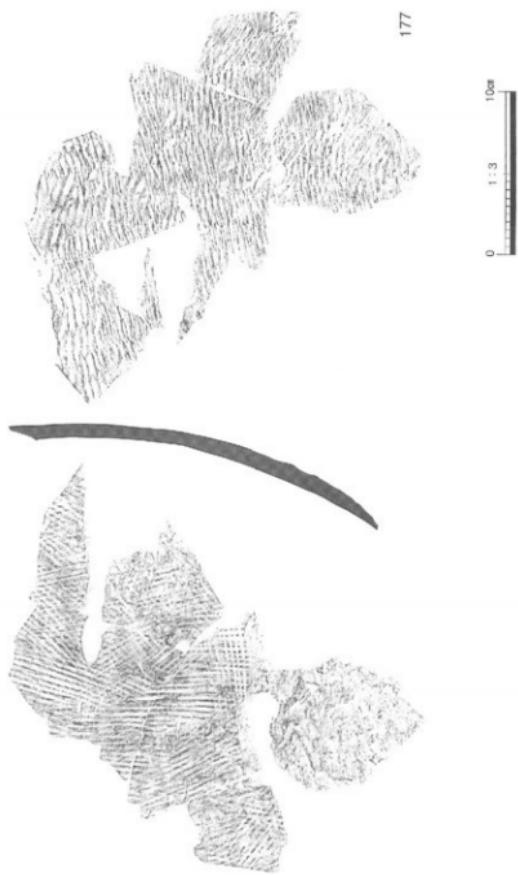
第28図 包含層出土遺物（6）



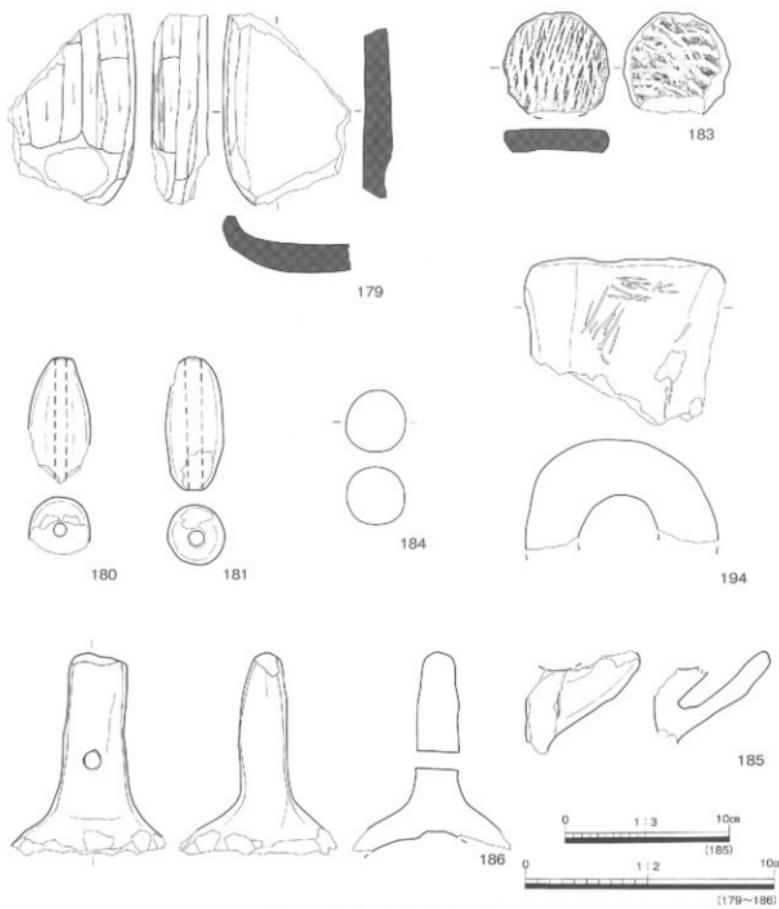
第29図 包含層出土遺物 (7)



第30図 包含層出土遺物（8）



第31図 包含層出土遺物 (9)



第32図 包含層出土遺物 (10)

第3表 標的植物一覧〈土器(1)〉

指標番号	通称名	地点・層位	種類	基種	口徑 (cm)	高さ (cm)	色調	断面	調整(底面)	調整(外面)	備考	位置番号	図版	
1 SK02	东・PP.2	土面	灰(1.7)	口~底部	0.16	4.7	-	73Y66.6 黄褐色	0.70	-	0.70→3.7'	9	8	
2 SK02	新窓穴	土面	灰(1.9)	口~底部	-	3.4	-	10Y66.8 明黄褐色	0.70	-	0.70→3.7'	10	8	
3 SK02	新窓穴	上部	灰(内壁)灰褐色	-	1.6	5.8	5YR65.8 明黄褐色	0.70	-	10Y66.8 明黄褐色(右)→ 10Y66.8 明黄褐色(左)	0.70→3.7'	6	8	
4 SK02	新窓穴底部	土面	灰(内壁)3	口~底部	-	3.9	8.6	73Y66.6 黄褐色	0.70	-	10Y66.8 明黄褐色(右)→ 10Y66.8 明黄褐色(左)	0.70→3.7'	8	8
5 SK02	黒施品・焼出・ PP1底・直縁	灰(1.6)	口~底部	1.9	4.6	5.7	73Y66.6 黄褐色	0.70	-	10Y66.8 明黄褐色(右)→ 10Y66.8 明黄褐色(左)	0.70	97	8	
6 SK02	灰	土面	灰	口~底部	16.0	6.7	-	10Y67.4 に赤い黃褐色	0.70	-	10Y67.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70	5	8
7 SK02	灰	土面	灰	口~底部	-	5.6	-	73Y66.6 黄褐色	0.70	-	10Y66.8 明黄褐色 3.70"	0.70	4	8
8 SK02	新窓穴底・灰	土面	灰	口~底部	12.2	18.2	-	10Y66.6 明黄褐色	0.70	-	10Y66.8 明黄褐色 3.70"	0.70	2	8
9 SK02	新窓穴底・直縁	土面	灰	口~底部	21.5	30.5	7.2	73Y67.8 黄褐色	0.70→3.95%	3.70"	10Y67.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70→3.7"	7	8
10 SK02	灰	土面	灰	口~底部	-	6.7	7.0	5YR6.8 黄褐色	0.70	-	10Y66.8 明黄褐色 3.70"	0.70	3	8
11 SK02	燒出品底	上部	灰	口~底部	-	14.2	6.1	25Y74.4 花青色	0.70→3.95%	3.70"	10Y67.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70→3.7"	1	8
12 SK02	新窓穴・新窓丸	灰	灰	底部	-	6.7	-	NS.灰褐色	0.70→3.95%	3.70"	10Y67.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70	96	8
13 SK06	灰	土面	灰(内壁)灰褐色	-	4.5	6.0	10Y65.4 10Y65.4	10Y65.4 10Y65.4	0.70	-	10Y65.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70→3.7"	11	17
14 SK03	木柄内彌縫 (約1.7)	下部	灰(内壁)3	口~底部	14.6	5.2	5.4	10Y65.4 10Y65.4	0.70	-	10Y65.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70→3.7"	128	17
15 SK03	木柄内彌縫 (約0.1)	下部	灰(内壁)3	口~底部	14.1	4.5	5.8	10Y65.4 10Y65.4	0.70	-	10Y65.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70	127	17
16 SK03	割り方	土面	灰(内壁)3	口~底部	14.6	5.0	4.0	10Y65.4 10Y65.4	0.70→3.95% 3.70"	-	10Y65.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70→3.7"	20	17
17 SK03	内輪内彌縫	土面	灰(内壁)灰褐色	-	1.1	5.4	-	10Y65.4 10Y65.4	0.70	-	10Y65.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70→3.7"	15	17
18 SK03	内輪内彌縫	上部	灰(内壁)3	口~底部	-	4.3	6.0	10Y65.4 10Y65.4	0.70	-	10Y65.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70→3.7"	16	17
19 SK03	割り方	土面	黄(内壁) (1.7)	口~底部	-	2.1	8.6	10Y65.4 10Y65.4	0.70	-	10Y65.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70	21	17
20 SK03	新	上部	灰	口~底部	-	2.6	6.3	10Y65.4 10Y65.4	0.70	-	10Y65.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70	25	17
21 SK03	新	土面	灰(内壁)3	口~底部	-	3.1	6.4	10Y65.4 10Y65.4	0.70	-	10Y65.4 に赤い黃褐色 3.70"	0.70	26	17
22 SK03	上縁	上縁	灰(内壁)灰褐色	-	-	5.8	73Y65.4 73Y65.4	0.70→3.95% 3.70"	-	-	10Y66.8 明黄褐色 3.70"	0.70	28	17
23 SK03	上縁	土面	灰	口~底部	-	4.6	-	10Y66.8 明黄褐色	0.70	-	10Y66.8 明黄褐色 3.70"	0.70	24	17

第3章 暖通设备(十一)

番号	種類名	地點・位置	標高	断面	口幅 (cm)	側高 (cm)	底深 (cm)	色調	調整 (外観)		備考	底番号	図版
									左側	右側			
24	SK03 振り方	土壠	要	板	(0.4)	10YR6.6 明黄色 →少々赤	4.1	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	19	17	10
25	SK03 外側の傾斜・土壠	土壠	要	板	(0.2)	N5/ 鮎灰色	6.2	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	96	17	10
26	SK03 外側の傾斜・土壠	土壠	要	板	(4.1)	10YR8.6 鮎色	12.8	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	12	17	10
27	SK03 11 管	土壠	外(内黒) 壁	板	(3.7)	10YR5.4 ↓↓↓ 鮎灰色	13.0	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	27	17	10
28	SK03 上部	土壠	外	口・脚部	(4.2)	73YR6.6 鮎色	14.4	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	23	17	10
29	SK03 内側と外側の傾斜	土壠	要	板	(2.5)	10YR5.4 ↓↓↓ 鮎色	2.5	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	13	17	10
30	SK03 内側内斜傾	土壠	奥(内黒) 山根	板	(6.8)	10YR6.2 鮎灰色	2.7	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	14	17	10
31	SK03 振り方	土壠	要	口管	(2.7)	73YR5.6 鮎色	2.7	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	18	17	10
32	SK03 上部	土壠	要	口・脚部	(25.0)	73YR7.4 ↓↓↓ 鮎色	6.7	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	22	17	10
33	SK03 内側内斜傾	土壠	要(内黒) 倾斜部	板	(9.2)	73YR6.4 ↓↓↓ 鮎色	1.5	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	17	17	10
73	1 R10 土壠	土壠	高台付 (内黒)	板	(1.7)	10YR6.3 ↓↓↓ 鮎色	1.7	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	32	24	20
74	連続 II 管	土壠	外	脚部	(2.4)	10YR6.4 ↓↓↓ 鮎色	6.0	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	42	24	20
75	連続 II 管、直線	土壠	高台付 脚部	板	(2.9)	10YR5.6 鮎色	0.2	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	43	24	20
76	連地 I 管	土壠	高台付 (内黒)	板	(1.5)	10YR6.4 ↓↓↓ 鮎色	4.0	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	62	24	20
77	連地 II 管	土壠	外	直線	(1.20)	6.8 ↓↓↓ 鮎色	6.8	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	54	24	20
78	連地 III 管	土壠	外(内黒) 脚部	板	(1.7)	10YR6.3 ↓↓↓ 鮎色	8.0	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	48	24	20
79	連地 IV 管	土壠	高台付 (内黒)	板	(6.0)	10YR6.4 ↓↓↓ 鮎色	7.2	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	44	24	20
80	連地 V 管	土壠	外(内黒) 脚部	板	(0.8)	10YR6.2 鮎灰色	6.2	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	60	24	20
81	溜地 VI 管	土壠	外(内黒) 脚部	板	(2.8)	10YR6.3 ↓↓↓ 鮎色	6.0	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	50	24	20
82	溜地 VII 管	土壠	要	板	(6.2)	73YR5.4 ↓↓↓ 鮎色	6.2	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	56	24	20
83	溜地 VIII 管	土壠	外(内黒) 脚部	板	(15.1)	6.6 ↓↓↓ 鮎色	6.6	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	70	24	20
84	溜地 IX 管	土壠	外(内黒) 脚部	板	(6.6)	10YR6.4 ↓↓↓ 鮎色	6.6	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	71	24	20
85	溜地 X 管	土壠	外(内黒) 脚部	板	(5.8)	10YR6.3 ↓↓↓ 鮎色	5.8	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	74	24	21

番号	遺物名	地点・層位	種類	器形	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	色調	断面	開口(底面)	調整(内面)	備考	伝番号	写真 位置	
96	遺物 II 号	Ⅲ層	十輪	口	口～底部	1.39	5.6	4.7～ 1.5cm 1.5cm～1.6cm	73YF6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	86	24	
97	遺物 II 号	Ⅲ層	十輪	口(内側)口～底部	(1.62)	3.4	6.0	10YR6/7 1.5cm～1.6cm	10YR6/7 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右) 1.5cm～1.6cm	0.70	75	24	
98	遺物 V層(火山灰)	上部	环(内側)口～底部	(1.45)	4.0	6.0	73YF6/6 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	国松糸切(右) 1.5cm～1.6cm	0.70	90	24	
99	遺物 II～III層	II～III層	环	环(内側)口～底部	-	(1.4)	(7.0)	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右) 1.5cm～1.6cm	0.70	77	24	
100	遺物 II 号	Ⅲ層	环	环(内側)口～底部	(2.9)	5.8	7.2YF6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	国松糸切(右) 1.5cm～1.6cm	0.70	78	24	
101	遺物 II 号	Ⅲ層	环	环(内側)底部	-	(2.0)	(6.8)	10YR6/6 1.5cm～1.6cm	10YR6/6 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右) 1.5cm～1.6cm	0.70	79	24	
102	遺物 II 号	Ⅲ層	环	环(内側)底部	-	(2.0)	(6.0)	10YR6/6 1.5cm～1.6cm	10YR6/6 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右) 1.5cm～1.6cm	0.70	87	24	
103	遺物 V層(火山灰)	I層	环(内側)底部	(1.51)	6.0	5.2	10YR6/6 1.5cm～1.6cm	10YR6/6 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	89	24		
104	遺物 I号	—	土師	环(内側)底部	-	(1.2)	(7.1)	10YR6/6 1.5cm～1.6cm	10YR6/6 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	92	24	
105	遺物 II～III層	II～III層	土師	环(内側)底部	-	(1.6)	(6.5)	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右) 1.5cm～1.6cm	0.70	94	24	
106	遺物 II 号	II 号	土師	环(内側)底部	-	(1.2)	(6.0)	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	131	25	
107	遺物 II～III層	II～III層	土師	环(内側)底部	-	(1.4)	(6.0)	73YF7/8 1.5cm～1.6cm	73YF7/8 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	130	25	
108	遺物 II～III層	II～III層	土師	环(内側)底部	-	(2.0)	(6.0)	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右) 1.5cm～1.6cm	0.70	29	25	
109	遺物 II 号	II 号	環窓	环	环(内側)底部	-	(2.5)	(5.0)	73YF6/1 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	111	25	
110	遺物 II 号	II 号	環窓	a b 依據 a b 依據	环(内側)底部	(3.4) b (1.0) b	(5.4) b (1.0) b	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	67	25	
111	遺物 II 号	II 号	環窓	环	环(内側)底部	(2.2)	(2.5)	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	84	25	
112	遺物 II 号	II 号	環窓	环	环(内側)底部	(1.8)	(5.3)	10YR5/4 1.5cm～1.6cm	10YR5/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	68	25	
113	遺物 II 号	II 号	環窓	环	环(内側)底部	(2.8)	-	73YR4/4 1.5cm～1.6cm	73YR4/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	85	25	
114	遺物 II 号	II 号	環窓	环	环(内側)底部	(1.9)	(12.2)	2.5Y7/4 1.5cm～1.6cm	2.5Y7/4 1.5cm～1.6cm	0.70	木製活 0.70	0.70	93	25	
115	遺物 II～III層	II～III層	土師	环	口～底部	(0.6)	7.7	6.2	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	73	25
116	遺物 II 号	II 号	環窓	环	环(内側)底部	(6.0)	7.8	10YR6/3 1.5cm～1.6cm	10YR6/3 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	86	25	
117	遺物 II 号	II 号	環窓	环	环(内側)底部	(5.0)	(0.6)	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	118	25	
118	遺物 II 号	II 号	環窓	环	解～底部	(7.2)	(0.6)	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	10YR6/4 1.5cm～1.6cm	0.70	国松糸切(右)	0.70	117	25	

卷之三

接觸通物一類（工具類）									
編號	通稱名	品種·部位	種類	部位	口徑 (mm)	最高 (mm)	直徑 (mm)	色調	圖案 (外觀)
109	鑿子 Ⅲ型	鑿子	鉗	頭~頭部	—	(5.5)	(8.8)	Ns/灰色	0.024 (→圓柱形)
110	鑿子 Ⅳ型	鑿子	鉗	頭~頭部	—	(3.8)	(6.7)	Ns/灰色	0.020 (→圓柱形)
111	鑿子 1 B Ⅴ型	鑿子	鉗	頭~頭部	—	(6.3)	(11.2)	Ns/灰色	0.020 (→圓柱形)
112	鑿子 1 H Ⅵ型	鑿子	鉗	頭~頭部	120	(23.4)	—	Ns/灰色	0.020 (→圓柱形)
113	鑿子 Ⅶ型	鑿子	鉗	頭~頭部	—	(5.4)	(13.2)	Ns/灰色	0.020 (→圓柱形)
114	鑿子 Ⅷ型	鑿子	鉗	頭~頭部	—	(3.9)	(1.0)	Ns/灰色	0.024 (→圓柱形)
115	鑿子 Ⅸ型	鑿子	鉗	頭~頭部	11~12	(3.4)	(12.5)	—	Ns/灰色
116	鑿子	鑿子	鉗	頭~頭部	—	(1.36)	(6.31)	—	0.017 (→圓柱形)
117	鑿子 火尖灰 2 之上	鑿子	鉗	頭(火黑)口~頭部	—	(3.6)	—	0.025 (→圓柱形)	—
118	鑿子 火尖灰 2 之下	鑿子	鉗	頭(火黑)口~頭部	(14.8)	(4.3)	—	0.018 (→圓柱形)	—
119	鑿子 Ⅹ型	鑿子	鉗	頭~頭部	—	(4.0)	—	—	0.020 (→圓柱形)
120	鑿子 I Ⅺ型	鑿子	鉗	頭(火黑)口~頭部	—	(3.5)	—	0.025 (→圓柱形)	—
121	鑿子 Ⅻ型	鑿子	鉗	頭~頭部	(13.6)	(3.5)	—	0.018 (→圓柱形)	—
122	鑿子 1 B Ⅼ型	鑿子	鉗	頭(火黑)口~頭部	(15.4)	(4.6)	—	0.018 (→圓柱形)	—
123	鑿子 1 B Ⅽ型	鑿子	鉗	頭~頭部	(14.4)	(1.8)	—	0.019 (→圓柱形)	—
124	鑿子 火尖灰 2 之上	鑿子	鉗	頭(火黑)口~頭部	—	(2.7)	—	0.018 (→圓柱形)	—
125	鑿子 Ⅾ型	鑿子	鉗	頭(火黑)口~頭部	(12.6)	(3.9)	—	0.018 (→圓柱形)	—
126	鑿子 灰黑色 1	鑿子	鉗	頭~頭部	—	(1.5)	(6.4)	—	0.020 (→圓柱形)
127	鑿子 Ⅿ型	鑿子	鉗	頭~頭部	—	(2.9)	—	0.025 (→圓柱形)	—
128	鑿子 ⅰ型	鑿子	鉗	頭~頭部	(18.4)	(6.7)	—	0.026 (→圓柱形)	—
129	鑿子 ⅱ型	鑿子	鉗	頭(火黑)頭部	—	(2.8)	—	0.025 (→圓柱形)	—
130	鉗子 ⅲ型	鉗子	鉗	頭(火黑)頭部	—	(3.3)	—	0.025 (→圓柱形)	—
131	鉗子 火尖灰 2 之上	鉗子	鉗	頭~頭部	—	(5.9)	—	0.025 (→圓柱形)	—

第3表 植物遺物一覧（土器⑤）

番号	遺物名	地点・層位	種類	部位	口径 (cm)	高さ (cm)	色調	頭蓋(外面)	頭蓋(内部)	備考	伝番号	図版	写真
132 游隼	鳥糞土(Ⅱ～Ⅳ層)上部	甕	口縁	-(2.0)	-	10YR5/4 12.5×9.8cm	0.70	-	0.70	30	27	25	
133 游隼	一柄	土師	甕	口縁	-(3.4)	-	10YR4/2 12.5×9.8cm	1.07	-	31	27	25	
134 游隼	Ⅲ層	土師	甕	口縁	-(7.1)	-	75YR7/4 12.5×9.8cm	0.70	-	39	27	25	
135 游隼	Ⅲ層	土師	甕	口縁	-(6.7)	-	10YR6/6 明黄褐色 12.5×9.8cm	0.70	-	45	27	25	
136 游隼	Ⅲ層	土師	甕	口縁	-(6.9)	-	10YR5/4 12.5×9.8cm	0.70	-	59	27	25	
137 游隼	Ⅰ層	土師	甕	口縁	-(6.7)	-	5YR5/6 明黄色 12.5×9.8cm	0.70	-	91	27	25	
138 游隼	Ⅲ層	土師	甕	口縁	-(7.0)	-	10YR5/6 黄褐色 12.5×9.8cm	0.70	-	46	27	23	
139 游隼	Ⅲ層下部	土師	甕	口～胴部	-(10.2)	-	75YR6/1 12.5×9.8cm	0.70	-	69	27	25	
140 游隼	Ⅰ層	土師	甕	口～胴部	-(19.4)	6.4	10YR5/6 黄褐色	0.70	-	63	27	25	
141 游隼	Ⅲ層	土師	甕	口縁	-(4.7)	-	10YR5/4 12.5×9.8cm	0.70	-	37	27	25	
142 游隼	ⅠB Ⅲ層	土師	甕	口～胴部	-(17.0)	-	10YR6/4 12.5×9.8cm	0.70	-	65	27	25	
143 游隼	Ⅰ層・Ⅲ層	土師	甕	口～胴部	-(11.0)	-	10YR5/6 明黄色 12.5×9.8cm	0.70	-	51	27	25	
144 游隼	Ⅲ層	土師	甕	口～胴部	-(19.0)	6.5	10YR7/4 12.5×9.8cm	0.70	-	61	27	25	
145 游隼	Ⅲ層	土師	甕?	口～胴部	-(30.2)	-	10YR6/6 明黃褐色 12.5×9.8cm	0.70	-	66	28	25	
146 游隼	Ⅱ層	土師	甕(外削)	胴部	-(10.0)	-	10YR6/3 12.5×9.8cm	1.2	-	33	28	25	
147 游隼	Ⅲ層下部	土師	甕?	胴部	-(10.0)	-	10YR6/4 12.5×9.8cm	0.98	-	58	28	25	
148 游隼	云土層下	土師	甕?	胴部	-(4.2)	-	75YR5/6 明黃褐色	2.0?	-	32	28	25	
149 游隼	Ⅲ層	土師	甕	口内	-(5.0)	-	10YR6/6 明黃褐色	0.70	-	81	28	25	
150 游隼	Ⅱ層	土師	甕	胴部	-(3.4)	-	10YR6/4 12.5×9.8cm	0.70	-	88	28	25	
151 游隼	一柄	土師	甕	口縁	-(2.5)	-	10YR6/6 明黃褐色	0.91	褐色	不明	28	26	
152 游隼	Ⅲ層	土師	甕?	胴部	-(6.2)	-	75YR7/6 深褐色	1.7?	-	132	28	25	
153 游隼	Ⅰ層	土師	甕	口縁	-(3.9)	-	NA/灰褐色	0.70	-	100	28	27	
154 游隼	Ⅲ層	土師	甕	口縁	-(1.8)	-	NA/灰褐色	0.70	-	122	28	27	

第3表 捷徑遺物一覽 (土器⑥)

固有番号	調査名	地點	標高(海抜)	種類	面積	倒伏	倒壊	口徑 (cm)	器高 (cm)	底盤 (cm)	色調	調整(底盤)	調整(外周)	備考	底盤番号	底盤面積	原因	度数
164	調査 B1e	II層	-	強風	-	大妻	上巒	-	515R1	1脚灰色	0.79	-	0.79	平み人きい	120	28	27	
165	調査 B1e	II層	155m	強風	-	大妻	上巒	-	0.6	-	N5/ 灰色	-	0.79	-	107	29	27	
166	調査 B1e	II層	155m	強風	-	土脚	上巒	-	4.7	-	25YY2	2脚褐色	0.79	-	126	28	27	
167	調査 B1e	II層	-	強風	-	人妻	頭部	-	6.0	-	N4/ 灰色	0.79	-	-	106	28	27	
168	調査 黑色土(Ⅲ-Ⅳ層)	頭部	-	強風	-	大妻	頭部	-	7.9	-	N4/ 灰色	0.79(4.7)	-	-	99	29	27	
169	調査 II層	-	-	弱風	-	大妻	口巒	-	45.5	-	25YY4	4脚	0.79	-	101	29	27	
170	調査 II層	-	-	弱風	-	大妻	上巒	-	25.4	-	N5/ 灰色	0.79	-	-	112	28	27	
171	調査 II層・Ⅲ層	-	-	弱風	-	頭部	頭部	-	15.8	-	N5/ 灰色	0.79(4.7)	-	-	110	29	27	
172	調査 II層	-	-	弱風	-	頭部	頭部	-	7.9	-	N5/ 灰色	0.79	-	-	121	29	28	
173	調査 B1e	II層	-	強風	-	頭部	頭部	-	6.5	-	N3/ 深灰色	0.79	-	-	108	30	28	
174	調査 II層・V層	頭部より 側面	-	強風	-	頭部	頭部	-	10.0	-	N4/ 灰色	0.79(4.7)	-	-	104	20	28	
175	調査 II層・V層	-	-	強風	-	頭部	頭部	-	6.9	-	N3/ 深灰色	2.79-0.79 4.7	-	-	125	30	28	
176	調査 II層	-	-	強風	-	頭部	頭部	-	10.0	-	N3/ 深灰色	0.79	-	外表面積過剰で び割れ	116	30	28	
177	調査 B1e	II層	-	強風	-	大妻	頭部	-	22.5	-	N3/ 深灰色	0.79	-	-	105	31	28	
178	調査 B1e	II層	-	強風	-	大妻	頭部	-	7.6	-	N5/ 灰色	0.79	-	-	113	30	29	

第3表 掘載遺物一覧〈木製品〉

掘載番号	遺構名	地点・層位	形状	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	種類	備考	仮番号	図版	写真 図版
内枠	SK03	木枠内側	齒状	80 ~ 90	底径 80	-	ケヤキ		内枠	10 ~ 12	-
34	SK03	木枠外側	板状	59.0	38.5	8.5	ケヤキ		A	13	11
35	SK03	木枠外側	板状	57.0	19.5	3.8	コナラ属		B	13	11
36	SK03	木枠外側	板状	65.0	44.5	9.0	ケヤキ		C	13	12
37	SK03	木枠外側	板状	45.0	28.5	4.8	ケヤキ		D 1	13	12
38a	SK03	木枠外側	板状	57.0	22.0	5.5	ケヤキ		E 1	14	13
38b	SK03	木枠外側	板状	20.0	8.2	2.2	ミズキ		E 2	14	13
39a	SK03	木枠外側	板状	5.9	41.0	6.0	ケヤキ	四角穴あり	F 1	14	13
39b	SK03	木枠外側	板状	39.0	4.2	4.3	ケヤキ		F 2	14	13
40	SK03	木枠外側	板状	57.0	4.0	4.0	トネリコ属		G	14	14
41	SK03	木枠外側	板状	45.0	19.0	3.2	ケヤキ	先端 V 字状	H	14	14
42	SK03	木枠外側	板状	54.0	32.5	3.2	ケヤキ	四隅に四角穴あり	J	14	14
43	SK03	木枠外側	板状	61.0	13.5	5.0	コナラ属	先端尖端状	I	14	16
44	SK03	木枠外側	板状	82.0	21.0	3.5	ケヤキ		K	15	15
45	SK03	木枠外側	板状	80.0	18.0	3.0	ケヤキ		L	15	15
46	SK03	木枠外側	板状	87.0	22.3	4.0	ケヤキ		M	15	15
47	SK03	木枠外側	板状	82.0	30.0	4.0	ケヤキ		N	15	16
48	SK03	鈎内	棒状(炭化)	38.0	3.7	3.7	トネリコ属		W001	-	16
49	SK03	一括	棒状	46.8	2.8	2.6	ヤナギ属		W013	18	16
50	SK03	木枠内側	棒状	45.6	3.1	3.0	コナラ属		W004	18	16
51	SK03	楕方	棒状	11.2	3.5	3.0	ヤナギ属	加工痕あり	W002	-	17
52	SK03	楕方下部	棒状	8.0	2.5	2.6	ヤナギ属	先端加工	W029	18	17
53	SK03	木枠内側層	棒状	23.2	16.5	1.3	コナラ属		W010	18	17
54	SK03	楕方上部	棒状	27.2	4.0	3.2	カエデ属		W019	-	17
55	SK03	楕方上部	曲物??底?	125	6.5	0.9	スキ		W026	28	17
56	SK03	楕方上部	曲物	4.0	2.7	0.3	スキ		W028	28	18
57	SK03	木枠内側層	楕?盤?	口徑 -	器高(2.5)	底径10.0	ケヤキ		W027	28	18
W003	SK03	木枠内側	板状	32.5	6.3	2.5	トチノキ		W003		
W005	SK03	木枠内側	板状	12.0	7.0	4.5	カエデ属		W005		
W012	SK03	木枠外側	板状	18.5	4.7	1.7	クリ		W012		
W017	SK03	木枠?	板状	8.0	4.3	1.8	イヌシデ属		W017		

第3表 掘載遺物一覧〈鐵文・弥生土器〉

掘載番号	遺構名	出土層位	種別	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)	備考	仮番号	図版	写真 図版
58	I B20a	Ⅲ~V層	鐵文・弥生	鉢	底部	-	(2.0)	(6.2)	20.0		7	23	19
59	I B20e	Ⅲ~V層	鐵文・弥生	鉢	底部	-	(1.7)	(7.0)	26.6		5	23	19
60	II B5d	一括	鐵文・弥生	鉢	側~底	-	(8.9)	(5.2)	156.5		11	23	19
61	湿地	V層	鐵文・弥生	鉢	口縁	-	(4.6)	-	21.9		1	23	19
62	湿地	V層	鐵文・弥生	鉢	口縁	-	(2.7)	-	17.4		2	23	19
63	II B2a	黒色土	鐵文・弥生	鉢	底部	-	(3.5)	-	27.0		8	23	19
64	I B19f	Ⅲ~V層	鐵文・弥生	鉢	口~側部	-	(8.6)	-	27.9		3	23	19
65	II B5g· II B5h	Ⅲ~V層	鐵文・弥生	鉢	台部	-	(9.9)	(10.2)	103.3	a bあり	14	23	19
66	II B2h	Ⅲ~V層	鐵文・弥生	鉢	口縁	-	(3.7)	-	17.5		9	23	19
68	II B3d	II層	鐵文・弥生	壺	口縁	-	(4.0)	-	15.9		10	23	19
69	I B20c	Ⅲ~V層	鐵文・弥生	鉢	腹部	-	(1.6)	-	7.1		4	23	19
70	I B20a	Ⅲ~V層	鐵文・弥生	壺	底部	-	(2.2)	-	18.2		6	23	19
71	II B10h	Ⅲ~V層	鐵文・弥生	鉢	口縁	-	(4.3)	-	8.7		12	23	19
72	湿地	Ⅲ~V層	鐵文・弥生	?	?	-	(5.6)	-	11.4		15	23	19

第3表 捜査遺物一覧（土製品）

掲載番号	遺構名	地点・層位	種別	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量	備考	仮番号	図版	写真図版
179	溝地 I B20thSK09	SK03 緑出面より 上	風字模 (瓦窓)	—	(7.5)	(5.2)	(2.2)	57.5	外面ハタケリ 袖部剥落	114	32	30
180	I B16f	Ⅲ層	土縫	—	5.1	(2.5)	(2.3)	17.8		1	32	30
181	II Bla	一括	土縫	—	5.4	2.3	2.3	23.2		13	32	30
182	I B17f	Ⅲ層	円盤状	小破片	—	—	—	2.8		2	—	30
183	湿地	I～Ⅱ層	円盤状 (瓦窓等)	—	(4.0)	(4.2)	(0.9)	20.9		20	32	30
184	湿地	I～Ⅲ層	土玉	—	2.5	2.4	2.3	13.3		21	32	30
185	I B19e	V層 (堆山廈上)	土器	把手部?	(6.2)	—	—	88.7		4	32	30
186	I B19d	V層 (堆山廈上)	土鉢	把手部	(6.1)	(6.2)	(6.4)	96.7		3	32	30
187	I B20j	Ⅲ層	羽口	破片	—	—	—	11.3		5	—	31
188	I B20k	V層	羽口	破片	—	—	—	13.1		11	—	31
189	I B20j	Ⅲ層上部	羽口	破片	—	—	—	4.4		6	—	31
190	II Blk	V層	羽口?	破片	—	—	—	13.5		15	—	31
191	I B20j	V層	羽口	破片	—	—	—	25.6		10	—	31
192	I B20j	V層	羽口	破片	—	—	—	4.9		9	—	31
193	II B2m	I層	羽口	破片	—	—	—	15.5		17	—	31
194	II B2f	Ⅲ層	羽口	破片	(6.8)	(8.2)	(2.2)	162.2		18	32	31

第3表 捜査遺物一覧（金属製品）

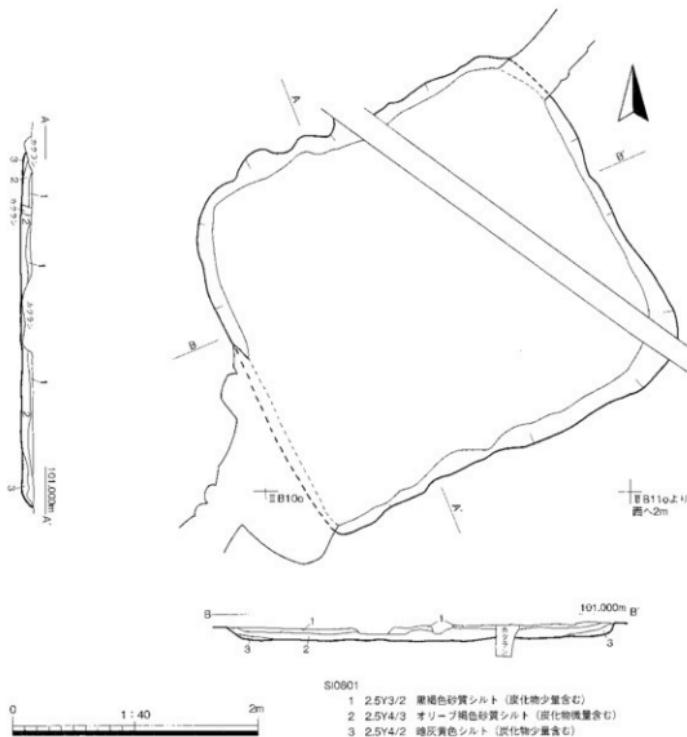
掲載番号	遺構名	地点・層位	器種	部位	重量 (g)	備考	仮番号	図版	写真図版
195	I B17g	Ⅱ層	片?	先端	0.5		2	—	31
196	I B18f	Ⅱ層	人形?	—	93.9		3	—	31
197	湿地	一括	人形?	—	75.9		15	—	31
198	I B20j	Ⅲ層	鉄錠	—	126.7	2片、透蓋あり	8	—	31
199	I B20j	Ⅲ層下部	鉄錠	—	49.0	透蓋あり	9	—	31
200	I B16f	I層	片?	吸口	4.0		1	—	32
201	II A3t	一括	片?	吸口	3.9		11	—	32
202	I B18f	Ⅲ層	銅鏡	—	0.7	水素透寶	4	—	32
203	I B18g	一括	銅鏡	—	4.3	亞宋透寶	5	—	32
204	I B20j	Ⅲ層	銅鏡	—	3.4	水素透寶	7	—	32
205	II B3j	I層	銅鏡	—	2.6	元口透寶、破片	13	—	32
206	湿地	北側	銅鏡	—	2.9	寛永透寶（古寛永）	16	—	32
207	表採	一括	銅鏡	—	3.0	宋通元寶	17	—	32

V 平成20年度調査

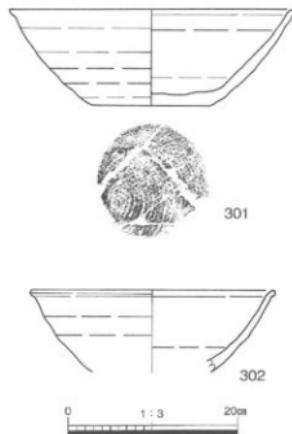
1 壺穴住居跡

平成19年度調査区の南側、湿地部分よりも少し高い位置で、合計13棟の壺穴住居を検出し、12棟を調査した。これら12棟は、いずれも平面方形を基調とする古代の壺穴住居である。カマド等を伴わないものは本来住居状とすべきとも考えたが、調査区外へカマドや煙道が連続する可能性も考え、調査時点ですべて壺穴住居とし、本書でもこれをお譲りした。

なお、未調査の1棟は本年度調査区北西隅付近で煙道と煙出しと思われる部分を検出したが、壺穴住居本体は未取得用地である水田へ統一していることが明らかであるため、今回の調査においては掘削をおこなっていない。次年度以降、用地取得後に調査がなされるものと考えられる。



第33図 SI0801壺穴住居跡



第34図 SI0801 出土遺物

SI0801堅穴住居跡（第33・34図 写真図版35・61）

〈位置・検出状況・重複〉 II B41～4 mグリッドに位置する。南西隅および北東隅は後世の擾乱を受けており一部で壁が残存していない。

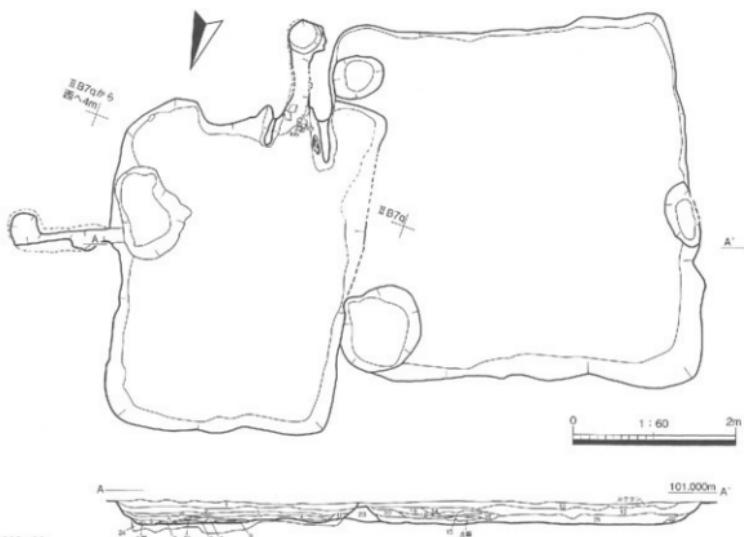
〈規模・形状〉 形状は方形、北壁2.43m、南壁3.95、東壁3.20m、西壁2.76m。主軸方位はN-84°-Eである。

〈堆積状況〉 上部に暗褐色土、下部に黒褐色土が堆積する。下部には炭化物小粒がわずかに認められる。

〈床面・壁〉 地山を床とし、掘方は確認されなかった。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、検出面からの深さは10cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 床面では土坑および柱穴は確認されなかった。

〈カマド〉 燃焼部焼土およびカマド、煙道は確認されなかった。



- | | | | | |
|-----------|------------|-----------------------------------|------------|--------------------------------------|
| SI0802・03 | 1 10YR3/3 | 暗褐色シルト(しまり強、やや粘質、地山BL.微量含む) | 13 10YR3/4 | 暗褐色シルト(しまり強、やや粘質、地山BL.含む、後土、炭化物微量含む) |
| | 2 10YR2/3 | 暗褐色シルト(しまり強、粘質、地山BL.含む、炭化物微量含む) | 14 10YR2/4 | 暗褐色シルト(しまり強、粘質、地山BL.含む、後土、炭化物微量含む) |
| | 3 10YR3/3 | 暗褐色シルト(しまり強、粘質、地山BL.含む、炭化物、底土わずか) | 15 10YR3/3 | 暗褐色シルト(粘質、地山BL.炭化物微量含む) |
| | 4 10YR3/4 | 暗褐色シルト(粘質、地山BL.わずかに含む) | 16 10YR3/4 | 暗褐色シルト(しまり強、地山BL.炭化物微量含む) |
| | 5 10YR3/2 | 暗褐色シルト(粘質、底土、炭化物微量、後土微量含む) | 17 10YR4/4 | 暗褐色シルト(しまり強、地山BL.含む) |
| | 6 10YR2/1 | 暗褐色シルト(粘質に富む、炭化物微量、後土微量含む) | 18 10YR3/4 | 暗褐色シルト(しまり強、地山BL.微量含む) |
| | 7 10YR4/4 | 暗褐色シルト(しまり強、地山BL.含む) | 19 10YR4/6 | 暗褐色シルト(しまり強、地山BL.含む) |
| | 8 10YR4/4 | 暗褐色シルト質砂(ややしまり強) | 20 10YR4/6 | 暗褐色シルト(しまり強、やや粘質) |
| | 9 10YR4/4 | 暗褐色シルト質砂(しまり強、10YR2/3 黒褐色シルト微量含む) | 21 10YR5/4 | に若い青褐色シルト質砂(10YR4/3 に若い青褐色シルト含む) |
| | 10 10YR2/2 | 黒褐色シルト(粘質に富む、炭化物多量含む) | 22 10YR4/4 | 暗褐色シルト(しまり強、粘質) |
| | 11 10YR3/3 | 黒褐色シルト質砂(しまり強、やや粘質、地山BL.わずか含む) | 23 10YR4/4 | 暗褐色シルト(しまり強、粘質) |
| | 12 10YR3/3 | 黒褐色シルト(しまり強、やや粘質、地山BL.微量含む) | 24 10YR3/2 | 黒褐色シルト(しまり強、粘質、地山BL.含む、貼床) |

第35図 SI0802・0803堅穴住居跡

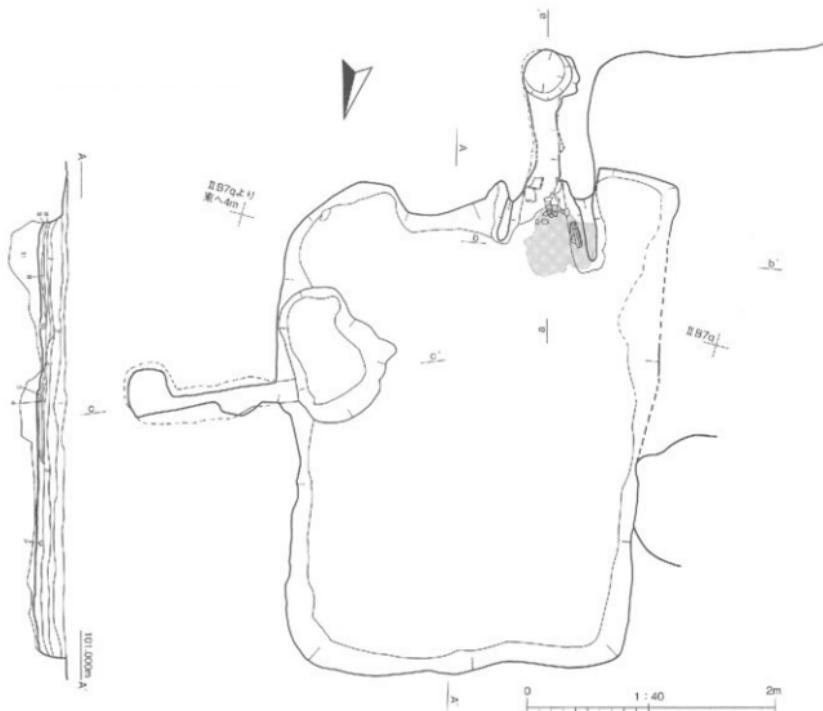
〈遺物〉土師器 2 点が東壁付近の埋土最上層でまとまって出土した。この遺構に伴うものであると考えられるが、遺構の埋没時期を示すもので遺構の機能時期を特定するものではない。

301・302ともに土師器壊である。いずれもロクロによる調整が施され、非黒色処理である。301は、口縁部～底部まで残存しており、底部は回転糸切り後無調整である。

これら出土遺物は、おおむね 9 世紀後半～10 世紀前半のものであると考えられる。

SI0802堅穴住居跡（第 35～39・77 図、写真図版 36・37・61・62・76）

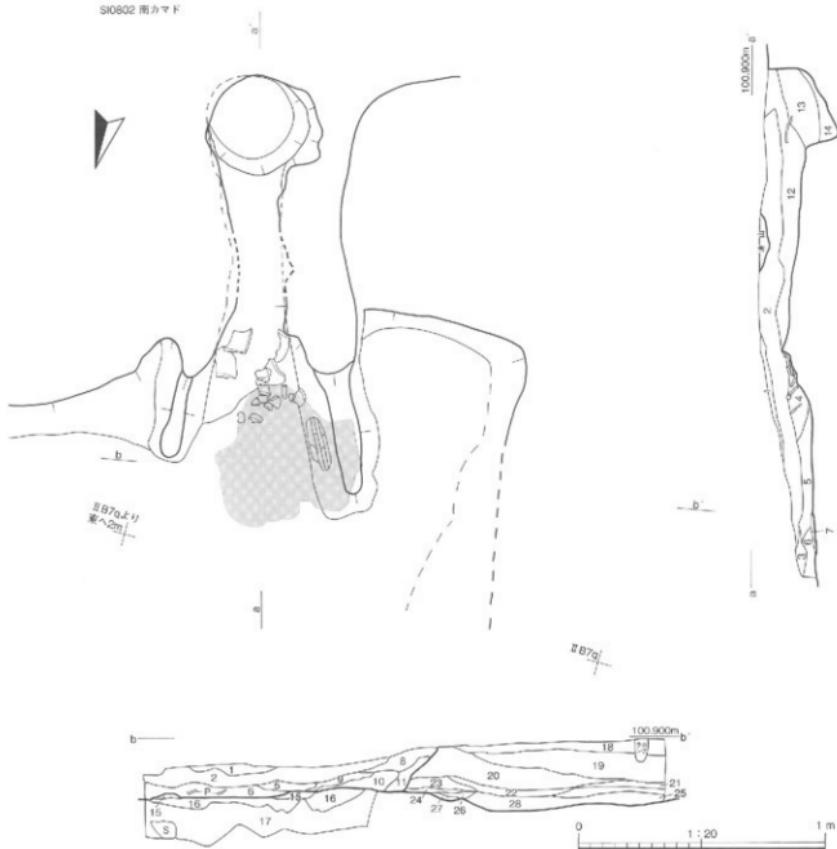
〈位置・検出状況・重複〉 II B7q グリッドに位置する。遺構西側で SI0803 と重複しており、これを切っている。



SI0802

- 1 10YR3/3 褐褐色シルト(ややしまり強、地山 B.L. 含む)
- 2 10YR2/3 褐褐色シルト(しまり強、地山 B.L. 含む、炭化物・焼土微量含む)
- 3 10YR3/3 褐褐色シルト(しまり強、粘質、地山 B.L. 含む、炭化物・焼土微量含む)
- 4 10YR3/4 褐褐色シルト(弱、地山 B.L. わずかに含む)
- 5 10YR4/4 褐褐色シルト質砂(ややしまり強)
- 6 10YR4/4 褐褐色シルト質砂(しまり強、10YR2/3 黒褐色シルト微量含む)
- 7 10YR2/3 褐褐色シルト(弱質、炭化物含む、地山 B.L. 含む)
- 8 10YR3/4 褐褐色シルト(しまり強、粘質、地山 B.L. わずか含む、地土微量含む)
- 9 10YR3/4 褐褐色シルト(しまり強、粘質、燒土多量、炭化物微量含む)
- 10 10YR3/3 褐褐色砂質シルト(ややしまり弱、やや粘質)
- 11 10YR3/3 褐褐色シルト(しまり強、粘質、地山 B.L. 含む、粘土)

第36図 SI0802堅穴住居跡



SI0802 a-a'-b-b'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト(やや粘質、焼土 B.L. 硬化物含む)
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト(やや粘質、焼土 B.L. 硬化物わずかに含む)
- 3 10YR4/4 黄色シルト(黄土 B.L. 含む、炭化物含む)
- 4 10YR4/3 にぶい暗褐色シルト(粘質、焼土 B.L. 含む、炭化物含む)
- 5 10YR3/2 暗褐色シルト(粘質、焼土 B.L. - 硬化物含む)
- 6 10YH4/1 にぶい黃褐色シルト(粘質、焼土 B.L. 多く含む、炭化物含む G)
- 7 10YH4/2 にぶい黃褐色シルト(粘質、焼土 B.L. - 炭化物含む G)
- 8 10YR3/2 暗褐色シルト(しづり強、やや粘質、焼土 B.L. わずかに含む)
- 9 10YR3/2 暗褐色シルト(しづり強、やや粘質、焼土 B.L. わずか、炭化物微量)
- 10 10YR3/0 暗褐色シルト(粘質、炭化物微量含む)
- 11 10YR3/4 暗褐色シルト(しづり強、粘質、焼土 B.L. - 硬化物わずかに含む)
- 12 10YR3/3 暗褐色シルト(しづり強、粘質)
- 13 10YH4/3 にぶい黃褐色シルト(しづり強、粘質)
- 14 10YH4/3 にぶい黃褐色シルト(粘質、焼土 B.L. わずかに含む)
- 15 10YH4/4 黄色砂質シルト(しまりあり、やや粘質、粘部)
- 16 10YR3/3 暗褐色シルト(粘質、焼土 B.L. 炭化物含む)
- 17 10YR2/2 黑褐色シルト(しまり強、粘質、焼土 B.L. 含む C. 粘土)
- 18 10YR2/4 暗褐色シルト(しまり強、粘質、炭化物微量含む)
- 19 10YR2/3 黑褐色シルト(粘質、炭化物含む)
- 20 10YR2/2 黑褐色シルト(しまり強、粘質、焼土 B.L. 炭化物わずかに含む)
- 21 10YR2/4 暗褐色シルト(しまり強、焼土 B.L. わずかに含む)
- 22 10YR2/3 暗褐色シルト(しまり強、やや粘質、焼土 B.L. わずか、炭化物微量)
- 23 10YR4/3 にぶい黃褐色シルト(粘質、焼土 B.L. - 硬化物わずかに含む)
- 24 10YR4/4 黄色砂質シルト(しまりあり、粘質)
- 25 10YR2/4 暗褐色シルト(粘質、炭化物微量、焼土 B.L. 炭化物含む)
- 26 10YR2/2 黑褐色シルト(粘質、焼土 B.L. 炭化物含む C)
- 27 10YH4/2 黄褐色シルト(ややしまり強)
- 28 10YR4/4 黑色砂質シルト(しまりあり)

第37図 SI0802壁穴住居跡カマド (1)

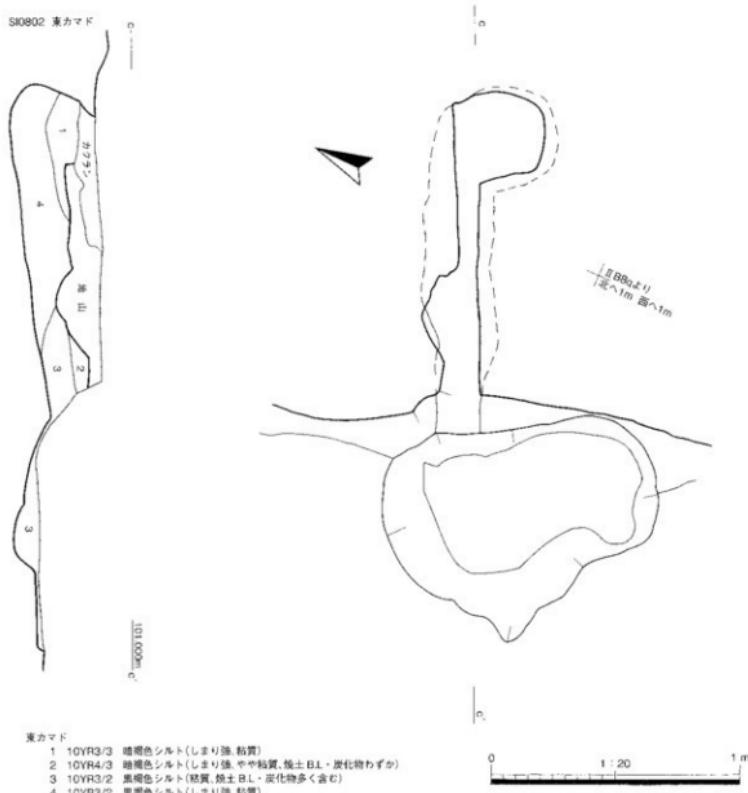
〈規模・形状〉 形状は東西辺より南北辺がやや長い長方形、北壁2.62m、南壁2.75、東壁3.87m、西壁3.88m。主軸方位はS-15°-Eである。

〈堆積状況〉 上部に暗褐色土、下部に黒褐色土が堆積する。下部には炭化物を多く含む層が認められる。この下部より多くの土器が出土する。

〈床面・壁〉 地山を床とし、掘方は確認されなかった。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、検出面からの深さは10cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 遺構南東隅が外へ大きく張り出しており、竪穴住居壁を抉り込んだ貯蔵穴のような土坑であることが想定される。検出面では竪穴住居埋土と分別できず、床面で焼土や炭化物が円形に分布する状況が看取された。このことから竪穴住居機能時に存在する竪穴住居付属の施設であると考えられる。柱穴は確認されなかった。

〈カマド〉 残存状況の異なる新古2基のカマドを確認した。古期のカマドとみられる東側のカマドは



第38図 SI0802竪穴住居跡カマド (2)

袖部等残存していなかったが、煙道のみ検出された。この煙道は地山を削り抜いたものでかすかに被熱痕跡が認められる。新期のカマドは燃焼部・袖部・煙道・煙出しがそれぞれ良好に残存しており、このカマド周辺には土器が多く出土している。煙道は地山を削り抜いたもので、煙道内および煙出しには土師器片が多くみられる。

〈遺物〉平安時代の土師器が埋土最下層および床面直上でまとまって出土した。

303～309は土師器坏で、いずれもロクロによる調整がおこなわれている。これらのうち、303～305・307・310は内面ミガキ調整および黒色処理されており、306は内外面ともにミガキ調整および黒色処理されている。また、これは高台が貼り付けられる形態である。一方、308・309は内外面ともに非黒色処理である。なお、底部の残存する303～305・306・308・310は、いずれも回転糸切りの痕跡が認められる。

311～316はいずれもロクロによる調整がおこなわれている土師器壺である。311・314は体部下半外面にヘラケズリが施されている。311はやや小形の壺であり、314は大型の壺である。311・313・316の3点は、口縁部を外方へ開いただけの簡素な形状であるが、これら以外は、口縁端部を上方へ摘み上げられた形状である。両者の口縁形態は、口縁部直下である体部上半に丸みを有するものと、丸みを持たず直線的なものにそれぞれ分かれようである。

317は須恵器の体部である。体部片のみであるが、想定される器種は壺類である。体部の膨らみ等の特徴から広口壺である可能性が高い。外面はヘラケズリが施されているが、その下地には微かにタタキの痕跡が認められる。内面は工具による調整が施されている。

また、埋土より砥石が2点出土した。459・460はいずれも凝灰岩製と考えられる砥石であり、使用された部分の表面は光沢を帯び、擦痕が認められる。

出土した土器はいずれも9世紀後半～10世紀前半に属すると考えられる。

SI0803堅穴住居跡（第40・41図 写真図版38・39・63・64）

〈位置・検出状況・重複〉II B7qグリッドに位置する。遺構東側でSI0802、SK0802とそれぞれ重複しており、これらに切られている。

〈規模・形状〉形状は東西辺より南北辺がやや長い長方形、北壁4.25m、南壁3.81、東壁3.94m、西壁4.42m。主軸方位は不明であるが、座標軸より30度程度傾いている。

〈堆積状況〉上部に暗褐色土、下部に黒褐色土が堆積する。下部には炭化物を多く含む層が認められる。

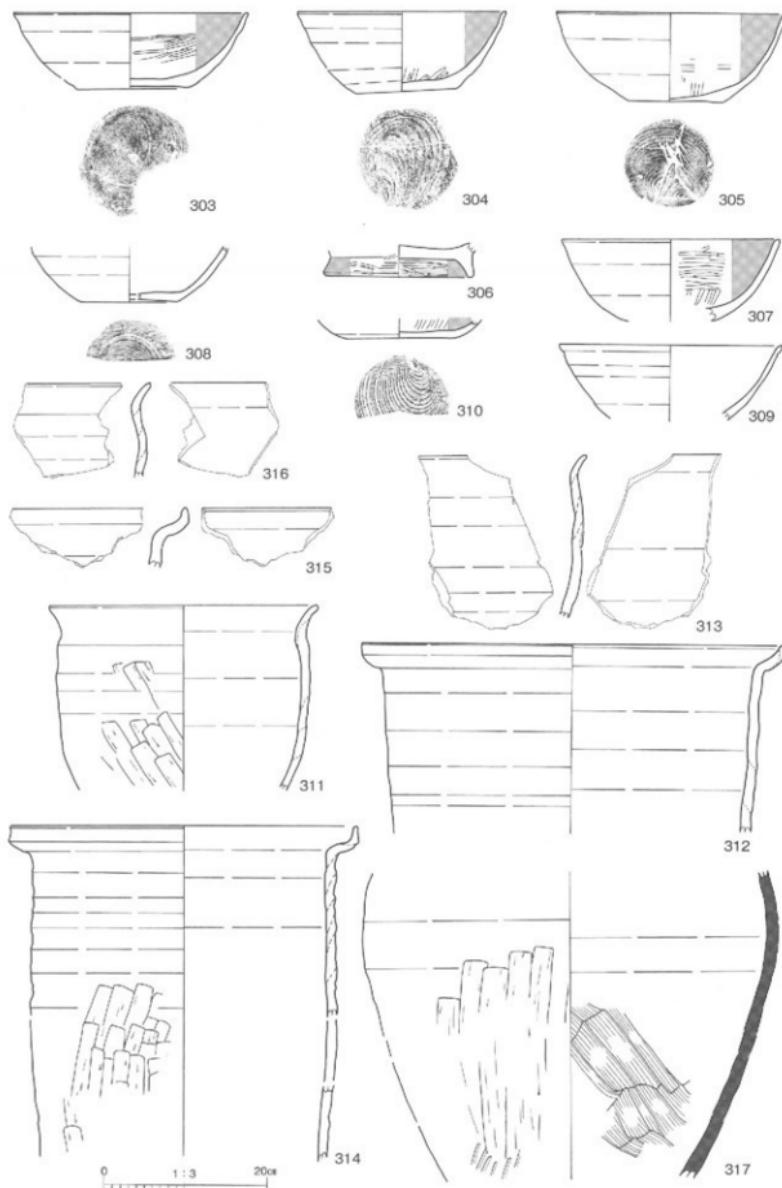
〈床面・壁〉地山を床とし、掘方は確認されなかった。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、検出面からの深さは10cm程度である。

〈土坑・柱穴〉遺構北東隅、西壁中央、南東隅にそれぞれ土坑が検出された。いずれも堅穴住居壁を抉り込んだ貯蔵穴のような土坑であることが想定される。検出面では堅穴住居埋土と分別できず、床面で焼土や炭化物が円形に分布する状況が看取された。このことから堅穴住居機能時に存在する堅穴住居付属の施設であると考えられる。また、柱穴は確認されなかった。

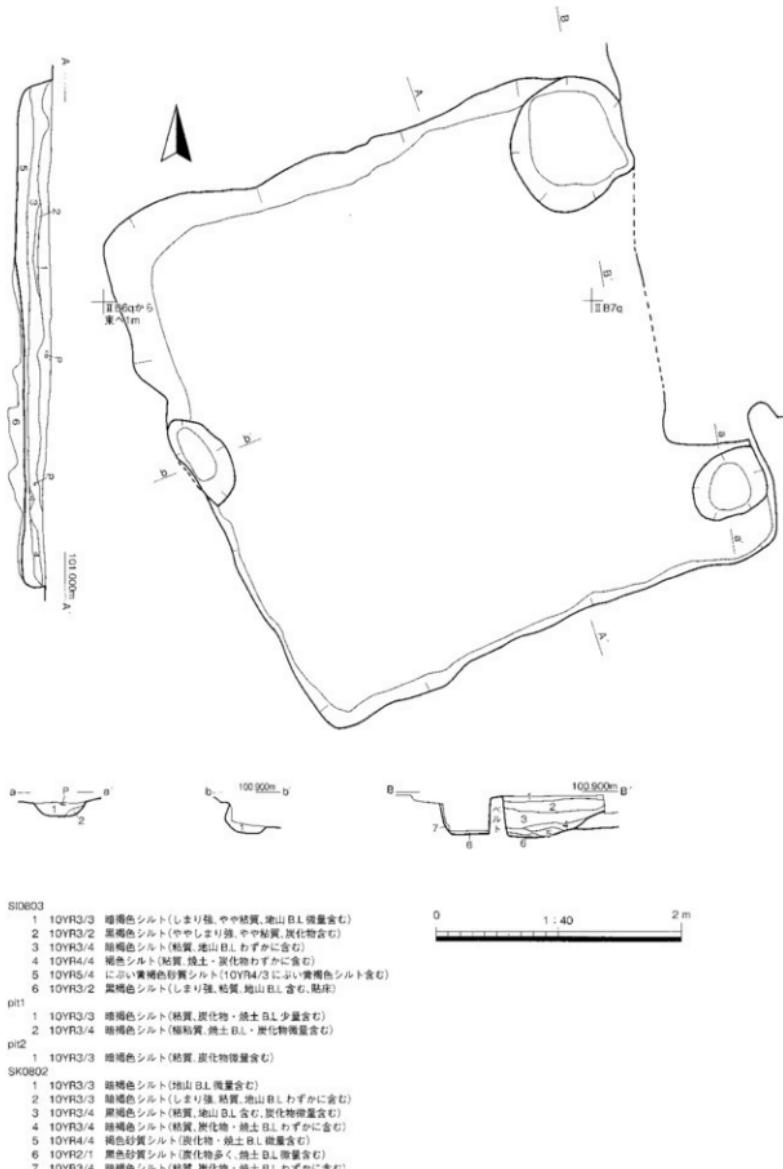
〈カマド〉燃焼部焼土等検出されなかった。

〈遺物〉平安時代の土師器が埋土最下層でまとまって出土した。

318～326・330はいずれもロクロによる調整が施された土師器壺である。318・320～323・325・326・330はいずれも内面ミガキ調整および黒色処理されているが、319・324は非黒色処理である。これらのうち、318・320・321には底部および体部下端に回転ヘラケズリが認められ、特に318は体部下端に3回転分のヘラケズリが施されている。また、321体部外面には墨書が認められる。文字か記号



第39図 SI0802竪穴住居跡出土遺物



第40図 SI0803竪穴住居跡

か判然としないが、柔軟な筆致で書かれた漢字である可能性が高い。

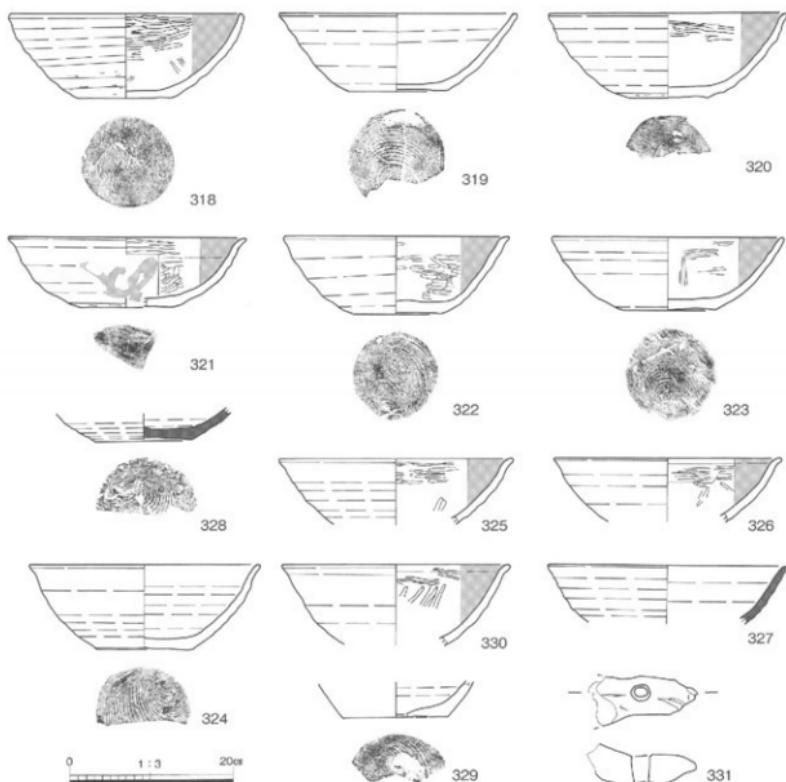
327・328はいずれも須恵器坏である。焼成良好であり比較的硬質に仕上がっている。328は底部回転糸切り後、無調整である。

329はロクロによる調整が施された壺である。底部のみの破片であるが、比較的小形の壺であると考えられる。底部は回転糸切り後、無調整である。

331は土師質の把手である。1箇所に穿孔が施されている。本来は土器に付けられたものである可能性が考えられるが、接合部が欠損しているため判然としない。また、粘土塊を握ったような粗雑な成形からは、この把手が機能的なものであることは疑わしく、装飾的なものである可能性が考えられる。出土遺物はいずれも 9 世紀後半～10 世紀前半にかけてのものであると考えられる。

SI0804竪穴住居跡（第 42～45 図、写真図版 40・64～66）

〈位置・検出状況・重複〉 II B12 1 グリッドに位置する。表土を除去すると焼土や土器片が多く認めら



第41図 SI0803竪穴住居跡出土遺物

れた。カマドが残存するのみで壺穴住居の全容については不明である。遺構北側でSI0807と、遺構東側でSI0812と重複している。SI0807はこれを切っており、SI0812はこれに切られているものと考えられる。

〈規模・形状〉 全体の規模・形状は不明である。ただし、カマドが残存しているため主軸方位はN-Eであると考えられる。

〈堆積状況〉 カマド周辺で暗褐色土が堆積する。下部には炭化物や焼土を多く含む層が認められる。

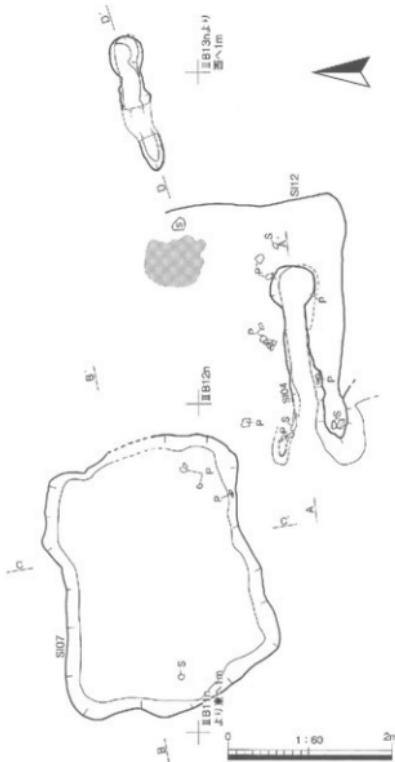
〈床面・壁〉 床面・掘方は確認されなかった。壁も残存していない。

〈土坑・柱穴〉 土坑・柱穴は確認されなかった。

〈カマド〉 カマドは燃焼部・袖部・煙道・煙出しがそれぞれ良好に残存しており、このカマド周辺には土器が多く出土している。煙道は地山を削り抜いたもので、煙道内および煙出しには土師器片が多くみられる。

〈遺物〉 平安時代の土師器・須恵器がカマド周辺でまとめて出土した。

338～337は土師器坏で、いずれもロクロによる調整がおこなわれており、併せて内面ミガキ調整および黒色処理が施されている。また、底部は回転糸切り後、無調整である。



第42図 SI0804・0807・0812壺穴住居跡

336は須恵器坏である。口縁部から体部にかけての破片であり、ロクロによる横方向の回転ナデが施されている。

340は須恵器蓋である。扁平な形状で、下端部は下方向に垂下している。頂部はケズリのような調整がみられるが、不明瞭である。この部分につまみおよびその痕跡は確認できないが、もともと存在していた可能性も考えられる。また、比較的小さい径から考えると、壺類に適合する可能性は低く、須恵器でも小形の壺あるいは瓶類に適合する可能性が考えられる。

332は須恵器長頸瓶などの底部に付けられた高台部である。貼り付け高台の接合部で剥がれています。接合部では棒状の圧痕が放射状に認められる。

333～335・341～346・348・349はいずれも土師器壺である。これらのうち333・341・342・345・348は非ロクロのもので、ほかはロクロによる調整が認められる。小形の壺である334・351はいずれも底部は、回転糸切り後、無調整である。また、349は外面上にタタキが認められる丸底の壺であり、その特徴は日本海側の土師器壺に求めることができる。

347は須恵器の口縁部である。その他の部位は欠損しているが、口径や口縁形態から壺である想定される。

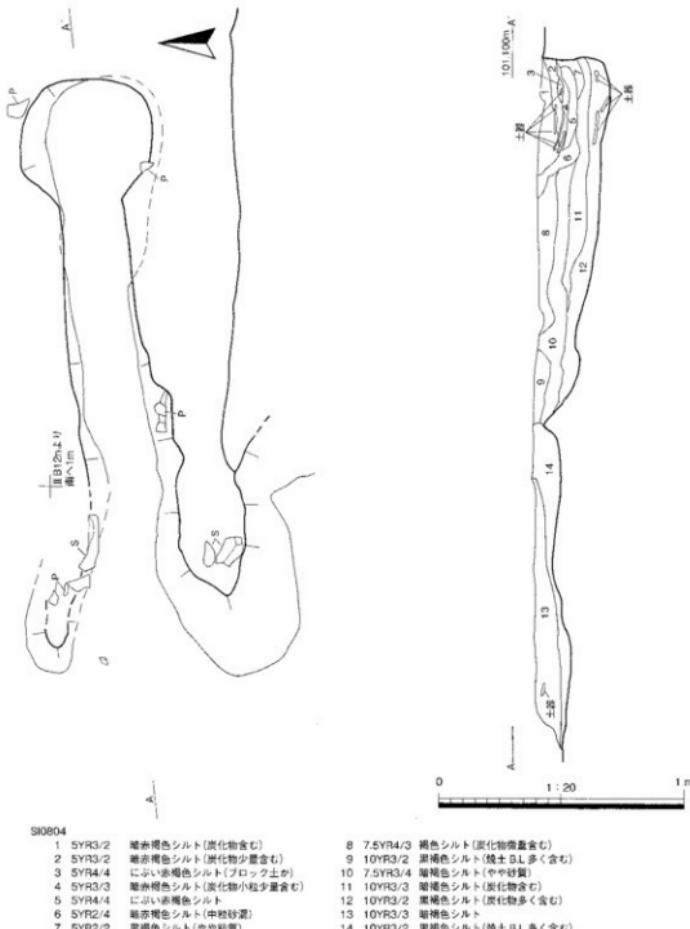
出土した遺物は、他の遺構と比べ、須恵器蓋・日本海側の特徴を有する土師器

甕などやや古い特徴を有する遺物が混在することを考えると、9世紀前半～後半のものである可能性が考えられる。

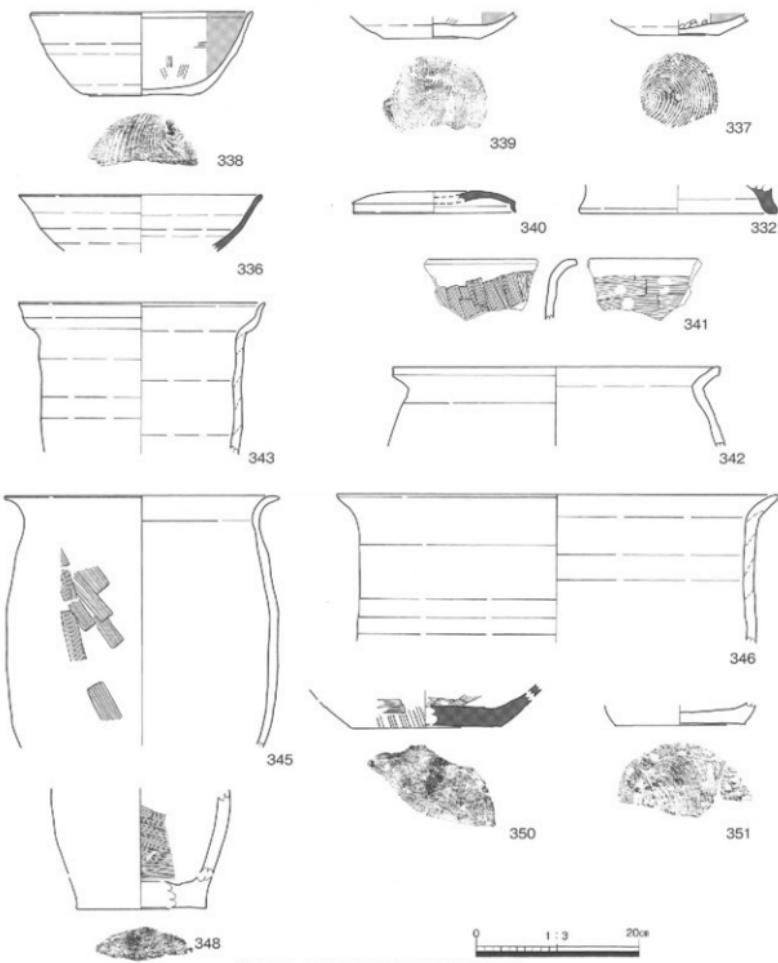
SI0805堅穴住居跡（第46・47図、写真図版41・66）

〈位置・検出状況・重複〉 II B8nグリッドに位置する。南西隅～南東隅にかけて後世の擾乱を受けており、壁が残存していない。また、現代の暗きよ排水によって切られている。

〈規模・形状〉 形状は方形であると考えられる。北壁2.56m、東壁は1.50mのみが残存している。主軸



第43図 SI0804堅穴住居跡カマド



第44図 SI0804構造跡出土遺物(1)

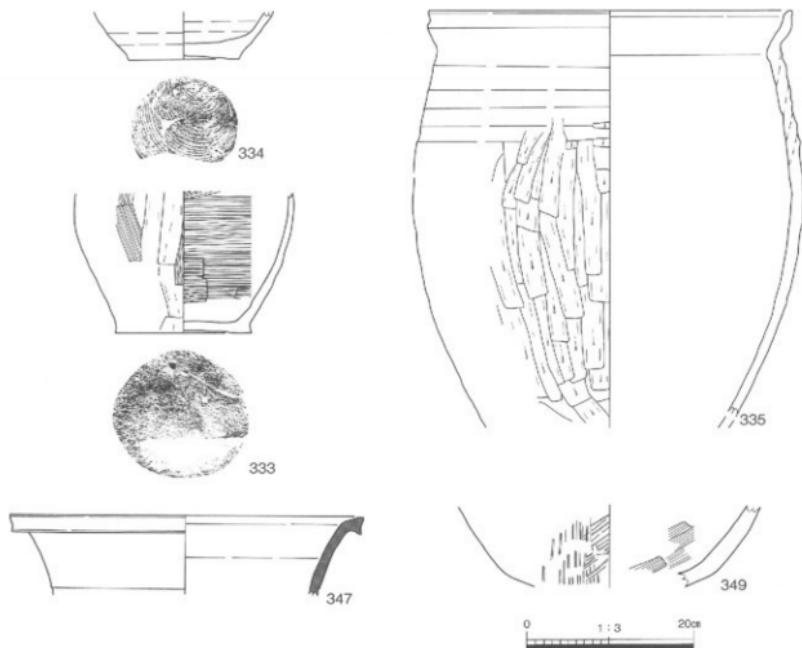
方位はカマドが存在しないため不明であるが、南座標軸より約20°西に傾いている。

〈堆積状況〉上部に暗褐色土、下部に黒褐色土が堆積する。下部には炭化物小粒がわずかに認められる。

〈床面・壁〉地山を床とし、掘方は確認されなかった。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、検出面からの深さは10cm程度である。

〈土坑・柱穴〉床面では土坑および柱穴は確認されなかった。

〈カマド〉燃焼部焼土およびカマド、煙道は確認されなかった。



第45図 SI0804竪穴住居跡出土遺物(2)

〈遺物〉土師器壺 1 点が埋土より出土した。この壺は非口クロのものである。体部～底部にかけての破片で、外面にはヘラケズリ調整が施されている。

SI0806竪穴住居跡（第48～52・78図、写真図版42～44・66・67・76）

〈位置・検出状況・重複〉II B50グリッドに位置する。遺構東側煙道がSK0812と重複しており、これによって切られている。

〈規模・形状〉形状はほぼ方形、北西壁3.12m、南西壁3.21m、南東壁3.33m、北東壁3.18m。主軸方位はN=45°～Eである。

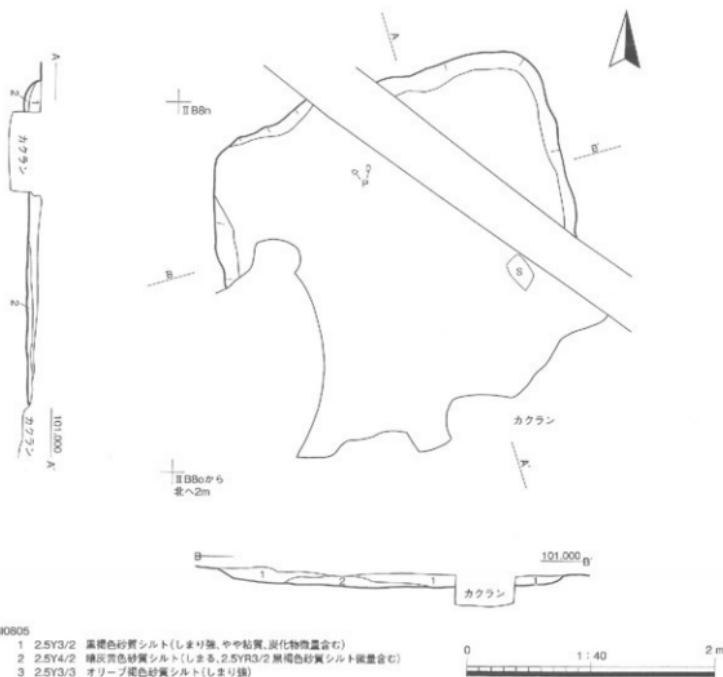
〈堆積状況〉上部に暗褐色土、下部に黒褐色土が堆積する。下部には炭化物を多く含む層が認められる。

〈床面・壁〉地山を床とし、掘方は床面のほぼ全体で2～10cm確認された。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、検出面からの深さは15cm程度である。

〈土坑・柱穴〉遺構東隅が外へ大きく張り出しており、竪穴住居壁を挟み込んだ貯蔵穴のような土坑である土坑が2基確認された。検出面では竪穴住居埋土と分別できず、床面で焼土や炭化物が円形に分布する状況が看取された。このことから竪穴住居機能時に存在する竪穴住居付属の施設であると考えられる。柱穴は確認されなかった。

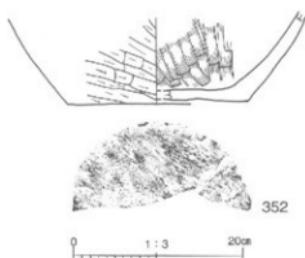
〈カマド〉残存状況の異なる新古2基のカマドを確認した。古期のカマドとみられる北西側のカマド

1 穴住居跡



第46図 SI0805竪穴住居跡

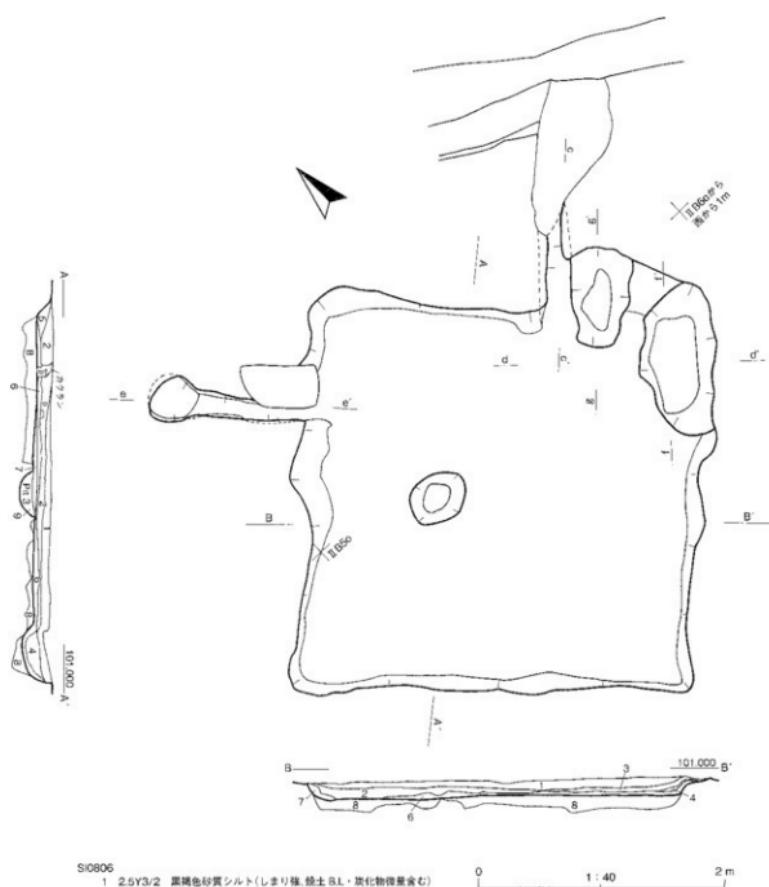
は袖部等残存していなかったが、煙道のみ検出された。この煙道は地山を削り抜いたものであると考えられる。新期のカマドは燃焼部・西側袖部・煙道・煙出しがそれ良好に残存しており、このカマド周辺には土器が出土している。煙道は地山を削り抜いたもので、煙道内および煙出しには土師器片が多くみられる。



第47図 SI0805出土遺物

〈遺物〉平安時代の土師器・須恵器が埋土最下層および床面直上、土坑でまとめて出土した。

353～355・358～360・364・365は土師器壺で、いずれもロクロによる調整がおこなわれている。これらのうち、353～355は内面ミガキ調整および黒色処理されており、その他は非黒色処理である。355の体部側面には墨書きが認められるが、筆致の規則性認められず、文字なのか記号なのか不明である。また、これら土師器壺には、口縁部が極度に外反するものが目立つ。



SI0806

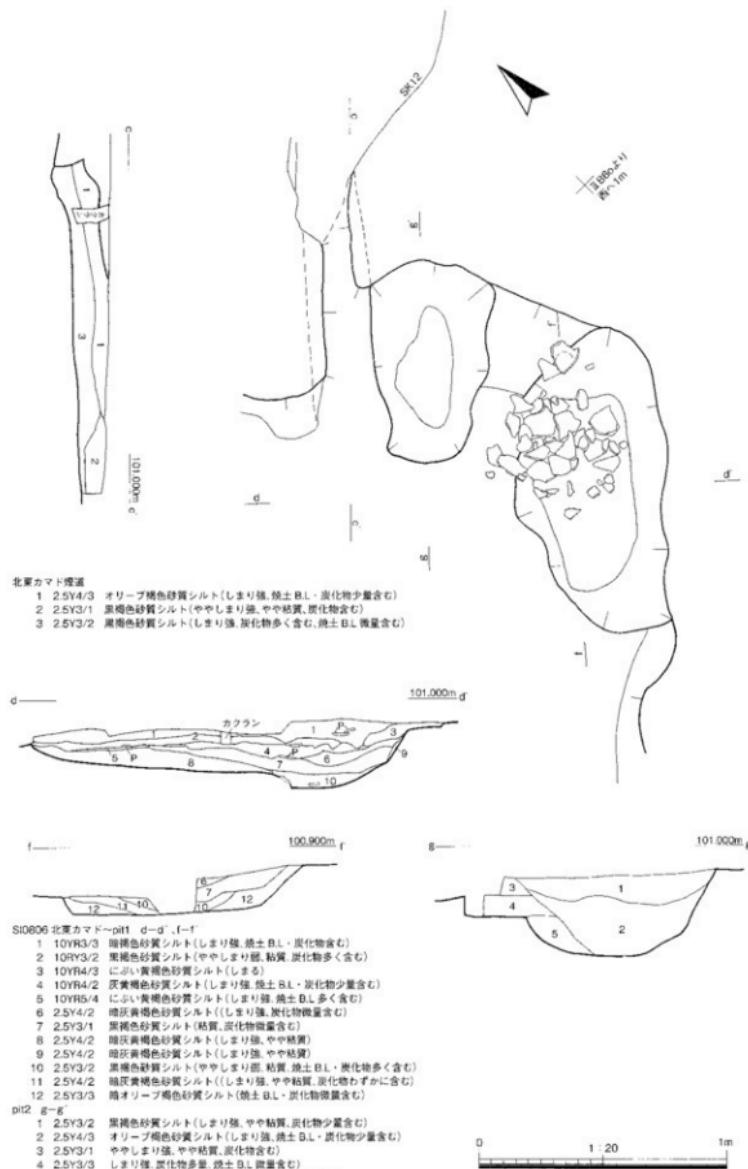
- 1 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト(しまり強、粘土BL、炭化物微量含む)
- 2 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト(しまり強、粘土BL、炭化物微量含む)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色砂質シルト(やや粘質、炭化物少量含む)
- 4 2.5Y3/2 黑褐色砂質シルト(しまり強、炭化物微量含む)
- 5 2.5Y3/2 黑褐色砂質シルト(やや粘質、炭化物微量含む)
- 6 2.5Y4/2 開灰黄褐色砂質シルト(しまり強、粘質)
- 7 2.5Y4/2 開灰黄褐色砂質シルト(粘質)
- 8 2.5Y3/3 藤オリーブ褐色砂質シルト(しまり強、粘質、粘床)
- 9 2.5Y3/3 藤オリーブ褐色砂質シルト(しまり弱、炭化物微量含む)

第48図 SI0806竪穴住居跡

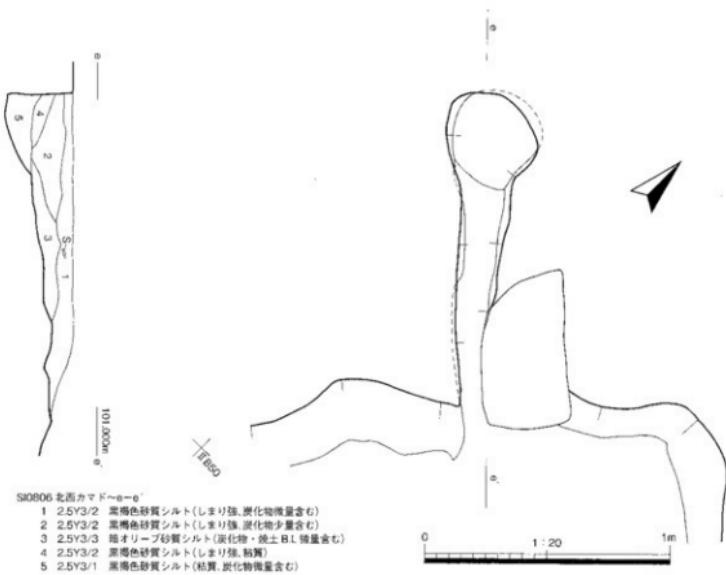
このような特徴を有する土器器坏は他の竪穴住居出土のものには認められない。

362・363は須恵器坏である。いずれもクロコによる調整が施されており、363は口縁部に重ね焼きの痕跡が認められる。

1 壁穴住居跡



第49図 SI0806壁穴住居跡カマド (1)



第50図 SI0806堅穴住居跡カマド (2)

356は非ロクロの土師器壺である。底径が小さく調整もハケであることから、奈良時代から続くと考えられるやや古い特徴を有している。

357は還元不足のため土陶器のような色調であるが、形態・器面調整・胎土より須恵器であると考えられる。器面調整は、体部外面にタタキの痕跡が微かに認められる。体部および頭部などが残存している。形態から想定される器種は壺類であり、体部の膨らみ等の特徴から広口のものである可能性が高い。

366は須恵器火壺の体部片である。外面は平行タタキ目、内面は平行文當て具の痕跡が明瞭である。破片の曲線は緩く比較的大形の壺であると推測される。

出土遺物は、やや器高の高い土師器壺、ハケ調整が認められる土師器壺などが混在することから9世紀前半～後半にかけてのものであると考えられる。

SI0807堅穴住居跡（第53・54・78図、写真図版45・77）

〈位置・検出状況・重複〉 II B12n グリッドに位置する。削平により残存状況は良くないが、SI0804の想定される床面範囲と重複しているものとみられる。したがって、この遺構は単独の遺構である可能性と SI0804 掘方の一部である可能性の両方が考えられる。

〈規模・形状〉 形状は東西方向が南北方向よりもやや長い長方形であると考えられる。北壁2.90m、西

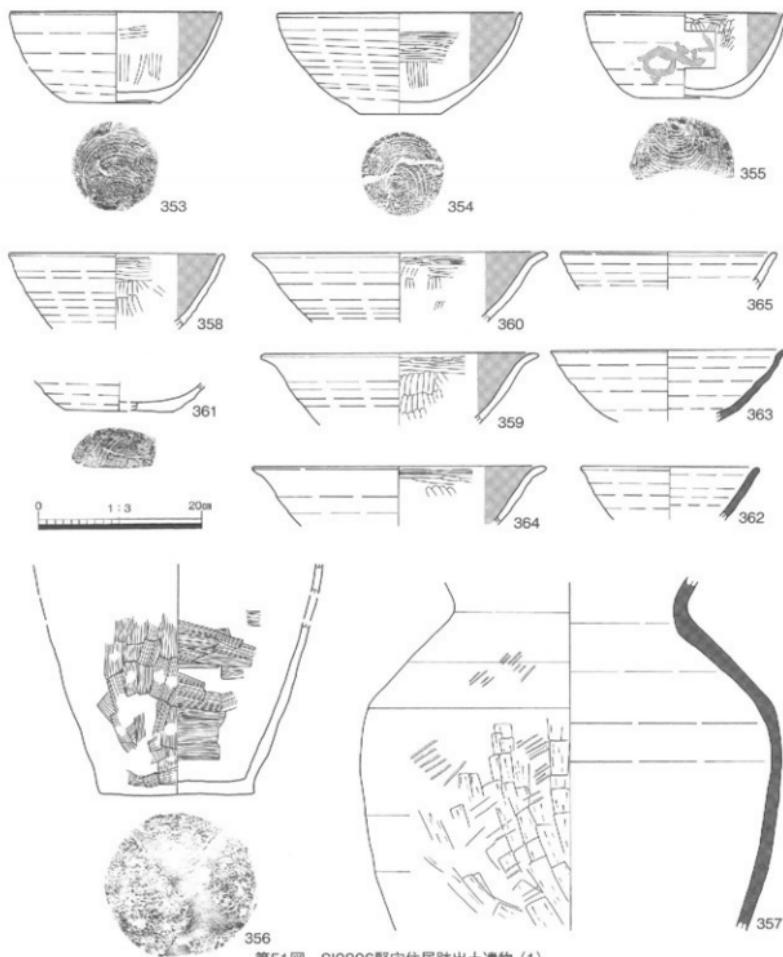
壁は2.61m、南壁2.63m、東壁2.32mのみが残存している。主軸方位はカマドが存在しないため不明であるが、長辺は南北座標軸より約90°傾いている。

〈堆積状況〉上部に暗褐色土、下部に黒褐色土が堆積する。下部には土器片を含む。

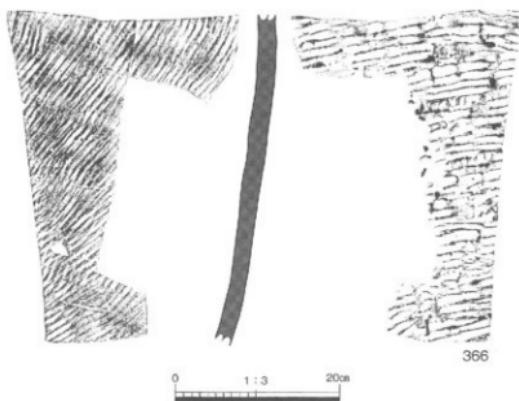
〈床面・壁〉地山を床とし、掘方は確認されなかった。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、検出面からの深さは5cm程度である。

〈土坑・柱穴〉床面では土坑および柱穴は確認されなかった。

〈カマド〉燃焼部焼土およびカマド、煙道は確認されなかった。



第51図 SI0806壁穴住居跡出土遺物(1)



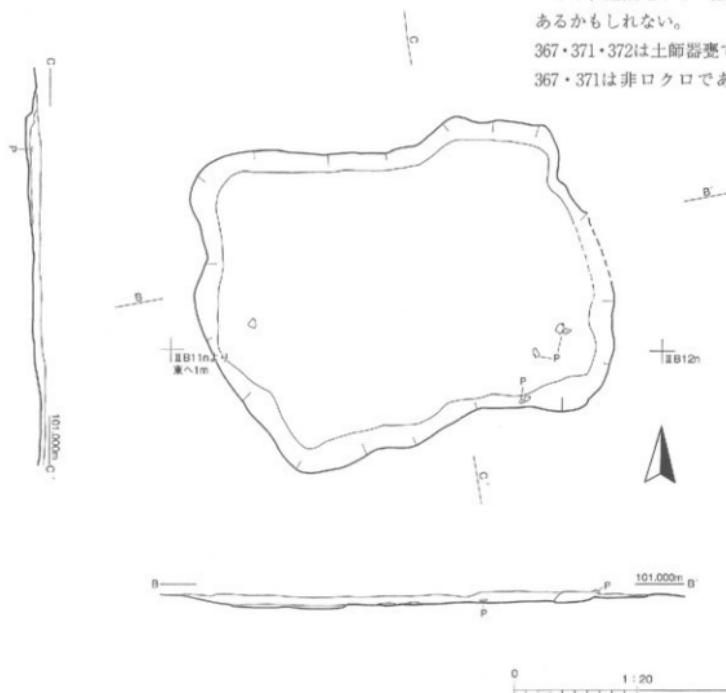
第52図 SI0806竪穴住居跡出土遺物（2）

〈遺物〉平安時代のものとみられる土器類が埋土より出土した。

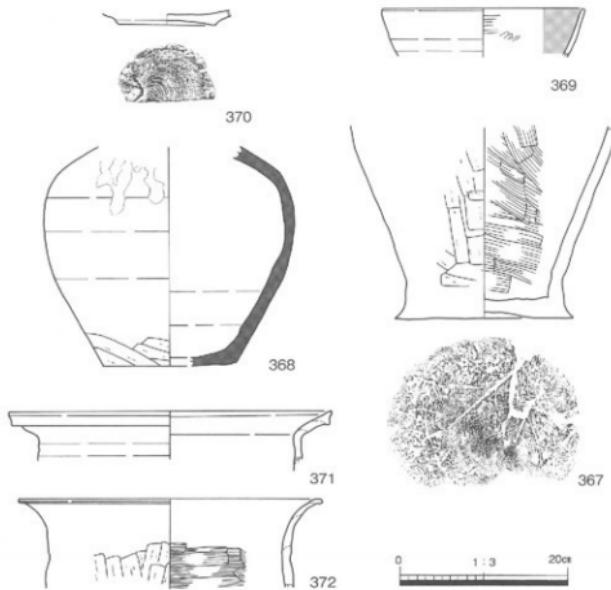
369・370はロクロによる調整が施された土師器坏である。370は非黒色処理である。底部の厚みが、坏にしては厚いため小形の甕である可能性も否めない。369は内面ミガキ調整および黒色処理が施されている。

368は須恵器長頸瓶である。肩部には自然釉が掛かっている。胎土は精良で色調も灰色が強く他の須恵器とは一線を画する。頸部から口縁部は欠損しているが、遠隔地からの搬入品であるかもしれない。

367・371・372は土師器甕である。367・371は非ロクロであるが、



第53図 SI0807竪穴住居跡



第54図 SI0807出土遺物壁穴住居跡

371はロクロによる調整が施されている。367は底部に木葉痕が認められる。

これら出土した遺物は、土器にみられる諸特徴より、おおむね9世紀後半～10世紀前半を中心であると考えられる。

SI0808壁穴住居跡（第55～60図 写真図版46・47・68～70）

〈位置・検出状況・重複〉 II B3nグリッドに位置する。遺構北側でSI0810と重複しており、これを切っている。

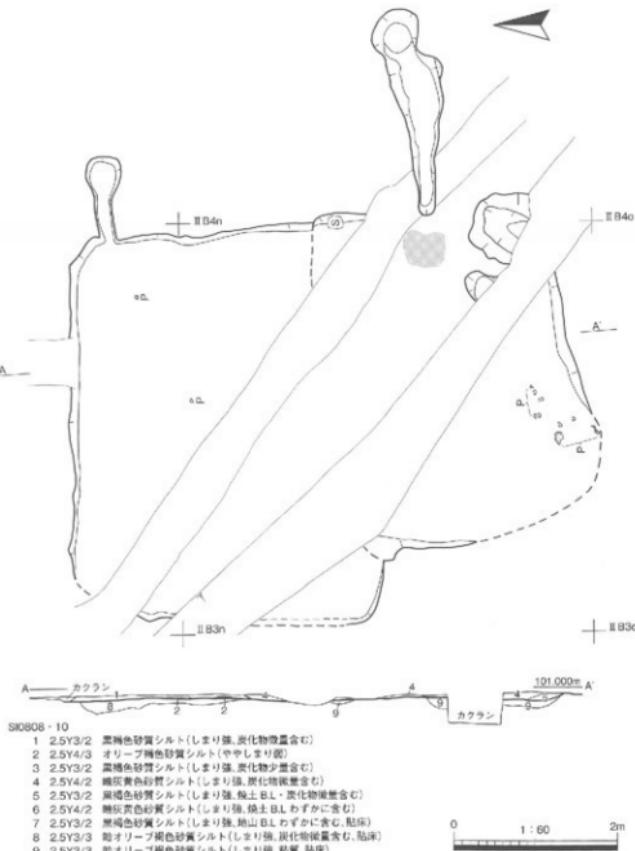
〈規模・形状〉 形状は南北辺より東西辺がやや長い長方形であると推定される。北壁と西壁はほとんど残存していない。南壁1.87mが残存しており、推定では2.5～3m程度の長さが推定される。主軸方位はN=40°～Eである。

〈堆積状況〉 下部の黒褐色層には炭化物を少量含む。

〈床面・壁〉 掘方は部分的に確認され。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、検出面からの深さは5cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 遺構南東隅がわずかに外へ張り出しており、壁穴住居壁を抉り込んだ貯蔵穴のような土坑であることが想定される。検出面では壁穴住居埋土と分別できず、床面で焼土や炭化物が円形に分布する状況が看取された。このことから壁穴住居機能時に存在する壁穴住居付属の施設であると考えられる。柱穴は確認されなかった。

〈カマド〉 カマドは燃焼部・煙道・煙出しがそれぞれ良好に残存しており、このカマド周辺には土器

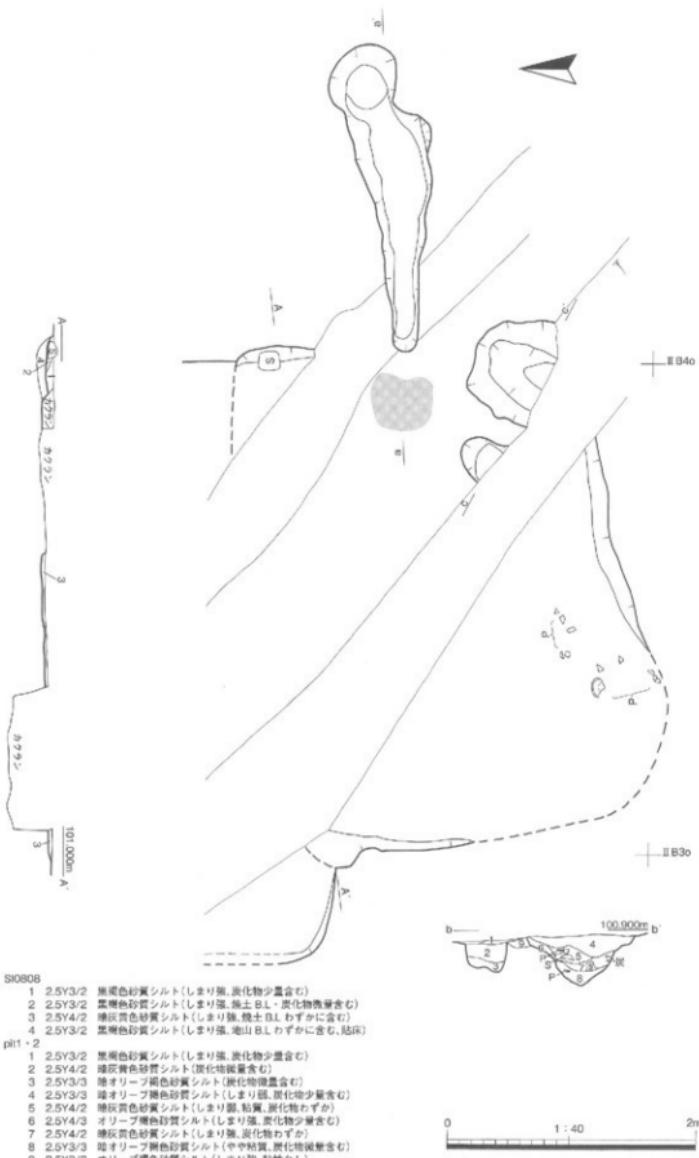


第55図 SI0808-0810堅穴住居跡

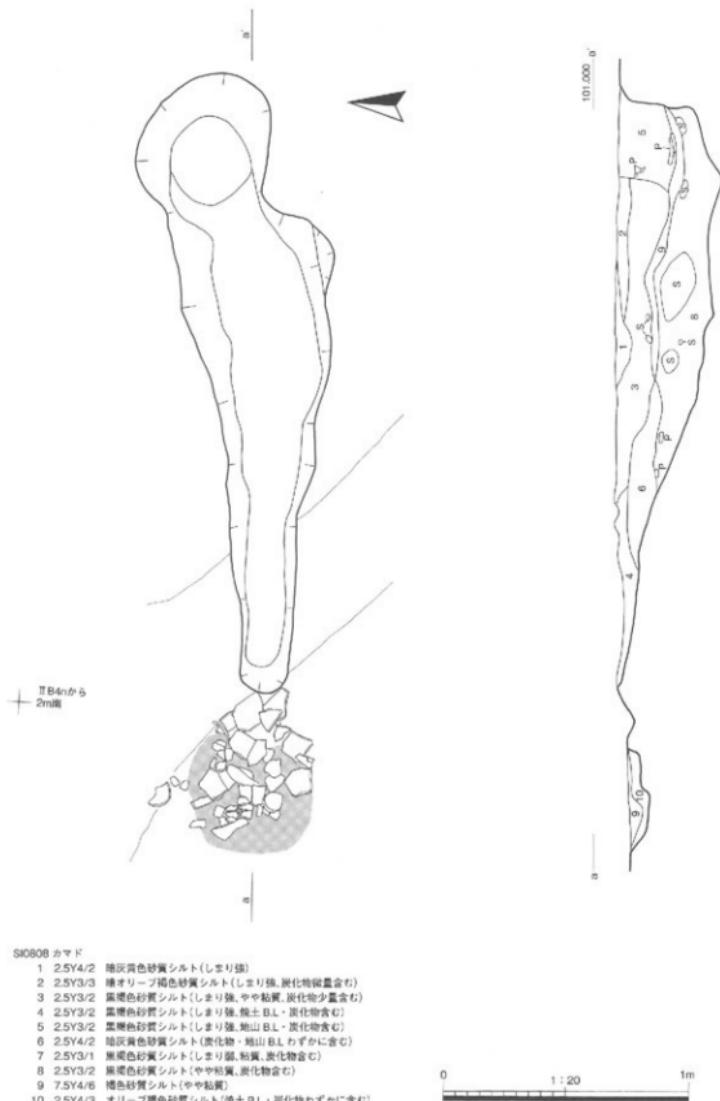
が多く出土している。煙道は規模が大きく、煙道内および埋出しには土師器片が多くみられる。
〈遺物〉平安時代の土師器が燃焼部付近、土坑でまとまって出土した。

373～377・380～384は土師器壊で、いずれもロクロによる調整がおこなわれている。これらのうち、380・382・383は内面非黒色処理であるが、それ以外は内面ミガキ調整および黒色処理が施されている。底部が残存する個体のうち、373・374・375・381は底部に回転ヘラケズリの痕跡が認められる。さらに、374・375・381は体部下端に回転ヘラケズリが及ぶ。特に、375の回転ヘラケズリは、4段にもなっている。385は須恵器壊である。外面のロクロ目は明瞭である。須恵器壊にしてはやや深めであることが特徴的である。

378・386～396はいずれも土師器壊である。378・387・392は非ロクロのものであるが、それ以外は



第56図 SI0808壁穴住居跡



第57図 SI0808豎穴住居跡カマド

ロクロによる調整が施されたものである。

379は須恵器広口壺である。邊元不足のため土師器のような色調であるが、形態・器面調整・胎土より須恵器であると考えられる。部にはタタキが認められ、その上にヘラケズリが施されている。口縁部は丁寧な作りで、全体的に比較的均整の取れた形態である。

出土遺物は、土師器壺類にやや深みのある個体が混在していること、土師器壺や須恵器壺の作りが丁寧であることなどから9世紀後半頃のものであると推定される。

SI0809壺穴住居跡（第61・62図、写真図版48・49・70～72）

〈位置・検出状況・重複〉 II B21グリッドに位置する。遺構東隅壁および北西壁の一部が近現代の暗きよによって切られている。

〈規模・形状〉 形状はやや不整な方形であると考えられる。北壁3.32m、西壁2.81mであり、南壁2.63m、東壁1.35mは残存している長さである。主軸方位は検出された通道がこれに伴うものかどうか確信を得ていないため不明であるが、南北座標軸より約45°傾いている。

〈堆積状況〉 上部に暗褐色土、下部に黒褐色土が堆積する。下部には土器片を含む。

〈床面・壁〉 地山を平坦な床とし、掘方は確認されなかった。壁はほぼ垂直に立ち上がり、検出面からの深さは5cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 床面では南東壁に1基、北東壁に1基の土坑が確認された。壺穴住居に伴う貯蔵穴のような施設であると推定される。

〈カマド〉 燃焼部焼土およびカマドは確認されなかったが、遺構南側には削平を受けた通道の一部が残存している。しかし、壺穴住居との軸方向が一致しないため、この壺穴住居に伴うものかどうかは不明である。

〈遺物〉 平安時代のものとみられる土器が埋土および土坑より出土した。

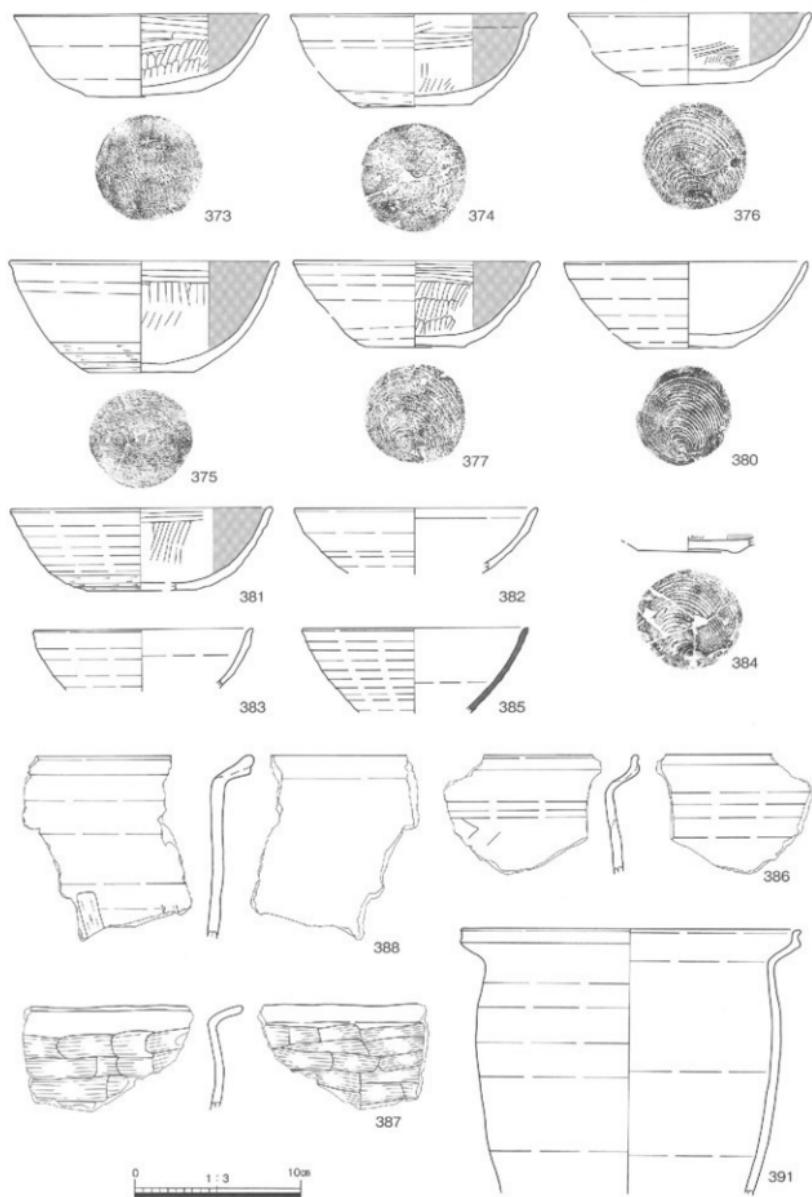
397～402・404～410はロクロによる調整が施された土師器壺である。399・400・407・409は、いずれも黒色処理が確認できないが、その他はすべて内面ミガキ調整および黒色処理が施されている。ただし、409はミガキ・黒色処理が摩滅のため不明瞭であるが、胎土や丸い器形より本来は黒色処理されたものであったと推測される。401・402・410は、体部側面に墨書が施されている。402は「万」と判読できるが、401および410は文字であると思われるが判読できない。なお、402の底部は回転糸切り後、回転ヘラケズリが施されており、ヘラ記号「×」が記されている。399は非黒色処理の土師器壺であるが、器形に板端な歪みが生じている。この歪みから須恵器の焼成不良品であることも考えられる。しかし、この歪みは使用に耐えない程ではないかもしれないが、不良品と言わざるを得ない。このような製品としての不良品が、この遺跡で出土する理由は不明であるが、土器生産と何らかの関わりがある集団の存在を示唆している。

403～411・412は土師器壺である。403は非ロクロのもので、底部はヘラケズリが施されている。411・412はいずれもロクロによる調整が施されたものである。412は外面にタタキが認められ、このタタキは底部にも及んでいる。

これら出土した遺物は、土器にみられる諸特徴から考えて、9世紀後半～10世紀前半に属すると考えられる。

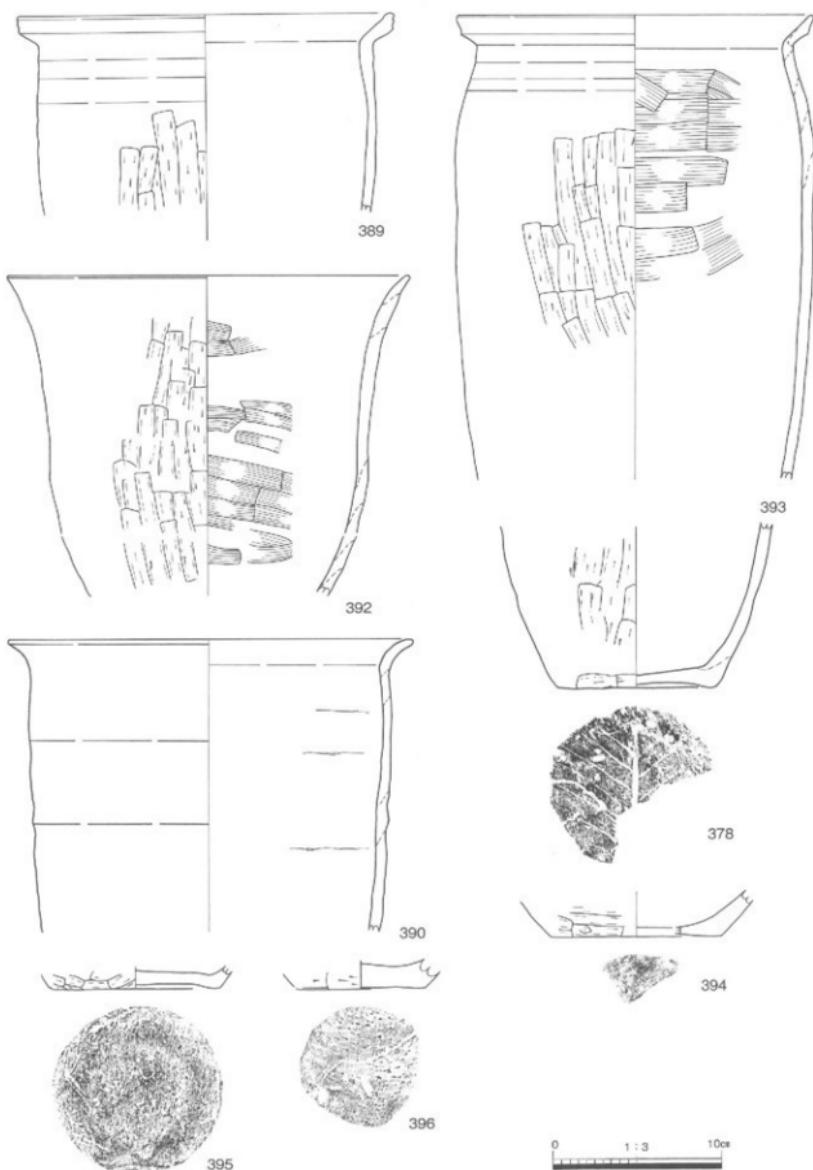
SI0810壺穴住居跡（第63・64・78図、写真図版50・72・77）

〈位置・検出状況・重複〉 II B3qグリッドに位置する。SI0808と重複しており、これに切られている。

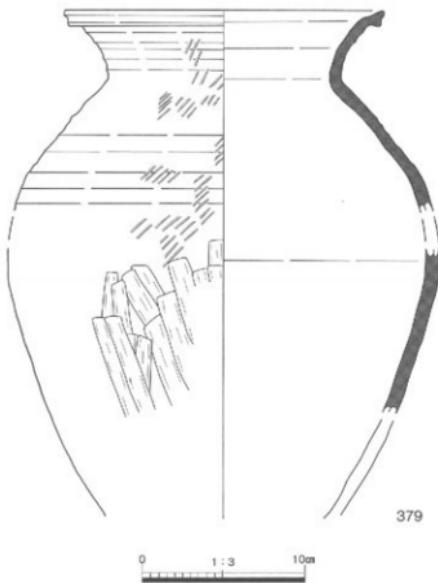


第58図 SI0808竪穴住居跡出土遺物（1）

1 壁穴住居跡



第59圖 SI0808壁穴住居跡出土遺物（2）



第60図 SIO808竪穴住居跡出土遺物（3）

379

また、現代の暗きよ排水2条によって切られている。

〈規模・形状〉 形状は方形であると考えられる。完存している壁は存在せず、北壁4.16m、東壁2.94m、南壁0.67mが残存している。主軸方位はほぼ真西である。

〈堆積状況〉 暗褐色土の単層である。

〈床面・壁〉 平坦な床の直下に掘方が存在し、貼床が施されていたことが判明した。壁は、緩やかに立ち上がり、検出面からの深さは3cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 床面では土坑および柱穴は確認されなかった。

〈カマド〉 燃焼部焼土およびカマドは確認されなかったが、煙道と思われる遺構が東壁の北端で認められる。

〈遺物〉 土師器壺1点が埋土より、砥石1点が検出面より出土した。

413はロクロによる調整が認められ、内面黒色処理が施されている。また、

底部および体部下端は丁寧な回転ヘラケズリ調整が施されている。

465は砥石である。擦痕の範囲は擦り減って窪んでいる。安山岩製であると考えられる。

出土遺物は9世紀前半～後半頃であると考えられる。

SIO811竪穴住居跡（第65・66図 写真図版51・72）

〈位置・検出状況・重複〉 II B3qグリッドに位置する。削平により残存状況は良くないが、周囲の自然堆積面とのわずかな違いにより床面範囲が推定され、これに伴うと考えられる土坑と煙道の一部が残存する。

〈規模・形状〉 形状はほぼ方形であると考えられる。いずれの壁も残存していないため推定値であるが、東西長3.92m、南北長4.00mの規模が考えられる。主軸方位はほぼ真西である。

〈堆積状況〉 遺構に堆積した土はほとんど残存していない。

〈床面・壁〉 地山を床とし、掘方は確認されなかった。

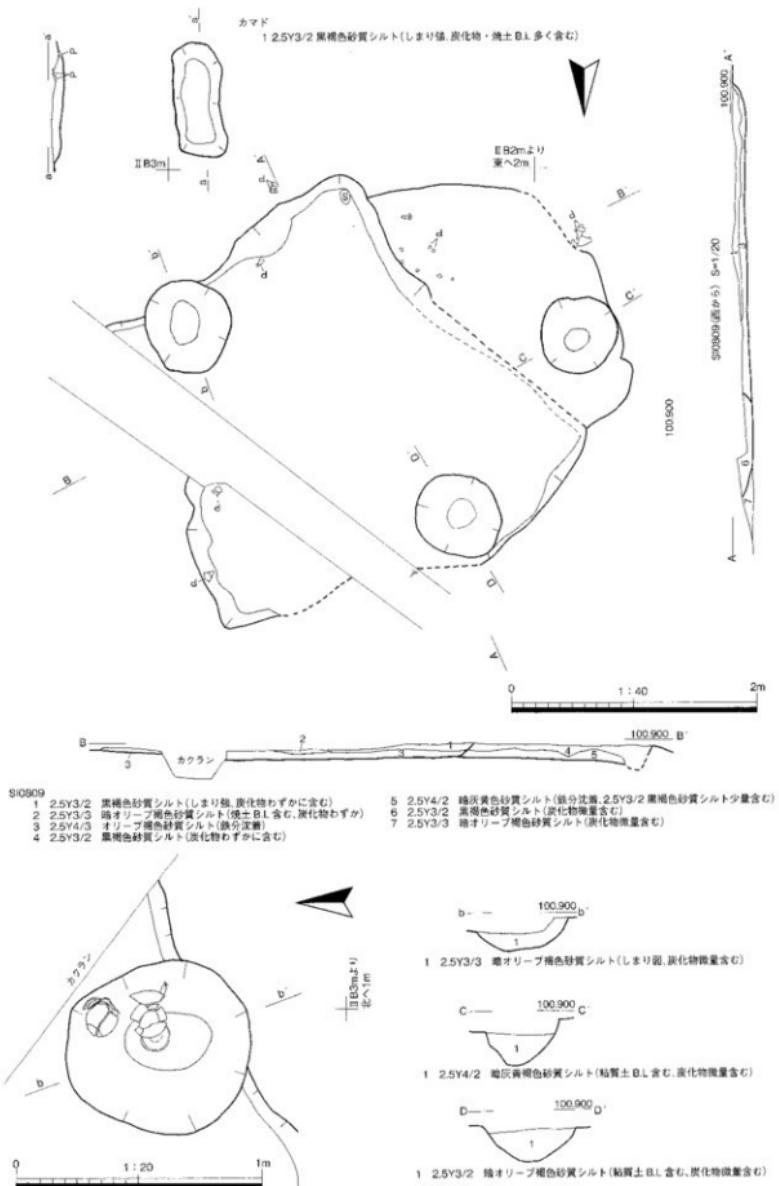
〈土坑・柱穴〉 床面では南東隅に土坑が1基確認された。堆積土は地山層と判別が困難なものであったが、炭化物および焼土がブロック状に含まれていることで検出された。

〈カマド〉 燃焼部焼土およびカマドは確認されなかったが、煙道の一部が検出された。この煙道埋土には焼土や炭化物が多量に含まれている。

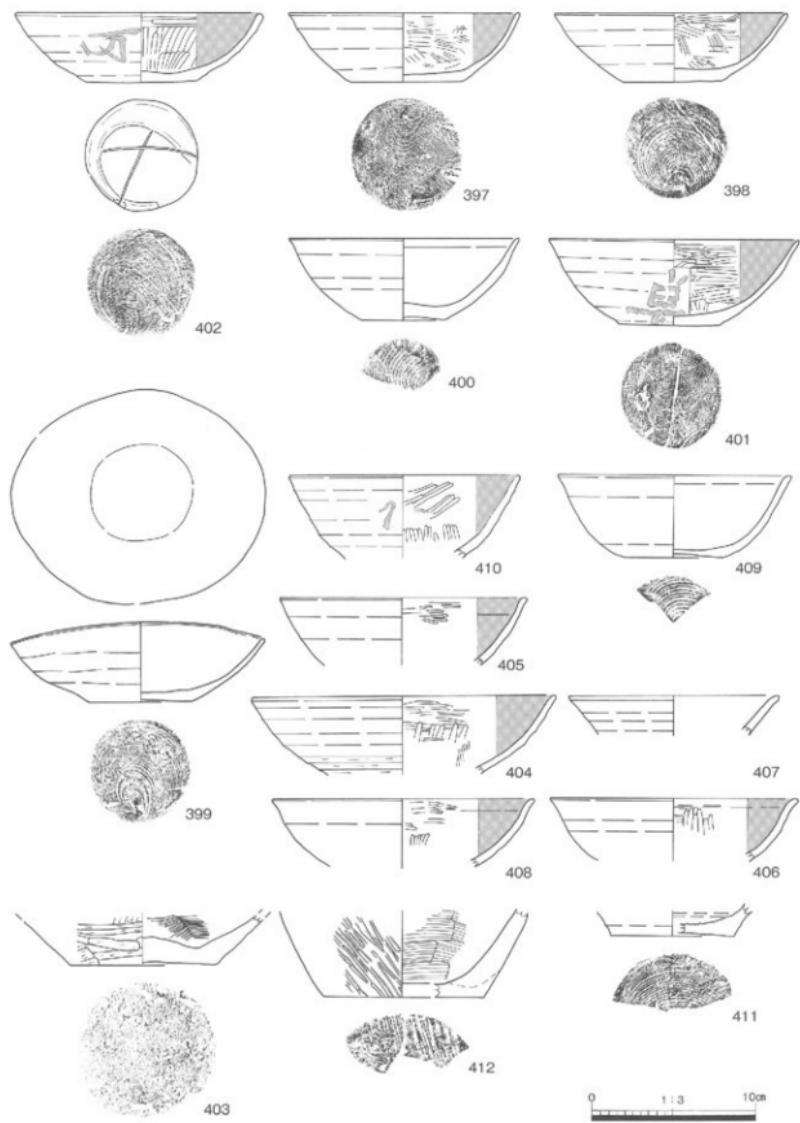
〈遺物〉 平安時代のものとみられる土器が埋土より出土した。

414・415はいずれもロクロによる調整が施された土師器壺である。414は小形のものであり、底部は回転糸切り後、無調整である。415は上部のみの破片であるが、ロクロによる回転ナデが明瞭である。

1 堅穴住居跡

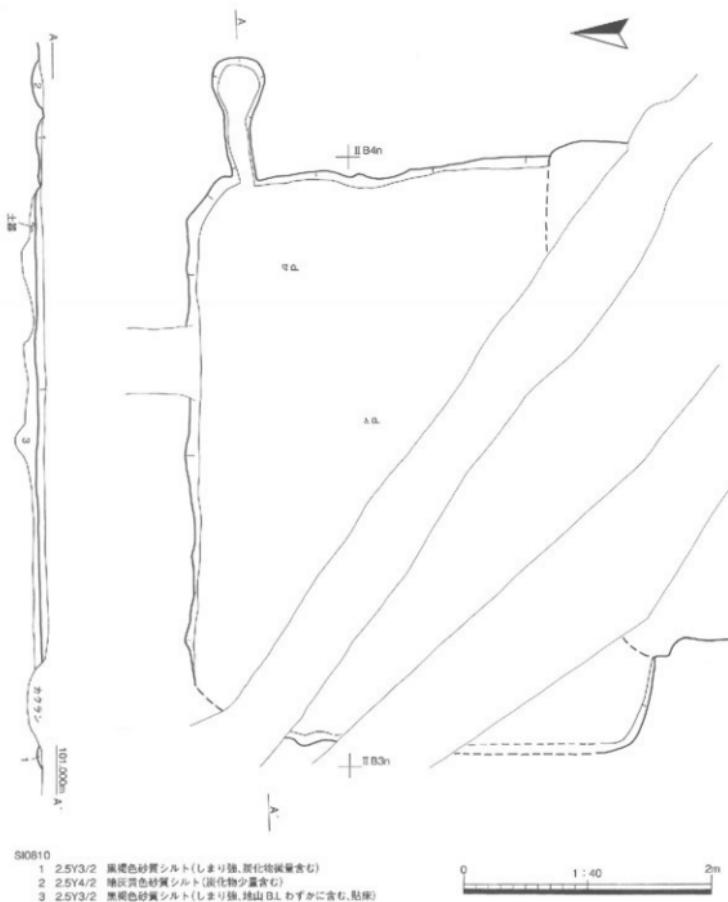


第61図 SI0809堅穴住居跡

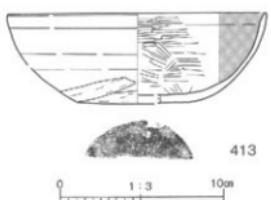


第62図 SI0809竪穴住居跡出土遺物

1 壺穴住居跡



第63図 SI0810

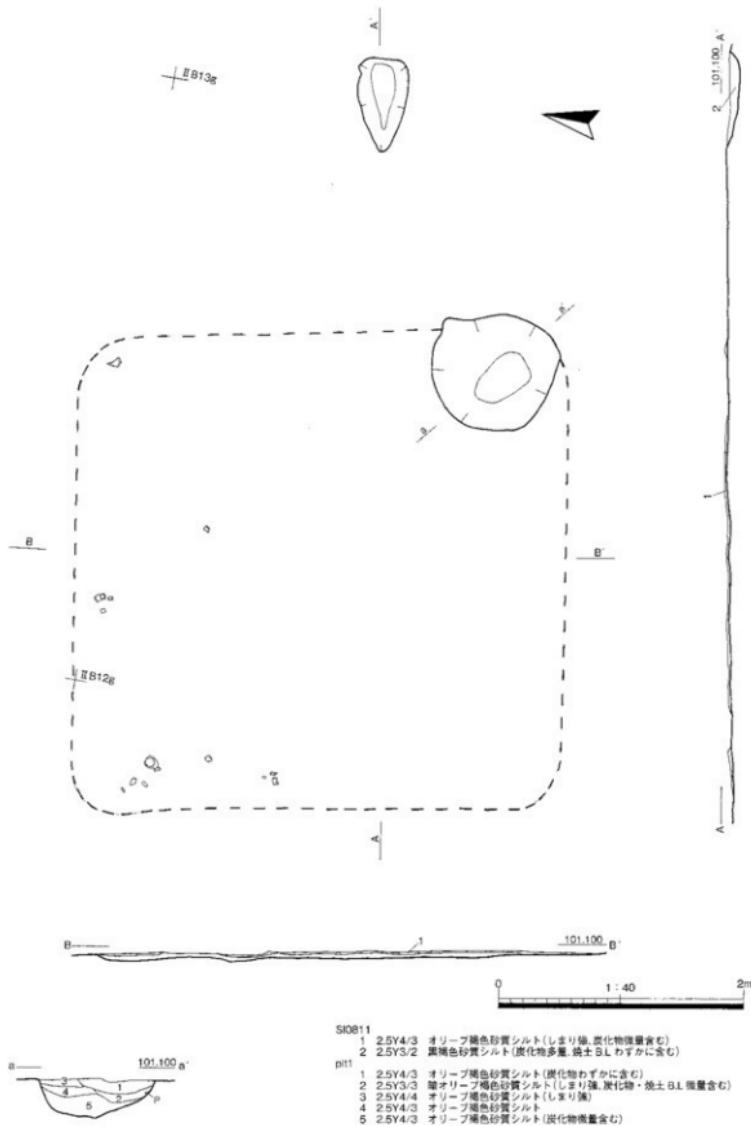


第64図 SI0810壺穴住居跡出土遺物

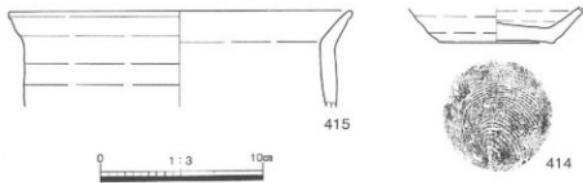
出土遺物が少なく、詳細な年代を掘むことは困難であるが
9世紀～10世紀前半に属するものであると考えられる。

SI0812壺穴住居跡（第67・68図、写真図版52・72）

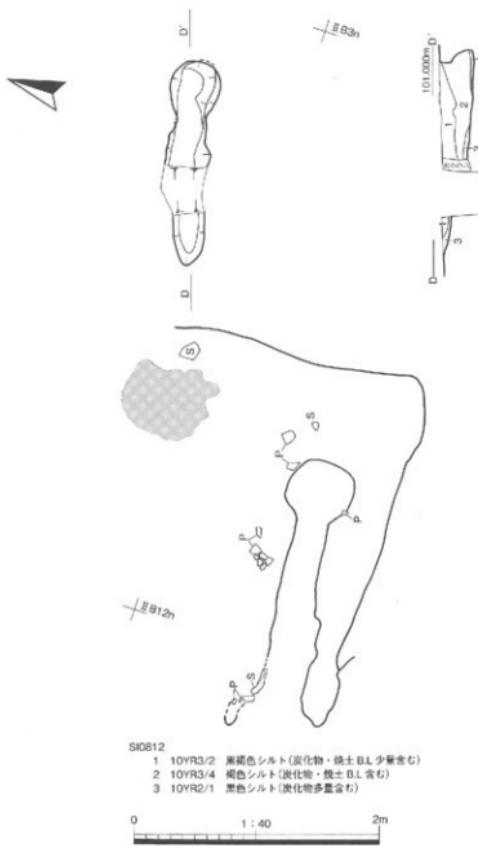
〈位置・検出状況・重複〉 II B12 1グリッドに位置する。表土を除去すると焼土や土器片が多く認められた。カマドが残存するのみで壺穴住居の全容については不明である。遺



第65図 SI0811竪穴住居跡



第66図 SI0811窓穴住居跡出土物



第67図 SI0812窓穴住居跡

構西側でSI0804と、遺構北西側でSI0807と重複している。SI0804はこれを切っており、SI0807はとの関係は不明である。

〈規模・形状〉全体の規模・形状は不明である。ただし、カマドが残存しているため主軸方位はN-70°-Eであると考えられる。

〈堆積状況〉カマド周辺で暗褐色土が堆積する。下部には炭化物や焼土を多く含む層が認められる。

〈床面・壁〉床面・掘方は確認されなかった。壁も残存していない。

〈土坑・柱穴〉土坑・柱穴は確認されなかった。

〈カマド〉カマドは煙道・揮出しがそれぞれ残存しており、このカマド周辺には土器が出土している。煙道は地山を切り抜いたものとみられる。

〈遺物〉奈良時代末～平安時代初頭に属する土師器甕が出土した。

この416は、非クロロの甕で頸部に微妙に段の名残が認められる。外面調整はハケ調整であり、内面は工具を用いた横方向の調整である。

また、この遺構と切り合いが認められるSI0804・SI0807で出土したやや古い特徴を有する土師器甕類

は本来、この遺構に所属するものであった可能性が考えられる。

出土した遺物は1点のみであるが、8世紀後半～9世紀前半に属するとみられる。周辺でも坏類が出土していないためこれ以上の詳細な時期は不明である。

2 挖立柱建物跡

掘立柱建物跡は、周辺に竪穴住居が多く分布する調査区中央部分で1棟検出した。

SB0801掘立柱建物跡（第69図、写真図版53・54）

〈位置・検出状況・重複〉 II B6 n グリッドに位置する。9個の柱穴で構成され、一部近現代の暗きよに切られている。

〈規模・形状〉 規模・形状・柱穴配置は、 3.6×3.8 mの平面方形で2間×2間の総柱建物である。主軸方位は南北座標軸より西へ約5度傾く。

〈堆積状況〉 柱穴の体積状況はそれぞれ若干異なるが、いずれの柱穴においても柱痕跡が確認され、堀方埋土には埴山ブロックが含まれる。

〈遺物〉 各柱穴からは遺物は出土しなかったが、周辺検出面では平安時代の土器器片がわずかながら認められる。規模・形状などからも古代の掘立柱建物であると推定され、周辺より出土した遺物と矛盾しない。

3 土坑・溝

大小の土坑を計10基検出した。中には、性格を推定できるものもあるが、大半は性格不明のものである。また、溝は前年度調査区で多く検出されたが、今回の調査区はより微高地であるためか1条のみを検出した。

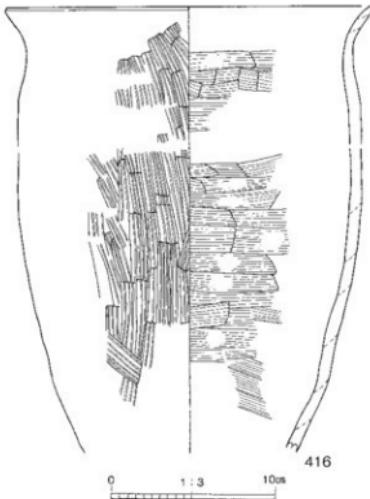
SK0801土坑（第70図、写真図版55）

〈位置・検出状況・重複〉 II B6 n グリッドに位置する。

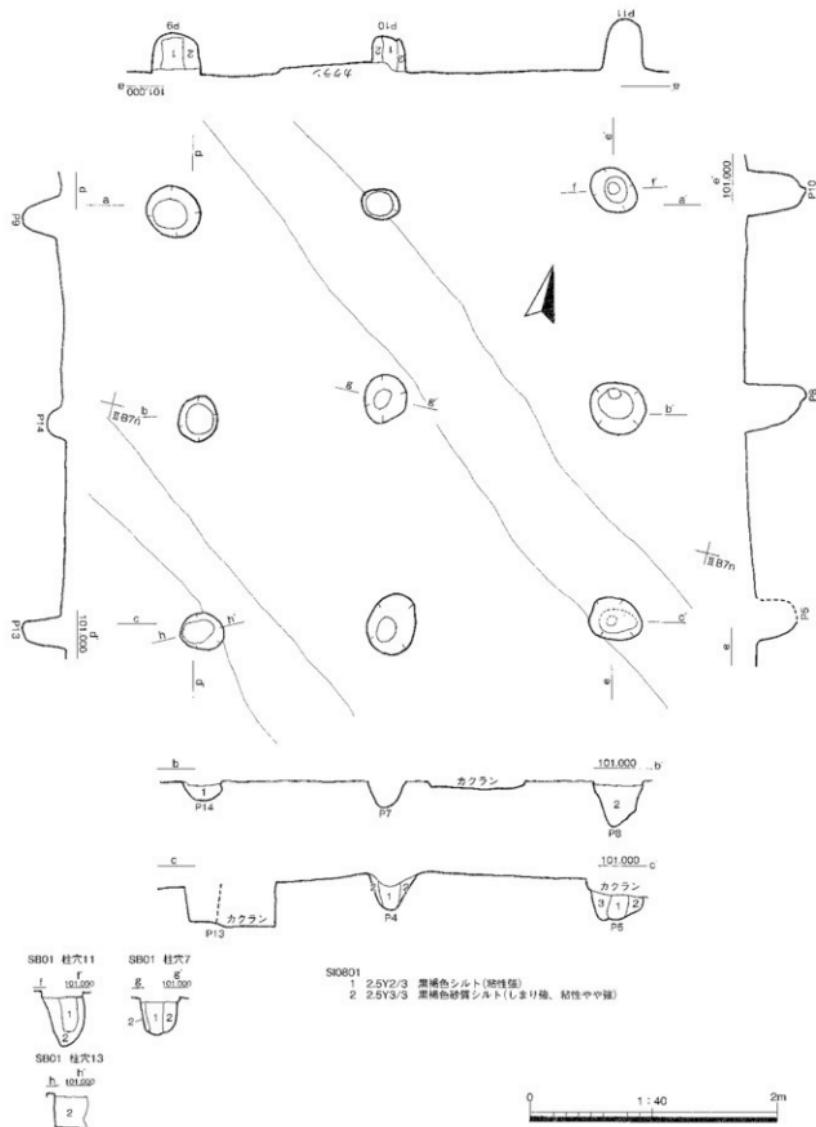
〈規模・形状〉 南北0.36m、東西0.34のほぼ円形である。検出面からの深さは最大で3.5cmであり皿状である。

〈堆積状況〉 上下2層からなりいずれにも焼土や炭化物の小粒が含まれている。底面には弱い被熱痕跡が認められる。これらのことから削平されて残存していない竪穴住居に伴う煙出し最低面部分の可能性も考えられる。

〈遺物〉 遺物は土器小片が2点出土した。



第68図 0812竪穴住居跡出土遺物



第69図 SB0801掘立柱建物跡

SK0802土坑（第70図、写真図版55）

〈位置・検出状況・重複〉 II B3mグリッドに位置する。竪穴住居（SI0803）を切る。

〈規模・形状〉 南北0.95m、東西0.92mのほぼ円形である。検出面からの深さは最大で38cmである。

〈堆積状況〉 大きく分ける上下2層からなり、下層には焼土や炭化物の小粒が含まれている。底面には弱い被熱混成が認められる。

〈遺物〉 最下層より多量の土師器片が出土した（417）。これらはいずれも細かな破片であるが、それぞれがチップ状に剥離している。また、焼成具合が良好であり金属的な音がする。このような特徴から土師器焼成に伴う剥片・土器であると推測される。

SK0803土坑（第70図、写真図版56）

〈位置・検出状況・重複〉 II B5pグリッドに位置する。

〈規模・形状〉 南北0.80m、東西0.71mのほぼ円形である。検出面からの深さは最大で10cmであり、概ね皿状を呈する。

〈堆積状況〉 ほぼ単層であり、下層には焼土や炭化物の小粒が含まれている。

〈遺物〉 遺物は出土しなかった。

SK0804土坑（第70図、写真図版56）

〈位置・検出状況・重複〉 II B7nグリッドに位置する。

〈規模・形状〉 長軸0.39m、短軸0.30mの楕円形である。検出面からの深さは最大で18cmである。

〈堆積状況〉 大きく分けると3層からなり、下層には焼土や炭化物の小粒が若干量含まれている。

〈遺物〉 数点の土器小片が出土した。

SK0805土坑（第70図、写真図版56）

〈位置・検出状況・重複〉 II B5hグリッドに位置する。近現代の暗きよによって遺構北半は失われている。

〈規模・形状〉 東西0.43mではほぼ円形であることが想定される。検出面からの深さは最大で12cmである。

〈堆積状況〉 大きく分けると上下2層からなり、下層は細分されるが焼土や炭化物の小粒が多く含まれている。

〈遺物〉 土坑埋土中より平安時代の土師器片が多く出土した。

418は上層より出土した土師器壺である。内面ミガキ調整および黒色処理が施され、底部は切り離し後、回転ヘラケズリが施されている。底部の回転ヘラケズリは体部下端にも及んでおり、全周で2段程度認められる。器高が低く底径が大きいためやや古い特徴を有しているものと考えられる。

419・420は土師器壺である。419は調整にロクロが用いられた小形の壺である。底部は回転糸切りであると思われるが、不明瞭である。一方、420は非ロクロの壺である。外傾する口縁部の屈曲が著しく端部は丸く収められている。外面調整はヘラケズリではなくハケであるため、形態も含めた特徴から平安時代でもやや古い時期のものである可能性が考えられる。

SK0806土坑（第70図、写真図版56）

〈位置・検出状況・重複〉 II B7nグリッドに位置する。近現代の暗きよによって遺構中央が失われている。

〈規模・形状〉長軸0.68m、短軸0.56mの楕円形であることが想定される。検出面からの深さは最大で14cmである。

〈堆積状況〉大きく分けると3層からなり、下層は細分されるが焼土や炭化物の小粒が多く含まれている。

〈遺物〉遺物は出土しなかった。

SK0807土坑（第70図、写真図版58）

〈位置・検出状況・重複〉II B6hグリッドに位置する。近現代の暗きよによって遺構南半が失われている。

〈規模・形状〉東西0.55mの円形であることが想定される。検出面からの深さは最大で12cmである。

〈堆積状況〉大きく分けると上下2層からなる。

〈遺物〉遺物は出土しなかった。

SK0808土坑（第70図、写真図版57）

〈位置・検出状況・重複〉II B7nグリッドに位置する。近現代の溝によって遺構中央壁が切られている。

〈規模・形状〉概ね南北の軸方向に沿う平面長方形である。長軸方向である南北0.89m、短軸方向である東西0.31mである。検出面からの深さは最大で15cmである。

〈堆積状況〉大きく分けると上下2層からなる。最下層は焼土および炭化物層である。この炭化物層は底面全面に広がり、中央には礫がみられる。遺構の特徴より、製炭土坑である可能性が考えられる。

〈遺物〉土坑埋土中より15点を数える平安時代土師器小片が出土した。

421は埋土上層より出土した土師器坏である。内面ミガキ調整および黒色処理が施され、底部は切り離し後、回転ヘラケズリが施されている。底部の回転ヘラケズリは体部下端にも及んでおり、全周で2段程度認められる。比較的、器高が低く底径が大きいためやや古い特徴を有しているものと考えられる。

SK0809土坑（第70図、写真図版58）

〈位置・検出状況・重複〉II B4hグリッドに位置する。

〈規模・形状〉南北0.77mの円形であることが想定される。検出面からの深さは最大で10cmである。

〈堆積状況〉大きく分けると3層からなる。いずれも自然堆積であると考えられる。

〈遺物〉遺物は出土しなかった。

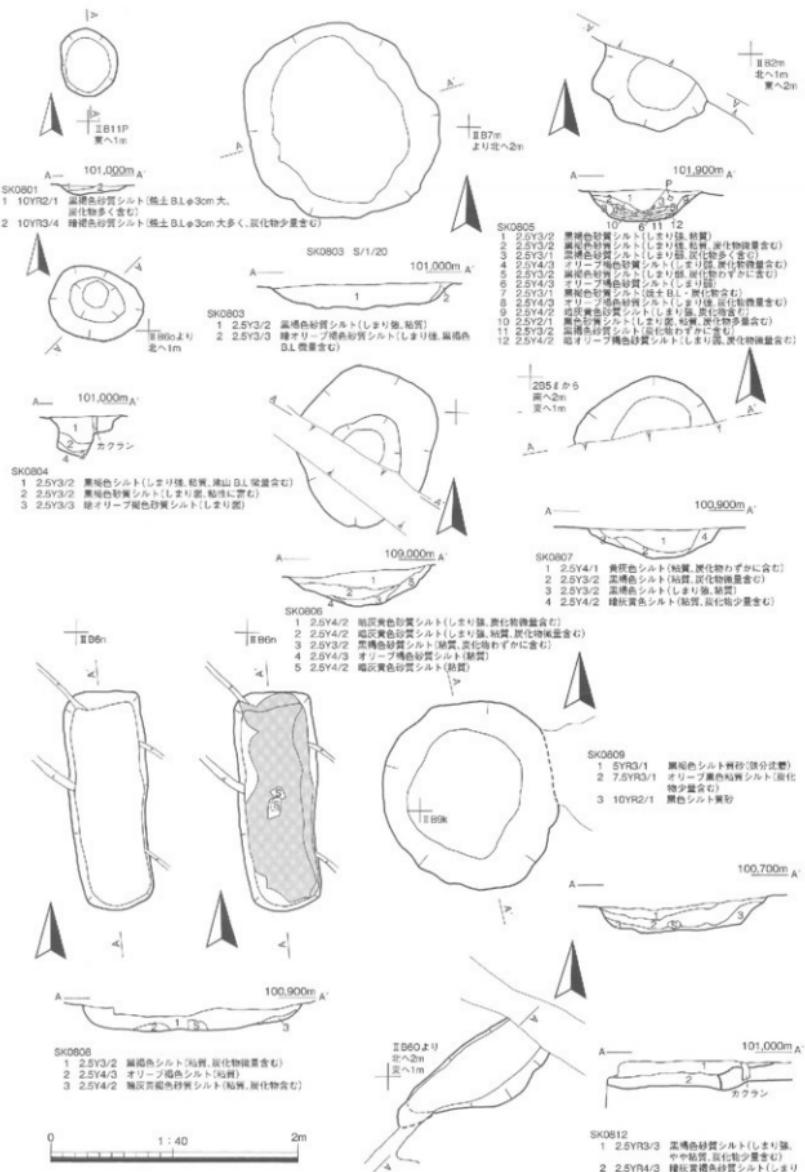
SK0810土坑（第70図、写真図版58）

〈位置・検出状況・重複〉II B5hグリッドに位置する。近現代の暗きよによって遺構北半は失われている。また、堅穴住居（SI0806）の縦道を切っている。

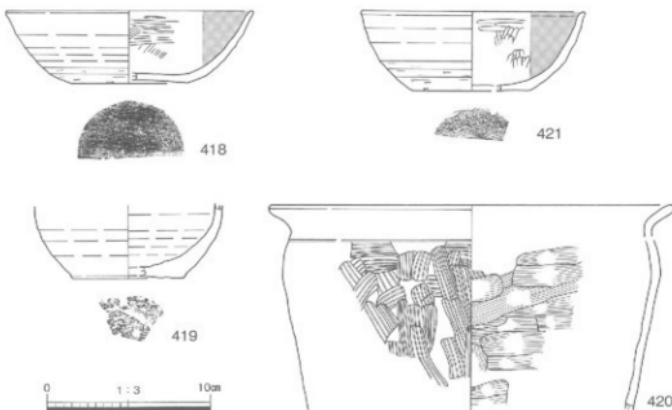
〈規模・形状〉短軸0.30m、残存する長軸0.63mの長円形であることが想定される。検出面からの深さは最大で12cmである。

〈堆積状況〉大きく分けると上下2層からなり、下層は細分されるが焼土や炭化物の小粒が多く含まれている。

〈遺物〉遺物は平安時代の土師器片が出土した。また、SK0808出土の土師器坏（421）の一部も埋土よ



第70図 SK0801・0803~0809・0812土坑



第71図 土坑出土遺物

り出土している。

SD0801溝（第72図、写真図版55）

〈位置・検出状況・重複〉調査区中央を東西に走る溝である。部分的に近現代の暗きよによって失われている。

〈規模・形状〉延長距離は約22m、深さは深いところで約20cmを測る。ほぼ東西方向に直線的な形態である。

〈堆積状況〉埋土は明るい色調の砂質シルトの単層である。比較的均質な埋土で攪拌された様子はみられない。

〈遺物〉遺物は出土しなかった。

4 遺物 包 含 層

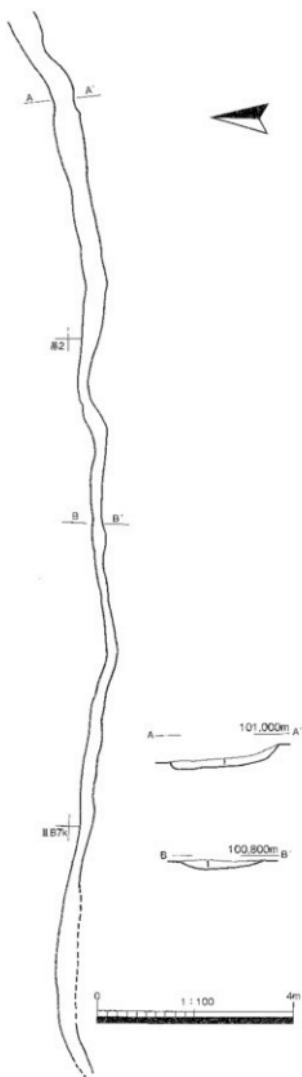
〈位置・検出状況・重複〉調査区西端に位置する。近現代の暗きよによって切られている箇所がいくらくら存在する。

〈堆積状況〉大きく分けると3層の自然堆積層からなり、粘質シルトを基調とする。上層最下面には炭化物の小粒が多く含まれている。

〈遺物〉遺物は平安時代の土器類が多く出土した。また、木の根など自然遺物もみられたが、人为的に加工された痕跡は認められなかった。

土器は土師器や須恵器が多く出土した。特に、遺物包含層範囲の北側、落ち際付近では多くの土器が出土した。

402～427はいずれも須恵器坏である。これらは平成19年度調査時に遺物包含層にトレンチを入れた際にまとめて出土したものである。433以外のものは非常に精良な胎土とやや軟質で灰白色を呈するが、433は他のもの異なり、青灰色で硬質である。また、この1点のみが底部ヘラ切りであるが、

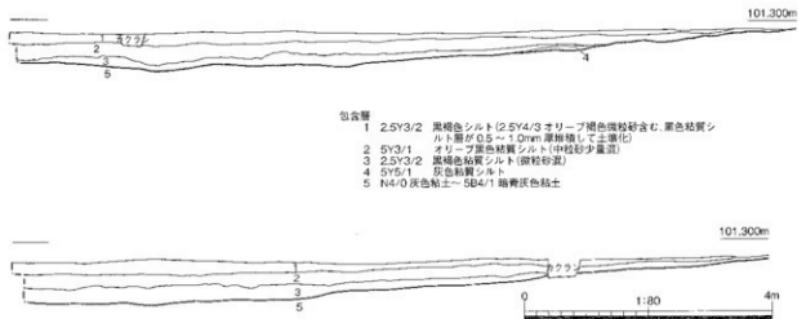


SD001 A-A'
1 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト(粘質土 B.L.含む)
SD001 B-B'
1 2.5Y4/1 青灰色砂質シルト(鉛分沈殿)

第72図 SD0801溝

その他は、いずれも底部糸切りで、切り離し後の調整はおこなわれていない。底部には、墨書が認められる。この墨書は「一」と判読するのか、単なる棒状の記号であるのかは不明であるが、底部の残存するものには必ず施されている。さらに、手擦れなどの使用に際する摩滅も認められず、焼成直後のものであるかのようなザラついた手触りである。これら須恵器壺のまとめは細片まで含めると20個体以上であると推測され、この地点以外からは同様のものは出土していない。また、産地や焼成時期も近いとみられ、きわめて一括性が高いことを示唆している。以上のことを勘案すると、これら須恵器壺は水際でおこなわれた祭祀行為に関わるものと推測される。同じような事例は不明であるが、特殊な場における特定の遺物による祭祀がおこなわれていたのかもしれない。なお、これらは底径と器高のバランスから考えて9世紀前半代に属するものと考えられる。

438～442はいずれも土師器壺である。438・439・441はいずれも内面ミガキ調整および黒色処理が施されている。438・441は底部回転糸切り後無調整であるが、439は底部切り離し後、回転ヘラケズリが施されており、さらに体部下端にも回転ヘラケズリが及んでいる。440・442は内外面ともに黒色処理されておらず、とともに底部回転糸切り後無調整である。443～452はいずれも土師器壺である。443は包含層上層より出土した体部下半～底部にかけての破片である。調整にロクロは用いられておらず、外面は縱方向のヘラケズリが施されている。底部には砂粒が認められる。444は口縁部～体部上半であり、調整にロクロは用いられていない。外面は縱方向のハケであり、口縁部は短くわずかに外反する。445～447は調整にロクロが用いられており、口縁部は短く外方に折り曲げられている。445・446の口縁端部はシャープに納められているが、447の口縁端部は緩く上方に摘み上げられている。448・449・451は非ロクロの壺底部である。底部には木葉痕が明瞭に認められる。450は調整でロクロが用いられている小形の壺である。底部は回転糸切り後無調整である。452は調整にロクロが用いられた壺の体部である。外面には横方向の回転ナデが、内面には工具による



第73図 包含層断面図

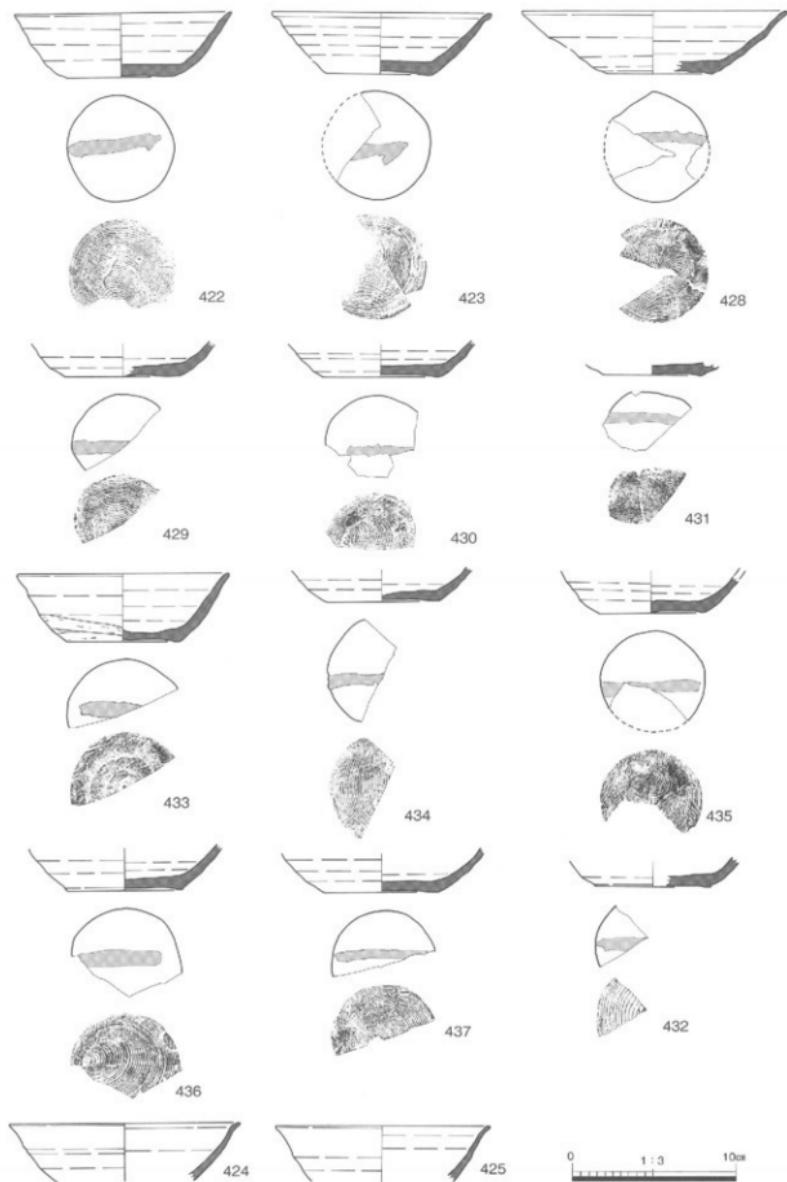
縦方向の調整が施されている。外面には「寺智」の二文字がみられる。この文字は焼成前の刻書であり、非常に流麗な筆致である。土器そのものと刻書の配置は、天地逆であり、土器を逆さまにして書かれたものであると考えられる。「寺」字は上半分が欠損しており、5画目が4画目の横棒を貫かない。この字体の特徴は、古代の墨書き土器の「寺」字にもしばしば見受けられる。「智」字は、「矢」部・「口」部・「日」部の各パーツに分けることができる。「矢」部は全体のバランスの中では下に大きくはみ出している。また、4画目の「ノ」部分は2画目の上に突き抜けて「矢」ではなく「失」となっている。「口」部は最後の3画目が不明瞭である。これは「日」部の4画目にも同じ事が言えるため筆跡に現れる一つの癖である可能性が高い。また、「智」字に続く部分は欠損しているが、線刻の縦棒がわずかに認められる。単なる傷の可能性もあるが、筆跡の勢いを持続して入っているようにみられるため、「智」に連続する文字である可能性を考えられる。仮にこれが文字であれば、「人」などの比較的簡素な文字が想定される。これは「智」の左下に空き部分がみられるため、次の一字の左側に何もない文字であると考えられるからである。現段階では、この刻書「寺智」の意味はわからないが、字句の性質上、人名・地名など固有名詞が妥当であると思われる。また、いずれの字句も、仏教と密接に関わる文字であることが想像できる。

453・454は土器壺である。いずれも内外面にミガキ調整および黒色処理が施されている。このミガキ調整および黒色処理によって器表面が非常に滑らかになっている。したがって、その下にある調整は不明瞭であるが、部分的にロクロ目が認められることから、ロクロによる調整がなされたものと考えられる。全体の形状は不明であるが、小形の製品である。底部はいずれもヘラケズリかナデによって切り離し痕跡は不明である。

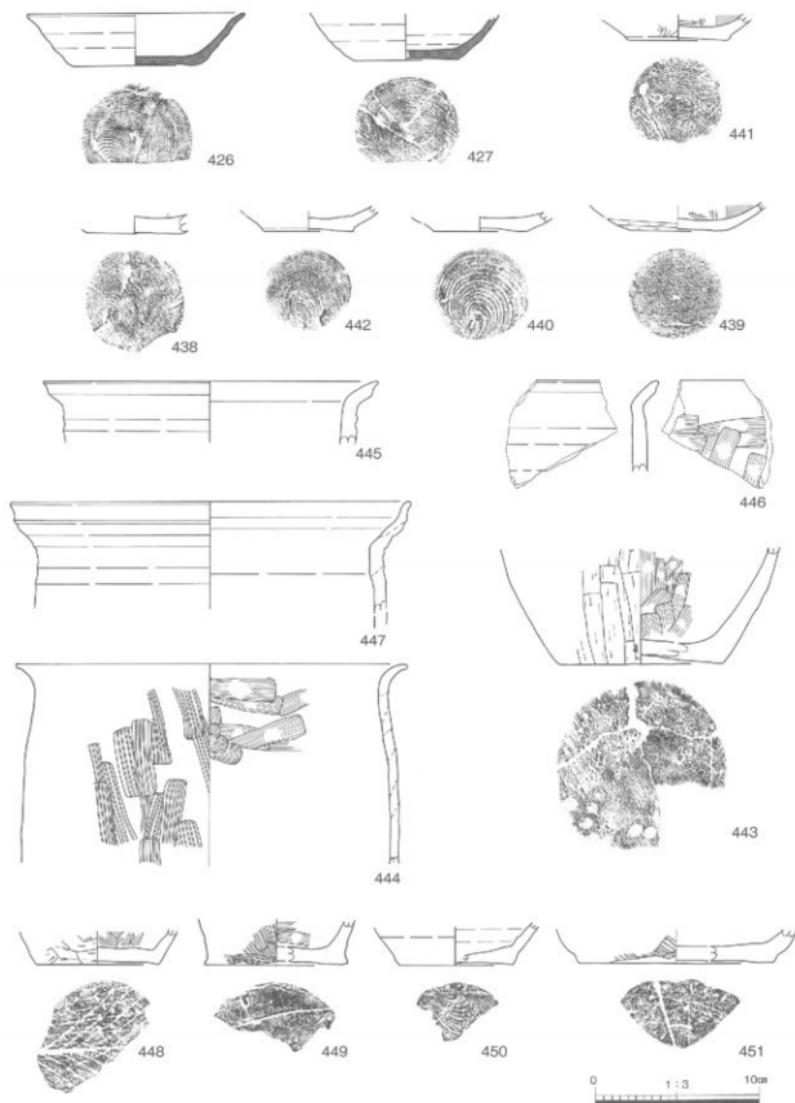
455は須恵器瓶類である。底部には高台が貼り付けられ、この上部である体部下端には回転ヘラケズリが施されている。体部下半が残存しているのみであるが、形態的特徴から考えて瓶類の中でも長頸瓶であることが想定される。体部の調整は内外面ともにロクロによる回転ナデである。

456は須恵器長頸瓶の口縁部である。薄く丁寧に仕上げられ口縁端部断面は三角形である。調整は内外面ともにロクロによる回転ナデである。

458は須恵器に硬質に焼けた土塊が付着したものである。須恵器は壺か壺の口縁部であり、外面は光沢

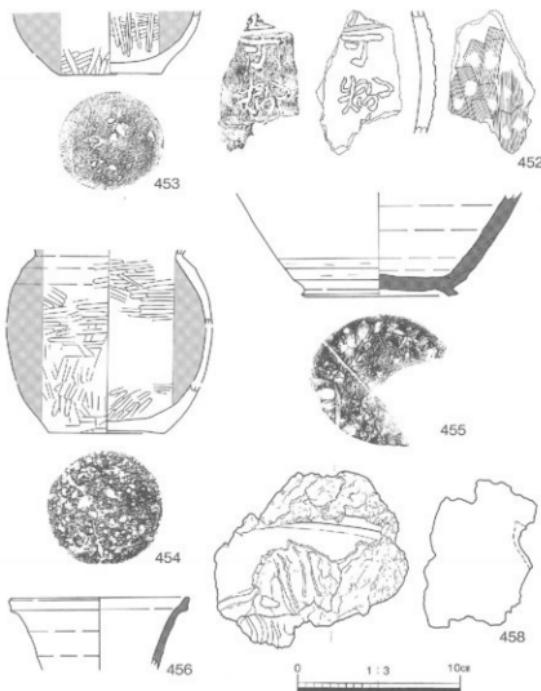


第74図 包含層出土遺物(1)



第75图 包含层出土遗物 (2)

ある黒色を帯びている。一方、破断面はやや赤みを帯びているが、内面の色調は見ることができない。付着物は砂粒を多く含み、被熱により硬化している。全体的に還元色を呈し、部分的に溶融してガラス化した状態である。これらのことから須恵器窯体の一部である可能性が高い。須恵器の口縁部分に窯体の一部が溶着している状況から、須恵器窯の天井部が何らかのアクシデントにより崩落し、この須恵器の口を塞ぐように落下したことが想定される。さらに、落下した窯天井部は熱が維持されたまま須恵器に溶着したことが想像される。窯で須恵器焼成中に起こった不測の事態がそのまま形として残った資料である。須恵器窯の調査例の乏しい県内において窯体の一部が出土資料みつかったことは貴重である。



第76図 包含層出土遺物（3）

5 遺構外出土遺物

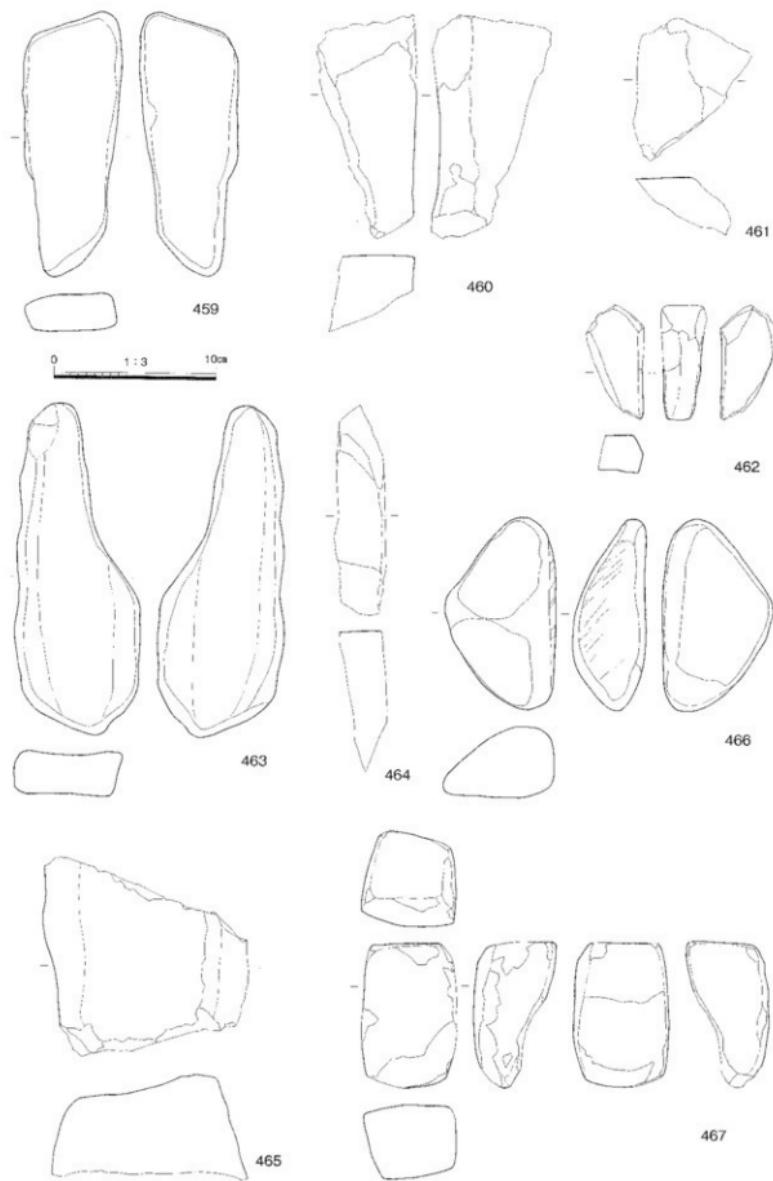
468～471は土師器坏である。468・471・475・476・479はいずれも内面黒色処理されていない土師器坏である。一方、469は内面ミガキ調整および黒色処理が施された土師器坏である。底部の残存するものはすべて回転糸切り後、無調整のものである。470の体部外面には墨書きが認められる。土器に対し横位縦書きで「千万」と二字が認められる。この字句には「たくさん」という意味が込められているものと考えられ、吉祥句であると推測される。

472・481・482・484はいずれも土師器壺である。472以外はすべてロクロ調整が施されている。

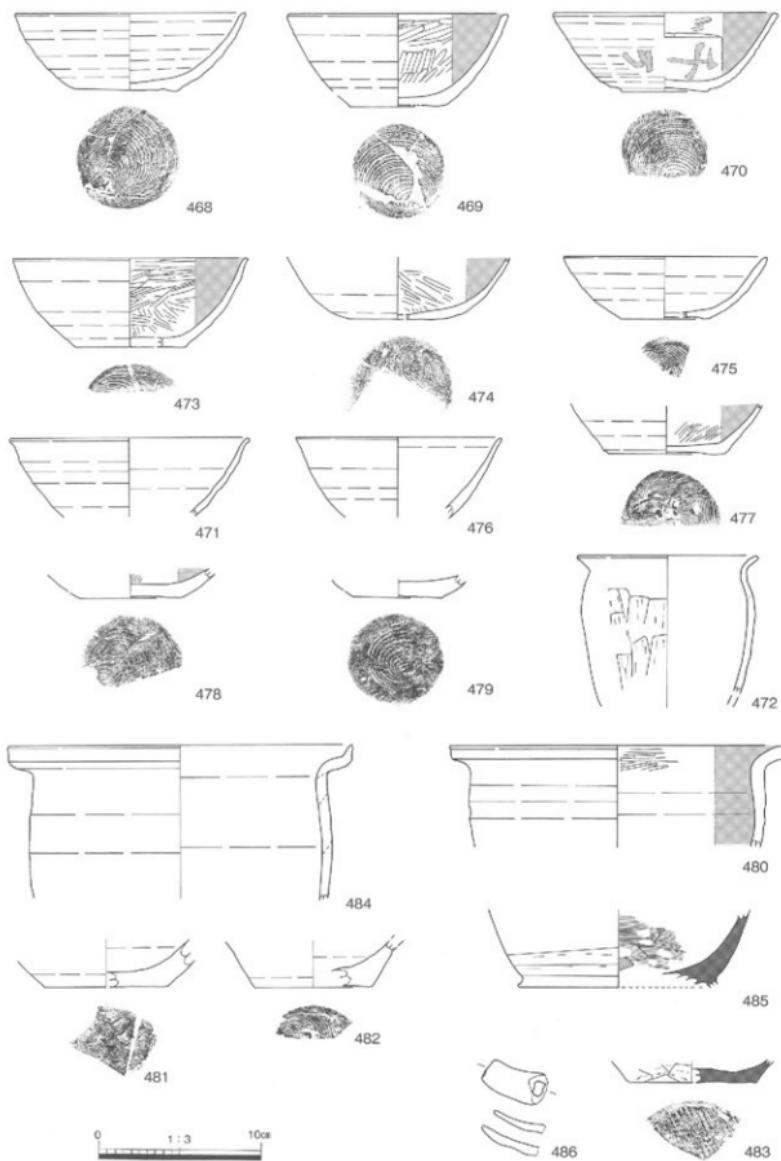
480はロクロ調整された内面ミガキ調整および黒色処理が施された土師器鉢である。

483・485は須恵器壺か壺である。483の底部には布目のような圧痕が認められ、製作時の敷き台であると考えられる。

486は縄文土器注口である。晩期の所産であると考えられる。



第77図 石製品



第78図 遺構外出土遺物

第4表 掘載遺物一覧（土器）

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
301	土師器	环	60%	○	○	(16.7)	6.8	5.6	0.85	回転系切り	環Ⅱ B
	出土状況									主な調整	
造構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面			時期	備考
SI0801			桃山層・根子野上層	橙	底部	回転ナデ	回転ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
302	土師器	环	40%	○	○	(14.4)	—	4.8	0.7	回転系切り	環Ⅱ B
	出土状況									主な調整	
造構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面			時期	備考
SI0801			桃山層・根子野上層	橙	底部	回転ナデ	回転ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
303	土師器	环	40%	○	○	(14.3)	6.8	4.5	0.9	回転系切り	環Ⅱ A
	出土状況									主な調整	
造構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面			時期	備考
SI0802	南東・南カマド付近	埋土中層	にぶい橙	体部		回転ナデ	ミガキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
304	土師器	环	40%	○	○	(12.8)	6.1	4.9	1.0	回転系切り	環Ⅱ A
	出土状況									主な調整	
造構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面			時期	備考
SI0802	南カマド燃焼部	埋土	にぶい橙	体部		回転ナデ	ミガキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
305	土師器	环	60%	○	△	(14.0)	5.7	5.3	0.85	回転系切り	環Ⅱ A
	出土状況									主な調整	
造構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面			時期	備考
SI0802・03	東西ベルト	埋土上層	浅黄橙	口縁部		回転ナデ	ミガキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
306	土師器	高台环	20%	○	○	—	9.2	2.1	1.0	回転系切り	環Ⅱ C
	出土状況									主な調整	
造構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面			時期	備考
SI0802	北西	埋土最下層	にぶい橙			ミガキ	ミガキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
307	土師器	环	30%	○	○	(13.3)	—	4.95	0.8	回転系切り	環Ⅱ A
	出土状況									主な調整	
造構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面			時期	備考
SI0802	南カマド西側	埋土上層	にぶい黄	口縁部		回転ナデ	ミガキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
308	土師器	环	30%	○	○	—	(5.8)	3.3	0.6	回転系切り	環Ⅱ B
	出土状況									主な調整	
造構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面			時期	備考
SI0802	東西ベルト	埋土	橙			回転ナデ	ミガキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
309	土師器	环	30%	○	○	(13.6)	—	4.5	0.56	回転系切り	環Ⅱ B
	出土状況									主な調整	
造構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面			時期	備考
SI0802	南カマド燃焼部	埋土	にぶい橙			回転ナデ	回転ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
310	土師器	环	25%	○	△	—	6.4	1.2	0.5	回転系切り	環Ⅱ A
	出土状況									主な調整	
造構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面			時期	備考
SI0802	南北ベルト南側	1層	浅黄橙	口縁部		回転ナデ	ミガキ			9後～10C	

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
311	土師器	甕	30%	△	○	(16.5)	—	11.2	0.8	环Ⅱ A	
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0802	南カマド燃焼部	理土・括	にぶい程			ハラケズリ	ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
312	土師器	甕	15%	△	○	(25.8)	—	11.5	0.7		
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0802	南カマド燃焼部	理十一括	にぶい程	口縁部	回転ナデ	回転ナデ			9C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
313	土師器	甕	5%	△	○	—	—	9.8	0.7	變且 A	
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0802	南カマド燃焼部	理土・括	にぶい程			回転ナデ	回転ナデ		9C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
314	土師器	甕	30%	△	○	21.4	—	20.0	0.7	环Ⅱ A	
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0802	南カマド燃焼部及び廻出し	理十中層	浅黄澄			ハラケズリ	ナデ		9C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
315	土師器	甕	5%	△	○	—	—	3.6	0.7		
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0802	南カマド燃焼部及び廻出し	理十中層	浅黄澄			回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
316	土師器	小甕	5%	△	○	—	—	5.7	0.6		
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0802	南壁施設?	理十中層	にぶい程			回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
317	須恵器	瓶	20%	○	○	—	—	18.6	0.8		
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0802	南北ベント・北西・北東	2層	培灰			ケズリ	ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
318	土師器	环	70%	○	○	14.2	5.7	5.1	0.7	回転ハラケズリ	环Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0803	南北	理十上層・中層	にぶい黄澄	口縁・部体		回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
319	土師器	环	75%	○	○	14.4	5.8	4.6	0.8	回転系切り	环Ⅱ B
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0803	南東	理十上層	にぶい黄澄	口縁・部体		回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
320	土師器	环	55%	○	○	(14.4)	4.8	5.0	0.75	回転ハラケズリ	环Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外垂	内面				
SI0803	南東	理十上層	にぶい黄澄	口縁・部体		回転ナデ	ミガキ		9後~10C		

揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
321	土師器	环	45%	○	○	14.4 (5.6)	4.2	0.7	ヘラケズリ	环Ⅱ A	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面 内面					
SI0803	南東	埋土上層・中層	にい黄斑	口縁・体部	回転ナデ	ミガキ				9後~10C	悪善
揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
322	土師器	环	60%	○	○	13.8 (4.8)	5.3 5.0	4.7 4.3	0.7 0.75	回転ヘラケズリ	环Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面 内面					
SI0803	南東	埋土上層・下層	にい黄斑	口縁・体部	回転ナデ	ミガキ				9後~10C	
揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
323	土師器	环	50%	○	○	14.0 (14.8)	5.9 5.0	5.1 4.3	0.8 0.75	回転系切り	环Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面 内面					
SI0803	東整際	埋土中層	にい黄斑	口縁部	回転ナデ	ミガキ				9後~10C	
揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
324	土師器	环	20%	○	○	14.0 (13.8)	5.9 —	5.1 —	0.8 0.5	回転系切り	环Ⅱ B
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面 内面					
SI0803	南西	埋土上層	浅黄橙		回転ナデ	回転ナデ ミガキ				9後~10C	
揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
325	土師器	环	30%	○	○	13.7 (13.8)	— —	— —	0.5 0.5	ヘラケズリ	环Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面 内面					
SI0803	南東	埋土中層・下層	にい黄斑		回転ナデ	ミガキ				9C	
揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
326	土師器	环	20%	○	○	13.8 (13.8)	— —	— —	0.5 0.5	ヘラケズリ	环Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面 内面					
SI0803	南東	埋土上層	にい黄斑	口縁・体部	回転ナデ	ミガキ				9C	
揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
327	須恵器	环	25%	○	○	14.0 (14.6)	— —	— —	0.45 0.45	ヘラケズリ	环Ⅱ B
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面 内面					
SI0803	pit1	1層	灰	重ね焼き	回転ナデ	回転ナデ ミガキ				9C	
揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
328	須恵器	环	35%	○	○	13.8 (13.8)	— —	— —	0.7 0.7	ヘラケズリ	环Ⅱ B
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面 内面					
SI0803	北西	1層	灰		回転ナデ	回転ナデ ミガキ				9C	
揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
329	土師器	小笠?	5%	△	○	— (5.8)	— —	— —	0.7 0.7	ヘラケズリ	环Ⅱ B
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面 内面					
SI0803	南西・南東	埋土上層	橙		回転ナデ	回転ナデ ミガキ				9C	
揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
330	土師器	环	30%	○	○	14.0 (14.0)	— —	— —	0.5 0.5	ヘラケズリ	环Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面 内面					
SI0803	南東	埋土上層・下層	紫赤褐	口縁・体部	回転ナデ	ミガキ				9C	

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
331	土師器	把手	-	△	○	-	-	-	-		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0803	南東	埋土中層	检			ナデ					
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
332	須恵器	壺	5%	○	○	-	12.2	1.7	1.1		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0804	カマド周辺	埋土	灰			回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
333	十郎器	壺	60%	×	○	-	8.2	8.5	1.1	ナデ消し	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0804	堆出物・溝道周辺	埋土上層	にぶい黄緑	脛部	ハケ	回転ナデ	回転ナデ		8後~9C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
334	土師器	壺	10%	△	○	-	6.5	2.8	1.3	回転系切り	壺II A
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0804	カマド内	埋土	にぶい橙			回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
335	土師器	壺	40%	△	○	-	21.6	-	(20.2)	0.8	壺II A
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0804・含む量 赤土・陶片・土石・瓦・瓦礫・瓦	にぶい黄緑					ヘラケズリ	ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
336	須恵器	环	20%	○	○	(14.9)	-	3.5	0.4		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0804	カマド内	埋土	灰白	重ね焼き		回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
337	土師器	环	20%	○	△	-	6.0	0.9	0.7	回転系切り	壺II A
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0804	カマド周辺	岸上	灰黃褐色	底部		回転ナデ	ミガキ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
338	土師器	环	35%	○	△	(13.6)	(6.4)	5.0	0.7	回転系切り	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0804	カマド周辺	埋土	にぶい橙	口縁部		回転ナデ	ミガキ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
339	土師器	环	20%	○	△	(16.0)	(6.0)	1.3	0.8	回転系切り	壺II A
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0804	カマド周辺	埋土	にぶい橙	底部		回転ナデ	ミガキ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
340	須恵器	壺	25%	○	○	(10.0)	-	1.3	0.5		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0804	カマド周辺	埋土	にぶい橙	底部		回転ナデ	回転ナデ		9C		

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
341	土師器	小甕	5%	△	△	—	—	3.6	0.6			
出土状況				色調	黒斑	主な調整				時期		
遺構	位置	層位	外面			内面		偏考				
SH0804	通道～焼出し	埋土	浅黄橙	ハケ		ナデ		9後～10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
342	土師器	甕	10%	△	○	20.0	—	4.8	4.8			
出土状況				色調	黒斑	主な調整				時期		
遺構	位置	層位	外面			内面		偏考				
SH0804	カマド周辺	埋土	にぶい黄橙	腹部内面		ナデ		9後～10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
343	土師器	甕	15%	△	○	(15.6)	—	9.1	0.8			
出土状況				色調	黒斑	主な調整				時期		
遺構	位置	層位	外面			内面		偏考				
SH0804	カマド周辺	埋土	浅黄橙	回転ナデ		回転ナデ		9後～10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
345	土師器	甕	20%	×	○	(16.8)	—	15.2	0.6			
出土状況				色調	黒斑	主な調整				時期		
遺構	位置	層位	外面			内面		偏考				
SH0804	カマド北袖	埋土	浅黄橙	体部内面		同軸ナデ		同軸ナデ		9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
346	土師器	甕	15%	△	○	(27.0)	—	8.9	0.9			
出土状況				色調	黒斑	主な調整				時期		
遺構	位置	層位	外面			内面		偏考				
SH0804	カマド内	埋土	にぶい橙	回転ナデ		回転ナデ		9後～10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
347	須恵器	甕	10%	○	○	(21.1)	—	4.8	1.0			
出土状況				色調	黒斑	主な調整				時期		
遺構	位置	層位	外面			内面		偏考				
SH0804	焼出し	埋土	灰黃	回転ナデ		回転ナデ		9後～10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
348	土師器	甕	5%	△	○	—	8.0	7.3	1.6			
出土状況				色調	黒斑	主な調整				時期		
遺構	位置	層位	外面			内面		偏考				
SH0804	焼出し	埋土	にぶい橙	タタキ		ハケ		8後～9前				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
349	土師器	小甕	10%	△	△	—	—	14.8	1.1			
出土状況				色調	黒斑	主な調整				時期		
遺構	位置	層位	外面			内面		偏考				
SH0804	焼出し	埋土	浅黄橙	タタキ		ハケ		9後～10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
350	土師器	甕	10%	△	○	—	9.0	2.3	1.2	ヘラケズリ		
出土状況				色調	黒斑	主な調整				時期		
遺構	位置	層位	外面			内面		偏考				
SH0804	カマド南袖	埋土	にぶい橙	タタキ		ハケ		9後～10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
351	土師器	小形甕	10%	△	○	—	8.0	1.2	1.2	回転系切り		
出土状況				色調	黒斑	主な調整				時期		
遺構	位置	層位	外面			内面		偏考				
SH0804	カマド内及び周辺	埋土	にぶい橙	回転ナデ		回転ナデ		9後～10C				

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法			底部	分類
						口径	底径	器高	器厚	
352	土師器	壺	10%	△	○	—	10.6	4.95	1.6	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				
造構	位置	層位				外面	内面			時期
SI0805	北西	埋土上層	にぶい黄	底部	ハラケズリ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	備考
	出土状況					寸法				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	口径	底径	器高	器厚	底部
353	土師器	壺	70%	○	△	(12.9)	5.6	5.4	0.85	回転系切り
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				
造構	位置	層位				外面	内面			時期
SI0806	南東隅上部集中		にぶい橙	口縁・底部	回転ナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	備考
	出土状況					寸法				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	口径	底径	器高	器厚	底部
354	土師器	壺	60%	○	○	15.0	5.2	6.0	0.9	回転系切り
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				
造構	位置	層位				外面	内面			時期
SI0805	南東隅上部集中		にぶい橙	口縁・体部	回転ナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	黒青
	出土状況					寸法				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	口径	底径	器高	器厚	底部
355	土師器	壺	50%	○	○	12.4	6.0	5.05	0.9	回転系切り
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				
造構	位置	層位				外面	内面			時期
SI0806	北西	埋土中層	にぶい橙	口縁・底部	回転ナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	黒青
	出土状況					寸法				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	口径	底径	器高	器厚	底部
356	土師器	壺	35%	×	○	—	9.5	13.8	0.9	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				
造構	位置	層位				外面	内面			時期
SI0806	南東隅上部集中	青銅鏡下層・pH上層・灰青	にぶい橙	体部～底部	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	9後～10C
	出土状況					寸法				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	口径	底径	器高	器厚	底部
357	須恵器	壺	40%	△	○	—	—	20.9	1.1	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				
造構	位置	層位				外面	内面			時期
SI0806	南東隅上部集中		浅黃橙	頭部～体部	タカキ・ケズリ	回転ナデ	9後～10C	9後～10C	9後～10C	渾元不足
	出土状況					寸法				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	口径	底径	器高	器厚	底部
358	土師器	壺	10%	○	○	(13.2)	—	(4.5)	0.5	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				
造構	位置	層位				外面	内面			時期
SI0806	南西・東南	埋土中層・下層	にぶい橙	口縁部	回転ナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	9後～10C
	出土状況					寸法				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	口径	底径	器高	器厚	底部
359	土師器	壺	10%	○	○	(7.0)	—	(4.3)	0.4	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				
造構	位置	層位				外面	内面			時期
SI0806	南東隅上部集中	pH	浅黃橙	口縁・体部	回転ナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	9後～10C
	出土状況					寸法				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	口径	底径	器高	器厚	底部
360	土師器	壺	10%	○	○	(18.0)	—	(4.25)	0.5	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				
造構	位置	層位				外面	内面			時期
SI0806	南東隅上部集中		浅黃橙	回転ナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	9後～10C
	出土状況					寸法				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	口径	底径	器高	器厚	底部
361	土師器	壺	15%	○	△	—	(6.4)	(1.7)	0.8	回転系切り
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				
造構	位置	層位				外面	内面			時期
SI0806	南西	埋土上層	浅黃橙	回転ナデ	回転ナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	9後～10C
	出土状況					寸法				

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
362	須恵器	环	10%	○	△	(12.0)	—	(3.2)	0.45		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
造構	位置	層位				外面	内面				
SI0806	北東	埋土上層	灰			回転ナデ	回転ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
363	須恵器	环	20%	○	△	(14.4)	—	(4.3)	0.4		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
造構	位置	層位				外面	内面				
SI0806	南東隅土器集中	埋土上層	灰白	重ね焼き		回転ナデ	回転ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
364	土師器	环	15%	○	○	(18.0)	—	(3.6)	0.5		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
造構	位置	層位				外面	内面				
SI0806	pit1	埋土	浅黄棕	口様部		回転ナデ	ミガキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
365	土師器	环	5%	○	○	(13.2)	—	(2.3)	0.45		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
造構	位置	層位				外面	内面				
SI0806	南東	埋土	棕			回転ナデ	回転ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
366	須恵器	环	5%	○	○	—	—	19.8	1.0		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
造構	位置	層位				外面	内面				
SI0806	北東・南東隅上層集中	埋土上～下層	灰			タタキ	タタキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
367	土師器	甕	30%	△	○	—	10.6	11.4	1.25		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
造構	位置	層位				外面	内面				
SI0807	床面	浅黄棕	赤茶下～底部			ハラケズリ	ハケ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
368	須恵器	瓶	20%	○	○	(8.0)	—	13.0	1.1		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
造構	位置	層位				外面	内面				
SI0807	西側カクラン		灰							9後～10C	外周部に自然堆
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
369	土師器	环	20%	○	△	(12.0)	—	28	0.3		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
造構	位置	層位				外面	内面				
SI0807	埋土	にがい青褐				回転ナデ	ミガキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
370	土師器	环	5%	○	○	—	5.8	0.9	0.7		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
造構	位置	層位				外面	内面				
SI0807	埋土					回転ナデ	回転ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
371	土師器	甕	5%	△	○	19.0	—	28	0.8		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
造構	位置	層位				外面	内面				
SI0807	西側カクラン	淺黄棕				回転ナデ	回転ナデ			9後～10C	

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
372	土師器	壺	5%	△	○	(17.9)	—	5.3	0.5		壺 I B
	出土状況			色調	黒斑		主な調整				時期
遺構	位置	層位					外面	内面			備考
SI0807	西側カクラン		浅黄橙				ハラケズリ	ナゲ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
373	土師器	壺	70%	○	○	15.3	6.7	5.0	0.9	回転ヘラケズリ	壺 II A
	出土状況			色調	黒斑		主な調整				時期
遺構	位置	層位					外面	内面			備考
SI0808	南西隅		にぶい黄橙	口縁部	回転ナゲ		ミガキ		9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
374	土師器	壺	60%	○	△	(14.9)	6.8	5.6	0.9	回転ヘラケズリ	壺 II A
	出土状況			色調	黒斑		主な調整				時期
遺構	位置	層位					外面	内面			備考
SI0808	南西隅		浅黄橙	口縁部	回転ナゲ		ミガキ		9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
375	土師器	壺	70%	○	○	16.2	6.3	6.7	0.9	回転ヘラケズリ	壺 II A
	出土状況			色調	黒斑		主な調整				時期
遺構	位置	層位					外面	内面			備考
SI0808	pt1		にぶい黄橙	口縁・底部	回転ナゲ		ミガキ		9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
376	土師器	壺	80%	○	○	14.7	6.6	4.9	0.9	回転系切り	壺 II A
	出土状況			色調	黒斑		主な調整				時期
遺構	位置	層位					外面	内面			備考
SI0808	南西隅		浅黄橙	口縁部	回転ナゲ		ミガキ		9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
377	土師器	壺	40%	△	○	(14.9)	6.0	5.15	0.8	回転系切り	壺 II A
	出土状況			色調	黒斑		主な調整				時期
遺構	位置	層位					外面	内面			備考
SI0808	南西隅		浅黄橙	体部・底部	回転ナゲ		ミガキ		9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
378	土師器	壺	20%	△	○	(16.0)	9.2	19.7	1.5	木蓋痕	壺 I B
	出土状況			色調	黒斑		主な調整				時期
遺構	位置	層位					外面	内面			備考
SI0808	pt1	土上Ⅰ層・カマド焼痕部	にぶい橙	体部～底部	ハラケズリ				9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
379	須恵器	壺	80%	○	△	(19.6)	—	31.1	0.9		
	出土状況			色調	黒斑		主な調整				時期
遺構	位置	層位					外面	内面			備考
SI0808	カマド焼痕部及び周辺		にぶい赤	タタキ・ケズリ	回転ナゲ		ミガキ		9後～10C		焼元不足
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
380	土師器	壺	50%	○	○	(14.7)	6.0	5.2	0.8	回転系切り	壺 II B
	出土状況			色調	黒斑		主な調整				時期
遺構	位置	層位					外面	内面			備考
SI0808	南西	埋土上層	棕				回転ナゲ	回転ナゲ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
381	土師器	壺	20%	○	○	(15.8)	(16.4)	5.0	0.55	回転ヘラケズリ	壺 II A
	出土状況			色調	黒斑		主な調整				時期
遺構	位置	層位					外面	内面			備考
SI0808	南西隅		にぶい黄橙	口縁・体部	回転ナゲ		ミガキ		9後～10C		

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
382	土師器	环	15%	○	○	(14.7)	—	(3.95)	0.4		环II B
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
SI0808	南西	埋土下層	にぶい橙				回転ナデ	回転ナデ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
383	土師器	环	10%	○	○	(13.2)	—	(3.6)	0.45		环II B
	出土状況						主な調整				
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
SI0808	南西隅	埋土下層	にぶい橙				回転ナデ	回転ナデ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
384	土師器	环	20%	○	△	—	6.2	(0.9)	0.8	回転糸切り	环II A
	出土状況						主な調整				
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
SI0808	南西隅	埋土中層	にぶい橙				回転ナデ	ミガキ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
385	須恵器	环	20%	○	△	(13.6)	—	(5.1)	0.3		环II B
	出土状況						主な調整				
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
SI0808	南七二二第7M・p1 土塗付		灰白				回転ナデ	回転ナデ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
386	土師器	甕	5%	△	○	—	—	(7.2)	0.6		甕II A
	出土状況						主な調整				
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
SI0808	煙出し	埋土中層	にぶい黄澄				回転ナデ	回転ナデ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
387	土師器	甕	15%	△	○	—	—	(6.4)	0.5		甕I
	出土状況						主な調整				
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
SI0808	南西	埋土	にぶい黄澄	口徑・体部			回転ナデ	ナデ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
388	土師器	甕	15%	△	○	—	—	(11.1)	1.0		甕II
	出土状況						主な調整				
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
SI0808	カマド燃焼部		にぶい黄澄				回転ナデ	回転ナデ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
389	土師器	甕	15%	△	○	—	—	(11.1)	1.0		甕II A
	出土状況						主な調整				
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
SI0808	カマド燃焼部		にぶい黄澄				ハラケスリ	回転ナデ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
390	土師器	甕	30%	×	○	(24.0)	—	17.5	0.8		甕II B
	出土状況						主な調整				
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
SI0808	pai 埋土中層・煙出し		浅黄澄				回転ナデ	回転ナデ	9後～10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
391	土師器	甕	20%	△	○	(20.4)	—	16.0	0.6		甕I B?
	出土状況						主な調整				
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
SI0808	煙出し	埋土一層・煙出し	浅黄澄				回転ナデ	回転ナデ	9後～10C		

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
392	土師器	壺	20%	×	○	(24.0)	-	(19.1)	0.8		壺Ⅰ B
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0808	煙出し	埋土中層	にぶい橙			ハラケズリ	ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
393	土師器	壺	30%	△	○	(21.2)	-	27.8	0.7		壺Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0808	カマド燃焼部	埋土下層	浅黄桜			ハラケズリ	ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
394	土師器	壺	5%	○	○	-	(10.0)	(2.7)	1.5		
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0808	カマド前	埋土上層	にぶい黄	底部		ハラケズリ	ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
395	土師器	壺	5%	△	○	-	10.2	13	1.0		
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0808	神道	埋土	にぶい黄	底部		ハラケズリ	ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
396	須恵器	壺	20%	△	△	-	7.6	(1.7)	1.7		
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0808	カマド燃焼部・貼灰		浅黄桜			ハラケズリ	ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
397	土師器	壺	70%	○	○	12.0	6.7	4.2	0.9	回転系切り	壺Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0808	南東	床面直上	浅黄桜	口縁部		回転ナデ	ミガキ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
398	土師器	壺	90%	○	○	14.2	6.0	4.2	0.9	回転系切り	壺Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0808	南東	床面直上	にぶい黄	口縁部		回転ナデ	ミガキ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
399	土師器	壺	95%	○	○	15.1	6.1	4.8	0.7	回転系切り	壺Ⅱ B
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0808	南東	床面直上	橙			回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
400	土師器	壺	45%	○	○	(14.0)	(5.0)	5.0	0.9	回転系切り	壺Ⅱ B
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0808	南東	埋土下層	にぶい黄			回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
401	土師器	壺	95%	○	○	15.2	6.2	5.2	0.9	回転系切り	壺Ⅱ A
	出土状況			色調	黒斑			主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
SI0809	南東	床面直上	にぶい黄	口縁部		回転ナデ	ミガキ		9後~10C		墨書き

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
402	土師器	环	30%	○	○	(21.2)	—	27.8	0.7	ヘラケズリ	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外側	内面				
SI0809	南東	埠上下層	にぶい橙	1.は・2.赤茶手牛	回転ナデ	ミガキ	9後~10C	輪EII(肥小特)			
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
403	土師器	壳	15%	△	○	—	8.8	3.0	1.5	ヘラケズリ	壳I B
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外側	内面				
SI0809	北東竪断	埠上下層	にぶい橙		ヘラケズリ	ハケ	9後~10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
404	土師器	环	30%	○	○	(18.6)	—	4.8	0.5	環II A	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整					
遺構	位置	層位				外側	内面			時期	備考
SI0809	南東	床面直上	にぶい黄澄	口縁部	回転ナデ	ミガキ	9後~10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
405	土師器	环	10%	○	△	(15.0)	—	4.1	0.5	環II A	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整					
遺構	位置	層位				外側	内面			時期	備考
SI0809	東西ベルト	埋土上層	にぶい黄澄	口縁部	回転ナデ	ミガキ	9後~10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
406	土師器	环	20%	○	○	(15.2)	—	3.8	0.5	環II A	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整					
遺構	位置	層位				外側	内面			時期	備考
SI0809	北東竪断	埠上下層	にぶい橙	口縁部	回転ナデ	ミガキ	9後~10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
407	土師器	环	10%	○	△	(12.8)	—	—	0.5	環II B	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整					
遺構	位置	層位				外側	内面			時期	備考
SI0809	南東	地上1層・中層	浅黃澄	回転ナデ	回転ナデ	ミガキ	9後~10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
408	土師器	环	15%	○	△	(16.0)	—	—	0.45	環II A	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整					
遺構	位置	層位				外側	内面			時期	備考
SI0809	南東壁際	埋土上層	にぶい橙	口縁部	回転ナデ	ミガキ	9後~10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
409	土師器	环	20%	○	△	(14.2)	(6.0)	5.0	0.7	回転糸切り	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整					
遺構	位置	層位				外側	内面			時期	備考
SI0809	北東	埠出層・埠上上層	浅黃澄	山縁・部	回転ナデ	回転ナデ	9後~10C				
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
410	土師器	环	40%	○	△	(14.0)	—	5.0	0.6	環II A	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整					
遺構	位置	層位				外側	内面			時期	備考
SI0809	南東(14-17m・K1-2-11)等			浅黃澄	口縁部	回転ナデ	ミガキ	9後~10C			
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
411	土師器	甕	3%	△	○	—	(7.6)	13.0	1.4	回転糸切り	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整					
遺構	位置	層位				外側	内面			時期	備考
SI0809	pit1	埋土上位	にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ	9後~10C					

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
412	土師器	壺	15%	△	○	—	9.7	5.2	1.7	タタキ	壺II B
	出土状況					主な調整					
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面部 内面部				時期	備考
SK0809	南東	埋土下脚	に赤い黄褐色			タタキ	ハケ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
413	土師器	壺	45%	△	○	15.75	9.7	5.5	0.6	瓦軸ヘラケズリ	壺II A
	出土状況					主な調整					
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面部 内面部				時期	備考
SK0810	南東	床面・貼床	に赤い黄褐色	口経部		同軸ナデ	ミガキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
414	土師器	壺	10%	△	○	—	(7.0)	2.1	1.1	同軸系切り	壺II
	出土状況					主な調整					
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面部 内面部				時期	備考
SK0811	北東	床面・貼床	に赤い黄褐色	底部		回軸ナデ	回軸ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
415	土師器	壺	10%	△	○	(21.0)	—	5.8	0.9		壺II
	出土状況					主な調整					
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面部 内面部				時期	備考
SK0811	北東	床面・貼床	に赤い黄褐色			同軸ナデ	回軸ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
416	土師器	壺	35%	△	○	(22.4)	—	27.3	0.8		壺I A
	出土状況					主な調整					
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面部 内面部				時期	備考
SK0804・12	SK0804	カマド周辺	検出面	に赤い黄褐色	回軸ナデ	ハケヌ	ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
417	土師器	破裂剖片				—	—	—	—		
	出土状況					主な調整					
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面部 内面部				時期	備考
SK0802		原土上～下層								9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
418	土師器	壺	45%	○	△	(15.0)	(7.0)	4.4	0.5	瓦軸ヘラケズリ	壺II A
	出土状況					主な調整					
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面部 内面部				時期	備考
SK0805		1層下位	に赤い黄褐色	目録・体感		同軸ナデ	ミガキ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
419	土師器	壺	3%	△	○	(11.4)	(16.8)	—	1.4		壺II A
	出土状況					主な調整					
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面部 内面部				時期	備考
SK0805		埋土下層	に赤い黄褐色			回軸ナデ	回軸ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
420	土師器	壺	10%	△	○	(25.6)	—	12.5	0.5		壺II A
	出土状況					主な調整					
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面部 内面部				時期	備考
SK0805		埋土下層一括	に赤い黄褐色			ハケ	ナデ			9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
421	土師器	壺	20%	○	○	(13.6)	6.3	3.9	0.7	瓦軸ヘラケズリ	
	出土状況					主な調整					
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面部 内面部				時期	備考
SK0808	SK0808 壁上・SK0810 壁土		に赤い黄褐色	井戸下部		回軸ナデ	ミガキ			9後～10C	

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
422	須恵器	坏	50%	◎	○	13.0	6.3	3.9	0.7	回転糸切り	
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
包含層	0区	2層・下層	灰白	重ね焼き	同軸ナデ	同軸ナデ	9C前				墨書
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
423	須恵器	坏	50%	◎	○	(13.3)	6.2	3.3	0.7	回転糸切り	
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
包含層	1区	1層	灰白	重ね焼き	同軸ナデ	同軸ナデ	9C前				墨書
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
424	須恵器	坏	10%	◎	○	(14.0)	—	3.5	0.5		
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
包含層	1区	1層	灰白	重ね焼き	同軸ナデ	同軸ナデ	9C前				墨書
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
425	須恵器	坏	10%	◎	○	(13.0)	—	3.4	0.5		
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
包含層	1区	1層	灰白	重ね焼き	同軸ナデ	同軸ナデ	9C前				墨書
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
426	須恵器	坏	40%	◎	○	(13.2)	(7.2)	3.2	0.5	回転糸切り	坏ⅡB
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
包含層	0区・5区	2層・上層	灰白	重ね焼き	同軸ナデ	同軸ナデ	9C前				墨書
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
427	須恵器	坏	45%	◎	○	—	6.2	2.9	0.6	回転糸切り	
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
包含層	0区・TO	1層・2層	灰白	重ね焼き	同軸ナデ	同軸ナデ	9C前				墨書
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
428	須恵器	坏	40%	◎	○	(16.0)	(6.6)	3.8	0.8	回転糸切り	
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
包含層	0区	2層	灰白	重ね焼き	同軸ナデ	同軸ナデ	9C中				墨書
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
429	須恵器	坏	15%	◎	○	—	(6.8)	2.0	0.8	回転糸切り	
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
包含層	1区	1層	灰白	重ね焼き	同軸ナデ	同軸ナデ	9C中				墨書
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
430	須恵器	坏	15%	◎	○	—	(7.0)	2.0	0.65	回転糸切り	
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
包含層				灰白		同軸ナデ	同軸ナデ	9C中			墨書
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
431	須恵器	坏	10%	◎	○	—	(6.0)	0.6	0.7	回転糸切り	
	出土状況							主な調整			
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外側	内面		時期	備考
包含層	TO	最下層	灰白			回転ナデ	回転ナデ	9C中			墨書

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
432	須恵器	环	3%	○	○	—	(7.0)	15	0.8	回転系切り	
出土状況				色調		主な調整				時期	
遺構	位置	層位		黒斑		外側	内面			備考	
包含層				灰白		回転ナデ	回転ナデ	9C 中		悪書	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
433	須恵器	环	50%	○	○	(13.5)	6.6	42	1.2	回転ヘラ切り	
出土状況				色調		主な調整				時期	
遺構	位置	層位		黒斑		外側	内面			備考	
包含層				灰	重ね焼き	回転ナデ	回転ナデ	9C 前		悪書	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
434	須恵器	环	15%	○	○	(3.6)	1.9	0.7		回転系切り	
出土状況				色調		主な調整				時期	
遺構	位置	層位		黒斑		外側	内面			備考	
包含層				灰白		回転ナデ	回転ナデ	9C 中		悪書	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
435	須恵器	环	40%	○	○	—	6.4	2.6	0.7	回転系切り	
出土状況				色調		主な調整				時期	
遺構	位置	層位		黒斑		外側	内面			備考	
包含層				灰白		回転ナデ	回転ナデ	9C 中		悪書	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
436	須恵器	环	30%	○	○	(6.9)	2.6	0.85		回転系切り	
出土状況				色調		主な調整				時期	
遺構	位置	層位		黒斑		外側	内面			備考	
包含層				灰白		回転ナデ	回転ナデ	9C 中		悪書	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
437	須恵器	环	30%	○	○	(3.8)	2.4	0.7		回転系切り	
出土状況				色調		主な調整				時期	
遺構	位置	層位		黒斑		外側	内面			備考	
包含層				灰白		回転ナデ	回転ナデ	9C 中		悪書	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
438	土師器	环	10%	○	△	(6.4)	0.2	1.1		回転系切り	
出土状況				色調		主な調整				時期	
遺構	位置	層位		黒斑		外側	内面			備考	
包含層	2 区	1 層 (黑色吉上)	にぶい黄			回転ナデ?	ミガキ	9 後 ~ 10C		悪書	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
439	土師器	环	20%	○	△	(5.8)	1.5	0.7		回転系切り	
出土状況				色調		主な調整				時期	
遺構	位置	層位		黒斑		外側	内面			備考	
包含層				下層	にぶい橙	回転ナデ?	ミガキ	9 後 ~ 10C		悪書	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
440	土師器	环	10%	○	△	—	5.8	0.8	0.9	回転系切り	
出土状況				色調		主な調整				時期	
遺構	位置	層位		黒斑		外側	内面			備考	
包含層	4 区	1 層	にぶい黄			回転ナデ?	回転ナデ	9 後 ~ 10C		悪書	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
441	土師器	环	15%	○	△	—	6.0	1.2	1.0	回転系切り	
出土状況				色調		主な調整				時期	
遺構	位置	層位		黒斑		外側	内面			備考	
包含層	6 区	上層	にぶい黄			ミガキ	ミガキ	9 後 ~ 10C		悪書	

査載番号	種別	器種	残存率	陶土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
442	土器器	壺	15%	△	△	-	5.4	1.2	0.9	同軸系切り	
出土状況											
遺構	位置	層位	色調	黒斑	主な調整				時期		備考
匂矢跡	5区	上層	にぼい緑		回転ナデ	回転ナデ			9後~10C		

揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法			底部	分類
						口径	底径	器高		
443	土師器	甕	15%	△	○		10.0	7.0	1.9	砂粒
出土状況										
遺構	位置	層位	色調	黒斑		主な隔壁			時期	備考
勾余屋	2101-10-15-10-16-17-18-19	にぶ・遺構	赤褐色	ヘラケズリ	ハケ	9.8	9.8	10.0		

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
111	土器部	壺	20%	△	○	(23.8)	—	121	0.65		
出土状況											
遺構	位置	層位	色調	黒斑		主な調整				時期	備考
匂合痕	T2ベルト	上層	に赤い斑紋			外面	内面				
						ハケ	ナデ			9.8cm~10cm	

揭露番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
445	上部器	甕	5%	△	△	(204)	65	0.9			
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面		内面			
勾玉	2区	1段	1-2	1-2	1-2	回転子	回転子	回転子	回転子	9.5cm~10cm	

査定番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法			底部	分類
						口径	底径	器高		
464	土師器	壺	5%	△	○	—	—	5.5	0.9	
出土状況										
遺構	位置	層位		色調	黒斑	主な調整			時期	備考
勾玉置	フタ	上層(最上層)	に付・裏面			外面	内面			
						高さ+ナメ	内径+ナメ		9.0cm~10.0cm	

掲載番号	種別	器種	残存率	陶土	焼成	寸法			底部	分類
						口径	底径	器高		
447	土師器	壺	5%	△	○	(14.4)	6.5	0.9		
	出土状況					主な調整			時期	備考
	遺構	位置	層位	色調	黒斑	外面		内面		
448	土師器	壺	10%	△	○	14.5	6.5	0.9	後半～後	後半～後

掘藏番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口徑	底径	器高	器厚		
449	土師器	壺	3%	△	○	—	(8.7)	27	1.6	本業壺	
				色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
馬糞堆	0.14	1.45	1.25~1.35			1.45	1.45			0.9~1.00	

掘載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	高さ	器厚		
450	土器器	壺	5%	△	○	—	(7.0)	2.3	1.2	回転系切刃	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整量				時期	備考
遺構	位置	層位				外面		内面			
450-451	3-14					—	—	—	—	—	—

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
451	土師器	甕	5%	○	△	—	(11.8)	20	1.3	本蓋底	要 I A
	出土状況							主な調整			時期
遺構	位置	層位		色調	黒斑		外面	内面			備考
勾配	下段	上段	1.5m	褐色	褐色		丸	丸	0.8-1.0		

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
452	上部器	壺	5%	△	○	—	—	7.4	1.0	ハラケズリ		
	出土状況					主な調整				時期	備考	
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面 内面						
包含層	4区	1層	に赤い質			回転ナデ ナデ				刻書「寺皆」		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
453	上部器	壺	25%	△	○	—	6.2	3.8	1.2	ハラケズリ		
	出土状況					主な調整				時期	備考	
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面 内面						
包含層	6区	上層	に赤い質			ミガキ ミガキ				9~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
454	上部器	小壺	45%	○	△	—	7.0	11.1	1.2	ハラケズリ		
	出土状況					主な調整				時期	備考	
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面 内面						
包含層	2区	1層(黒色直上)	に赤い質			ミガキ ミガキ				9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
455	須恵器	瓶	20%	○	△	—	(9.6)	6.3	1.0			
	出土状況					主な調整				時期	備考	
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面 内面						
包含層	3区	1層	灰黄褐			回転ナデ 回転ナデ				9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
456	須恵器	長頸瓶	5%	○	△	(11.0)	—	4.4	0.6			
	出土状況					主な調整				時期	備考	
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面 内面						
包含層	2区	1層(墨色直上)	褐色			回転ナデ 回転ナデ				9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器長	器厚			
458	須恵器	甕	—	○	○	—	—	10.7	11.9			
	出土状況					主な調整				時期	備考	
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面 内面						
包含層	0~1区	検出面	灰			回転ナデ —				9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器長	器厚			
468	土師器	壺	85%	○	○	14.1	6.3	4.8	0.9	回転系切り		
	出土状況					主な調整				時期	備考	
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面 内面						
遺構外	東側溝地落ち際	に赤い質	口径一年卯上半	回転系	回転ナデ	回転ナデ				9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
469	土師器	壺	70%	○	○	(13.5)	5.9	5.7	0.95	回転系切り		
	出土状況					主な調整				時期	備考	
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面 内面						
遺構外	東側溝地落ち際	に赤い質	口径一年卯上半	回転系	回転ナデ	回転ナデ				9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器長	器厚			
470	土師器	壺	40%	○	○	(13.8)	5.4	4.8	0.7	回転系切り		
	出土状況					主な調整				時期	備考	
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面 内面						
遺構外	II B7 m	検出面	に赤い質	口径一年卯上半	回転系	回転ナデ ミガキ				9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類	
						口径	底径	器高	器厚			
471	須恵器	壺	15%	○	△	(14.7)	—	4.8	0.4	环II B		
	出土状況					主な調整				時期	備考	
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面 内面						
遺構外	II B7 m	検出面	明褐灰	重ね施き	回転ナデ	回転ナデ ミガキ				9後~10C		

掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
472	土師器	小壺	50%	△	○	11.0	—	9.2	0.4		美ⅠB
	出土状況							主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面				
遺構外	S10809 東西ベルト西端	第10下層	に赤い黄緑		ハラケズリ	ナデ				9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
473	土師器	壺	30%	○	○	(14.4)	(6.6)	5.4	0.9	回転糸切り	环ⅡA
	出土状況							調整		時期	備考
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面				
遺構外	昨年焼き	検出面	に赤い黄緑	口縁・底部	回転ナデ	ミガキ				9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
474	土師器	壺	35%	○	△	—	(6.0)	3.8	0.6	回転糸切り	环ⅡA
	出土状況							主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面				
遺構外	SH0809 西側		に赤い黄緑		回転ナデ	ミガキ				9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
475	土師器	壺	20%	○	△	(10.4)	(5.4)	3.8	0.6	回転糸切り	环ⅡB
	出土状況							主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面				
遺構外	II B2 m 周辺	検出面・カクラン	橙		回転ナデ	回転ナデ				9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
476	土師器	壺	20%	○	△	(12.6)	—	4.9	0.6	回転糸切り	环ⅡA
	出土状況							主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面				
遺構外	II B2 m 間辺	検出面・カクラン	橙		回転ナデ	回転ナデ				9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
477	土師器	壺	15%	○	○	—	(7.2)	3.0	0.8	回転糸切り	环ⅡA
	出土状況							主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面				
遺構外	II B2 m 両辺	検出面・カクラン	に赤い黄緑		回転ナデ	ミガキ				9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
478	土師器	壺	10%	○	△	—	6.2	1.4	0.9	回転糸切り	环ⅡA
	出土状況							主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面				
遺構外	SI0801 周辺	カクラン	に赤い黄緑	底部	回転ナデ	ミガキ				9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
479	土師器	壺	10%	○	△	—	5.5	1.0	1.1	回転糸切り	环ⅡB
	出土状況							主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面				
遺構外		カクラン	に赤い黄緑	底部	回転ナデ	ミガキ				9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
480	土師器	鉢	5%	○	○	(20.4)	—	6.2	0.9		鉢ⅡA
	出土状況							主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面				
遺構外		検出面	に赤い黄緑	口縁部	回転ナデ	回転ナデ				9後～10C	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
481	土師器	壺	5%	△	○	—	(7.6)	1.6	1.8	回転糸切り	
	出土状況							主な調整		時期	備考
遺構	位置	層位		色調	黒斑	外面	内面				
遺構外		検出面	に赤い黄緑	底部	回転ナデ	回転ナデ				9後～10C	

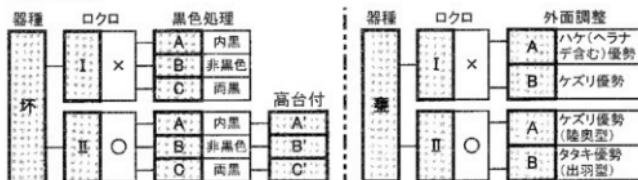
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
482	土師器	壺	10%	△	○	—	(7.2)	2.4	1.8	回転系切り	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
遺構外	洞査区南西	灰色客土	にぶい棕			回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
483	須恵器	壺?	5%	△	△	—	(3.8)	1.3	0.9	布貝瓶	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
遺構外	西側	表十一~表十二	灰白			ハラケズリ	ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
484	土師器	壺	10%	△	○	21.0	—	9.1	0.7	壺 I A	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
遺構外	II B7m	検出面	にぶい青棕		体部	回転ナデ	回転ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
485	須恵器	瓶	5%	△	○	—	(12.2)	4.75	13.0		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
遺構外	II B3m	検出面	青灰			回転ナデ	ナデ		9後~10C		
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	長さ	幅		
486	埴輪	柱II	—	△	○	—	—	3.8	2.0		
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
遺構外	洞査区南	表上下	にぶい青棕							褐色晚期	
掲載番号	種別	器種	残存率	胎土	焼成	寸法				底部	分類
						口径	底径	器高	器厚		
487	須恵器	全て壺	—	—	—	—	—	—	—	—	
	出土状況			色調	黒斑	主な調整				時期	備考
遺構	位置	層位				外面	内面				
包含層	洞査区南	表上下	にぶい青棕						9C		

第4表 掲載遺物一覧(石製品)

※344は欠番

掲載番号	器種	出土遺構	層位	寸法(最大cm・g)				底部	分類
				長さ	幅	厚さ	重量		
459	砥石	SI0802 南東	埋土下層	16.3	6.1	2.4	462.4		
460	砥石	SI0802	2層	13.8	6.1	7.3	482.2		
461	砥石	SI0806 南壁際	埋土下層	8.8	7.0	3.0	154.4		
463	砥石	SI0806 東壁際	埋土中層	20.4	7.8	3.1	677.3		
466	砥石	SI0807	床面	11.8	6.9	4.5	424.0		
464	砥石	SI0809 北壁際	埋土	12.9	3.2	9.2	367.3		
465	砥石	SI0810 北西	検出面	12.3	12.8	6.4	1535.5		
467	砥石	SI0809 より西側	埋土	9.0	5.9	5.1	374.3		
462	砥石	包含層3区	1層	7.1	3.6	2.8	93.5		

土器分類凡例



VI 分析

I 中嶋遺跡より出土した種実

吉川 純子（古代の森研究会）

（1）はじめに

中嶋遺跡は花巻市東和町にある主に古代以降の遺跡で、猿ヶ石川が氾濫してきた大沼と呼ばれる湿地部と中嶋と呼ばれる島状の高まりが確認された。高まりでは平安時代の竪穴住居跡が重なっており、湿地部では井戸跡が発見されている。当時の植物利用を検討するため住居のカマド跡(SI02)で1試料、井戸内(SK03)から採取され水洗選別された4試料の種実の構成を調査した。また、生業域との比較を行うため湿地部のII層(近世)、III層(中世?)、IV層(古代～中世)、V層(古代)の堆積物で種実の調査を行った。

（2）同定結果および考察

a. 平安時代の造構と湿地部

平安時代のSI02住居のカマド跡炭層およびSK03井戸内堆積物より出土した種実の同定結果を表1に示す。古代の湿地堆積物との比較のため、表2と同一の分類群表記となっている。遺跡からはわずかにエノキグサが出土しただけであった。井戸内堆積物では、穀類のオオムギ、コムギ、アワ、キビを少量出土した。食用植物ではアサを比較的多く出土し、出土層は4層準におよんだ。アサの種子はほとんどが半分に割れた状態で、もともとは堅い種子であるため何らかの利用後に廃棄したとも考えられる。ほかにエゴマ、マタタビ、サルナシ、キュウリ属メロン仲間も出土した。有用植物は半分になつたモモ核を出土したが、割跡はなかった。湿生植物は明るい湿地に生育するセリ近似種、ポンクトクタデ、ヤナギタデ、などに混じってやや日陰の湿地に生育するタニソバ、ツリフネソウも出土した。日当たりの良い開けた場所に生育する草本ではネバリタデ近似種、アカザ属、コメナモミや蔓植物のカナムグラなども比較的多く出土した。そのほかにはヒメジソまたはシソ属とキンボウゲ属を多く出土した。マメ科の刺状突起はサイカチなどの高木になる種類と考えられ、近接する微高地に生育していた可能性がある。

遺構とほぼ同時期の古代堆積物と見られるV層で湿地内から平面的に採取された試料の同定結果を表2に示す。造構堆積物との比較のため、表1と同一の分類群表記となっている。V層の上部にはTo-aとみられる火山灰がレンズ状に堆積している。穀類はわずかにキビとソバを出土した。食用植物はアサとサルナシ、マタタビのほかクワ属も1個出土し、アサのほかは井戸内よりも出土数が多かった。有用植物ではタラノキとニワトコを出土している。湿地部では、1個であるが流水に生育する浮葉植物のヒルムシロ属を出土した。湿生植物はホタルイ属やヤナギタデ、ウキヤガラなどを出土したが、出土個数はそれほど多くない。また、わずかであるが木本の落葉広葉樹のホオノキ、カエデ属、ミツバウツギ、エゴノキが出土し、周囲の微高地に生育していたのではないかと考えられる。やや乾燥した場所に生育する草本はカナムグラ、イヌコウジュ属、アカザ属、ヒユ属などを出土したが、少量であった。

図1には平安時代の井戸内堆積物と湿地部で出土した植物の特徴を比較するために、各試料の出土個数を基数として百分率で図示した。出土個数が極端に少なかった試料はのぞき、出土個数50個以下の試料には※印がついている。遺構では食用植物の比率がやや多い層もあるが、特徴的に多いというわけではない。湿生植物の比率が比較的高く、日当たりの良い開けた場所に生育する草本と同程度の比率を占めている。これは湿地内の井戸という立地条件に反映しているのではないかと考えられる。湿地部の平面試料では全体的に湿生植物の比率がかなり高く、場所によって食用植物や有用植物が多くなる地点がある。湿地内に井戸があるために中島の住居との間に動線があることや、中島や周囲の微高地からの流入水の影響とも考えられる。

表1 中綱遺跡平安時代の遺構より出土した種粒

分類種名	遺構	SH02 カマド 出土部位	SK03 灰層	SK03 2層	SK03 10層	SK03 11層	SK03 本件汚 部層	
							灰化種子	灰化種子
穀物等								
オオムギ	Holdeum vulgare L.	炭化種子	-	-	-	1	-	-
コムギ	Triticum aestivum L.	炭化種子	-	1	-	-	-	-
アワ	Setaria italica Beauvo.	種子	-	-	2	2	1	-
キビ	Panicum miliaceum L.	炭化種子	-	-	2	-	-	-
アサ	Cannabis sativa L.	種子	-	-	-	-	-	-
ソバ	Fagopyrum esculentum Moench.	炭化種子	-	-	-	-	-	-
食玩植物								
クワ属	Morus	種子	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	Vitis	種子破片	-	1	-	-	-	-
マタタビ属	Actinidia polygama (Sieb. et Zucc.) Planch. et Maxim.	種子	-	1	-	-	-	-
サルシナ属	Actinidia arguta (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.	種子	-	-	-	-	1	-
アサ	Cannabis sativa L.	種子	-	13	33	33	18	-
キヌガワリ属メロン仲間	Cucumis melo L.	種子	-	-	-	-	1	-
エブヅ	Perilla frutescens (L.) Britton var. frutescens	果実	-	-	(1)	1	1	-
有用植物								
モモ	Prunus persica Batsch.	核半分	-	-	-	1	-	-
タラノキ	Aralia elata L.	内果皮	-	1	-	-	-	-
ニワトリ属	Sambucus	内果皮	-	-	-	-	-	-
浮葉植物と湿生植物								
ヒルムシロ属	Potamogeton	内果皮破片	-	-	-	-	-	-
スゲ属アゼツゲ属	Carex sect. Carex	果実	-	6	11	-	-	-
ハリイ属	Eleocharis	果実	-	-	4	-	-	-
ウキシガラ	Scirpus fluviatilis (Torn.) A. Gray	果実	-	-	1	-	-	-
ヒメタタキ属	S. imelatissima Franch. et Savat.	果実	-	-	-	-	4	-
ホタルイ属	Scirpus	果実	-	-	-	-	-	-
コゴメガヤツリ	Cyperus iri L.	果実	-	-	11	-	-	-
インジカワリ	Persicaria perfoliata (L.) H.Gross	果実	-	-	2	2	2	-
タニソバ	P. nepalensis (Meissn.) H.Gross	果実	-	7	37	9	2	-
ヤナギナデ	P. hydropiper (L.) Spach	果実	-	-	-	-	58	-
ボンクナデ	P. pubescens (Blume) Hara	果実	-	10	104	124	2	-
フリフラタデ	Impatiens tectorum Miq.	種子	-	1	1	-	-	-
セリ近似種	Cl. Oenanthe javanica DC.	果実	-	-	22	385	-	-
落葉広葉樹								
ホオノキ	Magnolia obvata Thunb.	種子	-	-	-	-	-	-
カエデ属	Acer	果実	-	-	-	-	-	-
ミツバウガ属	Staphylinus bumalda (Thunb.) DC.	種子	-	-	-	-	-	-
エゴノキ	Styrax japonicus Sieb. et Zucc.	内果皮破片	-	-	-	-	-	-
日本から長い間前に生寄する日本								
エノコログサ属	Scirpus	種子	-	-	-	-	-	1
カナムグラ	Hamamelis japonica Sieb. et Zucc.	種子	-	21	54	41	-	-
ギンギガ属	Rhus	果実	-	-	5	-	-	-
ネバリタデ近似種	Persicaria cf. viscosa (Makino) H.Gross	果実	-	-	62	118	192	-
サナエタデ近似種	P. cf. scabia (Moench) Mold.	果実	-	1	36	-	8	-
アカガ属	Chenopodium	種子	-	1	187	25	43	-
ヒユ属	Amaranthus	種子	-	1	-	15	-	-
キジムシロ属	Potentilla	核	-	-	3	-	-	-
カタバミ属	Oxalis	種子	-	-	1	1	-	-
エノキギサ	Acadypna metralis L.	種子	2	-	1	-	-	-
ヤブジミス属	Torilis	果実	-	-	-	3	1	-
イスコウジ属	Moda	果実	-	1	7	-	-	-
トウバナ属	Clinopodium	果実	-	-	1	1	-	-
メハジキ属	Leontice	果実	-	2	5	1	-	-
ナス属	Solanum	種子	-	-	1	1	-	-
コメモモ	Siegesbeckia orientalis L. subsp. glabrescens (Makino) Kitam.	果実	-	1	141	17	-	-
オナモミ	Xanthium strumarium L.	粒状	-	-	(6)	7	-	-
その他								
キンポウゲ亜属	Ranunculus subgen. Ranunculus	果実	-	-	17	5	-	-
マメ科	Leguminosae	炭化種子	-	1	1	-	-	-
スミレ属	Viola	刺状突起	-	-	3	-	-	-
ヒメジマまたはシソ属	Moda diaphana (Hamilt.) Maxim. and/or Perilla	種子	-	-	134	37	-	-
不明	Unknown	-	-	-	3	137	-	-

1 中嶋遺跡より出土した種実

表2 中嶋遺跡V層(古代)より出土した種実

分類群名	地點	出土部位\層位						
		I B 19	I B 20	II B 21	II B 11	II B 12	II B 22	II B 33
穀類等		V	V	V	V	V	V	V
オオムギ	Elymus vulgaris L.	無化種子	-	-	*	*	*	-
コムギ	Triticum aestivum L.	炭化種子	-	-	-	-	-	-
アワ	Sorghum vulgare Beauvois	無	-	-	-	-	-	-
キビ	Panicum miliaceum L.	無化種子	-	-	-	-	-	-
ソバ	Fagopyrum esculentum Moench.	無化種子	1	-	-	-	-	-
文化植物		V	V	V	V	V	V	V
タケ属	Musa	種子	-	-	1	-	-	-
ブドウ属	Vitis	種子破片	-	-	-	-	-	-
マタタビ	Acnistia polygamia (Sieb. et Zucc.) Planch. et Maxim.	種子	-	-	-	2	-	-
サルナシ	Acnistia segata (Sieb. et Zucc.) Planch. et Maxim.	種子	1	-	3	1	-	-
アナ	Cannabis sativa L.	種子	有	-	-	6	-	-
キヌアリ属メロン科	Cucumis melo L.	種子	-	-	-	-	-	-
エゴマ	Perilla frutescens (L.) Britton var. frutescens	果実	-	-	-	-	-	-
有用植物		V	V	V	V	V	V	V
モモ	Prunus persica Batsch.	核部分	-	-	-	-	-	-
タラノキ	Asalia elata L.	内果皮	1	-	-	2	-	5
ニワトコ属	Sambucus	内果皮	2	-	2	2	-	27
浮葉植物と過生植物		V	V	V	V	V	V	V
ミシムシロ属	Potamogeton	内果皮破片	-	-	-	-	-	-
スグリ属アゼクサ属	Carex sect. Carex	果実	-	-	-	-	-	-
ハリイ属	Eleocharis	果実	1	-	-	-	-	-
ウキヤガラ	Scirpus fluviatilis (Trotz.) A. Gray	果実	2	3	-	-	-	-
ヒメホタルイ属	S. imereanus French et Savat.	果実	7	-	1	1	-	-
ホタルイ属	Scirpus	果実	90	10	-	21	1	7
コブザガツツリ	Cyperus rotundus L.	果実	-	-	1	-	-	-
シシカカ	Penicillaria perfoliata (L.) H. Gross	果実	-	-	-	-	-	-
タニンバ	P. acapulcana (Miers) H. Gross	果実	1	-	1	-	-	-
ゲナギタゲ	P. hydrophylla (L.) Spach	果実	6	-	38	3	-	-
ボトクタデ	P. pubescens (Blanco) Harms	果実	-	-	-	-	-	-
フリキツツリ	Impatiens textorii Miq.	種子	-	-	-	-	-	-
セリジン属	C. chinensis DC.	果実	-	-	1	-	-	-
高粱属		V	V	V	V	V	V	V
ホオノキ	Magnolia obovata Thunb.	種子	-	1	-	-	-	1
カエデ属	Acer	果実	1	-	-	-	-	-
ミツバウツギ	Sapindus mukorossi (Linn.) DC.	種子	-	-	-	-	-	-
エゴノキ	Syringa japonica Sieb. et Zucc.	内果皮破片	-	-	-	1	-	-
350~300年前付近の種実		V	V	V	V	V	V	V
エノコロナガ属	Serissa	果	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	Humulus japonicus Sieb. et Zucc.	種子	7	-	1	-	-	1
ギンギズ属	Rumex	果実	-	-	-	-	-	-
トバリタツノ近似種	Persicaria cf. viscosa (Makino) H. Gross	果実	-	-	-	-	-	2
サナエタツノ近似種	P. cf. scabia (Moench) Mefid.	果実	-	-	-	-	-	-
アカガ属	Chenopodium	種子	-	-	4	-	-	-
ヒユ属	Amaranthus	種子	2	-	-	-	-	-
キジムシロ属	Poemella	種子	-	-	-	-	-	-
カタバミ属	Ovalis	種子	-	-	-	-	-	-
エノキダケ	Anaphalis austriaca L.	種子	-	-	-	-	-	-
マツブタ属	Tordylium	果実	-	-	-	-	-	-
イヌコウシ属	Medea	果実	5	-	4	-	-	1
トウバナ属	Cineraria	果実	-	-	-	-	-	-
メハジキ属	Luzula	果実	-	-	1	-	-	-
ナス属	Solanum	種子	2	-	-	-	-	-
コメモモミ	Solanum nigrum L. subsp. ptychanthum (Makino) Kitam.	果実	-	-	-	-	-	-
オナモミ	Xanthium strumarium L.	種子	-	-	-	-	-	-
その他		V	V	V	V	V	V	V
キンボウゲ属	Ranunculus sylvestris, Ranunculus	果実	-	-	-	-	-	-
マメ科	Leguminosae	無化種子	-	-	-	-	-	-
スミレ属	Viola	割状花被	-	-	-	-	-	-
ヒメジまたはシソ属	Moisia diffusa (Hamilt.) Maxim. and/or Perilla	果実	2	-	6	2	1	-
不明	Unknown	-	-	-	-	-	-	1

表3 中嶋遺跡IV層(古代～中世)より出土した種実

分類群名	地點	出土部位\層位		
		I B 20	I B 1k	II B 3j
穀類等		V	V	V
イネ	Oryza sativa L.	稻穀片	12	-
有花植物		V	V	V
ニワトコ属	Sambucus	内果皮	1	-
浮葉植物と過生植物		V	V	V
ヒメホタルイ属	Scirpus holoschoenus French et Savat.	果実	-	-
ホタルイ属	Scirpus	果実	-	3

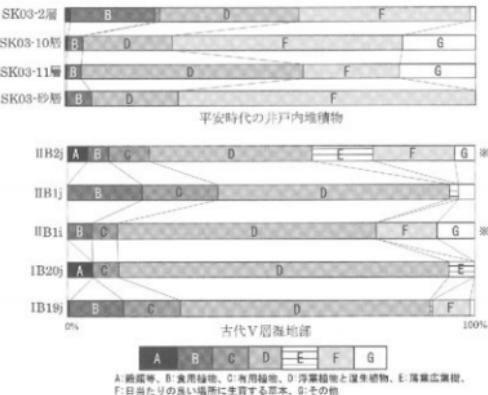


図1 平安時代の遺構と湿地部から出土した種実の特徴比較

表3には湿地部の古代～中世とみられるIV層から出土した種実を示した。イネの穎、わずかにニワトコ属と湿性植物のホタルイ属を出土したのみであった。

平安時代の竈からは食用植物等を出土しなかったが、井戸内堆積物からは利用後とみられるアサと、少量であるが穀類のオオムギ、コムギ、アワ、キビのはか、モモ、メロン仲間、エゴマなども出土した。遺構外からはソバ、キビも出土したため、穀類は雑穀を頻繁に利用し、アサ、エゴマも周辺で栽培していたと考えられる。花巻市の高木中館遺跡では6住居の試料を検討しているが、竈部分よりも床面に種実が多く出土する傾向にあり、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、キビ近似種、ヒエを出土しており、オオムギの比率が最も高く、ヒエ、アワの雑穀はイネと同程度の出土があった。今回ソバも出土したことで、穀類6種類にくわえてソバも利用していたことが明らかになった。湿地部には周囲の生業域から水の流入や人の往来があったため、キビ、ソバ、アサなどの利用植物を少量出土するが、基本的には湿生植物種実がかなりの比率を占め、これらが繁茂していたと考えられる。さらにこの湿地周囲にはニワトコやタラノキが、微高地にはホオノキやカエデ属などの落葉広葉樹が生育していたと考えられる。

b. 中世の大沼の環境と近世の同定結果

湿地部のIII層堆積物の平面採取試料の同定結果を表4に示す。穀類はイネ、オオムギ、アワ、ヒエを出土したがいずれも少量で、食用植物もエゴマ、マタタビなどごくわずかであった。有用植物では利用後と見られる炭化したサクランボの核を出土した。III層では流水に生育するコバノヒルムシロ、やや水深のある湿地に生育するミクリ属を出土し、ほかにも抽水植物のヘラオモダカ、イボクサを出土した。また、ヒメホタルイ、ホタルイ属、ウキヤガラはほとんどの地点で出土し、ハリイ属多くの

表4 中鶴遺跡Ⅲ層(中世?)より出土した種実

分類作名	種類	地点											
		I B 17r	I B 17g	I B 18r	I B 18g	I B 19r	I B 20r	I B 20k	I B 21	II B 1i	II B 1j	II B 1k	II B 1l
穀類等		古土堆塚・尋生	III	III	III	III	II	III	III	III	III	III	III
イネ	Oryza sativa L.	穀化胚乳	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
オオムギ	Holdem vulgare L.	穀化種子	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
アワ	Setaria italica Beauv.	穀化種子	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ	Echinochloa utilis Oliv et Yabuno	穀化種子	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
食用植物													
ブドウ属	Vitis	種子破片	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
マダラビ	Acicidium polygonum (Sib. et Zucc.) Planch et Maxim.	種子	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
エゴマ	Perilla frutescens (L.) Britton var. frutescens	葉實	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
有用植物													
サクラ節	Prunus sect. Paradoeceras	穀化核	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
タラノキ	Aralia elata L.	内果皮	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-
ウツ	Aralia cordata Thunb.	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
浮葉植物と混生植物													
ミクリ属	Sparaganium	内果皮	-	1	-	1	-	-	-	1	2	-	-
ヘルオモガ属	Alisma canaliculatum A. Br. et Bouche	葉実	-	1	-	-	2	1	-	1	-	-	-
オモダカ科	Alismataceae	種子	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
コノハセリムシロ	Potamogeton cristatus Regel et Maack	内果皮	-	-	-	2	2	-	2	1	-	-	-
イボクサ	Murdannia keisak (Hassk.) Hand. Mazz.	種子	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
ハリイ属	Eleocharis	葉実	-	7	3	11	3	15	1	31	-	-	2
ウキヤガラ	Scirpus fluviatilis (Torn.) A. Gray	葉実	39	24	38	48	8	1	7	20	53	2	-
ヒメオトギリ	S. impletus Franch. et Savat.	葉実	2	62	55	98	432	382	8	300	50	-	19
ホタルイ属	Scirpus	葉実	99	92	59	107	610	420	72	230	115	4	32
イシミカワ	Persicaria perfoliata (L.) H.Gross	葉実	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
タニソバ	P. nepalensis (Meinr.) H.Gross	葉実	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヤナギタデ	P. hydropiper (L.) Spach	葉実	7	-	8	7	17	3	-	5	3	-	-
セリ近似種	Cf. Oenanthe javanica DC.	葉実	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
桑麻広葉樹													
イヌシテ	Carpinus tschonoskii Maxim.	葉実	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ホオノキ	Magnolia obovata Thunb.	種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
日本各地の既往例を示す													
エノコログサ属	Setaria	種	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	Humulus japonicus Sieb. et Zucc.	種子	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-
エバリタニア近似種	Persicaria cf. viscosa (Makino) H.Gross	葉実	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アガベ属	Chenopodium	種子	3	-	-	-	-	7	2	-	-	-	-
エノキヅリ	Acalypha australis L.	種子	2	-	-	-	-	-	4	1	-	-	-
イスコウジ属	Modia	葉実	-	-	-	2	9	-	-	4	1	-	-
メハジキ属	Leonturus	葉実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
ナス属	Solanum	種子	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
その他													
エリ科	Liliaceae	種子	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ヒメジまたはシソ属	Modia diandra (Hamilt.) Maxim. and/or Perilla	葉実	-	10	4	-	7	3	-	7	-	-	-

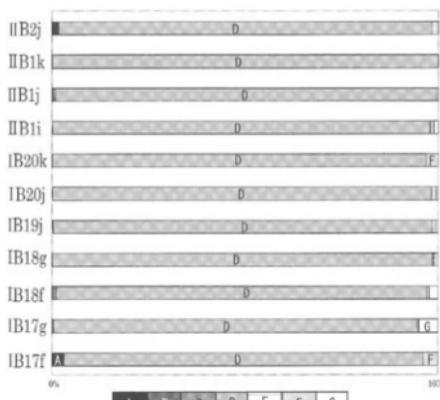


図2 中世Ⅲ層より出土した種実の特徴

地点で出土することから湿地内にこれらの植物が繁茂していたと考えられる。落葉広葉樹はわずかではあるがイヌシデとホオノキを出土し、ホオノキは古代でも2地点で出土していることから当時周囲の微高地に比較的多く生育していた可能性がある。日当たりの良い場所に生育する草本はアザミ属、エノキグサ、イヌコウジユ属などを出土するが少量である。

図2にⅢ層平面試料より出土した種実を特徴別に百分率で図示した。いずれの地点でも湿生草本が優占していることがわかる。古代で出土していた穀類や食用植物の個数はそれほど減少していないが湿生植物の種実個数が激増している。また、古代では半分程度出土していた乾生植物がほとんど出土しなくなり、湿生植物の中にミクリ属やヘラオモダカなどのやや水深がある場所に生育する種類が出現することから、湿地内の水域が広がった可能性がある。

表5には近世より出土した種実を示した。穀類や食用植物は出土せず、湿地に生育するホタルイ属やヤナギ

表5 中鶴遺跡Ⅱ層(近世)より出土した種実

分類群名	出土地点	I B	
		18g	II
浮葉植物と湿生植物			
スゲ属アズミスゲ苗	Carex sect. Carex	果実	1
ホタルイ属	Scirpus	果実	3
コゴメガヤツリ	Cyperus iris L.	果実	1
ヤナギタデ	Persicaria hydrophiper (L.) Spach	果実	4
日当たりの良い場所に生育する草本			
エノキグサ	Acalypha australis L.	種子	1
イヌコウジユ属	Musa	果実	3

タデ、やや乾燥した場所に生育するイヌコウジユ属などをわずかに出土した。

(3) 特筆すべき大型植物化石の形態記載

マタタビとサルナシ：いずれもマタタビ属の蔓植物であり、種子は橢円形で一端に突出したへそがあり全面に網目がある点で区別がつきにくい。マタタビはへそがやや斜めに着く種子が多いのに対し、サルナシはほぼ中央に着き、マタタビの網目は平面に穴があいているように見えるのに対し、サルナシは細い網目の中がへこんでいるように見える。

ヘラオモダカ：果実は扁平な橢円形で基部が尖っており、スポンジ状で背面から見ると溝が1本ある。オモダカ科としたものは、中にあるチューブ状の種子のみのため他種との区別がつかない。

コバノヒルムシロ：内果皮は卵形で上端につの様な突起があり、ヒルムシロ属の中でコバノヒルムシロは背面に竜骨状の突起がある。

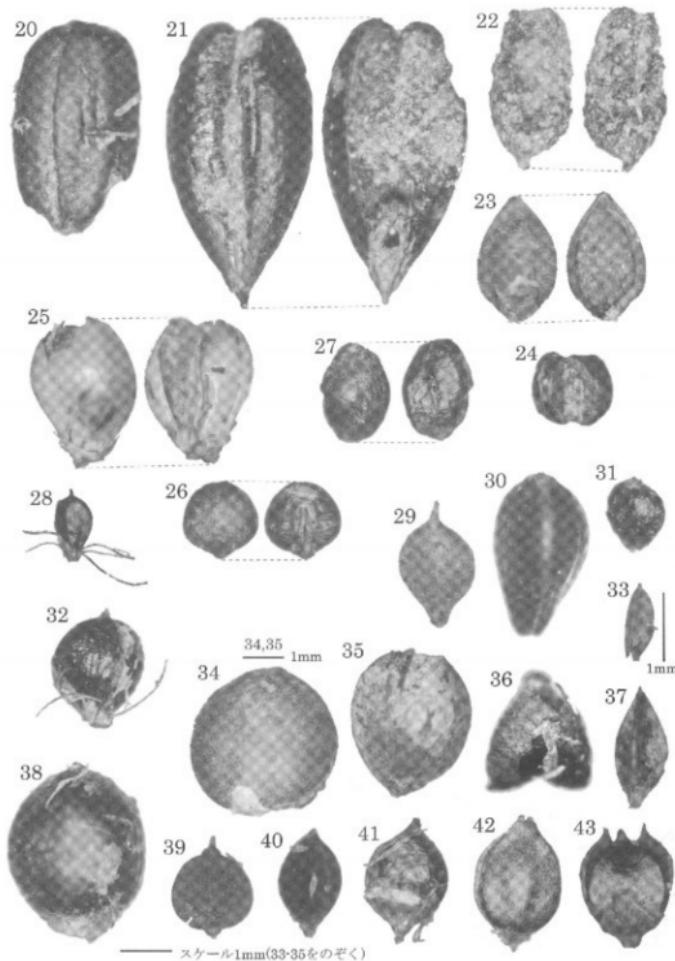
イヌコウジユ属とシソ属：イヌコウジユ属とシソ属はいずれも球形で基部がやや唇状に突出し全面に粗い網目がある点で区別がつきにくい。シソ属のうちエゴマは高さが2-2.2ミリメートルとやや大きい果実が多く、基部の平坦面が大きく、網目内部が少しえぐれたようにへこんでいる。イヌコウジユ属のヒメジソと、栽培のシソを含むエゴマ以外のシソ属は果実は球形で糸を貼り付けたような細い網目でへこみがない。ヒメジソ以外のイヌコウジユ属は1-1.5ミリメートル前後と小さく、顯著にへこんだ網目模様で、基部の平坦面がほとんどない。



図版1 中嶋遺跡より出土した種実(1)

- 1.イヌシデ、果実(III層-II B1i) 2.クワ属、種子(V層-II B2j) 3.ホオノキ、種子(V層-II B2j) 4.モモ、核(SK03-11層) 5.サクランボ節、核(III層-I B20j) 6.カエデ属、果実(V層-II B2j) 7.ミツバウツギ、種子(V層-II B2j) 8.ノブドウ、種子(V層-II B2j) 9.マタタビ、種子(III層-I B18f) 10.サルナシ、種子(SK03-木梓砂層) 11.タラノキ、内果皮(V層-II B2j) 12.ニワトコ属、内果皮(V層-II B2j) 13.エゴノキ、内果皮破片(V層-II B2j) 14.ミクリ属、内果皮(III層-I B17f) 15.ヘラオモダカ、果実(III層-II B1i) 16.オモダカ科、種子(III層-II B1i) 17.コバノヒルムシロ、内果皮(III層-I B20j) 18.ユリ科、種子(III層-I B20j) 19.イボクサ、種子(III層-I B19j)

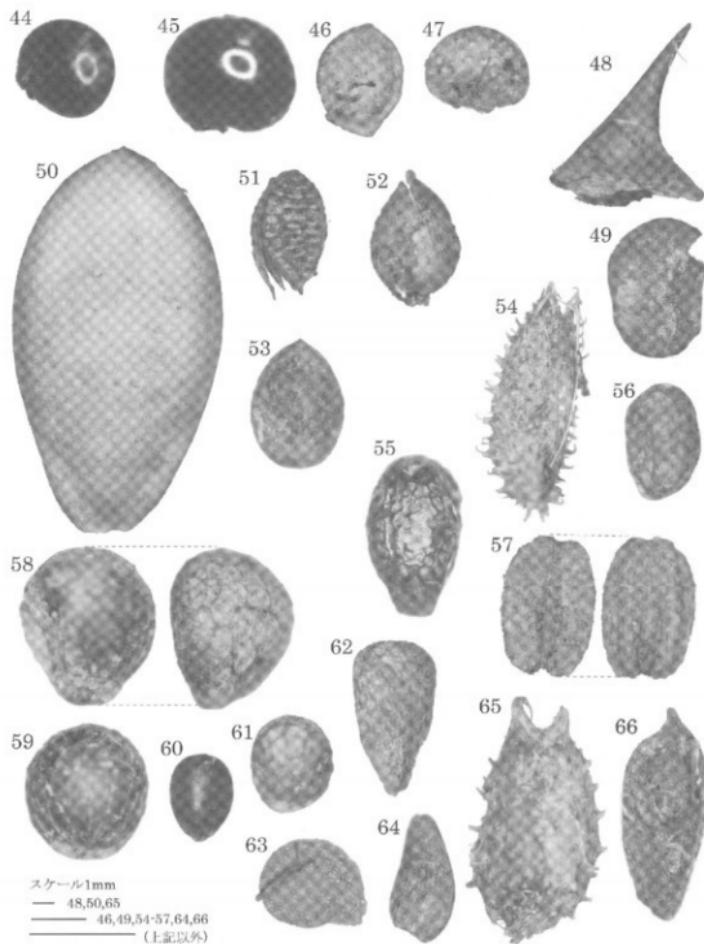
分析第1図



図版2 中嶋遺跡より出土した種実(2)

- 20.イネ、炭化胚乳(III層-I B19)[†] 21.オオムギ、炭化種子(III層-I B17)[†] 22.コムギ、炭化種子(SK03-2層) 23.アワ、穎果(SK03-木枠砂層) 24.アワ、炭化種子(SK03-10層) 25.キビ、穎果(V層-I B19)[†] 26.キビ、炭化種子(SK03-10層) 27.ヒエ、炭化種子(III層-I B17)[†] 28.ヒメホタルイ、果実(III層-I B18)[†] 29.アゼスゲ節、果実(SK03-10層) 30.ウキヤグラ、果実(III層-I B17)[†] 31.ハリイ属、果実(III層-I B19)[†] 32.コゴメガヤツリ、果実(V層-II B1)[†] 33.ホタルイ属、果実(V層-II B1)[†] 34.カナムグラ、種子(V層-II B1)[†] 35.アサ、種子(SK03-木枠砂層) 36.ゾバ、炭化種子(V層-II B2)[†] 37.ギシギシ属、果実(SK03-10層) 38.イシミカラ、果実(SK03-10層) 39.タニゾバ、果実(SK03-10層) 40.ネバリタデ近似種、果実(SK03-10層) 41.サナエタデ近似種、果実(SK03-10層) 42.ヤナギタデ、果実(III層-I B17)[†] 43.ポントクタデ、果実(SK03-10層)

分析第2図



図版3 中島遺跡より出土した種実(3)

- 44.アザ属、種子(V層-II B1i) 45.ヒュ属、種子(SK03-11層) 46.キンポウゲ亜属、果実(SK03-10層) 47.キジムシロ属、核(SK03-10層) 48.マメ科、刺状突起(SK03-10層) 49.マメ科、種子(SK03-10層) 50.メロン仲間、種子(SK03木枠砂層) 51.カタバミ属、種子(SK03-10層) 52.スマレ属、種子(SK03-10層) 53.エノキグサ、種子 54.ヤブジラミ属、果実(SK03-11層) 55.ツリフネソウ、種子(SK03-10層) 56.ウド、内果皮57.セリ近似種、果実(SK03-10層) 58.エゴマ、果実
 59.ヒメジオまたはシゾ属、果実(III層-I B20j) 60.トウバナ属、果実(SK03-10層)
 61.イヌコウジユ属、果実(V層-II B1i) 62.メハジキ属、果実(V層-II B1i) 63.ナス属、種子(SK03-10層) 64.コメナモミ、果実(SK03-10層) 65.オナモミ、総ぼう(SK03-11層) 66.不明(SK03-11層)

分析第3図

2 中嶋遺跡より出土した加工材の樹種

吉川 純子 (古代の森研究会)

(1) はじめに

中嶋遺跡は花巻市東和町の古代の遺跡である。当時の木材利用を調査するため井戸構築材16点、加工材11点、木製品3点の樹種同定を行った。加工材からは、剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3方向の切片を採取し、封入剤ガムクロラールでプレパラートを作成し、生物顕微鏡で観察・同定をおこなった。

2 同定結果と考察

出土した加工材の同定結果を表1に示し、用途別樹種集計を表2にまとめた。全30試料でもっとも出土数が多かったのはケヤキで11点、次いでヤナギ属とコナラ節は3点ずつ、スギ、カエデ属、トネリコ属が2点ずつ、イヌシデ節、クリ、ヤマグワ、トチノキ、シナノキ属、ミズキはそれぞれ1点であった。

木製品のうち曲げ物2点はスギ、鉢はケヤキを用いていた。針葉樹は殺菌性物質を持つため保存用の食品器具などに用いられることが多く、曲げ物の出現とともにスギは東北の8世紀以降の食品容器の樹種確認数では上位を占めている(山田1993)。江刺市の落合Ⅲ遺跡、北上市下谷地B遺跡などでもスギの曲げ物が出土しており、平安時代の曲げ物として一般的だったと考えられる。ケヤキは、東北では8世紀以降挽物・剃物の上位を占め、漆器にも多く使われている(山田1993)。

井戸内から出土した加工材のうち7点は棒状で、そのうち1点は先端が炭化していた。これは杭などによく使われる処理法で、ほかの6点も杭ではないかと考えられる。棒はヤナギ属3点、コナラ節2点とトネリコ属、カエデ属であった。このうちヤナギ属とトネリコ属は湿地内にも生育できる種類があり、コナラ節、

表1 中嶋遺跡 SK03 井戸出土加工材と木製品の樹種

試料(番号)	樹種	分類群
W-028	曲げ物盤版破片	スギ
W-026	曲げ物盤版片断黒漆塗り	スギ
W-027	木鉢底部分	ケヤキ
W-001	加工棒 塗装施化	トネリコ属
W-002	加工棒	ヤナギ属
W-004	加工棒	コナラ節
W-013	加工棒	ヤナギ属
W-014	加工棒	コナラ節
W-019	加工棒	カエデ属
W-029	加工棒	ヤナギ属
W-033	井戸、井戸構築材の一部?	トネリコ属
W-005	木片、井戸構築材の一部?	カエデ属
W-012	木片、井戸構築材の一部?	クリ
W-017	木片、井戸構築材の一部?	イヌシデ節
F	井戸 抗丸木	ヤマグワ
G	井戸 抗丸木樹皮つき	トネリコ属
内棒	井戸 棒外削(丸木くりぬき)	ケヤキ
A	井戸 棒外削	ケヤキ
FL	井戸 棒外削	ケヤキ
J	井戸 棒外削	シナノキ属
D	井戸 棒外削	ケヤキ
B	井戸 棒外削	コナラ節
C	井戸 棒外削	ケヤキ
E1	井戸 棒外削	ケヤキ
E2	井戸 棒外削	ミズキ
H	井戸 棒外削	ケヤキ
I	井戸 棒外削	コナラ節
K	井戸 棒外削	ケヤキ
M	井戸 棒外削	ケヤキ
N	井戸 棒外削	ケヤキ

る。井戸棒14点のうち10点はケヤキ、2点はコナラ節ではかにミズキとシナノキ属が使われていた。井戸杭にはヤマグワとトネリコ属が使われていた。井戸棒は周辺の大径木を調達したとみられ、ケヤキ、コナラ節などが多く使われる傾向にあり、これにシナノキ属、ミズキといった樹種を用いている。シナノ

表2 用途別樹種

	曲げ物	鉢	棒	井戸杭	井戸棒	木片
スギ	2					
ヤナギ属		3				
イヌシデ節				1		
クリ					1	
コナラ節			2			
ケヤキ		1			10	
ヤマグワ				1		
カエデ属		1			1	
トチノキ					1	
シナノキ属				1		
ミズキ					1	
トネリコ属	1	1				

カエデ属は湿地周囲の高まりに生育することが多いため、いずれも周辺から調達されたと考えられる。井戸構築材の一部ではないかとされる木片4点は、クリ、カエデ属、イヌシデ節、トチノキであった。このうちクリ、カエデ属、イヌシデ節は井戸構築材として利用されると思われるが、トチノキはもろいため土木材として用いた例はほとんどない。ただし、宮城県山王遺跡で木組造構に用いられた例があり、井戸材として用いた可能性も否定できない。

井戸構築材は全16点で、井戸杭2点、井戸棒14点であ

キ属、ミズキは水湿の耐久性は低いとされ、土木材に用いられる例は少ない。特にシナノキ属は山地から渓流沿いまで広く分布しており、渓流沿いでは高木となるが遺跡から土木材として出土することはほとんどない。

3. 出土した分類群の木材解剖学的記載

スギ(Cryptomeria japonica (Linn.fil.)D.Don)：早材から晩材への移行は急で晩材部が多い。分野壁孔はスギ型で横に長い楕円形となり、1分野に2～3個ある。

ヤナギ属(Salix)：年輪内に小さな管孔が単独ないし2-3個放射方向に複合して均一に分布する散孔材で、晩材部で管孔が小さくなる。放射組織は單列で異性である。

イヌシデ節(Carpinus sect. Eucarpinus)：小さい管孔が単独ないし3-4個放射方向に複合し配列する放射孔材。道管の穿孔は單一でまれに階段穿孔がある。放射組織は同性で3細胞幅くらいのものと集合放射組織がある。

クリ(Castanea crenata Sieb. et Zucc.)：年輪のはじめに大きな道管が2-3列集合し、その後径が急減して火炎状に小管孔が配列する環孔材。道管の穿孔板は單一で放射組織は單列で同性である。

コナラ属コナラ節(Quercus sect. Prinus)：年輪のはじめに大きな道管が2-3列集合し、その後径が急減して波状に小管孔が配列する環孔材。道管の穿孔板は單一で放射組織は同性で單列と広放射組織があり、横断面で広放射組織が立つ。

ケヤキ(Zelkova serrata (Thunb.)Makino)：年輪はじめにやや大きい道管が1～2列配列し、小道管が斜めから接線状に配列する環孔材。穿孔板は單一で小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性であり滑らかでない紡錘形で、端に結晶細胞があることが多い。

ヤマグワ(Morus australis Poir.)：中型の道管が放射方向ないし斜めに2個複合し、径を減じて小道管が塊状に複合し斜めに配列する環孔材。穿孔板は單一で小道管にらせん肥厚がある。放射組織は異性で4、5細胞幅の紡錘形。

カエデ属(Acer)：小型の管孔が単独ないし数個複合して散在する散孔材。木繊維の壁厚の違いによりしばしば横断面で波状模様を呈する。管孔内にはらせん肥厚があり、单穿孔、放射組織は同性で4-5細胞幅である。

トチノキ(Aesculus turbinata Blume)：小道管が単独ないし数個放射方向に複合し配列する散孔材。晩材部で径があまり小さくならない。放射組織は同性で單列、写真図版のように接線断面で放射組織が並ぶことが多く、肉眼で見ると波状の美しい木目となる。

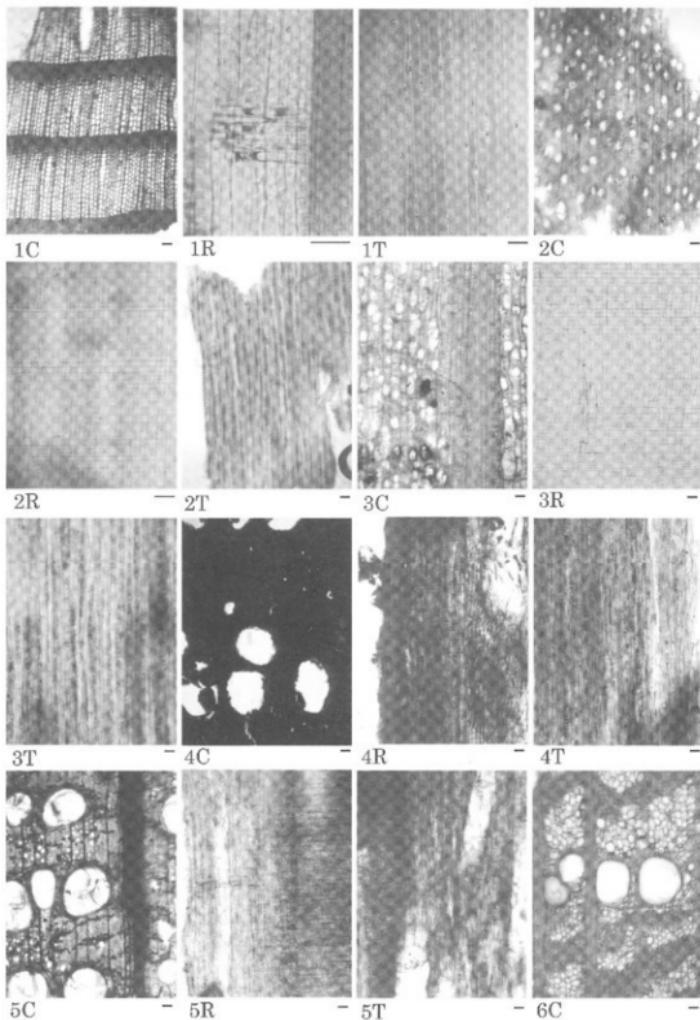
シナノキ属(Tilia)：小型の角張った管孔が単独ないし数個不規則に複合し均一に分布する散孔材。道管には着色物質が見られ、单穿孔でらせん肥厚がある。放射組織は同性、1-3列位の角張った矢尻型。シナノキ属は保存耐久性が低いとされ、土木材にはほとんど用いられず、内樹皮を織物や和紙に用いる。

ミズキ(Comus controversa Hemsley)：小さい管孔が単独ないし2-3個放射方向に複合して散在する散孔材。本遺跡で出土した材は年輪数が多い大径木のようで、成長が悪く年輪内の管孔密度が高くなっている。道管の穿孔板は段数の多い階段穿孔。放射組織は異性で紡錘形。

トネリコ属(Fraxinus)：年輪はじめに大きい道管が数列、単独ないし数個複合して分布し、その後急に径を減じて壁が厚く小さい管孔が単独ないし放射方向に数個複合して配列する環孔材。道管の穿孔は單一、放射組織は同性で1-3細胞幅である。

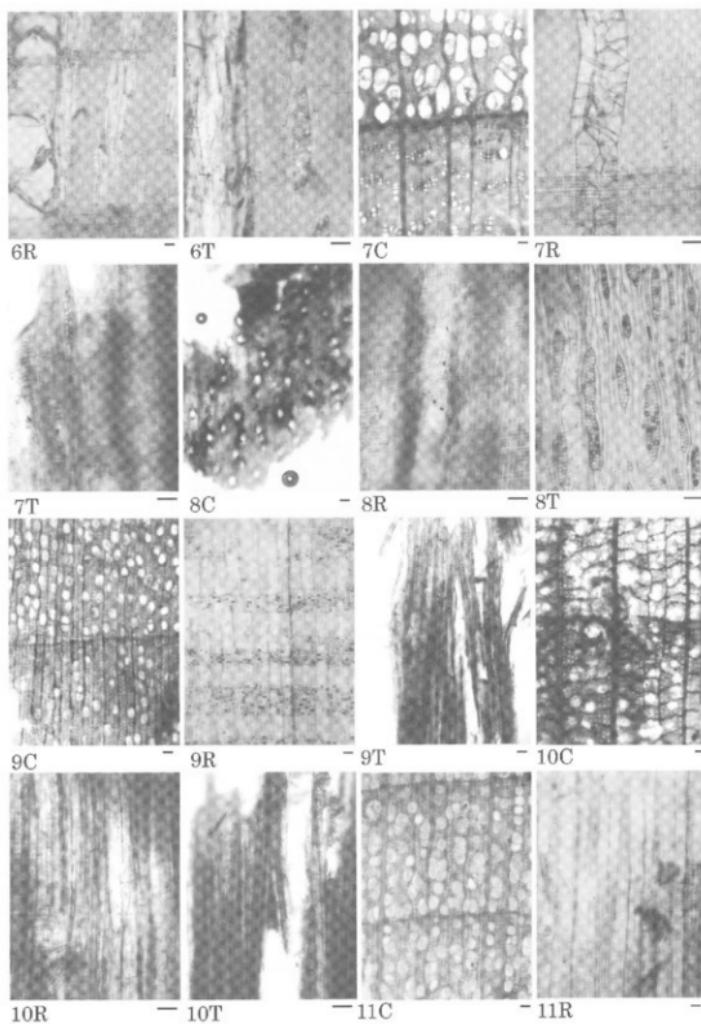
引用文献

山田昌久. 1993. 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究特別第1号. 植生史研究会. 1-244.

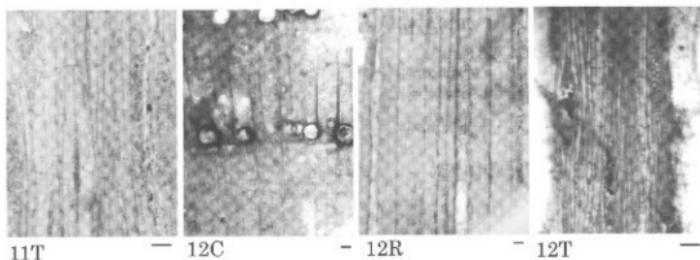


図版1 中嶋遺跡出土加工材の顕微鏡写真(1)

1.スギ(曲げ物蓋板W-26) 2.ヤナギ属(加工棒W-13) 3.イヌシデ節(木片W-17) 4.クリ
(木片W-12) 5.コナラ節(井戸枠外側b) 6.ケヤキ(井戸枠外側c)
C:横断面, R:放射断面, T:接線断面、スケールは0.1mm



図版2 中嶋遺跡出土加工材の顕微鏡写真(2)
6.ケヤキ(井戸枠外側) 7.ヤマグワ(井戸杭f-2) 8.カエデ属(木片W-5) 9.トチノキ
(木片W-3) 10.シナノキ(井戸枠外側j) 11.ミズキ(井戸枠外側e-2)
C:横断面, R:放射断面, T:接線断面、スケールは0.1mm



図版3 中嶋遺跡出土加工材の顕微鏡写真(3)
11.ミズキ(井戸枠外側e-2) 12.トネリコ属(井戸杭g)
C:横断面, R:放射断面, T:接線断面、スケールは0.1mm

3 AMS 測定

(株) 加速器分析研究所

(1) 遺跡の位置

中嶋遺跡は、岩手県花巻市東和町（北緯39° 22' 45"、東経141° 13' 16"）に所在する。

(2) 測定の意義

遺構の年代を明らかにするとともに、井戸枠構築材の転用の有無を判断するための根拠とする。

(3) 測定対象試料

測定対象試料は、SK01炭化物層から出土した炭化物（I : IAAA-72359）、SK03井戸枠内側から出土した木片（① : IAAA-72360）、SK03井戸枠外側から出土した木片4点（A : IAAA-72361、I : IAAA-72362、J : IAAA-72363、K : IAAA-72364）、合計6点である。

(4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80°C）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001 ~ 1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80°C）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80°C）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°Cで乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空中で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用して、真空ラインで二酸化炭素（CO₂）を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

(5) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹³C/¹²Cの測定も同時に実行する。

(6) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) ¹⁴C年代（Libby Age : yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、δ¹³Cによって補正された値である。
- 3) 付記した誤差は、複数回の測定値についてχ²検定が行われ、測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値、みなせない場合には標準誤差から求めた値が用いられる。
- 4) δ¹³Cの値は、通常は質量分析計を用いて測定されるが、AMS測定の場合に同時に測定されるδ¹³Cの値を用いることもある。δ¹³C補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。同位体比は、いずれも基準値からの差を千分偏差（‰；パーミル）で表した。
δ¹⁴C = [(14AS - 14AR) / 14AR] × 1000 (1)
δ¹³C = [(13AS - 13APDB) / 13APDB] × 1000 (2)

ここで、14AS：試料炭素の¹⁴C濃度：(14C/12C)Sまたは(¹⁴C/¹³C)S

14AR：標準現代炭素の ^{14}C 濃度： $(\text{I}^{14}\text{C}/\text{I}^{12}\text{C})\text{R}$ または $(\text{I}^{14}\text{C}/\text{I}^{12}\text{C})\text{R}$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度 ($\Delta^{13}\text{S} = \text{I}^{13}\text{C}/\text{I}^{12}\text{C}$) を測定し、PDB (白堊紀のペレムナイト類の化石) の値を基準として、それからの差を計算した。但し、加速器により測定中に同時に $\text{I}^{13}\text{C}/\text{I}^{12}\text{C}$ を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に(加速器)と注記する。

5) $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰) であるとしたときの ^{14}C 濃度 (14AN) に換算した上で計算した値である。(1) 式の ^{14}C 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$$14\text{AN} = 14\text{AS} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))$$

または

$$= 14\text{AS} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [(14\text{AN} - 14\text{AR}) / 14\text{AR}] \times 1000$$

6) pMC (percent Modern Carbon)は、現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合を示す表記であり、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、 ^{14}C 年代が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

7) ^{14}C 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

8) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv3.10較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001

Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。历年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。

(7) 測定結果

14C年代は、SK01炭化物層から出土した炭化物 (1 : IAAA-72359) が 1430 ± 30 yrBP、SK03井戸枠内側から出土した木片 (① : IAAA-72360) が 1330 ± 30 yrBP、SK03井戸枠外側から出土した木片4点が 1250 ± 30 yrBP (A : IAAA-72361)、 1230 ± 30 yrBP (I : IAAA-72362)、 1320 ± 30 yrBP (J : IAAA-72363)、 1300 ± 30 yrBP (K : IAAA-72364) である。

历年較正年代 ($1\sigma = 68.2\%$) は、1が $605 \sim 650$ AD、①が $650 \sim 700$ AD(57.2%)・ $750 \sim 770$ AD(11.0%)、Aが $680 \sim 780$ AD(60.8%)・ $790 \sim 810$ AD(7.4%)、Iが $710 \sim 750$ AD(16.3%)・ $760 \sim 870$ AD(51.9%)、Jが $650 \sim 700$ AD(53.3%)・ $740 \sim 770$ AD(14.9%)、Kが $665 \sim 715$ AD(46.2%)・ $745 \sim 770$ AD(22.0%)である。

試料の炭素含有率は、60%前後であり、化学処理および測定内容にも問題が無いことから、妥当な年代と考えられる。

参考文献

- Suiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

3 AMS 測定

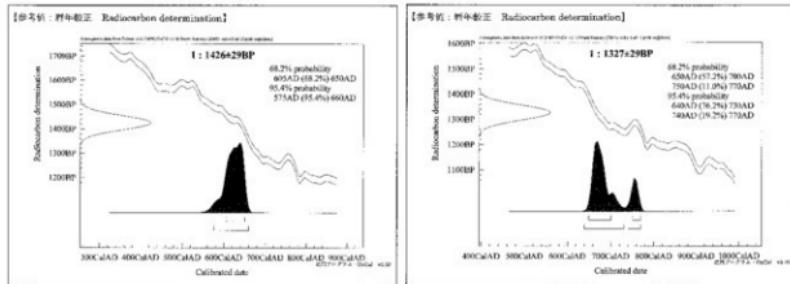
IAA Code No.	試 料	BP 年代および炭素の同位体比		
IAAA-72359 #2070-1	試料採取場所： 中島遺跡（岩手県花巻市東和町）	Libby Age (yrBP)	:	1,430 ± 30
	試料形態： 炭化物	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-26.54 ± 0.66
	試料名(番号)： I	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-162.7 ± 3.1
	(参考)	pMC (%)	=	83.73 ± 0.31
		$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-165.4 ± 2.9
		pMC (%)	=	83.46 ± 0.29
IAAA-72360 #2070-2	試料採取場所： 中島遺跡（岩手県花巻市東和町）	Age (yrBP)	:	1,450 ± 30
	試料形態： 木片	Libby Age (yrBP)	:	1,230 ± 30
	試料名(番号)： ①	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-27.76 ± 0.81
	(参考)	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-152.3 ± 3.1
		pMC (%)	=	84.77 ± 0.31
		$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-157.1 ± 2.7
IAAA-72361 #2070-3	試料採取場所： 中島遺跡（岩手県花巻市東和町）	pMC (%)	=	84.29 ± 0.27
	試料形態： 木片	Age (yrBP)	:	1,270 ± 30
	試料名(番号)： A	Libby Age (yrBP)	:	1,250 ± 30
	(参考)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-29.64 ± 0.62
		$\Delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-143.7 ± 3.5
		pMC (%)	=	85.63 ± 0.35
IAAA-72362 #2070-4	試料採取場所： 中島遺跡（岩手県花巻市東和町）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-151.8 ± 3.2
	試料形態： 木片	pMC (%)	=	84.82 ± 0.32
	試料名(番号)： I	Age (yrBP)	:	1,220 ± 30
	(参考)	Libby Age (yrBP)	:	1,230 ± 30
		$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-27.86 ± 0.52
		$\Delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-141.8 ± 3.3
IAAA-72363 #2070-5	試料採取場所： 中島遺跡（岩手県花巻市東和町）	pMC (%)	=	85.82 ± 0.33
	試料形態： 木片	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-146.8 ± 3.2
	試料名(番号)： I	pMC (%)	=	85.32 ± 0.32
	(参考)	Age (yrBP)	:	1,280 ± 30
		Libby Age (yrBP)	:	1,220 ± 30
		$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-28.02 ± 0.62

I AAA-72364 #2070-6	試料採取場所： 試料形態： 試料名(番号)： (参考)	中島遺跡(岩手県花巻市東和町) 木片 K $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	Libby Age (yrBP) $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) pMC (%) $\delta^{14}\text{C}$ (‰) pMC (%) Age (yrBP)	: 1300 ± 30 = -27.38 ± 0.74 = -149.4 ± 3.2 = 85.06 ± 0.32 = -153.6 ± 2.9 = 84.64 ± 0.29 = 1310 ± 30
------------------------	--------------------------------------	---	---	---

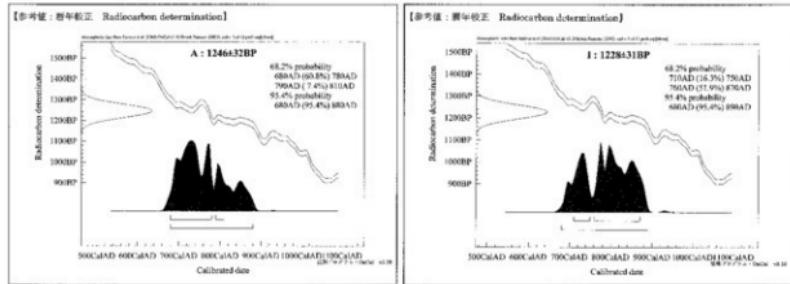
参考資料：曆年較正用年代

IAA Code No.	試料番号(仮番号)	Libby Age (yrBP)	出土地点		掲載番号
			SK01 2層(炭化物)	—	
I AAA-72359	1	1426 ± 29	SK01 2層(炭化物)	—	—
I AAA-72360	①	1327 ± 29	SK03 井戸内枠	内枠	—
I AAA-72361	A	1246 ± 32	SK03 井戸外枠	—	34
I AAA-72362	I	1228 ± 31	SK03 井戸外枠	—	43
I AAA-72363	J	1321 ± 29	SK03 井戸外枠	—	42
I AAA-72364	K	1300 ± 30	SK03 井戸外枠	—	44

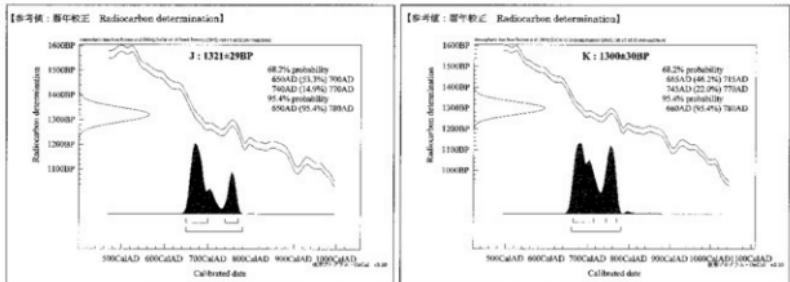
ここに記載する Libby Age (年代値) と誤差は下1桁を丸めない値です。



分析第1図 曆年校正（1）



分析第2図 曆年校正（2）



分析第3図 曆年校正（3）

4 出土漆の分析

1 はじめに

中嶋遺跡は岩手県花巻市に所在する。東北横断自動車道釜石秋田線の道路建設に伴う緊急発掘調査によって、平安時代の住居跡、土坑跡、溝跡、および井戸跡が検出された。土坑跡、溝跡、および井戸跡は調査区北東側の湿地において確認され、井戸跡からは平安時代に比定される「杯」と漆器が出土した¹⁾。

平安時代の漆器については出土例も乏しく、製作技法、とりわけ漆器の安定的製作に不可欠な下地調製技法については不明な点が多くみられる。漆器の普及に重要な役割を果たしたと推定される下地調製技法の一端を解明することを目的として、中嶋遺跡出土漆器の塗膜断面構造解析を実施した。以下に調査結果を報告する。

2 調査資料

調査資料は表1、および図1・2に示す2資料である。No.1(W-026)およびNo.2(W-027)とともに皿の一部で、No.1の表面には黒褐色から茶褐色、No.2の表面には黒色の塗膜が残存している。

3 調査試料の摘出

調査試料には保存処理の過程で摘出した塗膜片を用いた。試料の採取は資料の外観形状を損なうことのないよう細心の注意を払いながら医療用メスを使って行い、試料摘出部位は保存処理の過程で修復した。摘出した微小塗膜を乾燥後2分し一方は組織観察に、もう一方は赤外分光分析に供した。

4 調査方法

組織観察用試料は塗膜断面が観察面となるようエボキシ樹脂に埋め込み、エメリーペーパーおよびダイヤモンドペーストを使って研磨した。研磨面を検鏡後、No.1については上塗層および下地構成鉱物相を、No.2については上塗層を、エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザ(EPMA)で分析した。摘出したもう一方の試料はメノー乳鉢で粉砕し、KBr錠剤にした後、赤外分光分析に供した。

5 調査結果

5-1 No.1およびNo.2の塗膜断面構造

図1b1はNo.1(図1a1・a2)から摘出した試料のEPMAによる反射電子組成像(BEI)である。木胎のうえに微細粒子を含む樹脂を塗り、その上に上塗りが施されている。下地層および上塗層にはいたるところに空隙がみられる。図1b1領域(Reg.1)内部の反射電子組成像(図1c1)およびc1の枠で囲んだ内部の反射電子組成像(図1c2)には、輝度の高い微細な粒子①および灰色粒子②が点在している。EPMAによる定性分析結果によると、微細粒子①には高濃度の鉄(Fe)および酸素(O)、微量のニッケル(Ni)、クロム(Cr)、およびケイ素(Si)が含有されている(図1c3)。微細粒子②からはFe、Si、およびOが検出されている(図1c4)。上塗りおよび下地に使用された樹脂は炭素(C)を主成分とし、少量の塩素(Cl)、Fe、およびSiが含有されている(図1c5)。

木胎の上には微細粒子が混在する下地層が塗布されている(図1b1)。EPMAによる定量分析(表2)によつて、微細粒子(図1d1-d6)は火山ガラス片(GI)、单斜輝石(Cpx)、角閃石(Hbl)、斜長石(Pl)、および石英(Qtz)と判定された²⁾。

図2b1はNo.2(図2a1・a2)から摘出した試料のマクロ組織である。木胎の上に黒褐色の樹脂が直接塗布されている。EPMAによる反射電子組成像によると、樹脂は主として灰色領域と暗灰色領域からなる(図2c1)。前者は高濃度のFe、Si、およびO、微量のカルシウム(Ca)、カリウム(K)、アルミニウム(Al)、およびイオウ(S)を(図2c2)、後者はCを主成分とし、微量のFe、Si、アルミニウム(Al)、Ca、K、S、およびClを含有する(図2c3)。

5-2 No.1およびNo.2の赤外分光分析結果

図3a1および3b1はそれぞれNo.1およびNo.2から摘出した塗膜の赤外分光分析結果である。いずれにも3700-3400cm⁻¹にプロードなO-H伸縮振動、2925cm⁻¹付近および2855cm⁻¹付近にメチルまたはメチレン基によるC-H伸縮振動、1635cm⁻¹付近にはC=O伸縮振動(芳香環によるC=C伸縮振動を含む)と推定されるピークが観察される。他に1420cm⁻¹付近、1268cm⁻¹付近、1072cm⁻¹および1033cm⁻¹付近にもピークがみられる。これらは漆のピークとほぼ合致する(Kumanotani et al. 1979)。

No.1およびNo.2にはいずれも漆が塗布されている。No.1は木胎の上に火山灰を主体とする砂状物質を混和した漆を塗布し木胎表面を平滑にした後、微細な酸化鉄を含む物質を混和した漆を塗布して仕上げている。当該資料表面が茶褐色を呈するのは、上塗に使用された微細酸化鉄に起因する。No.2は木胎のうえに直接漆を塗って製作されている。使用された漆にはSi、Fe、およびOを主成分とする物質が混和されていた可能性が高い。さらにS、Ca、K、およびAlが検出されていることから、上記に加え他の物質が混和された可能性をも考えることができる。その場合、塗膜の硬化促進を目的として使用された可能性があるが、この点については類例の蓄積を囲り吟味する必要がある。

No.1およびNo.2の製作技法には火山灰を混和した下地調製実施の有無という点で明瞭な差異がある。製作された地域が異なっていた可能性があることを示している。No.1の下地調製に使用された火山灰、とりわけ火山ガラスの化学組成は火山灰の採取地域を示す重要な情報を有している。今後、下地に火山灰が使用された他の漆器の調査が進み、天然に産出する火山ガラスの化学組成上の対比が進めば、漆器の分類と製作地域を推定するうえでの重要な情報が得られるものと期待される。

注

- 1) 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター・中村絵美氏からのご教授による。
- 2) 混在鉱物の判定は岩手大学教育学部・土谷信高教授による。

引用文献

Ju Kumanotani, Muneo Achiwa, Ryuichi Oshima, and Kimikazu Adachi, 'Attempts understand Japanese lacquer as a spreadable material': International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property, Tokyo National Research Institute of Cultural Properties (1979)51-57.

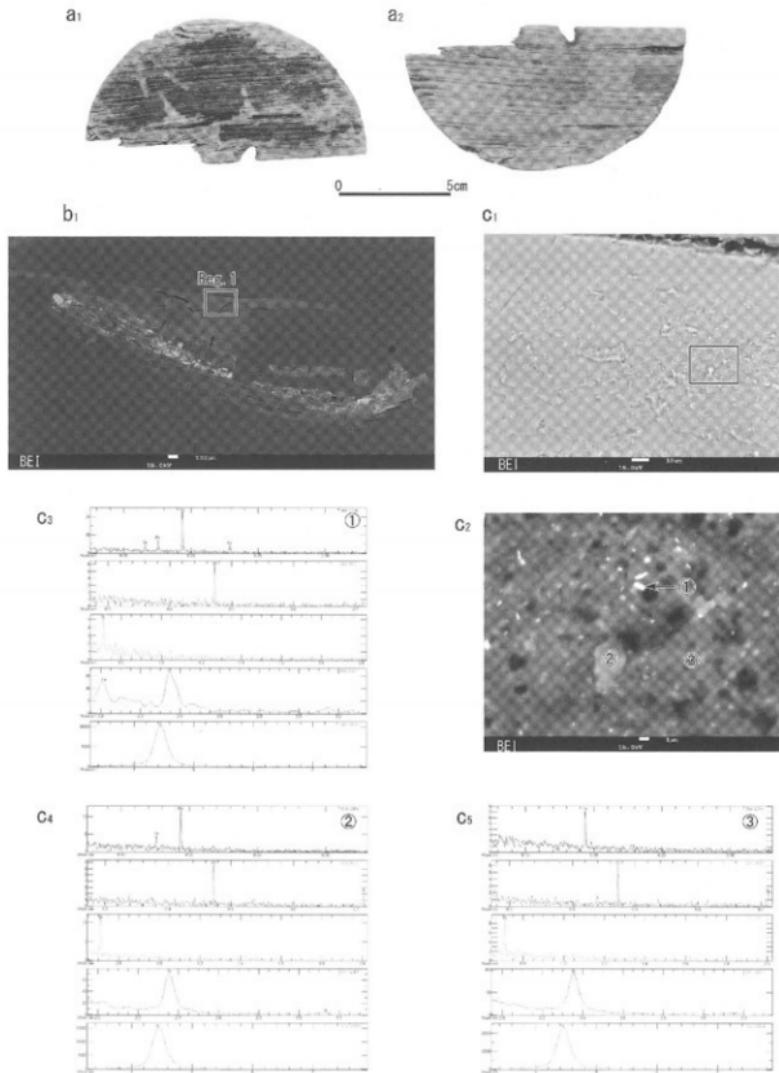


図1(1) No.1の組織観察結果

a₁・a₂: 外観。b₁: 指出した試料のEPMAによる反射電子組成像(BEI)。c₁・c₂: それぞれb₁およびc₁鉢内部の反射電子組成像。c₃・c₅: c₂①-③のEPMAによる定性チャート。

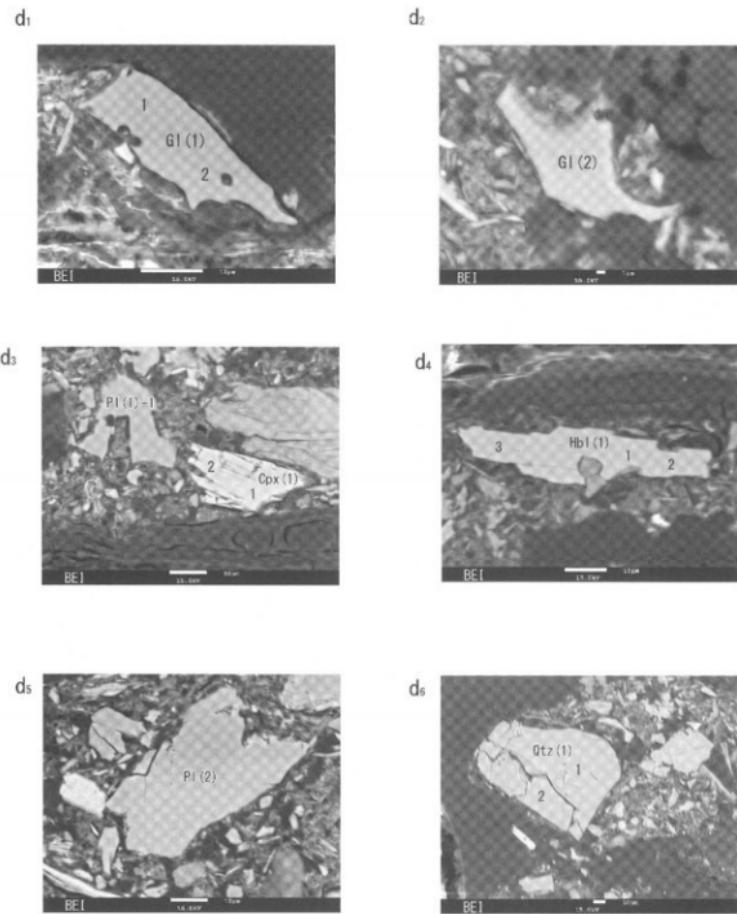


図1(2) No.1の組織観察結果

d₁-d₆: 下地に見出された鉱物のEPMAによる反射電子組成像(BEI)。Gl=火山ガラス、Pl=斜長石、Cpx=単斜輝石、Hbl=角閃石、Qtz=石英。

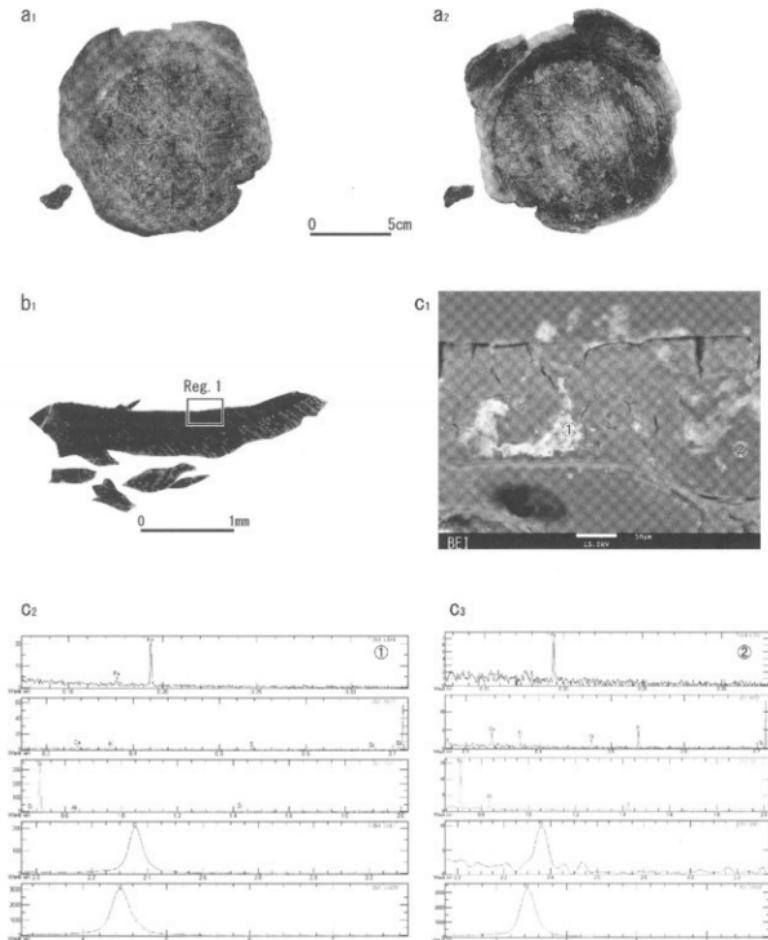


図2 No.2の組織観察結果

a₁・a₂: 外観。b₁: マクロ組織。c₁: b₁の領域 (Reg. 1) 内部の EPMA による反射電子組成像 (BEI)。
c₂・c₃: c₁①・②の定性チャート。

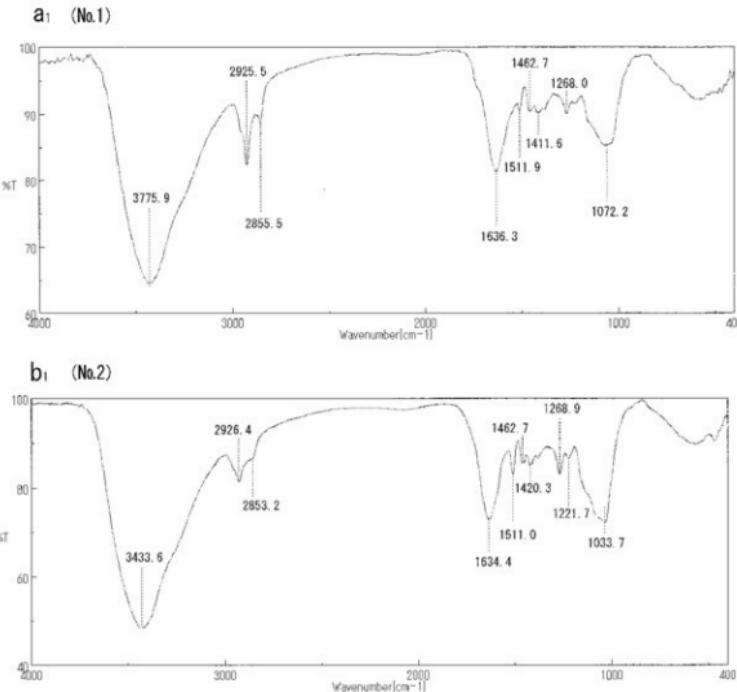


図3 No.1およびNo.2の赤外吸収スペクトル。

測定はkBr錠剤法による。

表1 調査資料の概要

No.	資料名	検出場所	層位	掲載番号	推定期
1	墨破片	SK03	提方上部	55	平安時代
2	墨破片	SK03	木枠内砂層	57	平安時代

*No.は分析番号、資料名、検出場所、層位、資料番号、および時期は岩手県埋蔵文化財センター・牛村鉢美氏による。

表2 下地層に見出された鉱物相のEPMAによる定量分析結果

Spot	図	化学成分 (mass %)											合計	
		MgO	SiO ₂	CaO	V ₂ O ₅	ZrO ₂	MnO	Na ₂ O	Al ₂ O ₃	P ₂ O ₅	K ₂ O	TiO ₂		
G(1) 2	図1(2)d ₁	0.48	75.8	2.44	0.02	0.05	0.13	0.17	13.1	<0.01	1.22	0.46	2.04	95.96
	図1(2)d ₂	0.54	76.0	2.45	<0.01	0.02	0.09	0.14	13.1	0.05	1.14	0.46	2.36	96.35
G(2) 1	図1(2)d ₁	0.51	77.0	2.50	<0.01	<0.01	0.13	0.17	13.5	0.05	1.13	0.50	2.44	97.92
	図1(2)d ₂	<0.01	57.8	8.29	0.05	0.09	<0.01	6.11	26.5	<0.01	0.23	<0.01	0.31	99.37
P(1) 1	図1(2)d ₁	14.7	50.1	12.0	0.17	<0.01	0.55	0.63	4.85	<0.01	0.34	0.50	13.5	97.31
	図1(2)d ₂	15.4	51.5	12.5	0.07	<0.01	0.63	0.49	4.10	<0.01	0.26	0.44	12.7	98.11
Cp(1) 2	図1(2)d ₁	8.41	47.1	12.0	0.05	0.01	0.24	0.56	7.26	<0.01	0.43	0.34	22.0	98.36
	図1(2)d ₂	7.61	46.8	12.1	<0.01	<0.01	0.31	0.66	8.55	<0.01	0.57	0.42	22.3	98.35
P(2) 1	図1(2)d ₁	<0.01	59.7	6.8	0.14	0.00	0.00	7.17	24.25	<0.01	0.36	0.05	0.62	99.11
	図1(2)d ₂	<0.01	99.6	<0.01	<0.01	0.06	0.03	0.01	<0.01	<0.01	0.03	0.10	99.89	
Qtz(1) 2	図1(2)d ₁	<0.01	98.2	<0.01	<0.01	0.01	0.02	<0.01	0.05	0.01	0.02	<0.12	98.45	

VII 調査のまとめ

1 平成19年度調査

前章で述べた通り、検出した遺構は古代に属するものが主体である。調査区は遺跡の北側に位置しており、全体が周辺よりやや低く湿地状態である。このため、全体的に平安時代の遺物を含む層が広がっており、この層には多くの有機質の遺存体が多くみられた。

また、北西の一角では平安時代の井戸を検出した。この井戸は一本の大木（ケヤキ）を割り抜いた井戸枠が設けられたものである。内部からは平安時代（9世紀代）の土器がまとめて出土しており、この時代の井戸であることが判明した。この時期の井戸の検出例は少なく、貴重な調査例として注目される。同時に、この井戸枠は良好な状態が保たれており、井戸枠が残存する例も類例が少なく、さらに一本の丸太を割り抜いた例となると大変貴重なものと言えよう。

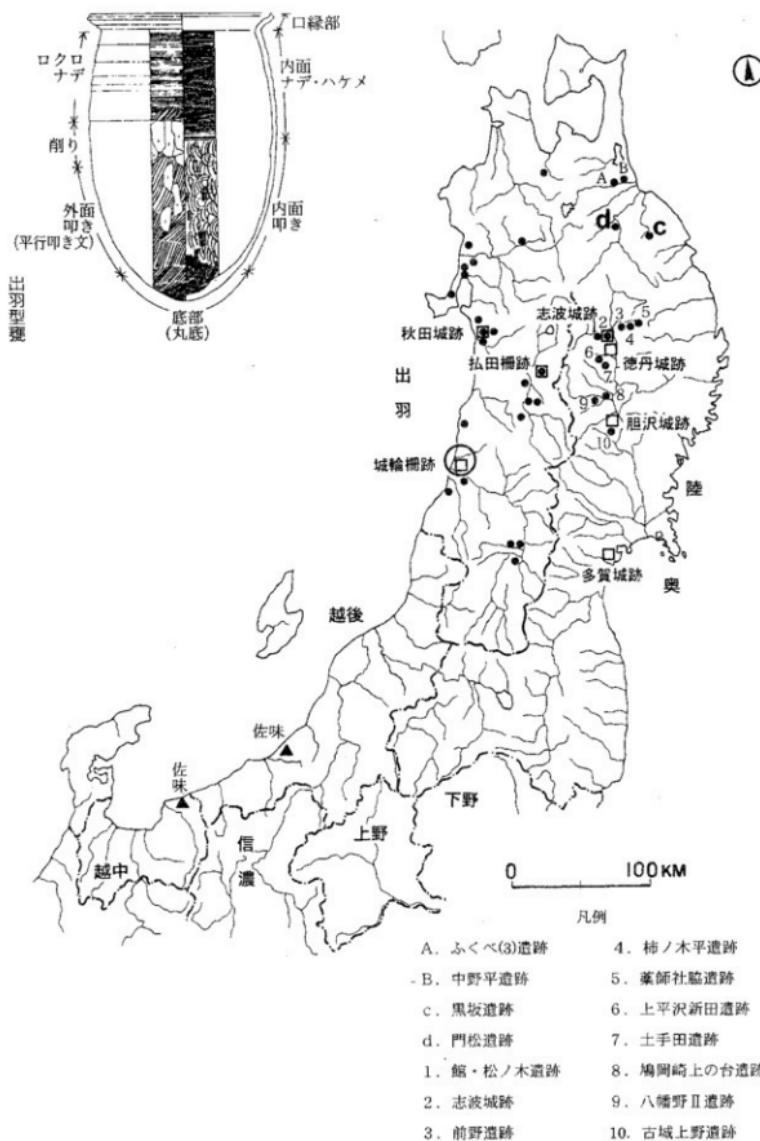
この井戸の検出された低地部分は井戸以外に時期不明の溝などがみられるが、井戸と同じ時期の堅穴住居等はみられない。この調査区は集落内ではあるが、住まいはなく井戸を中心とした水場であったと考えられる。

出土した遺物はいずれも9世紀代のものが主体である。遺物は大半が包含層からの出土であるが、形状を留めた土器類も多くみられた。土器は土師器・須恵器からなり、土師器は壺や甕、須恵器は壺や壷蓋類である。この中で特徴的なものは、土師器甕の中に一定量、内外面にタタキの痕跡が認められ、丸底のものが存在していることが判明した。これらは、北陸地方から東北地方の日本海側で主張的に出土する甕の特徴であり、岩手県では志波城や北上川流域の拠点的な集落、あるいは秋田県と接する地域で出土する傾向にある。また、1点であるが出羽でみられる把手付きの土器の把手部分も出土している。これも出羽でしばしば類例がみられる土師器である。この中島遺跡は、古代において出羽と接する和賀郡内であると考えられるが、北上川よりも東に位置しており出羽と接している地域とは言い難い。しかしながら、この地域における拠点的な集落であったものとみられる。これは検出された井戸からも想像できる。

2 平成20年度調査

前節で述べた平成19年度調査区南側に隣接する調査区であるが、平成19年度調査区より連続する低地部分のわずかと、これよりもやや高い微高地部分に該当する。低地部分は前年度調査同様の包含層が確認された以外に遺構は認められなかった。

一方、これより南側では、堅穴住居等の遺構が検出された。集落を構成する建物の遺構としては、堅穴住居が12棟、掘立柱建物1棟が検出された。これらは、いずれも奈良～平安時代のものであるが、大半が平安時代を中心とするものである。堅穴住居はすべて方形を基調とし、調査区内に横たわる帶状の微高地に占地している。全体的に近現代の削平を受けているエリアであるため、遺構の残存状況は必ずしも良いとは言えないが、この帯状に延びる微高地部分が平安時代（9世紀代）の居住域であったと考えられる。検出された堅穴住居の軸方向は一定ではなく、カマドの位置も北、東が多いものの厳格な規則性は認められない。また、大半の堅穴住居のカマド脇で、土坑状に掘り込まれた施設が確認された。これは方形である堅穴住居の平面形態を大きく損なう程の大きさで、そのためかカマドは



第79図 出羽型窯の分布（伊藤2005より合成、転載）

一辺の壁中央ではなく、この土坑を避けるように中央からやや逸れている。検出当初はこれら土坑が堅穴住居埋没後に掘り込まれ、その結果として堅穴住居の平面形態の一角が失われたものと想定していたが、断面の観察から堅穴住居と時間差が考えられない状況が認められた。カマドに近接する土坑はこの時代に県内各地の堅穴住居で認められるが、このように大形のものは少数であると考えられる。したがって、このような形態は地域的な特徴と考えられる。また、旧東和町内で検出される堅穴住居には同じような形態の特徴が認められるようである。このカマド脇の土坑内には土器や炭化物などが多く認められることも特徴の一つである。土坑の機能については不明であるが、堅穴住居内において利用される施設だったと考えられる。

次に、堅穴住居以外で注目される遺構は、掘立柱建物である。調査区内で検出されたものは1棟のみだが、堅穴住居の分布するこのエリアで併存するものとみられる。柱穴からは遺物が出土しなかつたが、周辺の遺構の配置などを考慮して堅穴住居とはほぼ同時期と考えたい。柱の平面配置は1間×1間の総柱形式である。このような特徴を有する掘立柱建物は、県内の古代集落において検出例が増加しており注目される。また、このような掘立柱建物を有する集落は拠点的な集落で、周辺集落を統括するような中心的な役割を果たしたとみられる場合が多く、この遺跡もその可能性が指摘できる。特に、1間×1間の総柱建物はしばしば穀倉とみられるものもあり、その点においても注目される。

出土遺物の主体は、土師器および須恵器からなる古代の土器である。奈良時代の1棟を除きすべて平安時代に属する。大半が堅穴住居より出土したが、包含層にも同時期の遺物が認められた。

包含層出土の土器群には須恵器坏がまとまって出土する地点がある。この地点は調査区東側であり、ここから出土する須恵器坏は形態的、色調的にまとまつた一群であり、同一の窯内で焼成されたまとまりである可能性が高い。また、これらの底部にはほとんどすべて横一文字の崩書が認められる点も注目される。また、これら須恵器坏は灰白色を呈し、底部は回転糸切り後無調整であるが、底部径はやや大きく堅穴住居出土の土器よりもやや古い形態を有し、9世紀中頃のものとみられる。これら須恵器坏には使用された痕跡が認められず、須恵器坏を一括して廃棄された可能性が考えられる。このような状況から同一の窯で生産された須恵器坏による祭祀行為が想定される。遺構として掘り込みを有する可能性は低いが、湿地帯と微高地の境界において何らかの祭祀による一括廃棄であると考えられる。

包含層出土遺物のなかに特徴的な須恵器の壺の破片が出土している点も看過できない。これは須恵器壺（広口のものか）の口縁部に窯壁あるいは窯体の一部が付着したまま冷えて固まった状態のものである。このようなものが集落の居住域付近で出土する例がなく、この意味については解釈に窮する。この個体は須恵器という製品からみた場合、口縁内部が窯壁で塞がれている以上、使用することができないわば不良品である。しかし、現実は居住域ほど近くで出土していることを考えると、須恵器を焼成する窯より持ち出されたものであると考えられる。持ち出し方については直接的な持ち出しと間接的な持ち出しが考えられるが、ここでは不明確である。特に、この集落は沖積層の広がる平野部の真ん中に位置し、先述した通り低湿地部分が広がるくらい低く、丘陵斜面を用いて構築される須恵器窯がここから手の届く位置にあるとはとうてい考えられない。では、なぜこのような焼成不良品が窯のある生産域から持ち出され、集落へもたらされたのであろうか。現時点では明快な回答は難しいが、言及できることは、少なくともこの集落に須恵器窯に密接に関係する人が出入りしていた、ということである。旧東和町内を含め周辺では須恵器窯は未発見であるが、未見の窯が周辺にあるのか、あるいは少し遠方の既知の窯から持ち込まれたものは判明しない。ちなみに古代和我郡内には北上市相去窯などが現在知られている。

これも包含層出土であるが、土師器壺の破片に焼成前の刻書で「寺智」の文字がみられるものが出土している。この2文字は流麗な筆致で書かれており、即識字層の手によるものであることが断定できるものである。2文字に続けてもう一文字書かれている可能性があるが、書き手が勢い余って付いてしまった傷なのか、文字の一画なのかは判断できない。しかし、上記の2文字のみでは意味が通じないため、後者である可能性が高いと考えられ、「寺智口」となる可能性が高い。また、「寺」字の上にも文字が書かれている可能性も考えられ、「～寺智口」という可能性も考えられる。しかしながら、これに続く破片はみつかっていない。この2文字の意味を探ることは容易ではないが、いずれも仏教的な意味合いのある文字である。寺院などと直接繋がるかは不明である。しかし、何らかの関連があるかもしれない。また、推測の域を出ないが、字面からは地名や人名など固有名詞である可能性も高い。これらの文字が記されたタイミングが土器の焼成前であることから焼成前の土器に識字層が触れる機会があったことを示す貴重な例である。ちなみに、このような複数文字書かれた刻書土器はこれまで類例がないと考えられ、非常に貴重な資料であると思われる。

以上のように、この中嶋遺跡の平安時代集落はきわめて特殊な遺物を多く有することから、特殊な性格の構成員を内包している可能性が高い。この地域では古代集落の検出例が僅少であるがゆえに、この特異性を頂上に上げ吟味することは難しいが、地域内における拠点的な位置付けを想定せざるを得ない。

3　まとめ

最後に、この中嶋遺跡を概観すると、この遺跡は沖積平野の中に立地する9世紀を中心とする古代の集落遺跡である。集落内は地形的特徴から微高地エリアと微低地エリアに分けることができ、微低地エリアは井戸を中心とする水場としての役割、微高地エリアは集落の中心的役割を果たす居住エリアとなっている。当時の土地利用や集落における土地、地形の利用法が明確にわかる良い例である。この集落の規模は不明ながら同じような地形が連続する範囲に広がっているものと考えられる。集落は一見すると竪穴住居を中心とするごく普通の集落であるが、微低地に非常に大形の井戸を有し、微高地に掘立柱建物を有することからこの地域の拠点的な集落であったものと考えられる。また、出土遺物からもその拠点的性格は認められる。これは、他地域の特徴を有する土器の保有、須恵器窯との密接な関係性を示す土器の保有、識字層と関わりがあるとみられる刻書土器の保有などである。

この地域では古代の集落様相が兎明にわかる調査例が少なく、今回の発掘調査によりこの地域の古代の集落の一様相が判明したことは大変意義深いと考えられる。

引用参考文献

伊藤博志 2006 「古代東北堀二廻一強奥型窯と山羽型窯ー」『第3回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』

写 真 図 版



全景（東から）



全景（北西から）

写真図版1 全景

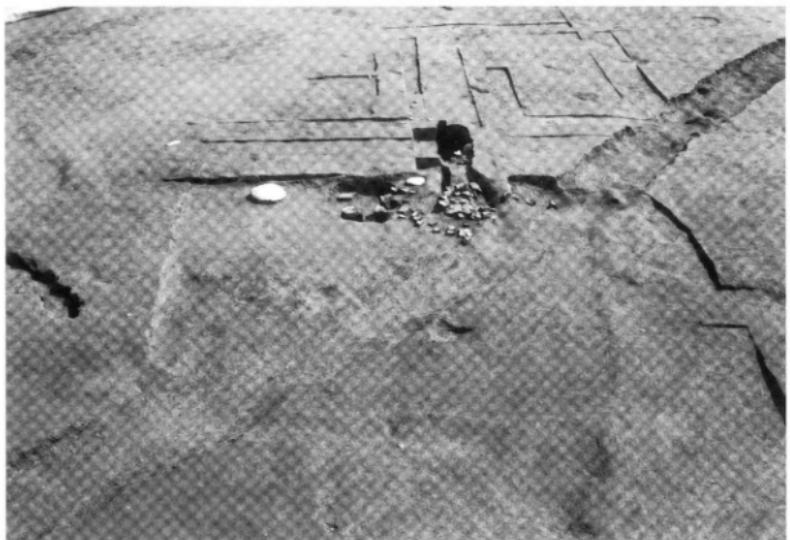


調査前（南西から）



湿地（北西から）

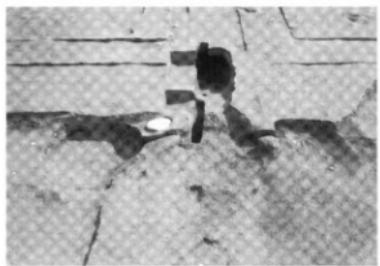
写真図版2 調査前・湿地



全景（西から）



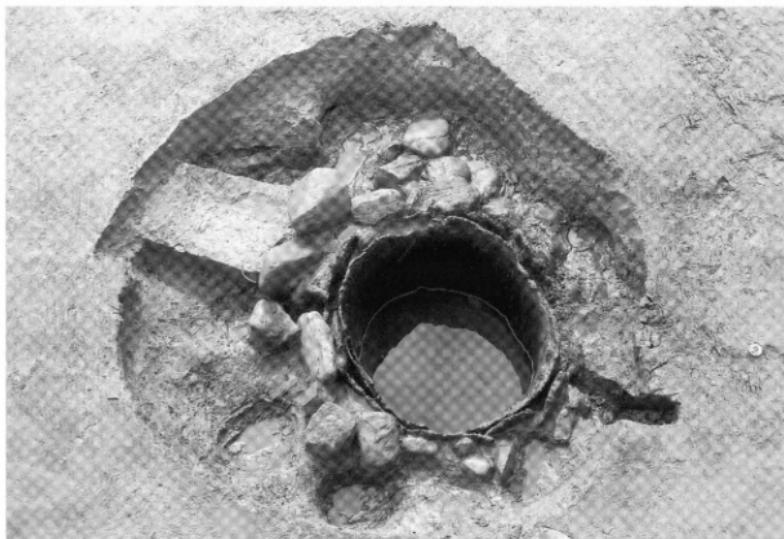
断面（西から）



カマド全景（西から）



遺物出土状況（西から）



全景（東から）



断面（東から）



断面（南東から）



井戸縁内土器出土状況（東から）



井戸検取り上げ状況（南東から）

写真図版4 SK03



SK01全景（西から）



SK01断面（北東から）



SK02全景（西から）



SK02断面（南西から）



SK04全景（南から）



SK04断面（南から）



SD01・03全景（南から）

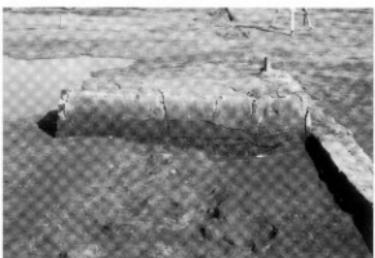


SD01・03断面（北から）

写真図版5 土坑・溝跡 (1)



SD02全景 (西から)



SD02断面 (西から)



SD04全景 (南から)



SD04断面 (北から)

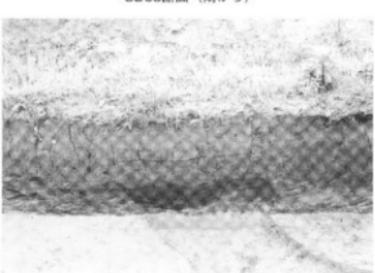


SD05全景 (南から)

SD05断面 (南から)

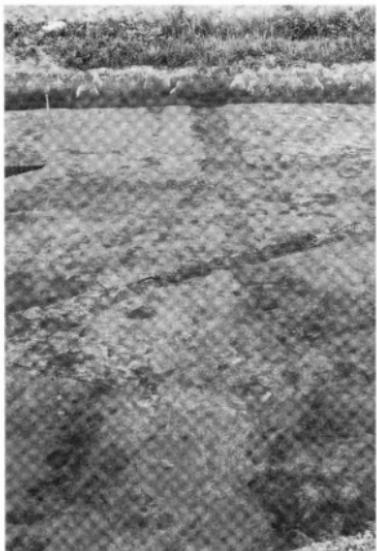


SD05全景 (南から)

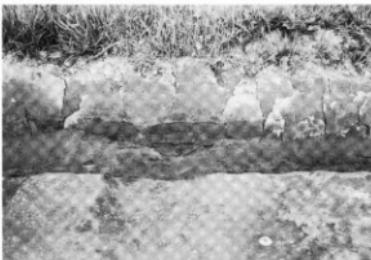


SD05断面 (北東から)

写真図版6 溝跡 (2)



SD07・08全景 (南西から)



SD07・08断面 (南から)



湿地全景 (西から)



SD09全景 (南から)



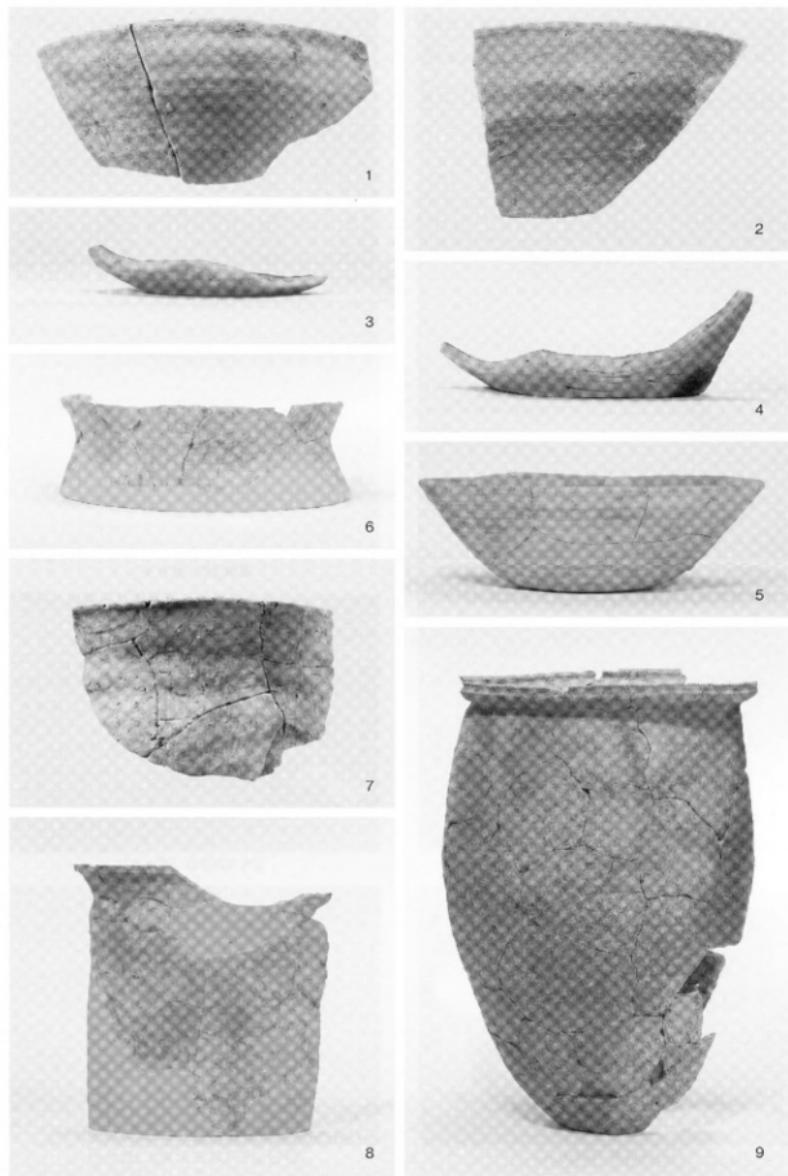
湿地作業風景 (東から)



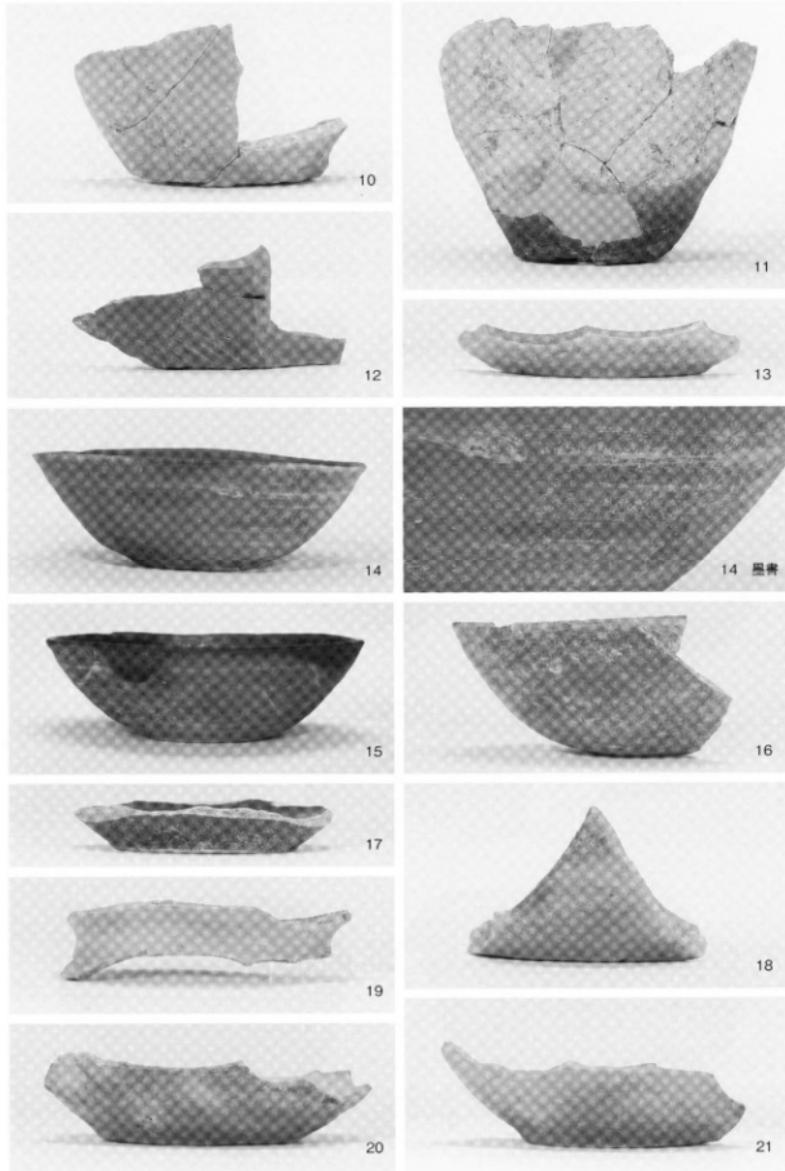
SD09断面 (南西から)



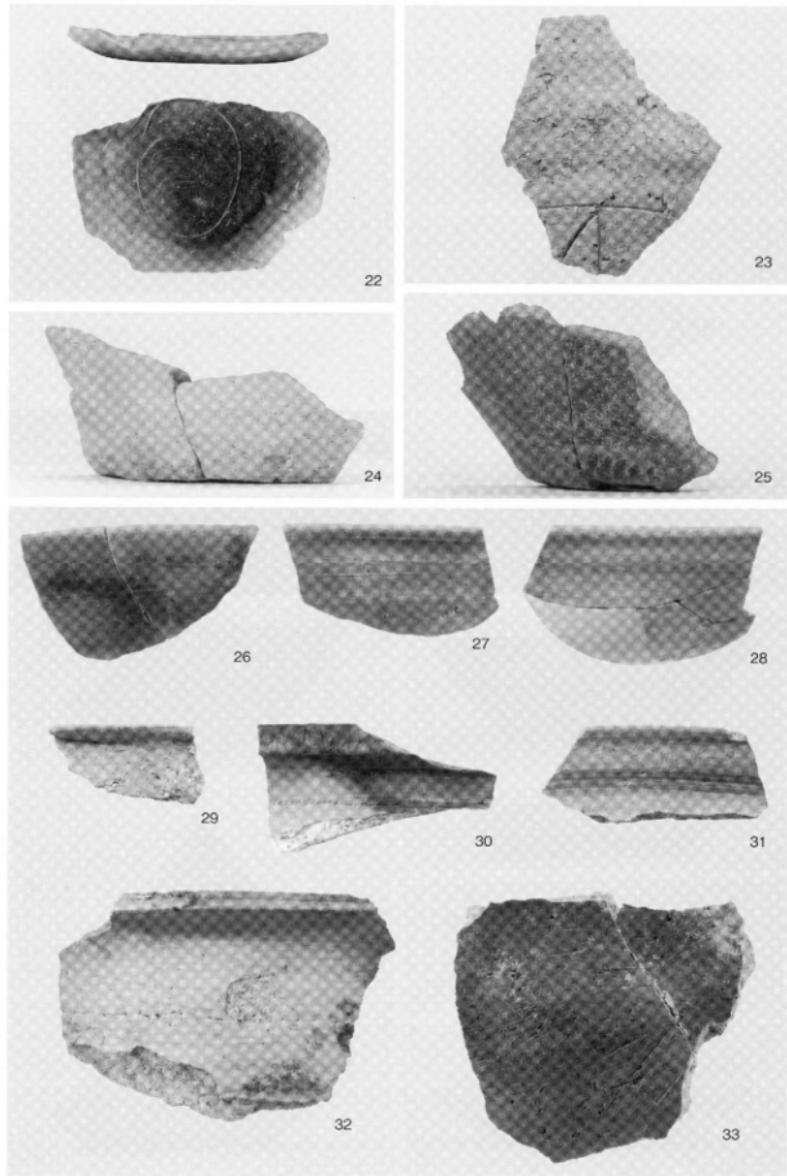
湿地土鈴出土状況 (186) (東から)



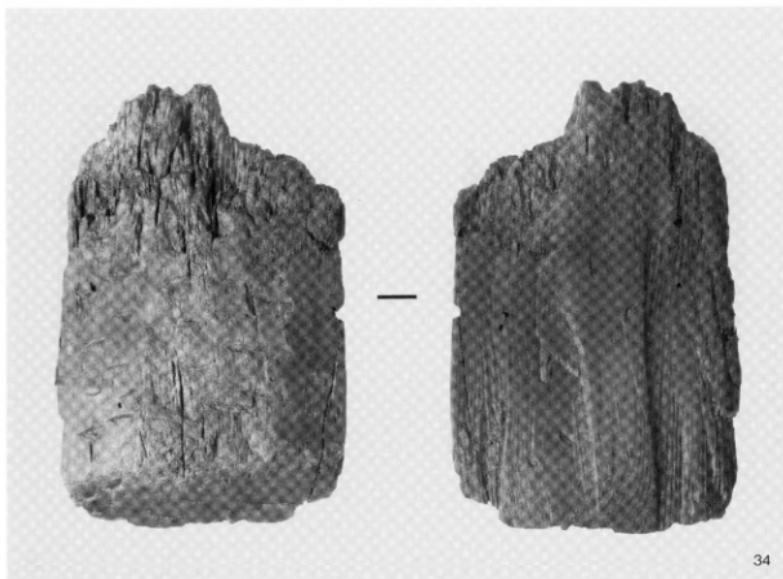
写真図版8 出土遺物 (1)



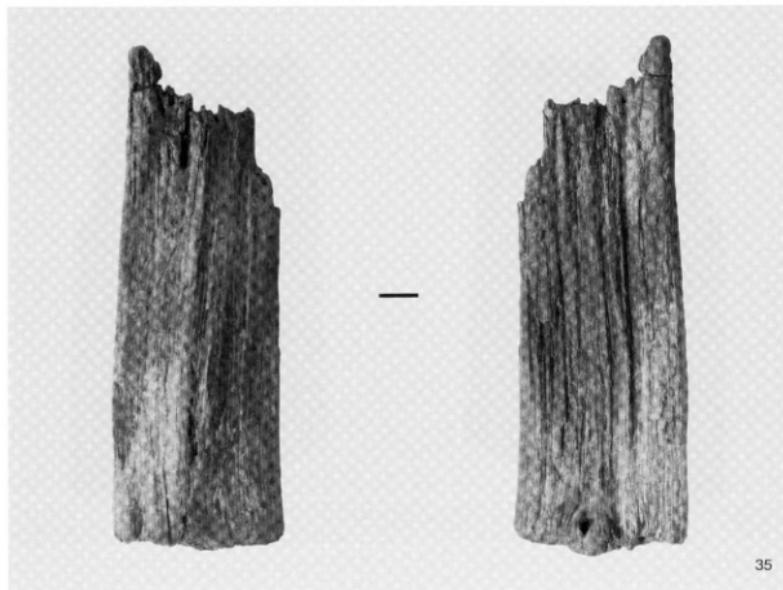
写真図版9 出土遺物(2)



写真図版10 出土遺物 (3)

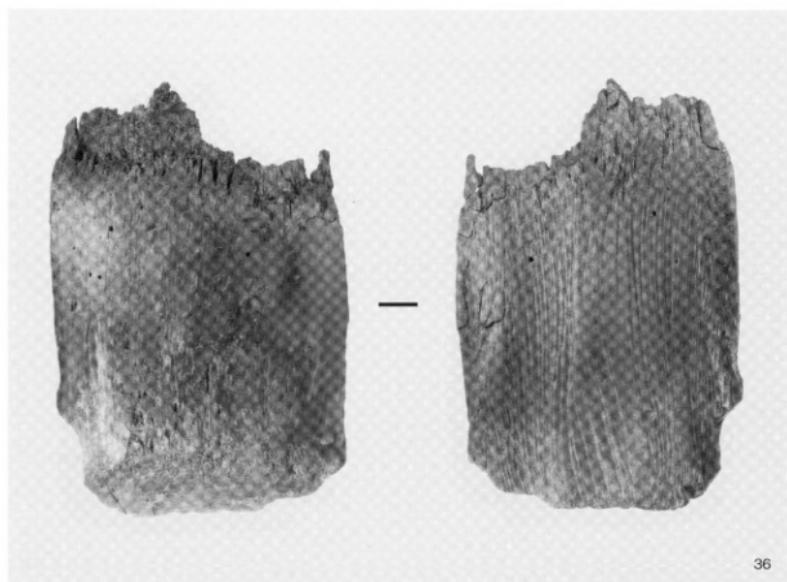


34

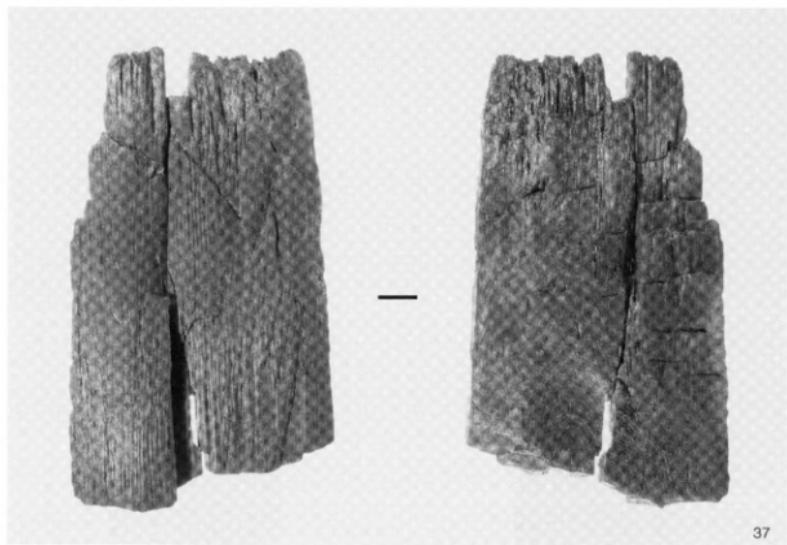


35

写真図版11 出土遺物 (4)

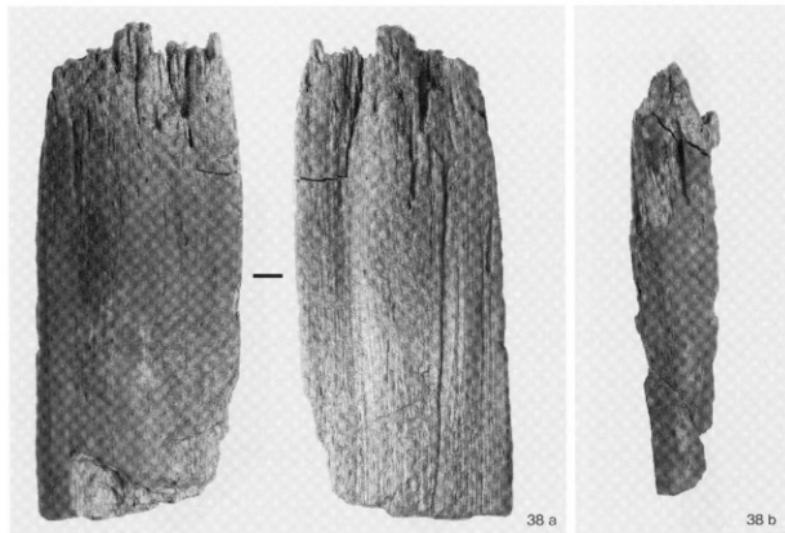


36



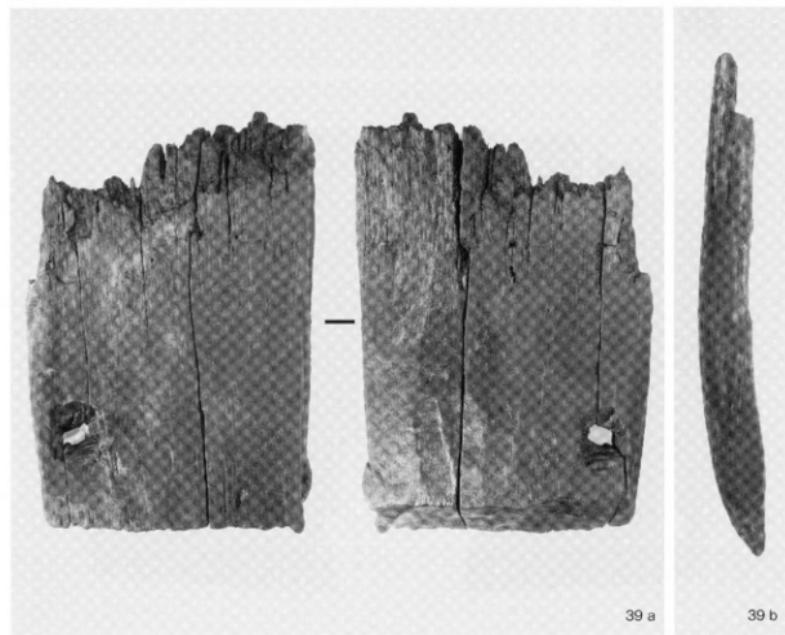
37

写真図版12 出土遺物（5）



38 a

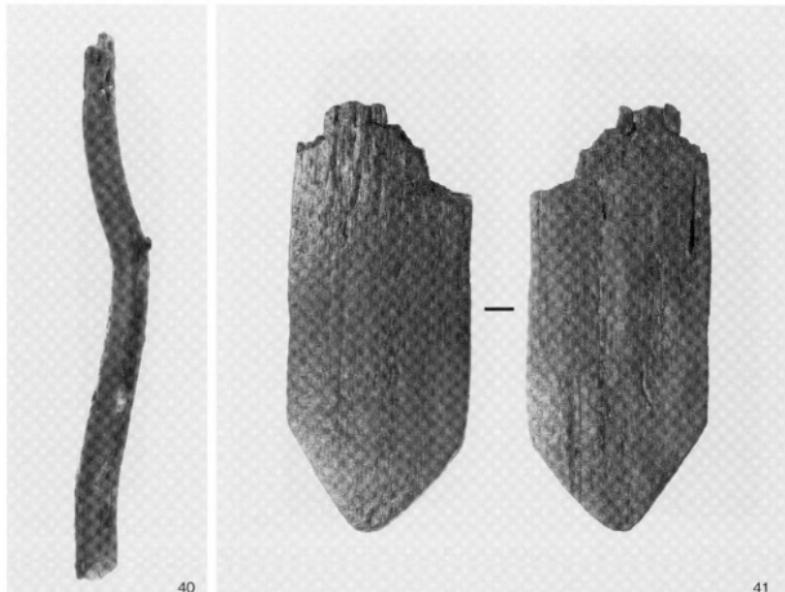
38 b



39 a

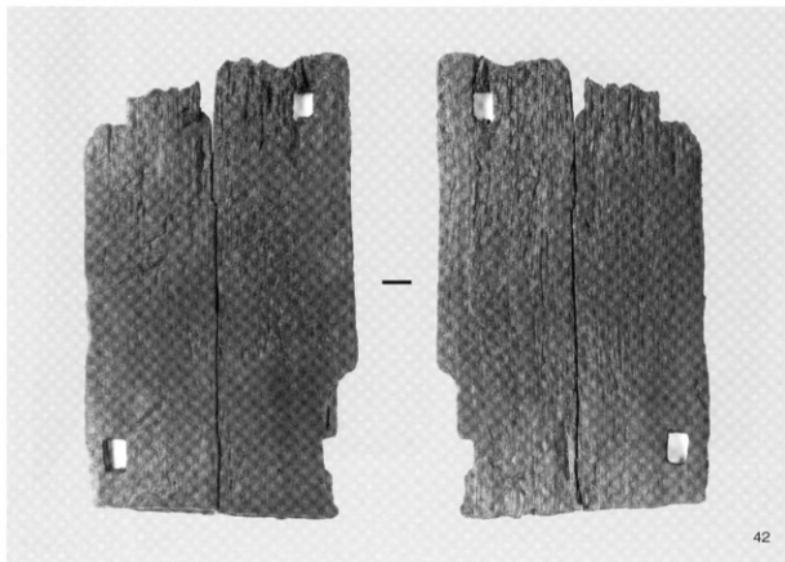
39 b

写真図版13 出土遺物 (6)



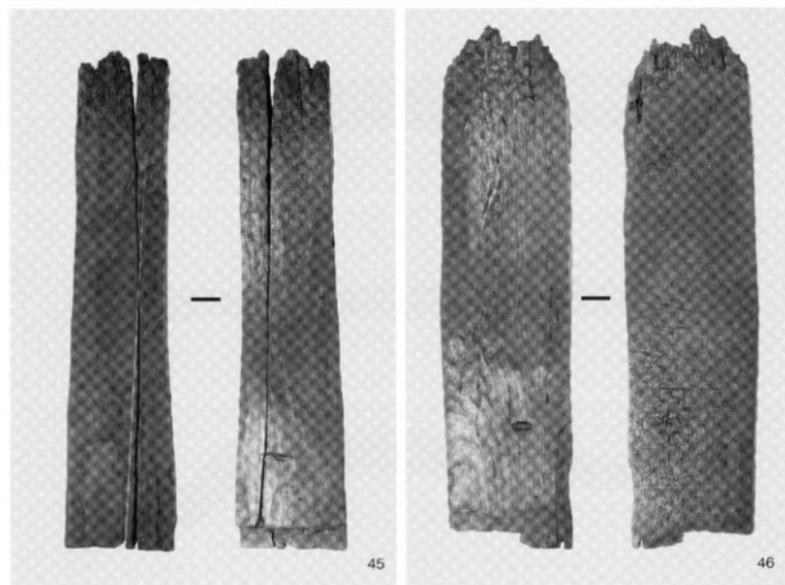
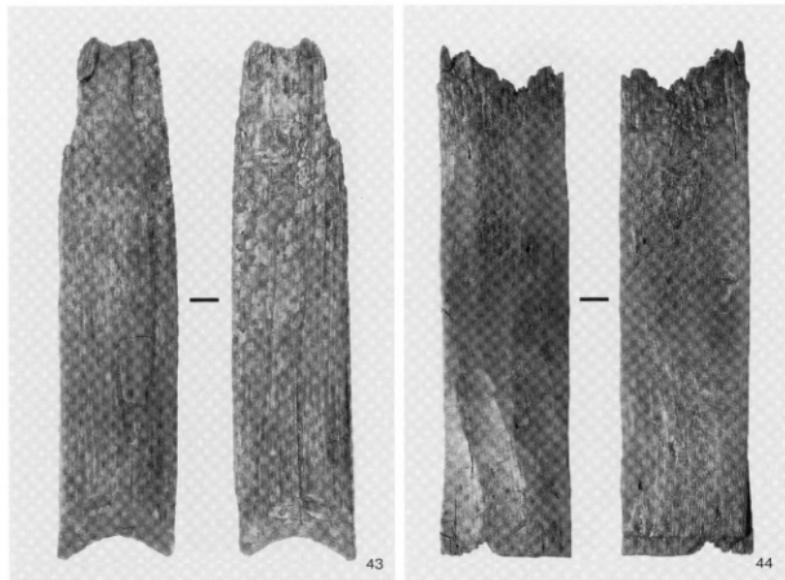
40

41

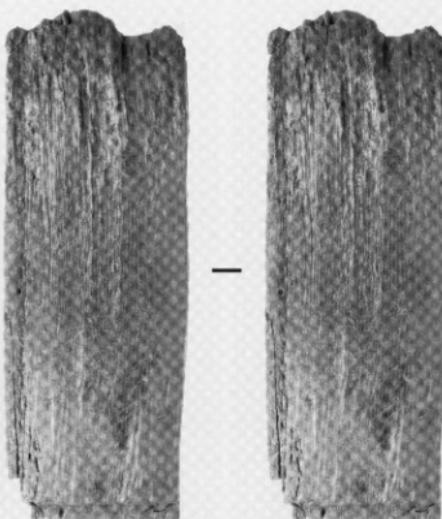


42

写真図版14 出土遺物（7）



写真図版15 出土遺物 (8)



47



48

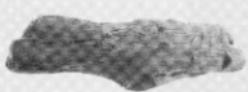


49



50

写真図版16 出土遺物（9）



51



52



53



54

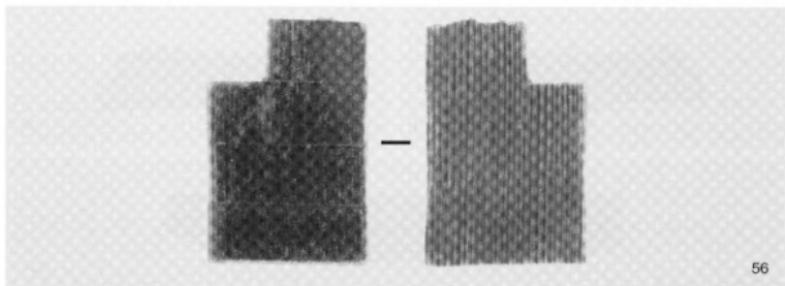


—

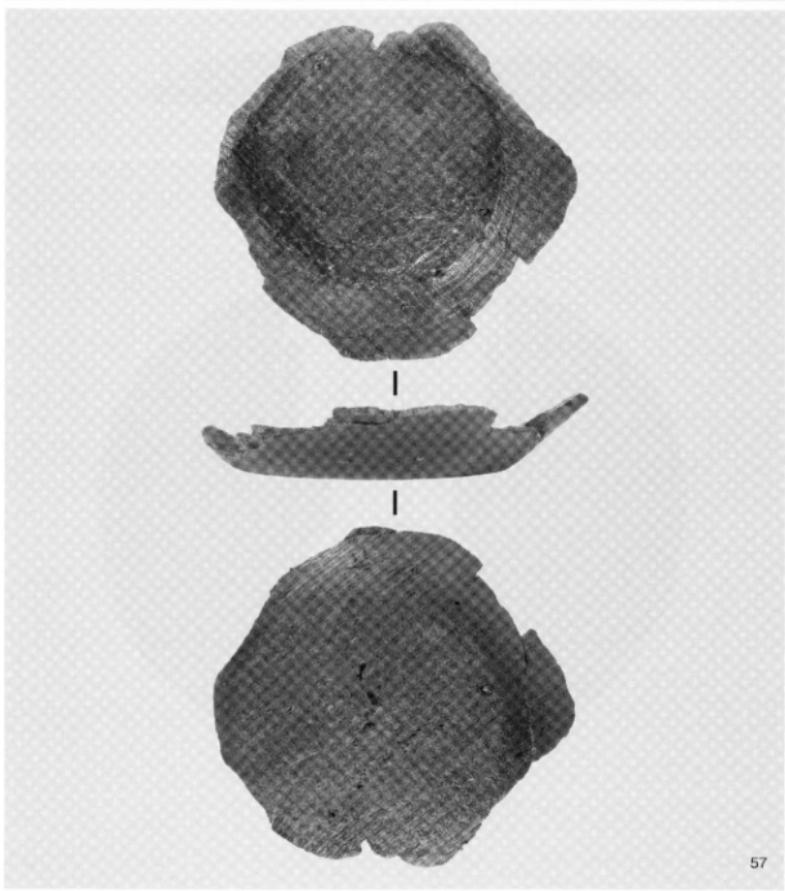


55

写真図版17 出土遺物 (10)

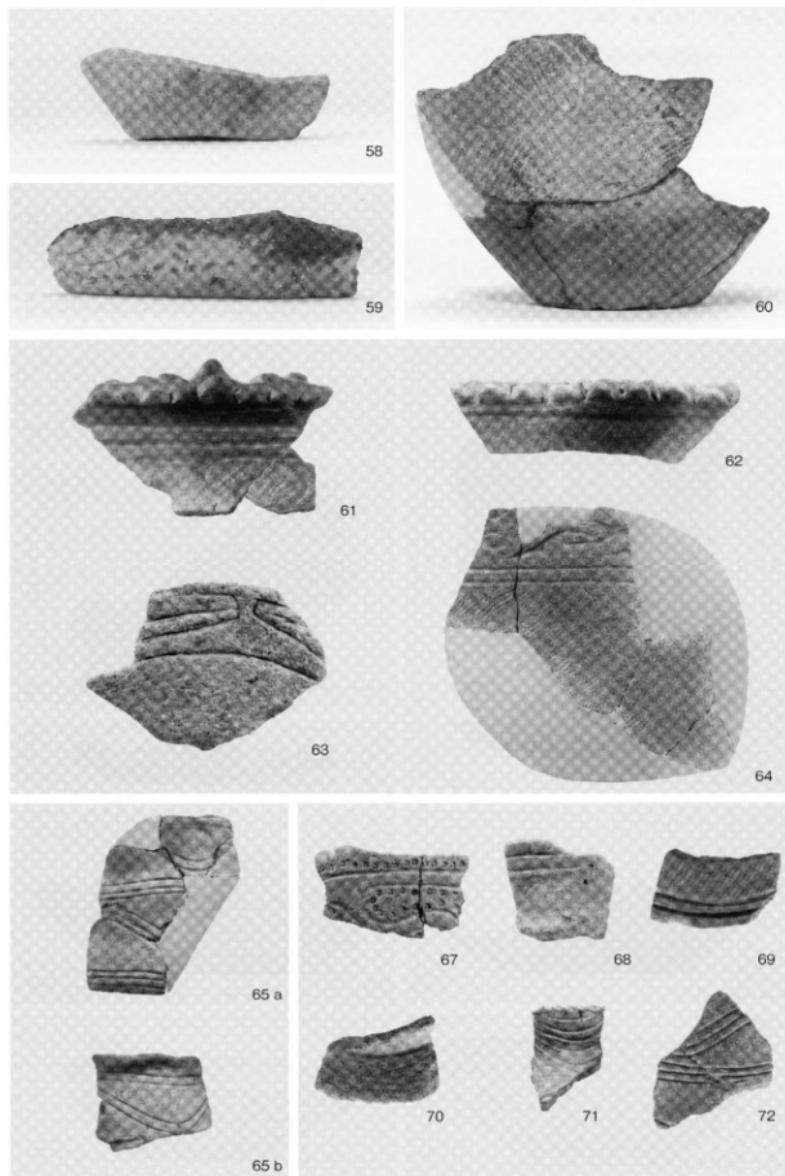


56

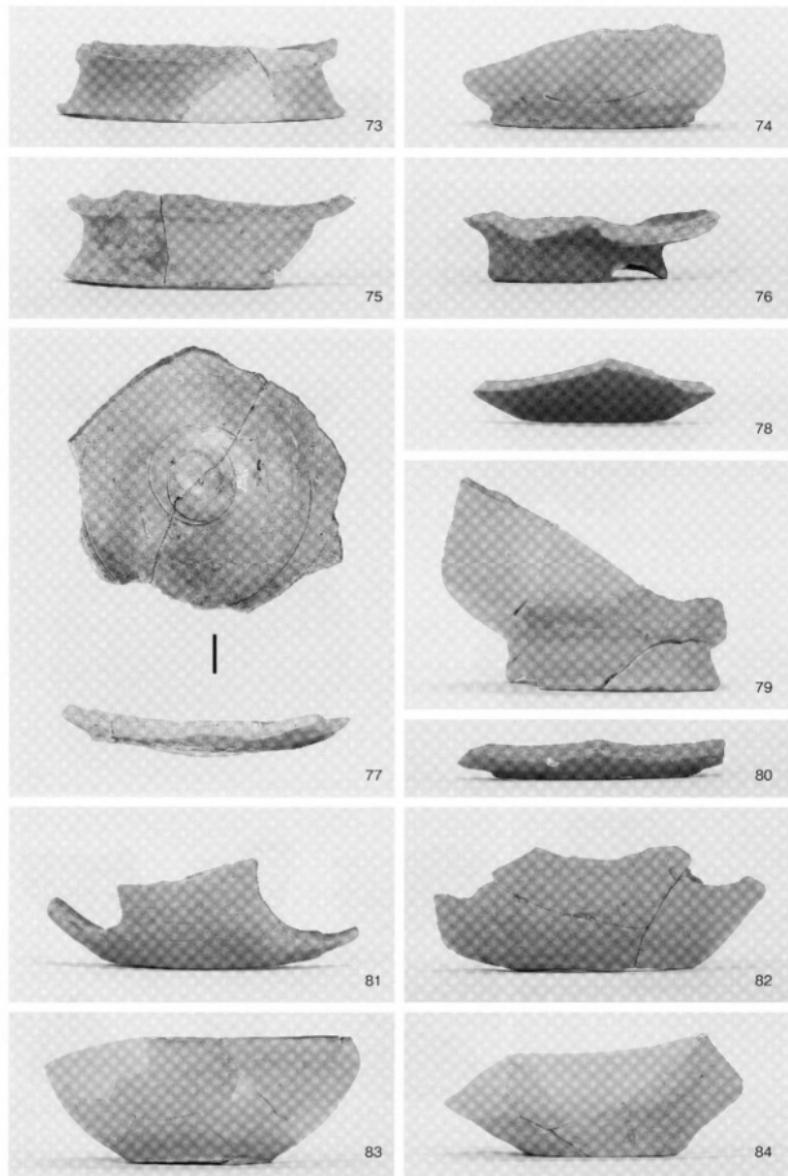


57

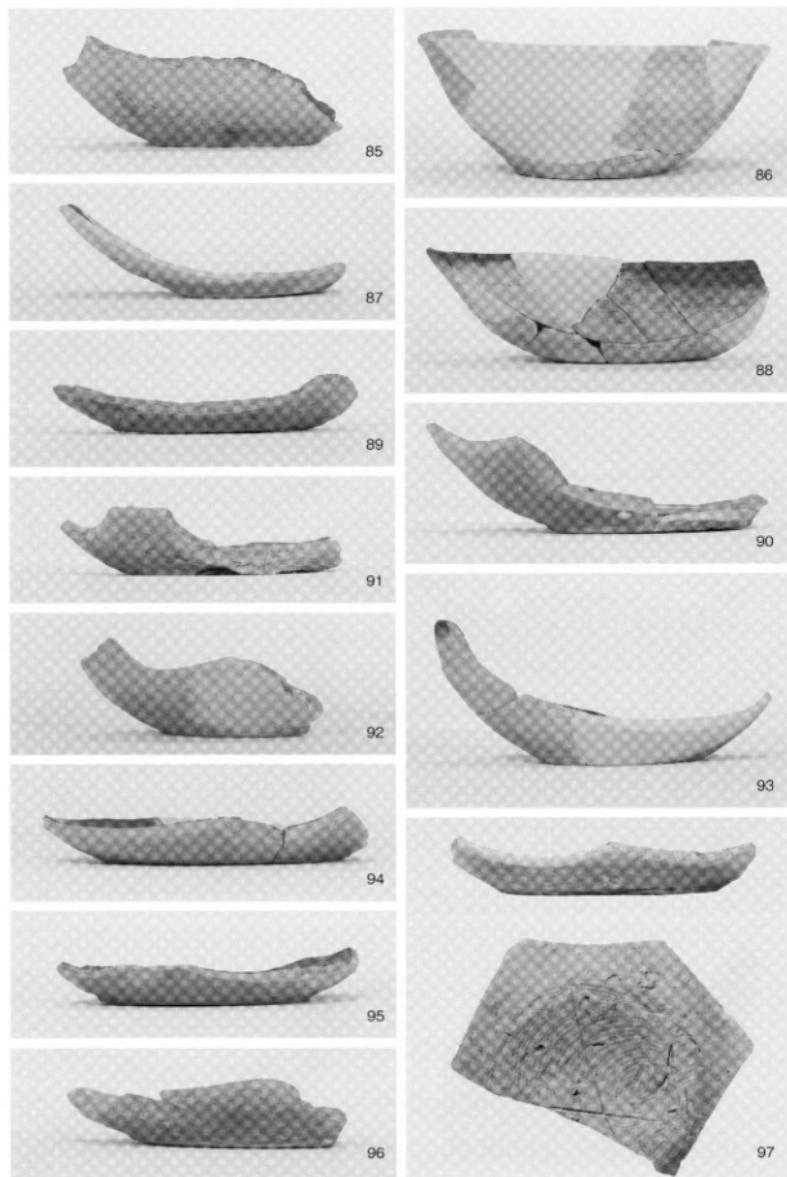
写真図版18 出土遺物 (11)



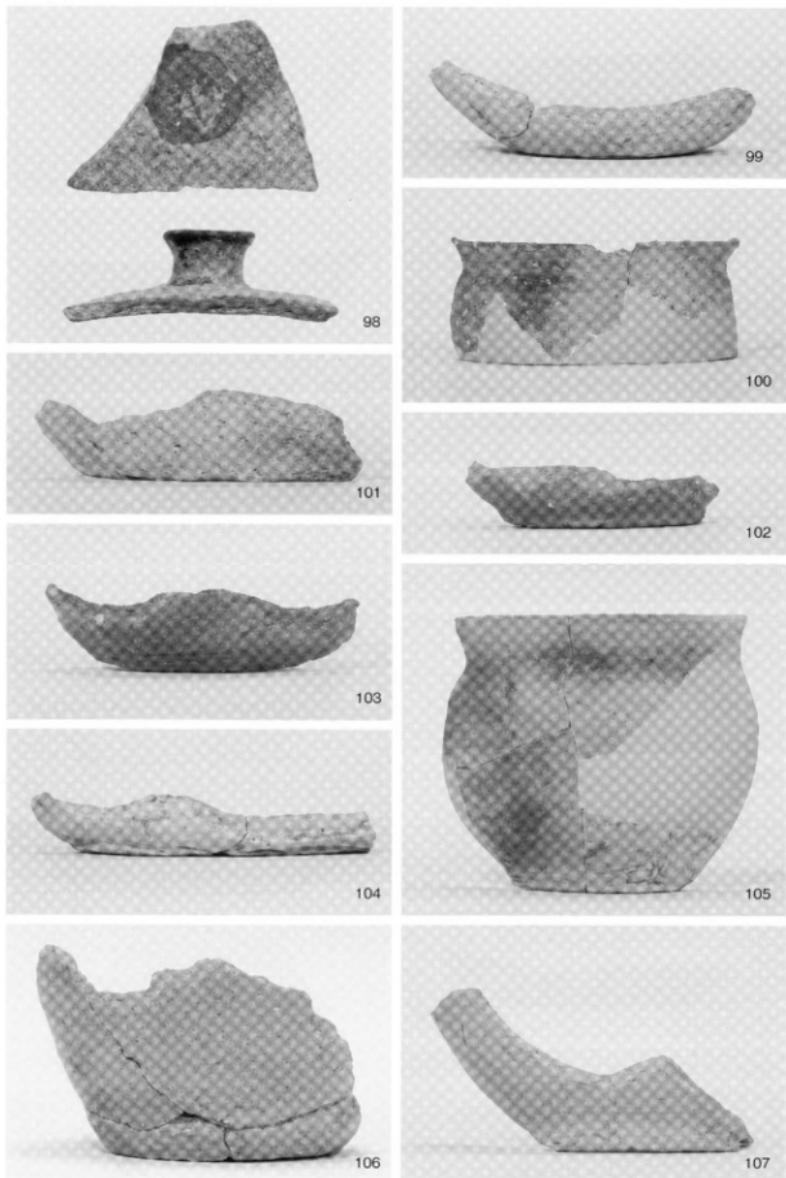
写真図版19 出土遺物 (12)



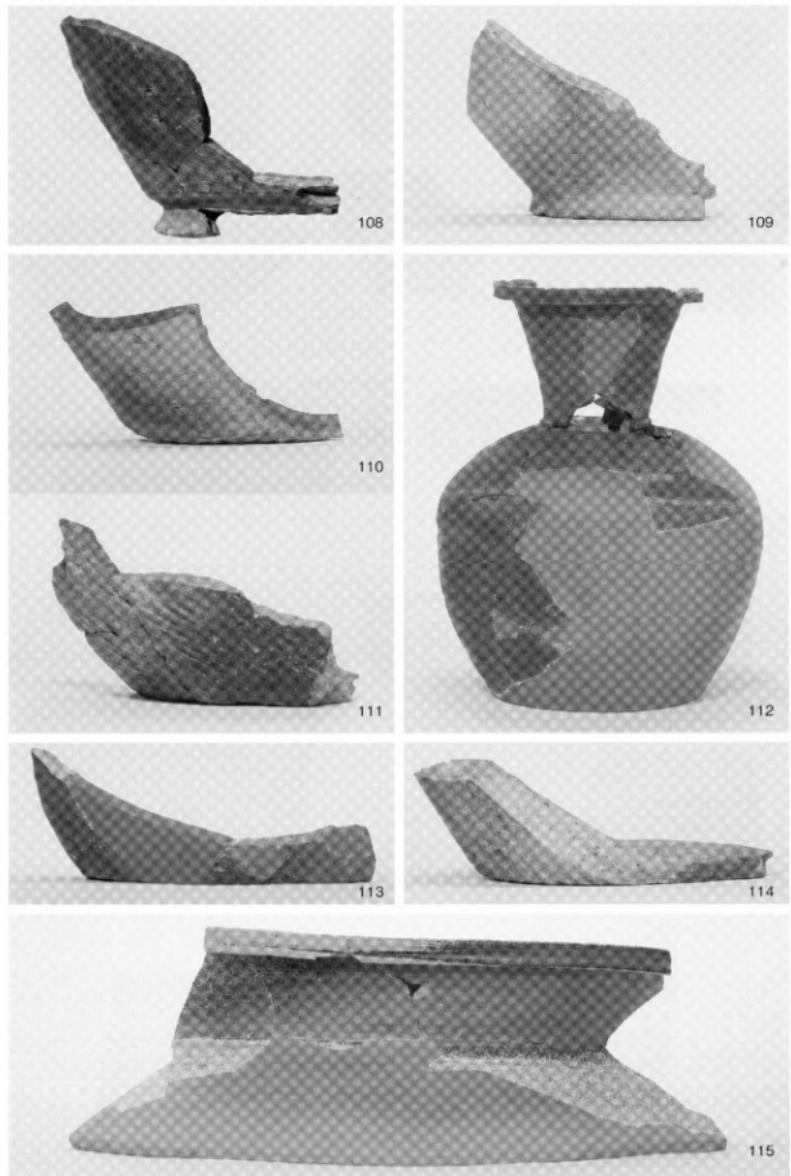
写真図版20 出土遺物 (13)



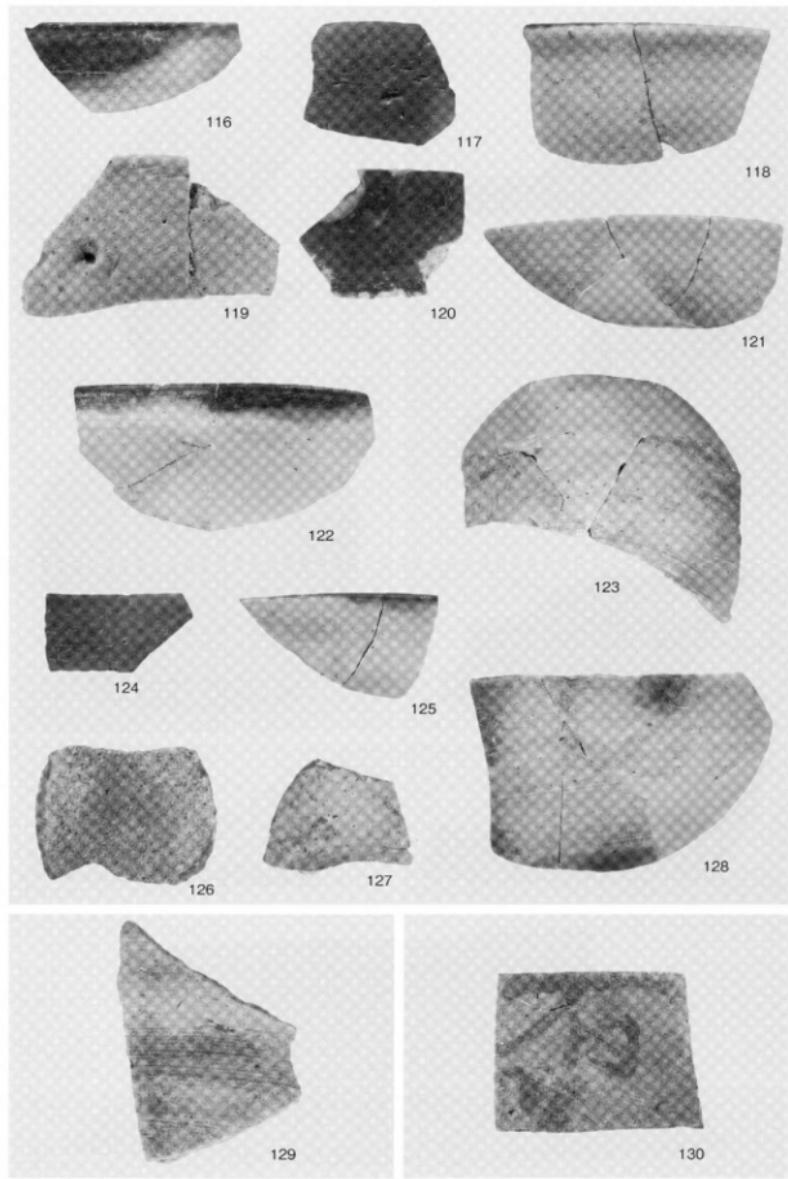
写真図版21 出土遺物 (14)



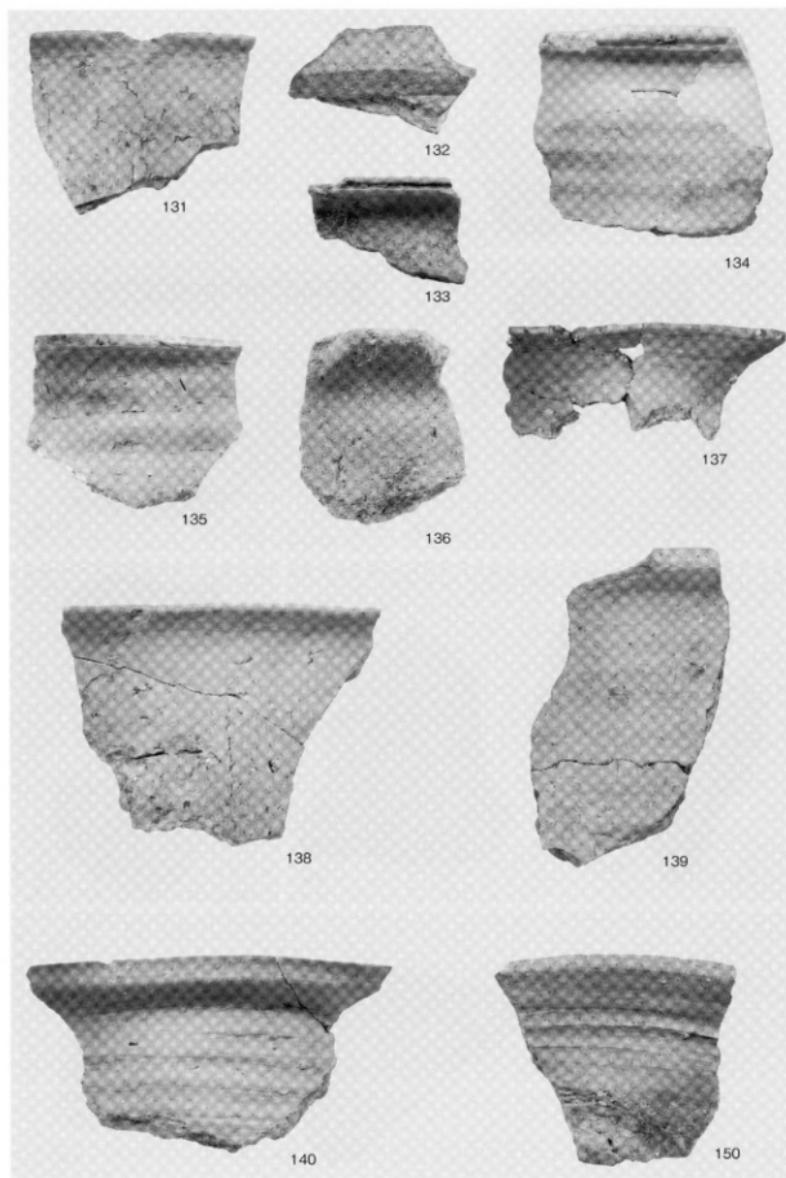
写真図版22 出土遺物 (15)



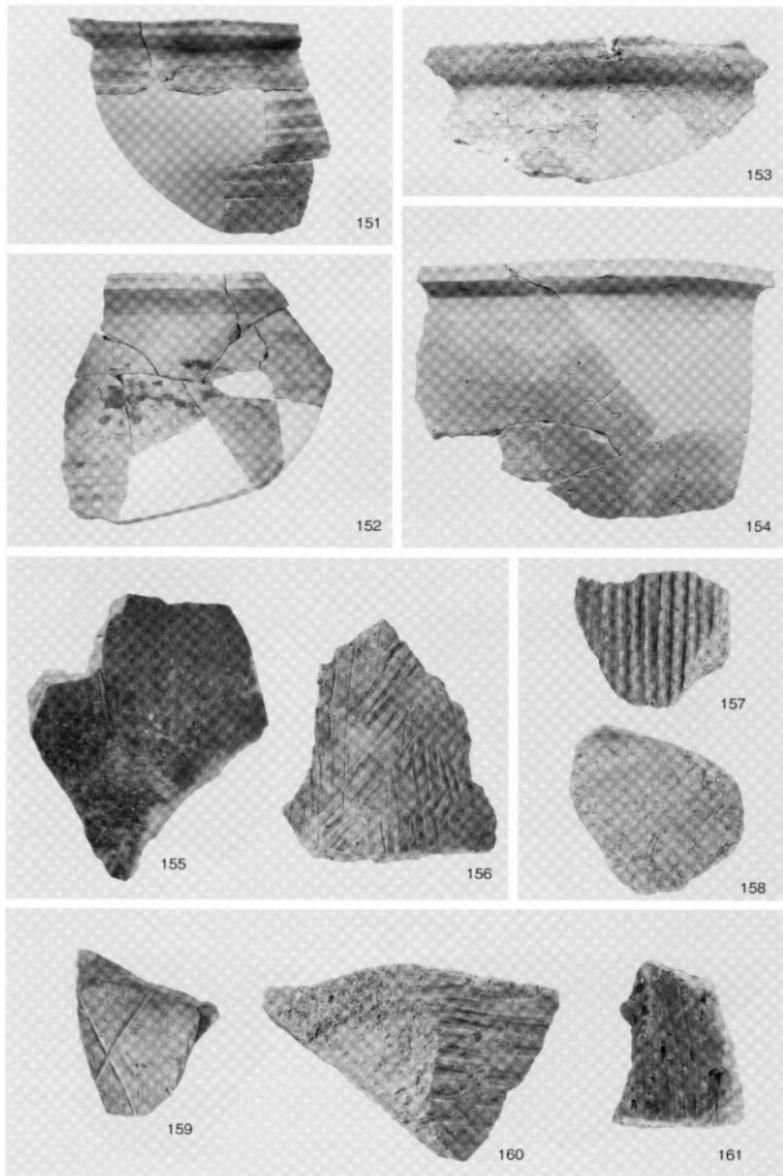
写真図版23 出土遺物 (16)



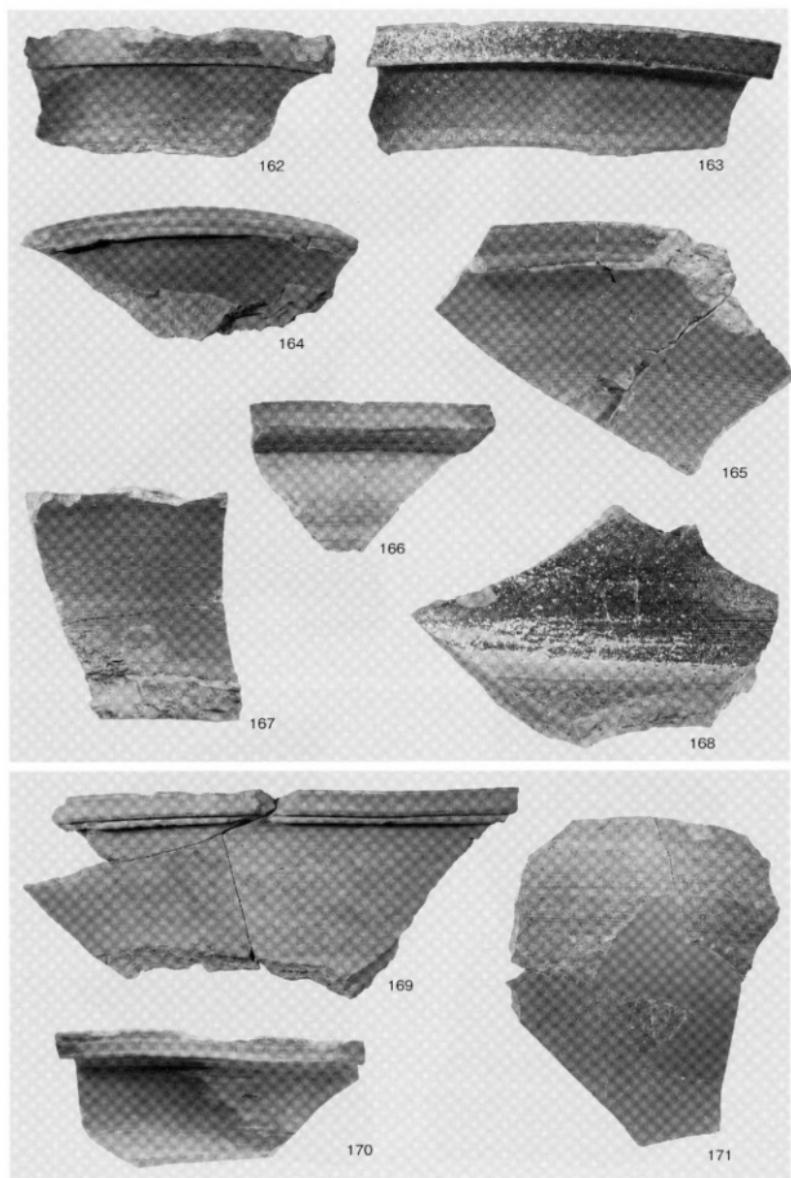
写真図版24 出土遺物 (17)



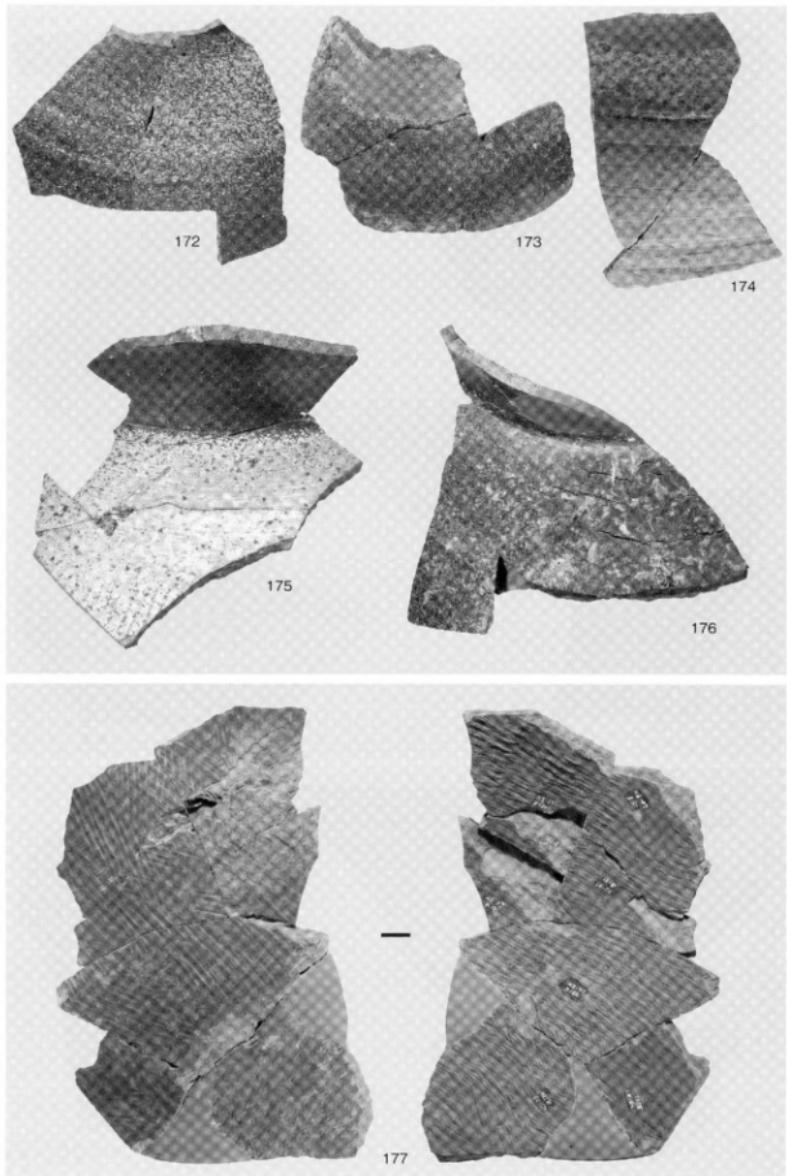
写真図版25 出土遺物 (18)



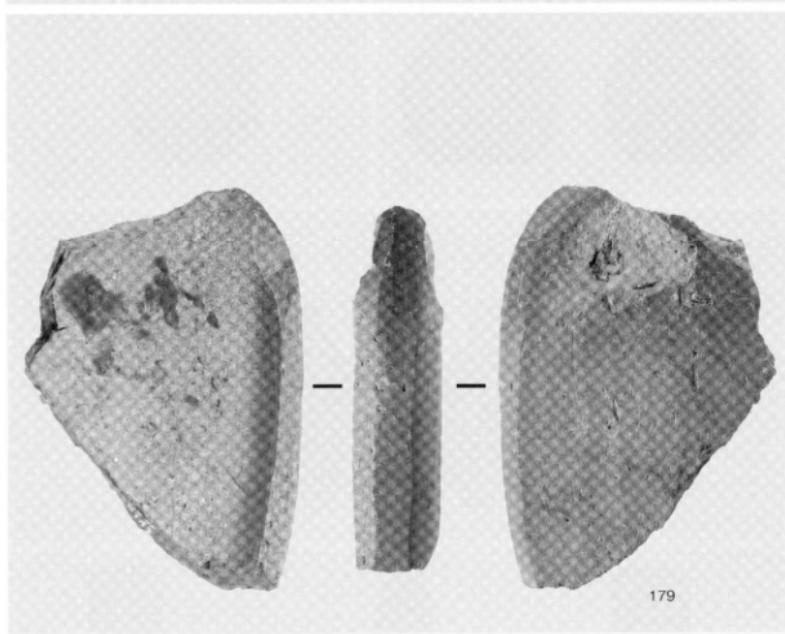
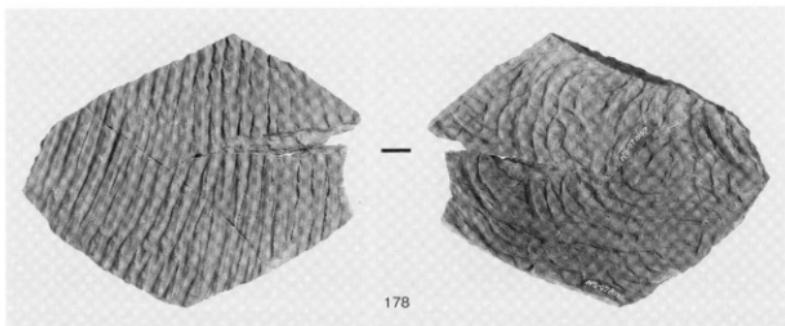
写真図版26 出土遺物 (19)



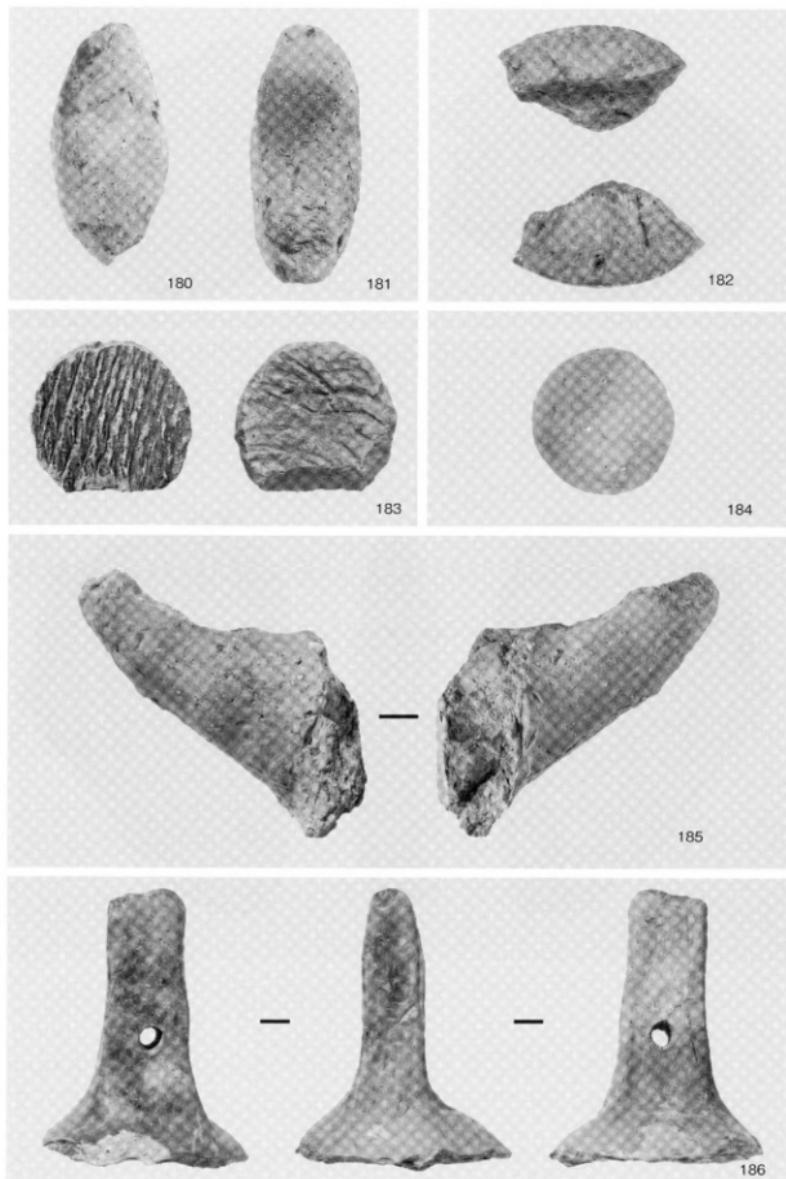
写真図版27 出土遺物 (20)



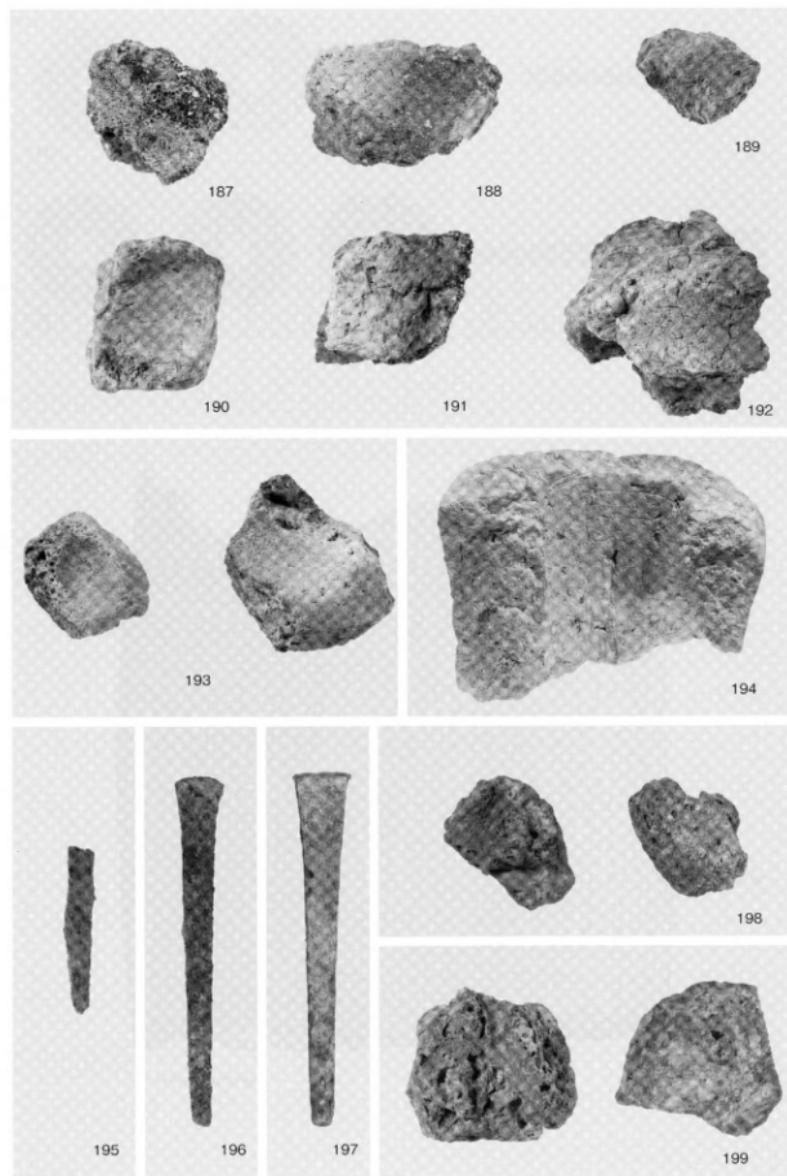
写真図版28 出土遺物 (21)



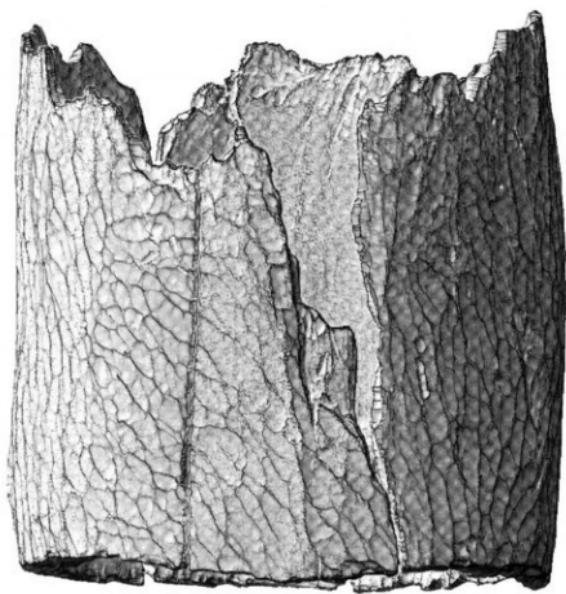
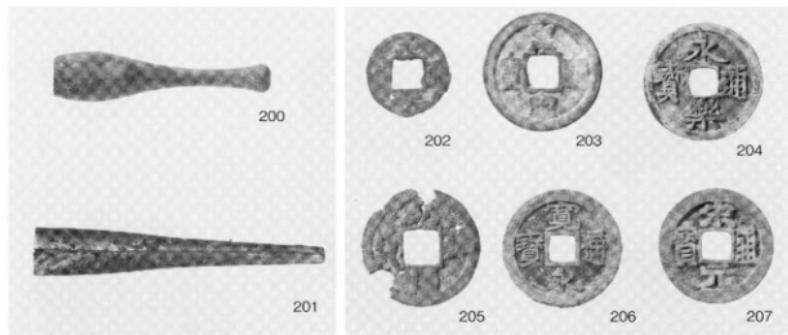
写真図版29 出土遺物 (22)



写真図版30 出土遺物 (23)



写真図版31 出土遺物 (24)



SK03内柾(PEEKIT)



調査前現況（北から）



調査区全景（北西から）

写真図版33 調査区全景（平成20年度）

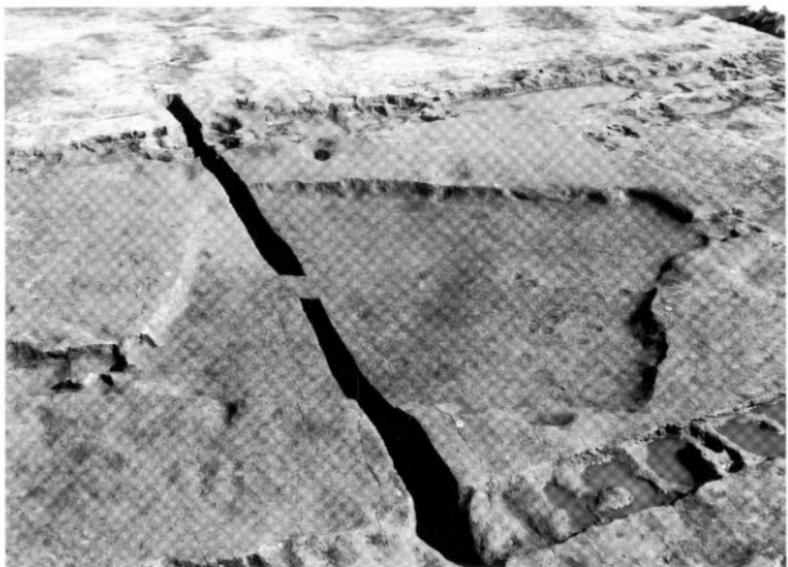


基本層序（東から）



基本層序（北東から）

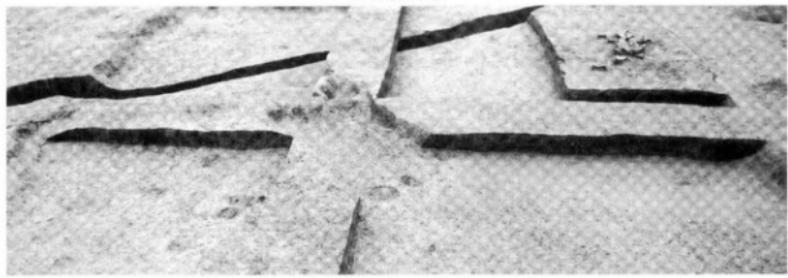
写真図版34 基本層序



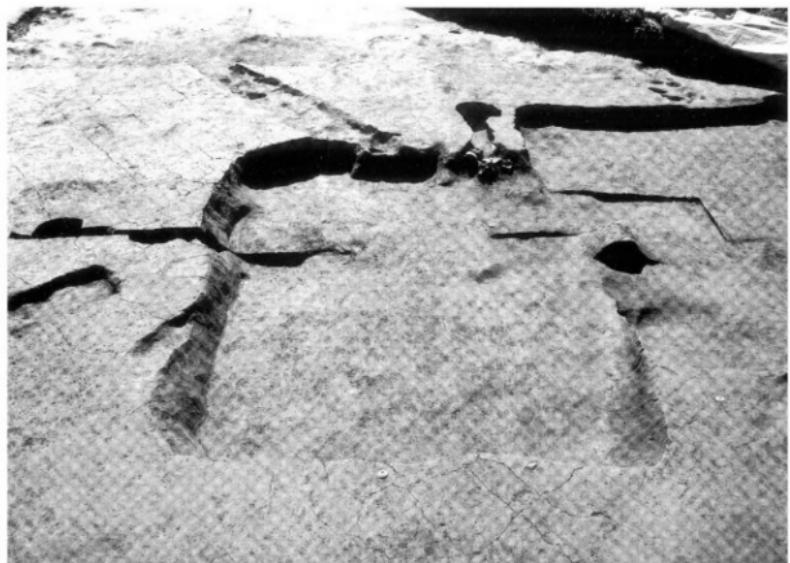
全景（北から）



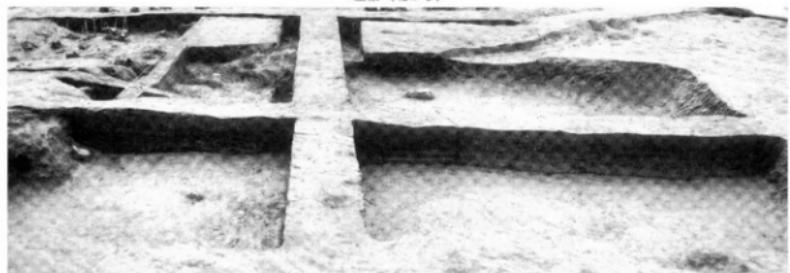
断面（北から）



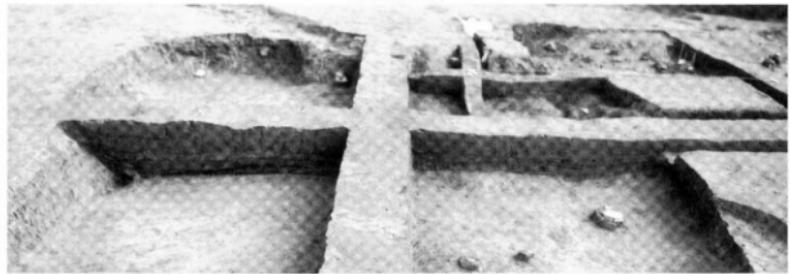
断面（西から）



全景（北から）

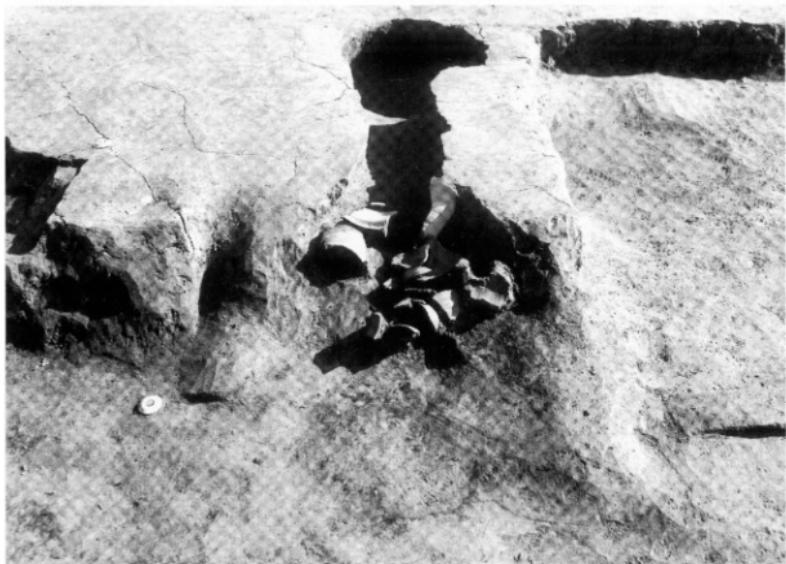


断面（東から）

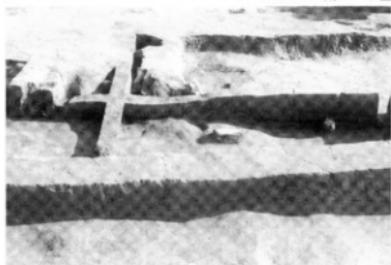


断面（北から）

写真図版36 SI0802 (1)



南カマド全景（北から）



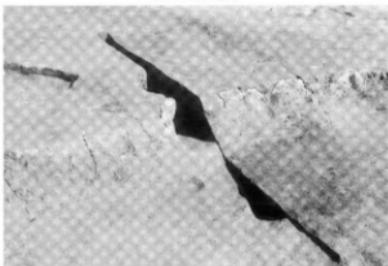
断面（北から）



断面（西から）



東カマド全景（西から）



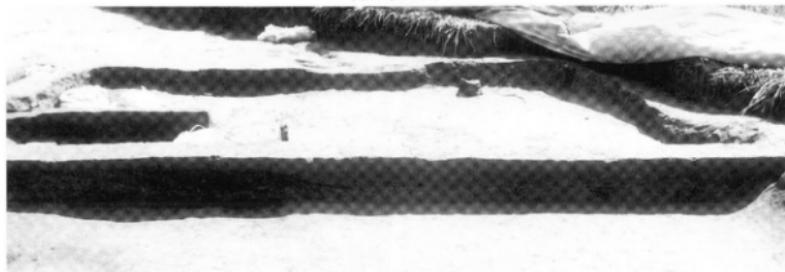
東カマド断面（西から）



全景（北から）

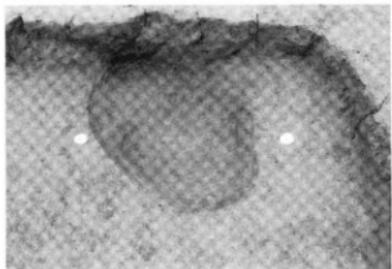


断面（西から）



断面（北から）

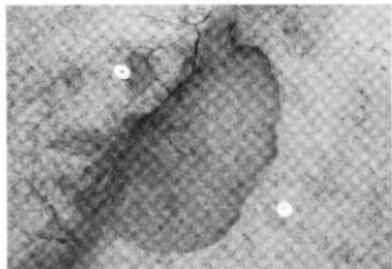
写真図版38 SI0803 (1)



Pit1 (西から)



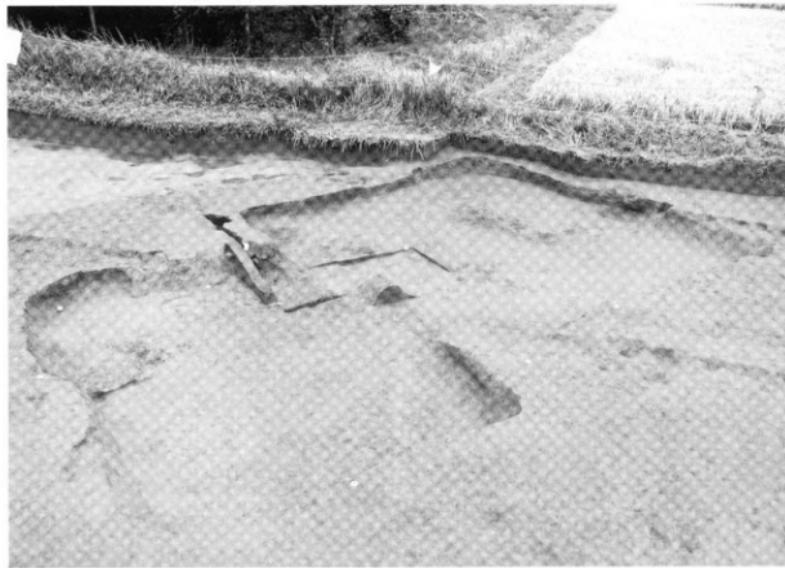
Pit1断面 (西から)



Pit2 (南から)



Pit2断面 (南から)



SI0802・03全景 (北から)

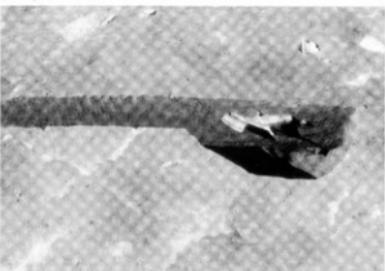
写真図版39 SI0803 (2)



全景（西から）



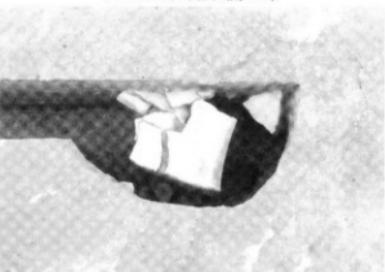
カマド袖部断面（西から）



煙道～煙出し断面（南から）



煙道～煙出し断面（東から）



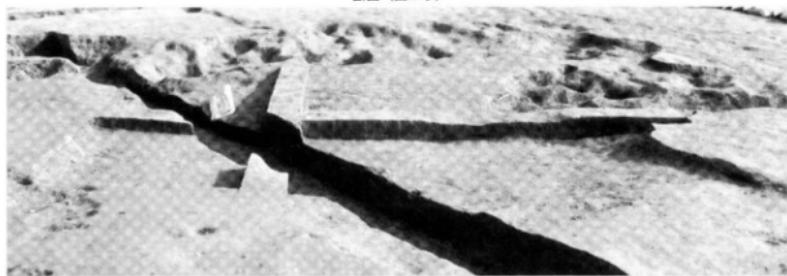
煙出し遺物出土状況（南から）



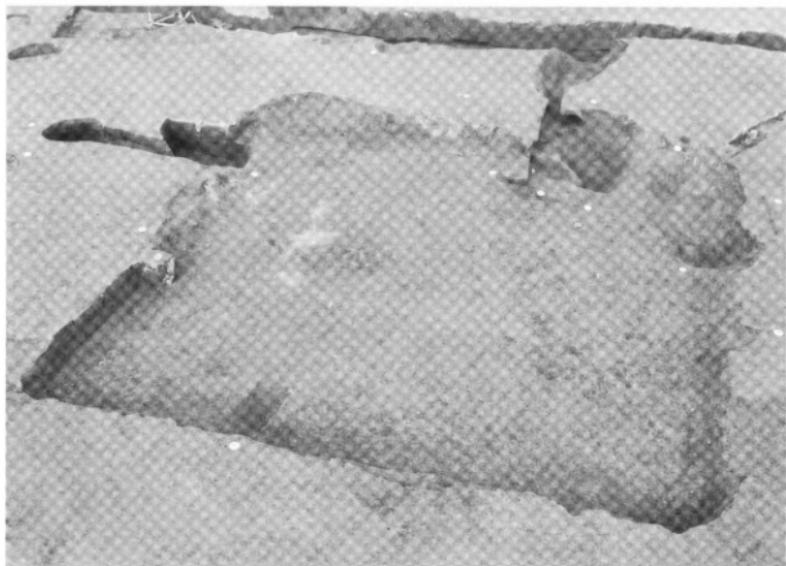
全景（西から）



断面（西から）



断面（北から）



全景（南西から）



断面（南西から）

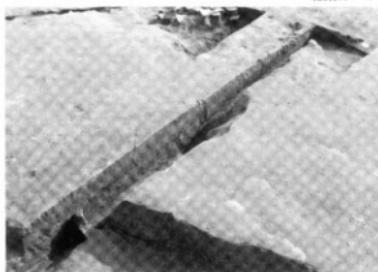


断面（北西から）

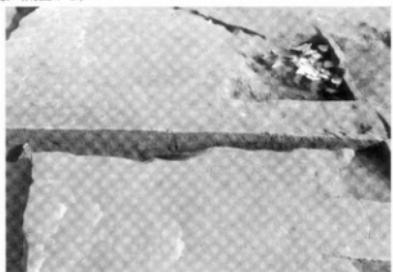
写真図版42 SI0806 (1)



北東カマド全景（南西から）



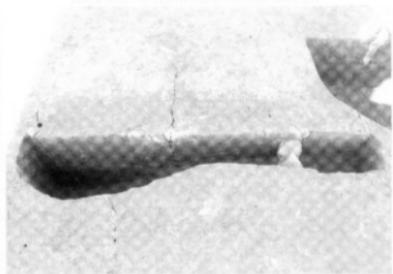
北東カマド・SK0812断面（北から）



北東カマド・SK0812断面（北西から）



北西カマド（南東から）



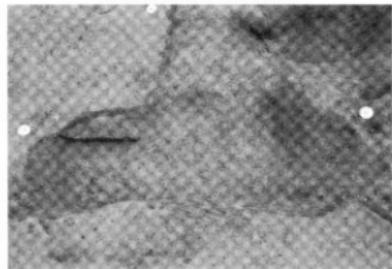
北西カマド断面（南西から）



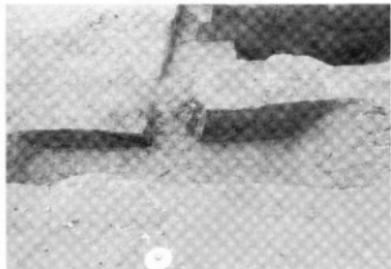
南東廻土器出土状況 (南から)



南東廻断面 (南から)



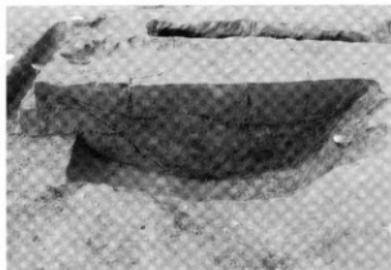
Pit1 (南東から)



Pit1断面 (南東から)



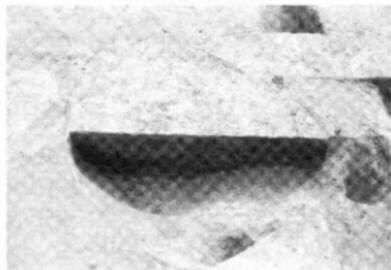
Pit2 (南東から)



Pit2断面 (南東から)



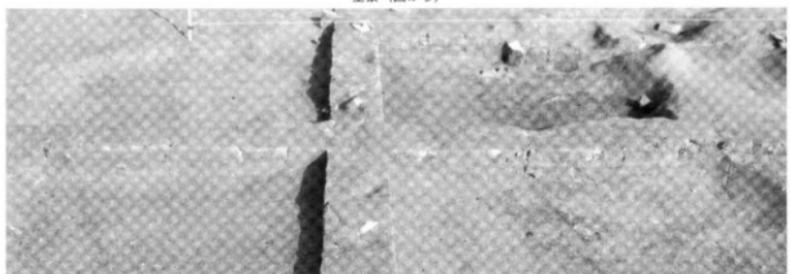
Pit3 (北西から)



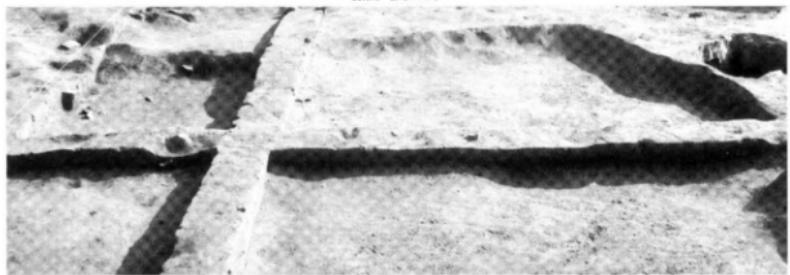
Pit3断面 (北西から)



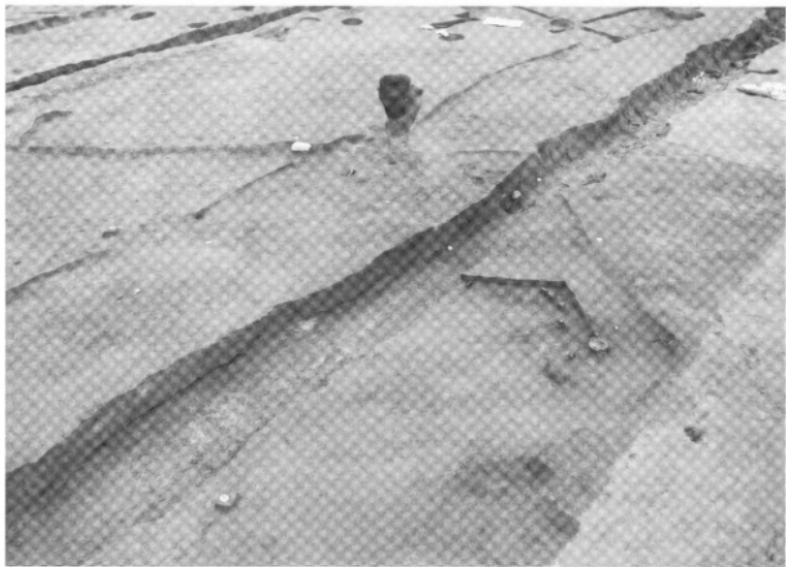
全景（西から）



断面（西から）



断面（北から）



全景（西から）



断面（西から）

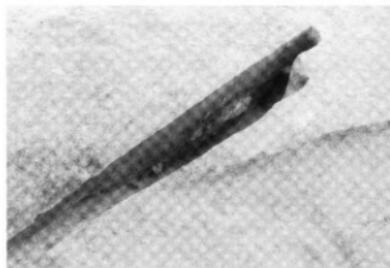


断面（北から）

写真図版46 SI0808 (1)



カマド全景 (西から)



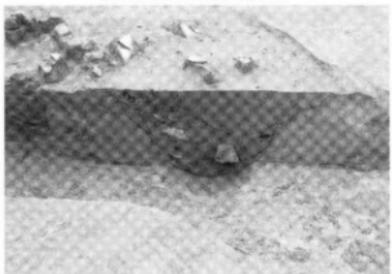
煙道～煙出し断面 (南西から)



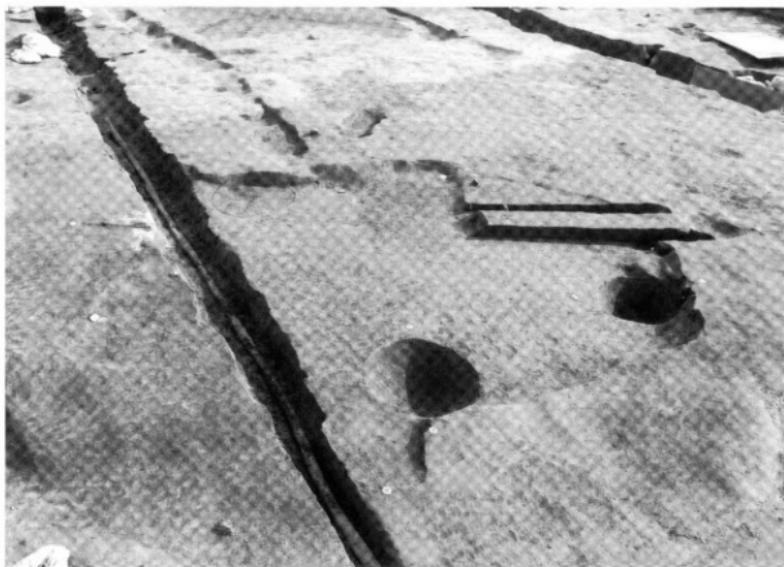
燃焼部遺物出土状況 (西から)



Pit1 (西から)



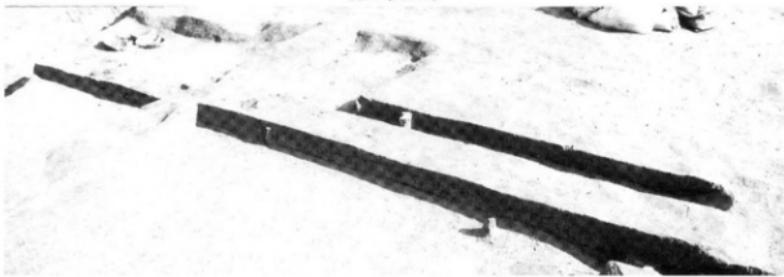
Pit1断面 (西から)



全景（北から）

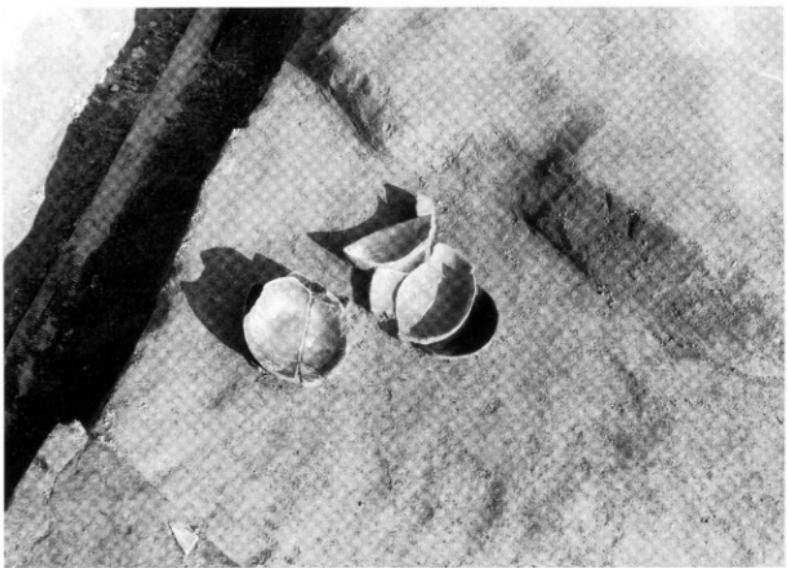


断面（西から）

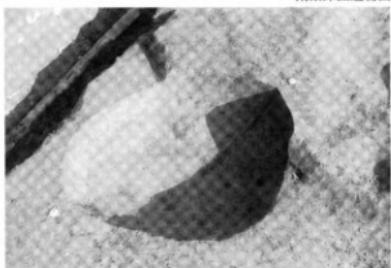


断面（北から）

写真図版48 SI0809 (1)



南東床面遺物出土状況（西から）



Pit1（西から）



Pit1断面（西から）



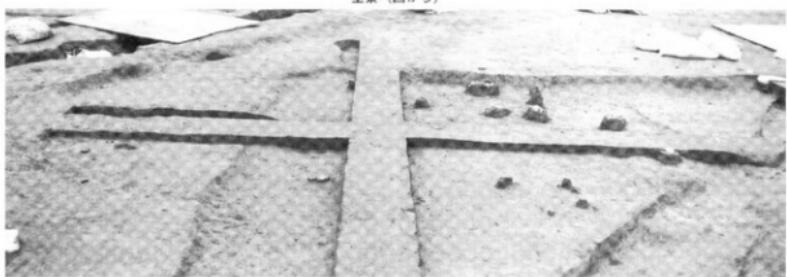
煙道～煙出し（北西から）



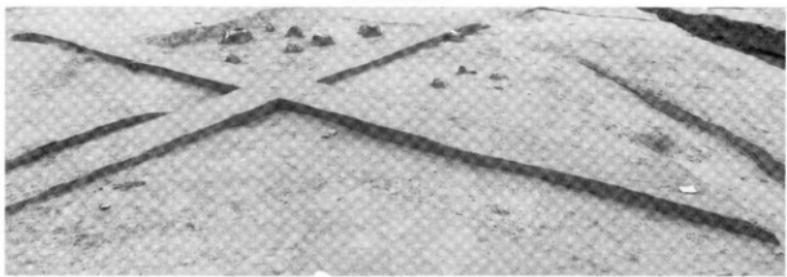
作業風景



全景（西から）

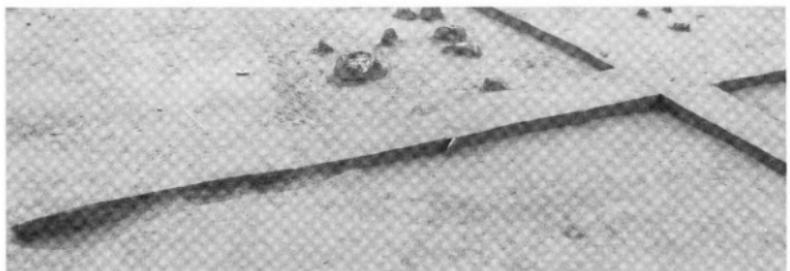


断面（北西から）



断面（西から）

写真図版50 SI0810



SI0810煙道～煙出し断面 (北東から)



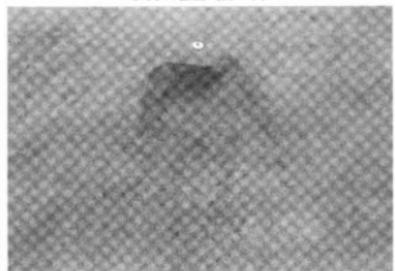
SI0811全景 (西から)



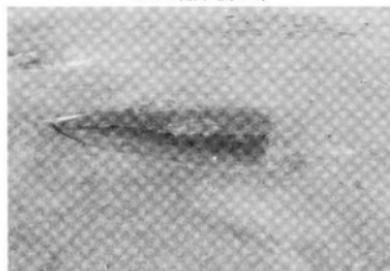
SI0811断面 (西から)



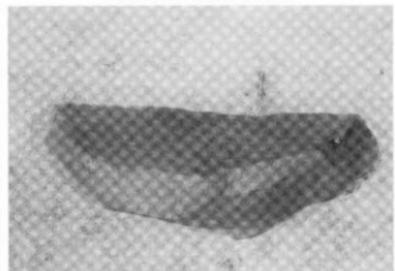
SI0811断面 (南から)



SI0811煙道～煙出し (西から)



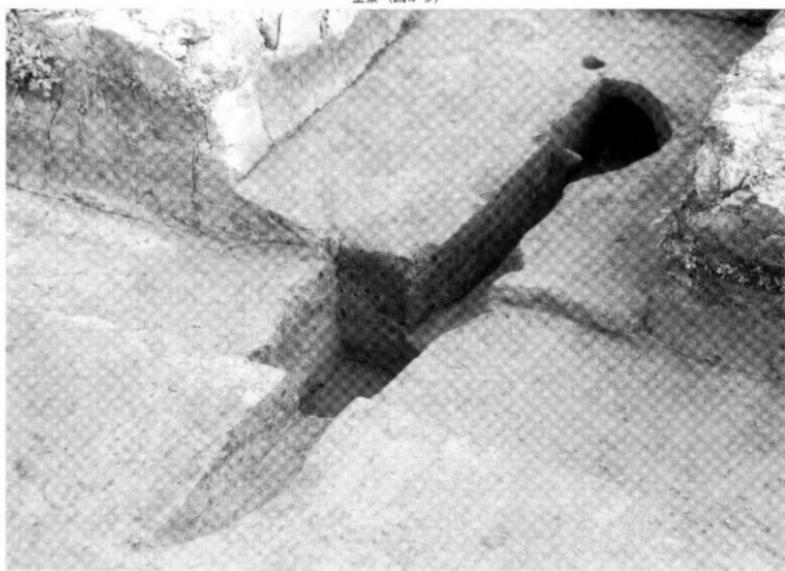
SI0811煙道～煙出し断面 (南から)



Pit1断面 (西から)

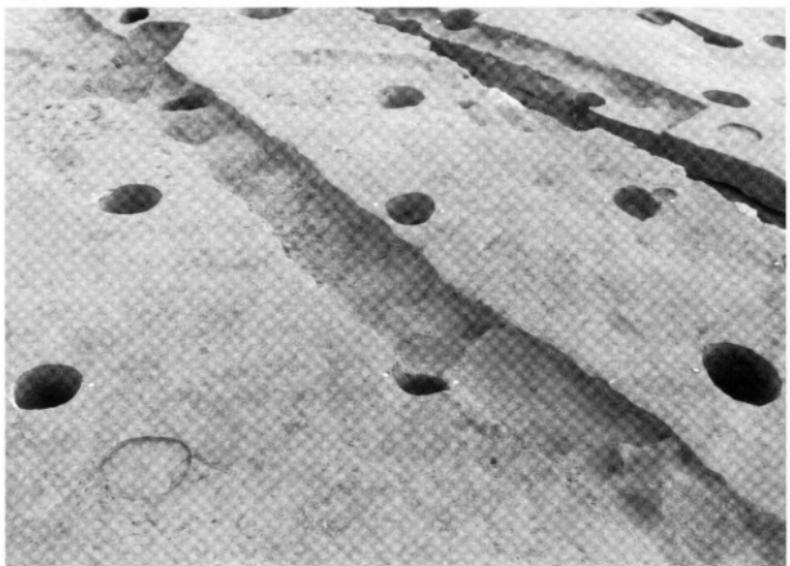


全景（西から）



煙道～煙出し断面（南から）

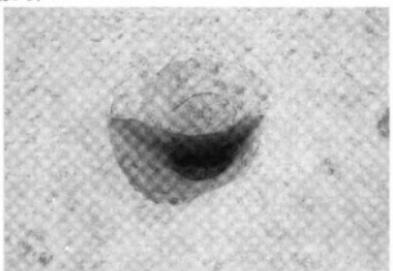
写真図版52 SI0812



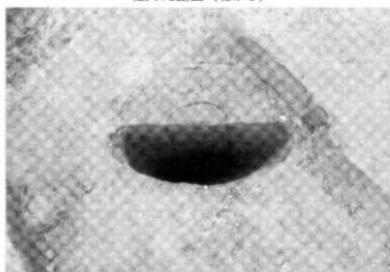
全景（北から）



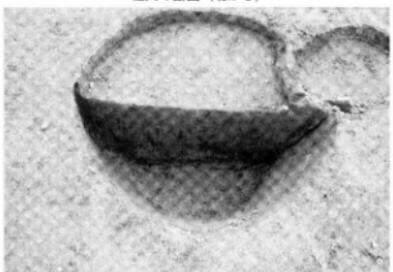
柱穴13断面（北から）



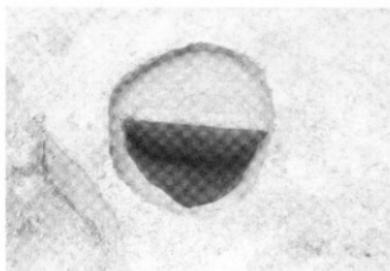
柱穴4断面（北から）



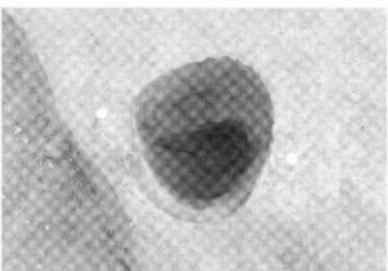
柱穴5断面（北から）



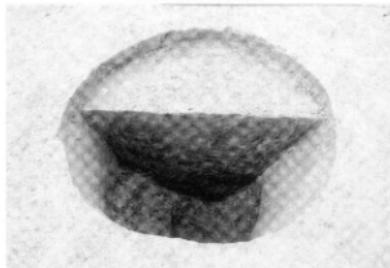
柱穴14断面（北から）



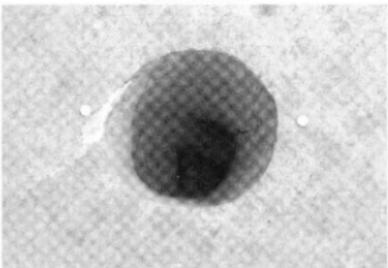
柱穴7断面（北から）



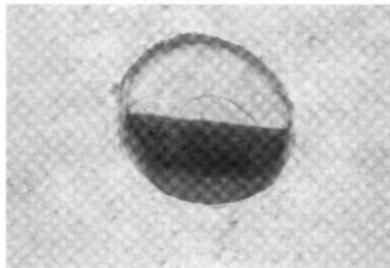
柱穴7（北から）



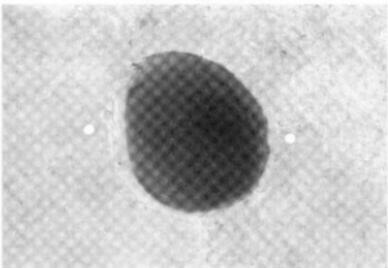
柱穴8断面（北から）



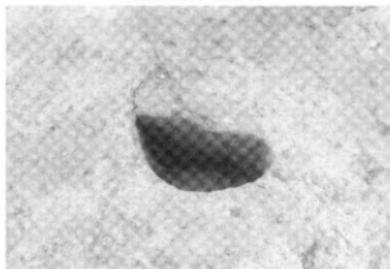
柱穴8（北から）



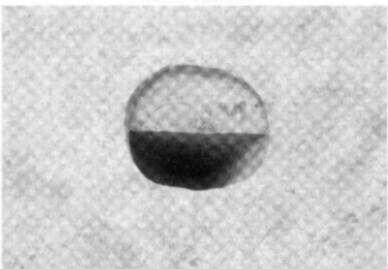
柱穴9断面（北から）



柱穴9（北から）



柱穴10断面（北から）



柱穴11断面（北から）



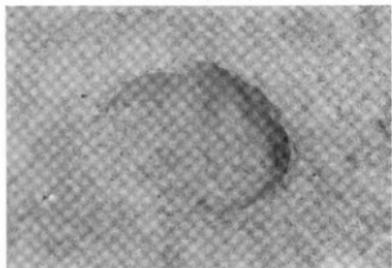
SK0801 (西から)



SD0801断面① (西から)



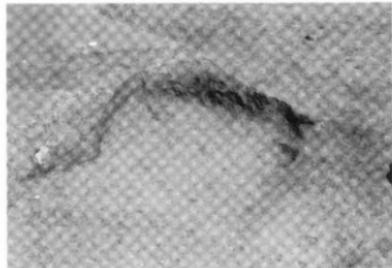
SD0801断面② (西から)



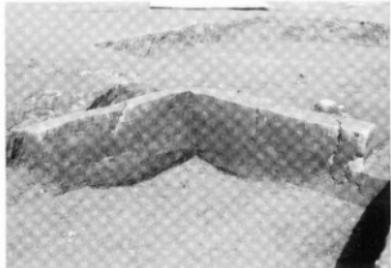
SD0801 (西から)



SD0801断面 (西から)



SK0802 (西から)



SK0802断面 (西から)

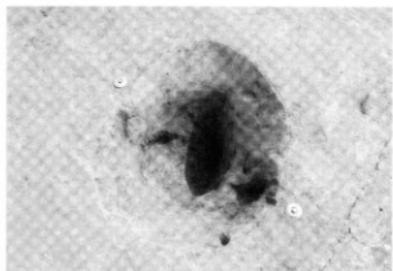
写真図版55 SD0801、SK0801・0802



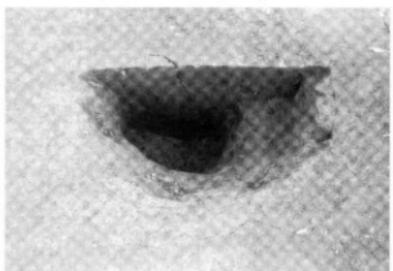
SK0803 (西から)



SK0803断面 (西から)



SK0804 (北から)



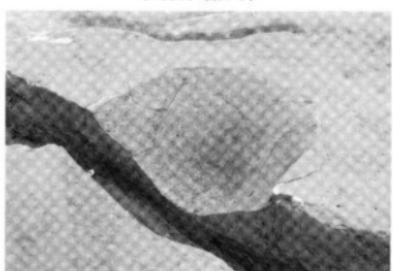
SK0804断面 (北から)



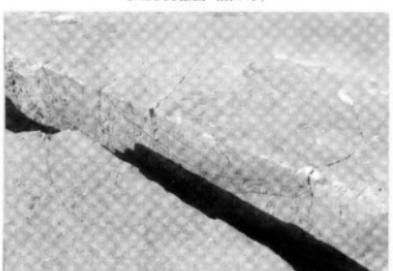
SK0805 (東から)



SK0805断面 (東から)

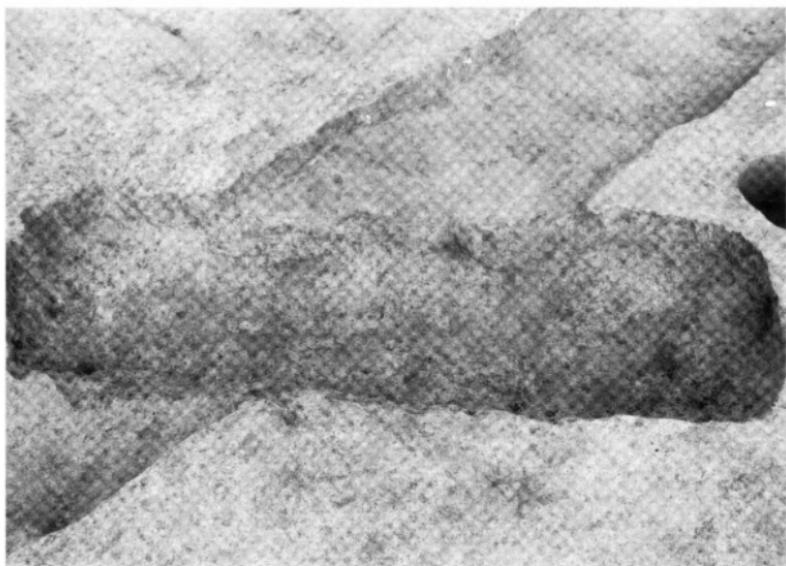


SK0806 (南から)

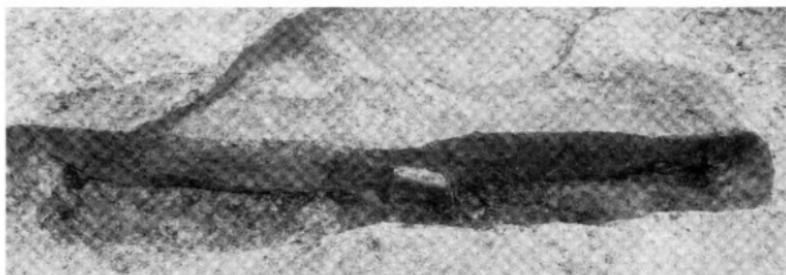


SK0806断面 (南から)

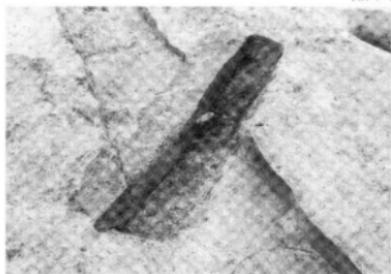
写真図版56 SK0803 ~ 0806



完掘（西から）



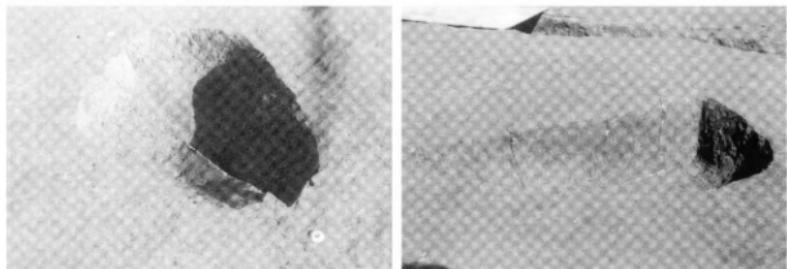
断面（西から）



断面（北西から）

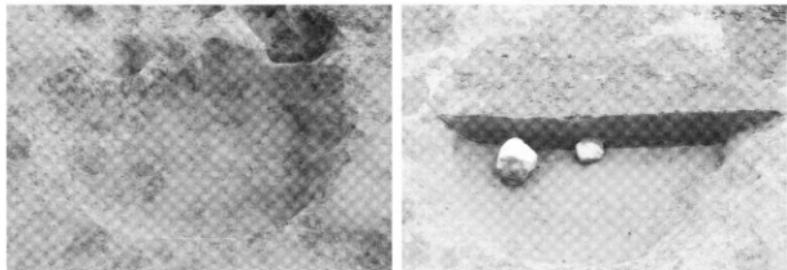


炭化物出土状況（北から）



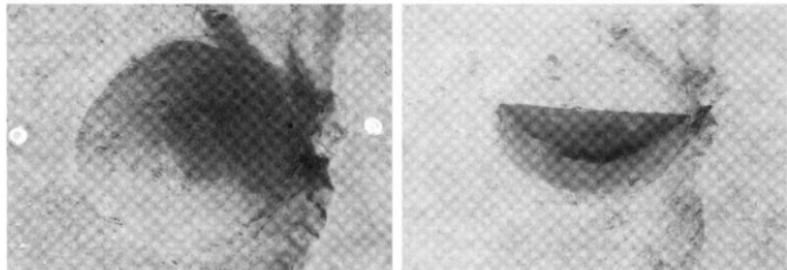
SK0807 (西から)

SK0807断面 (南から)



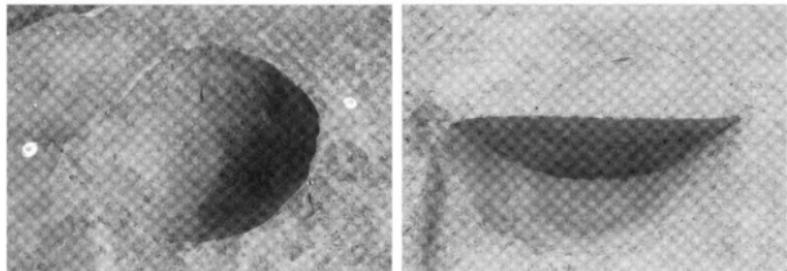
SK0809 (西から)

SK0809断面 (西から)



SK0810 (北から)

SK0810断面 (北から)



SK0811 (西から)

SK0811断面 (西から)

写真図版58 SK0807・0809～0811



全景（西から）

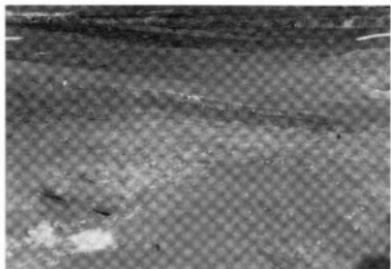


T2断面（南から）

写真図版59 遺物包含層（1）



T2断面 (南から)



T2断面 (南西から)



T4断面 (南西から)



T4断面 (南から)



T4断面全景 (南から)



T4断面 (西から)

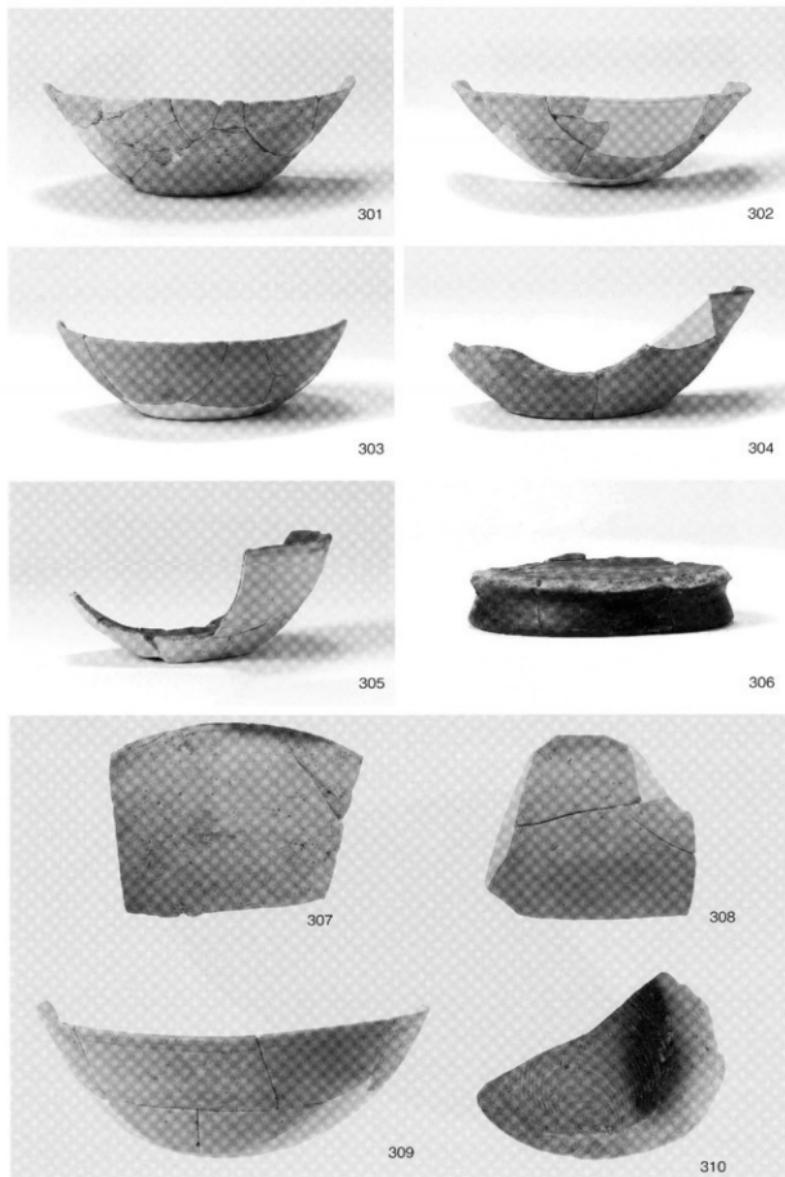


作業風景

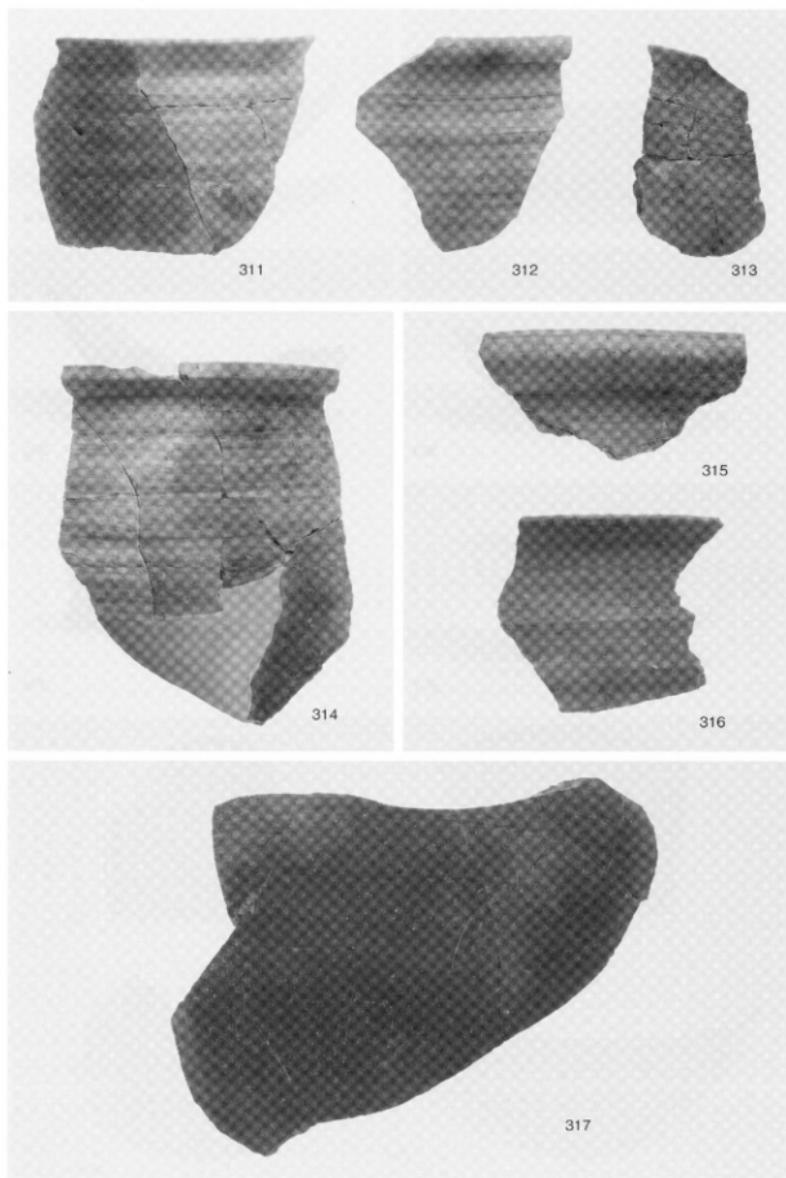


作業風景

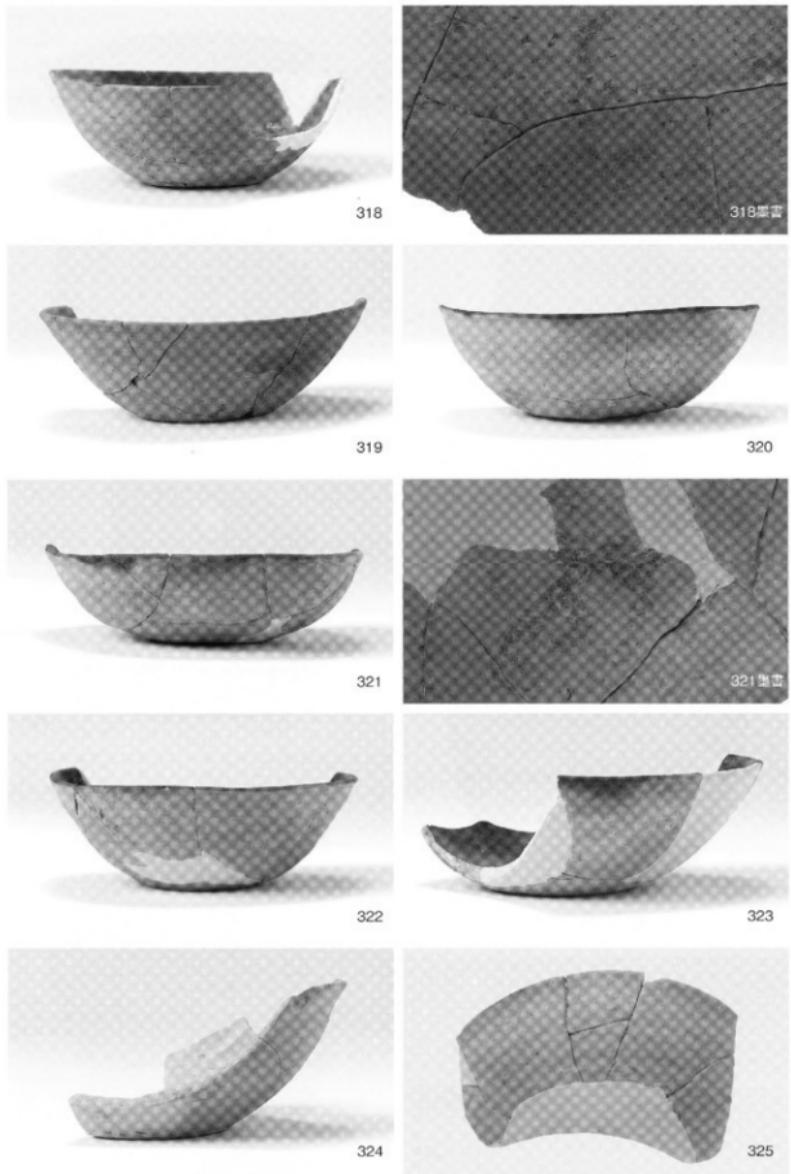
写真図版60 滅失包含層 (2)、作業風景



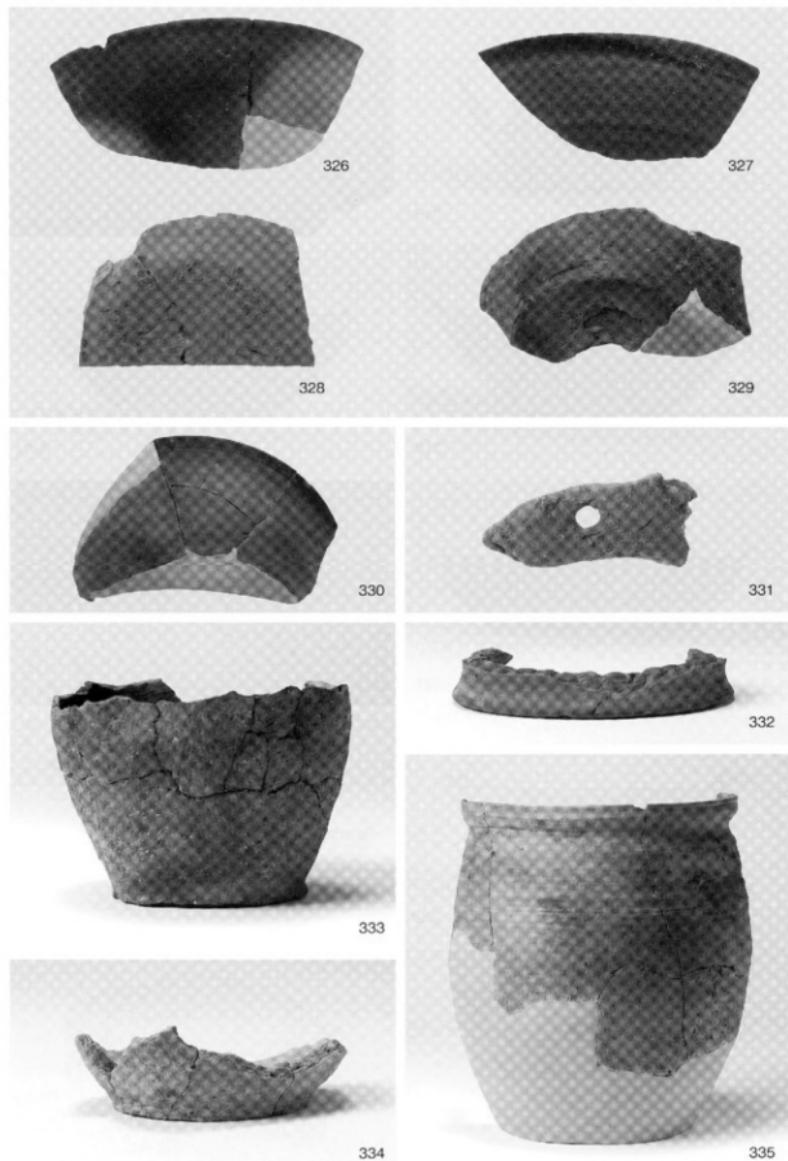
写真図版61 整穴住居出土遺物 (SI0801・0802)



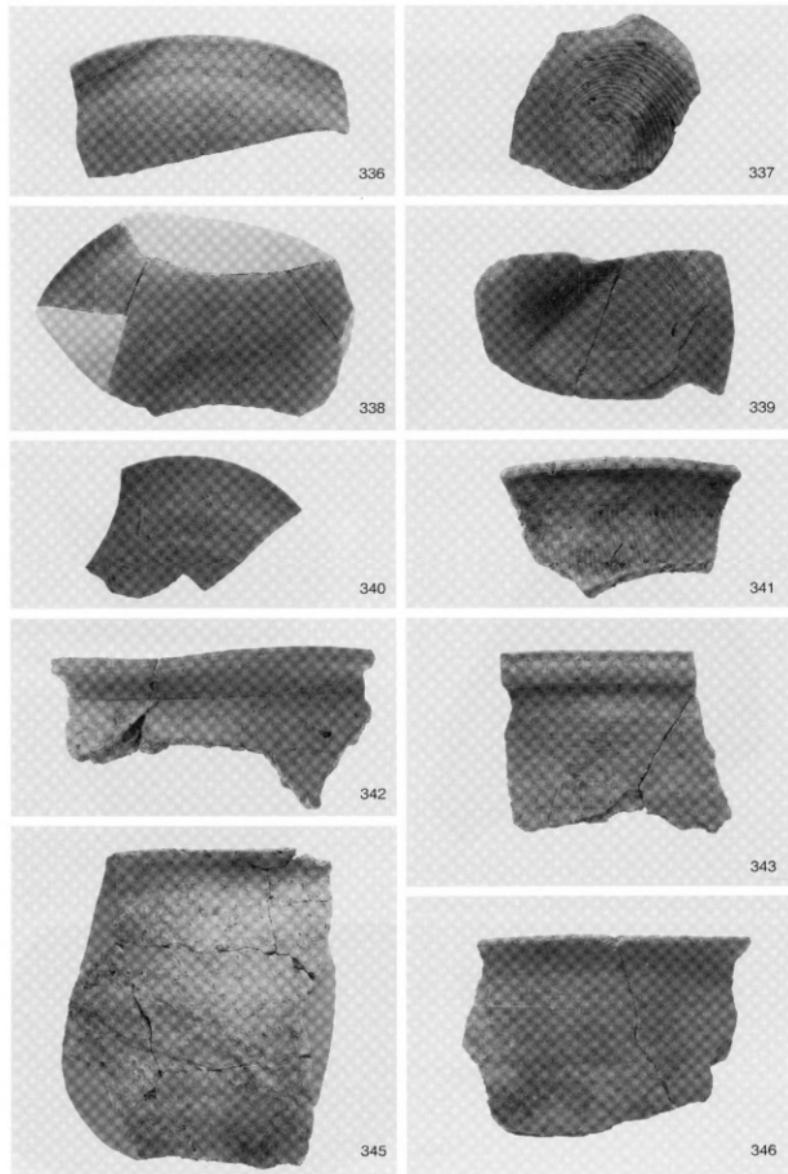
写真図版62 竪穴住居出土遺物 (SI0802)



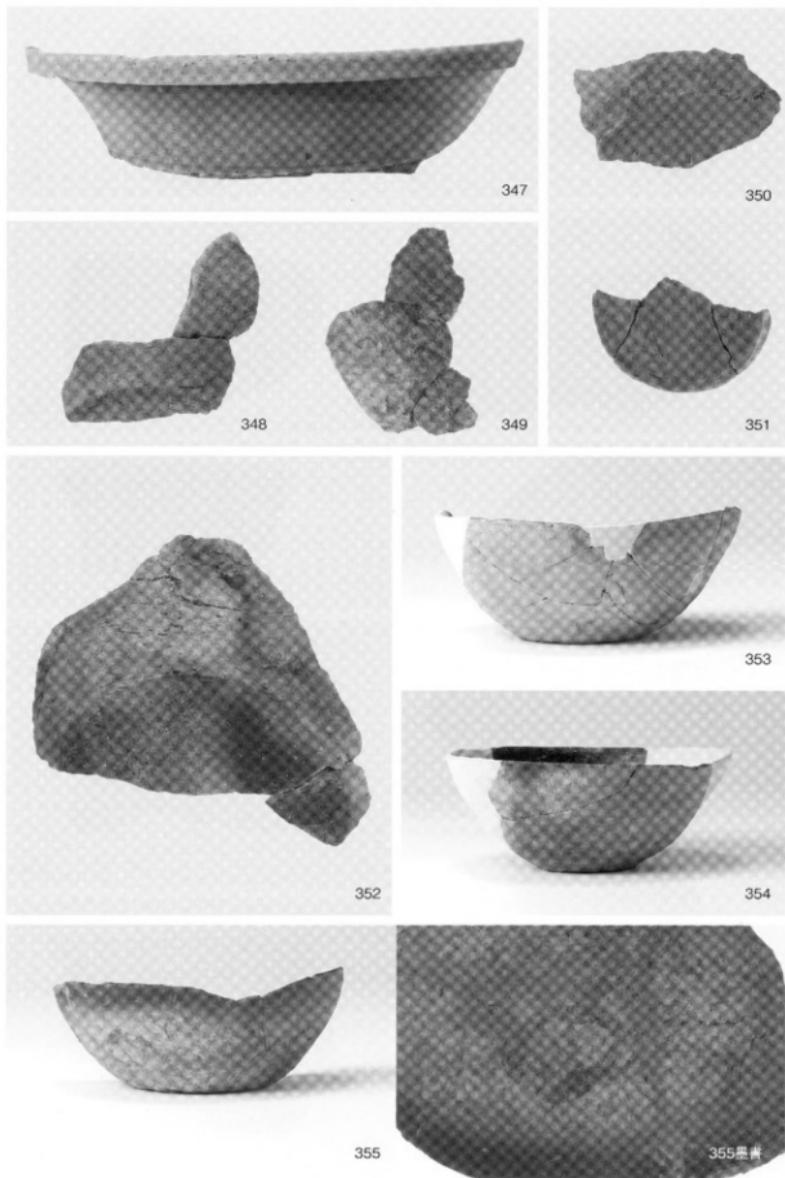
写真図版63 墓穴住居出土遺物 (SI0803)



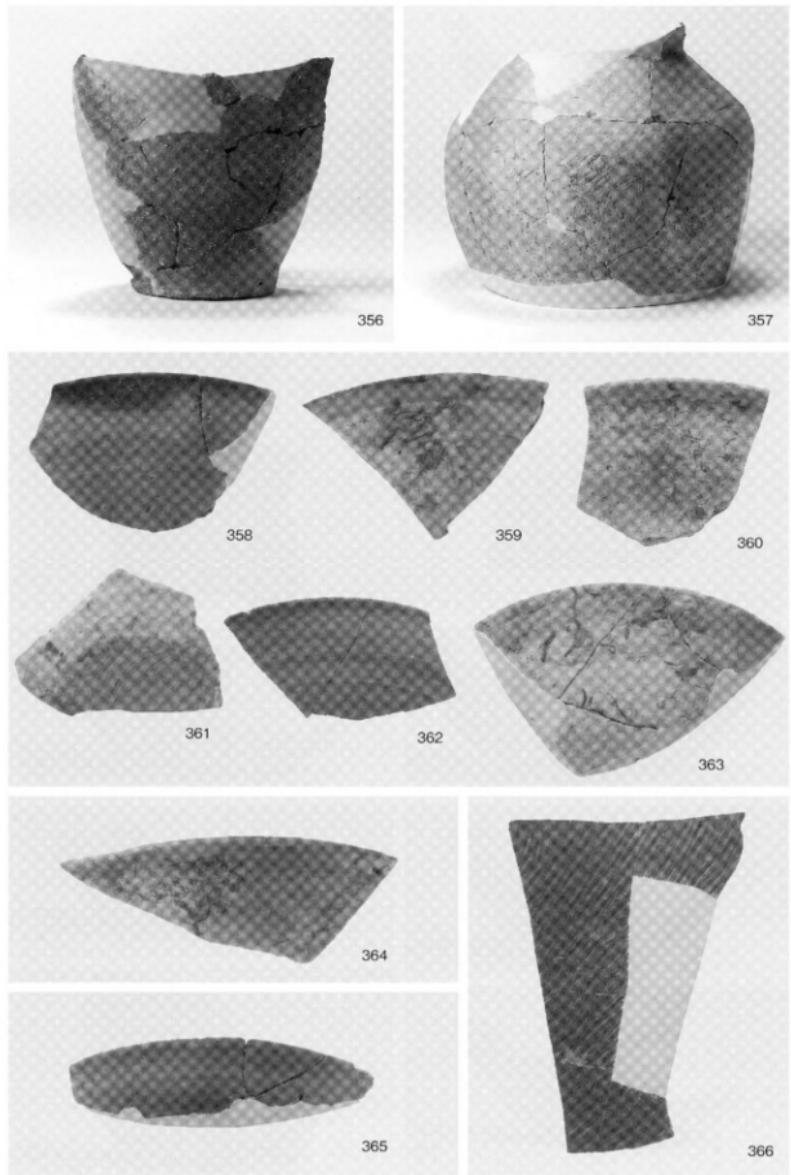
写真図版64 積穴住居出土遺物 (SI0803・0804)



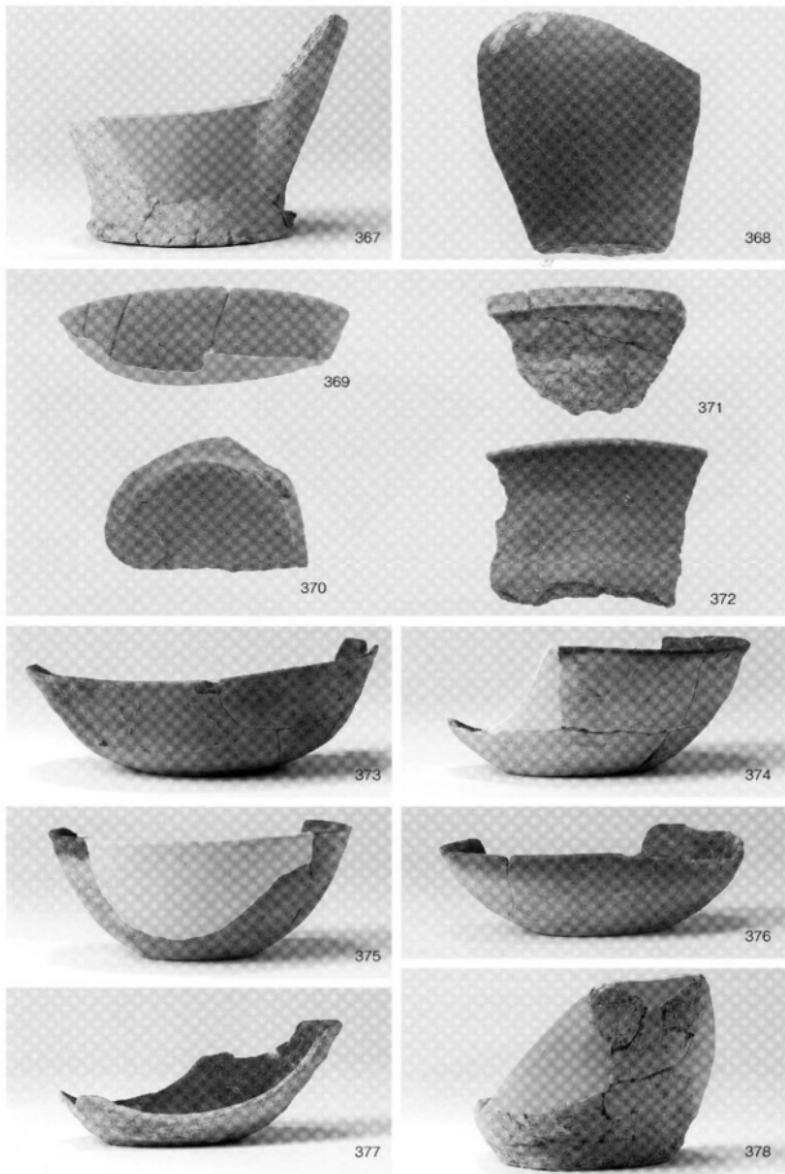
写真図版65 整穴住居出土遺物 (SI0804)



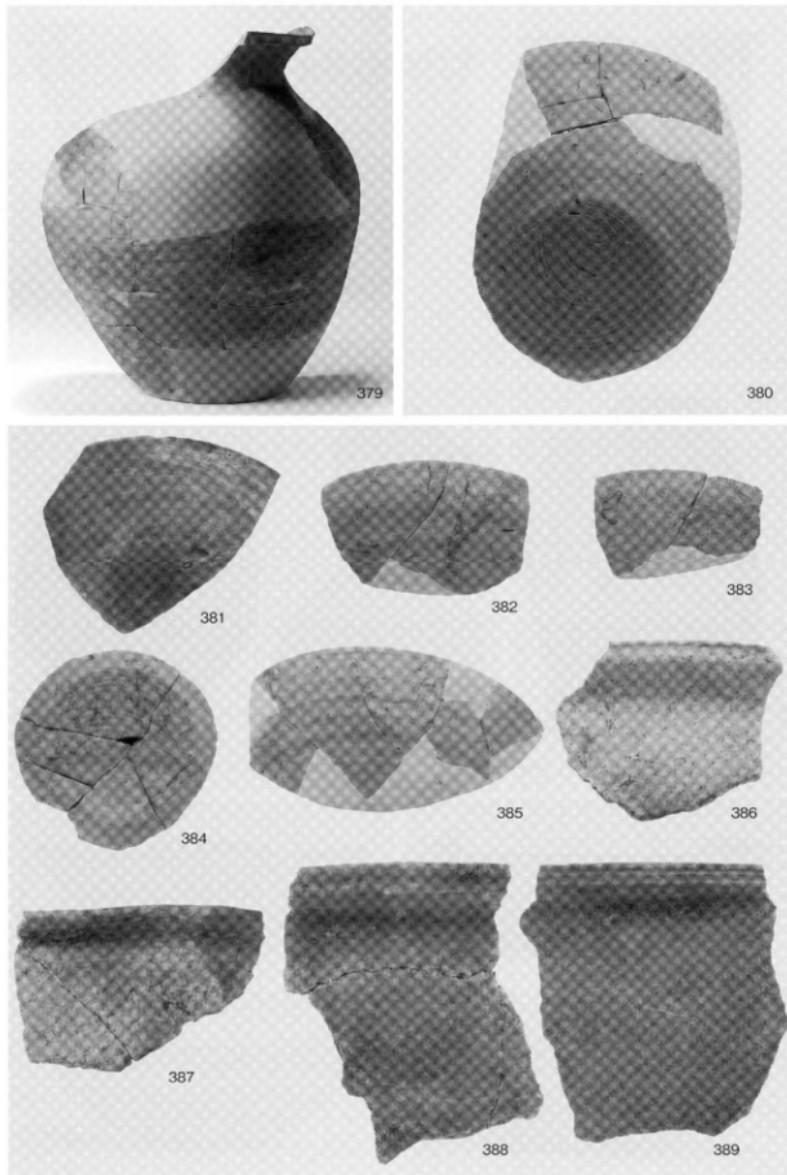
写真図版66 竪穴住居出土遺物 (SI0804・0805・0806)



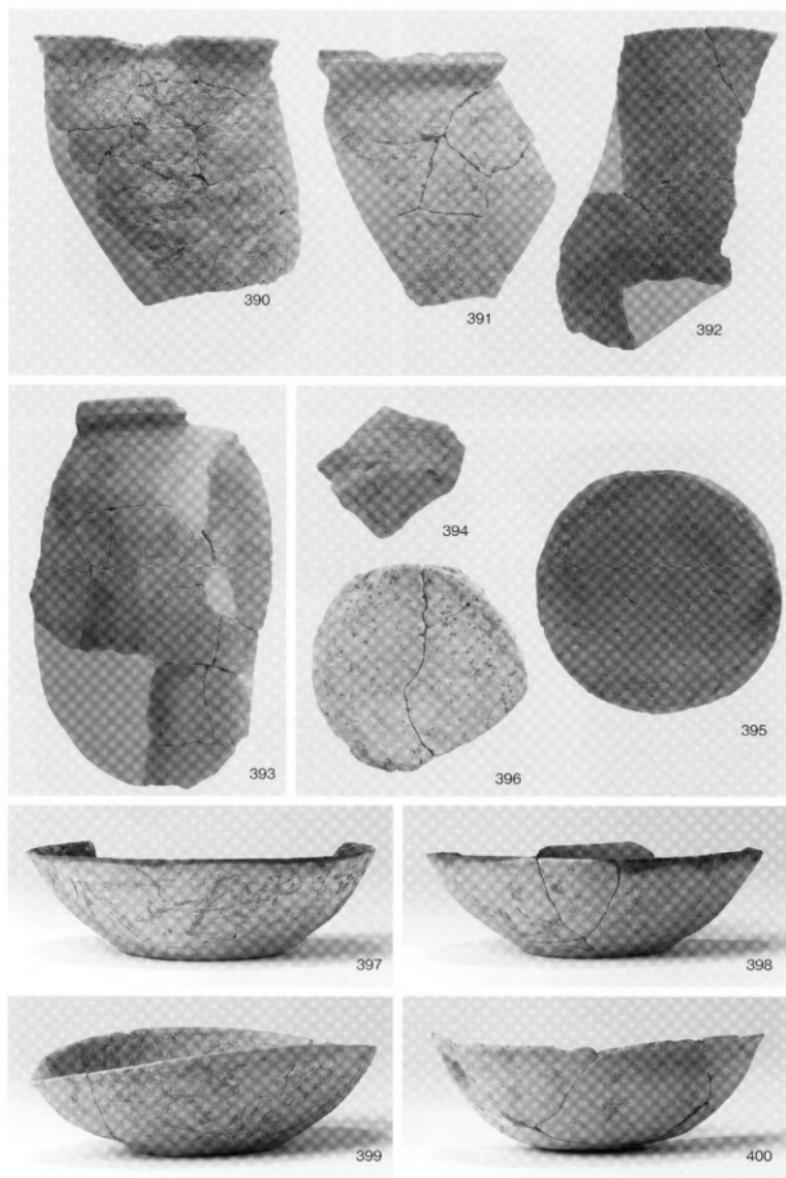
写真図版67 墓穴住居出土遺物 (SI0806)



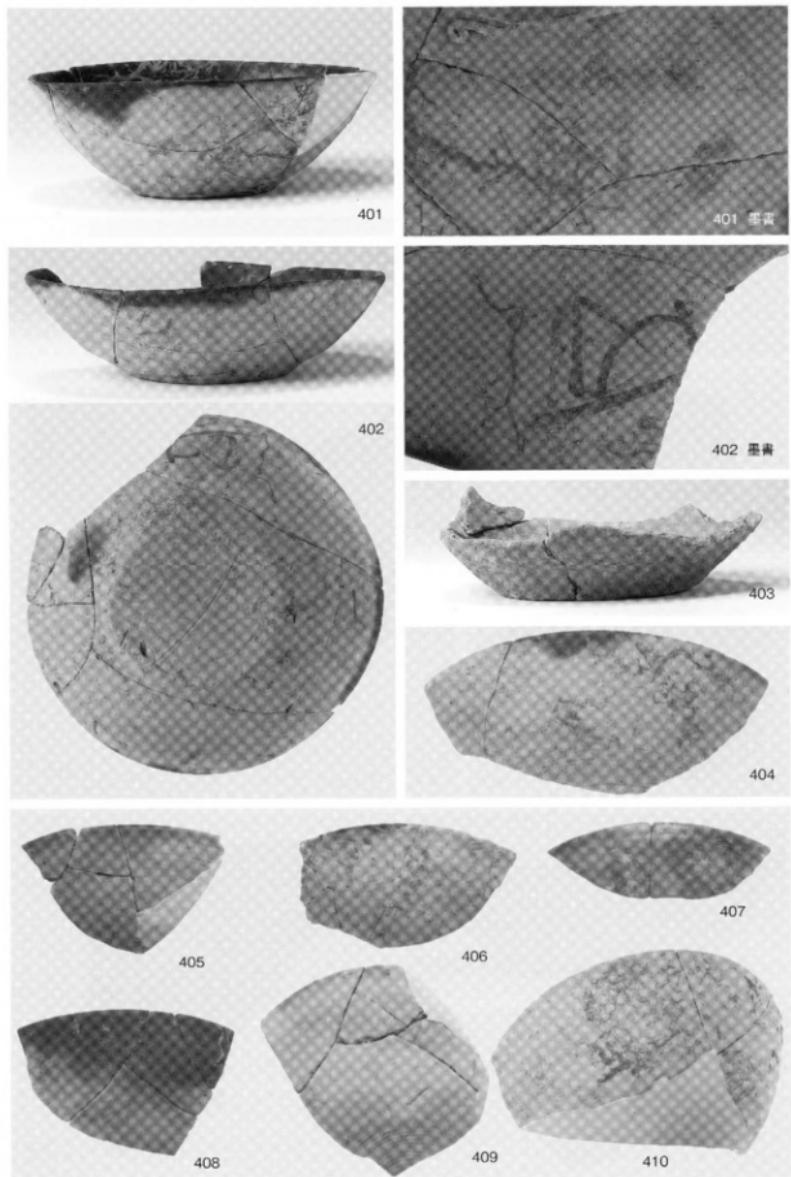
写真図版68 竪穴住居出土遺物 (SI0807・0808)



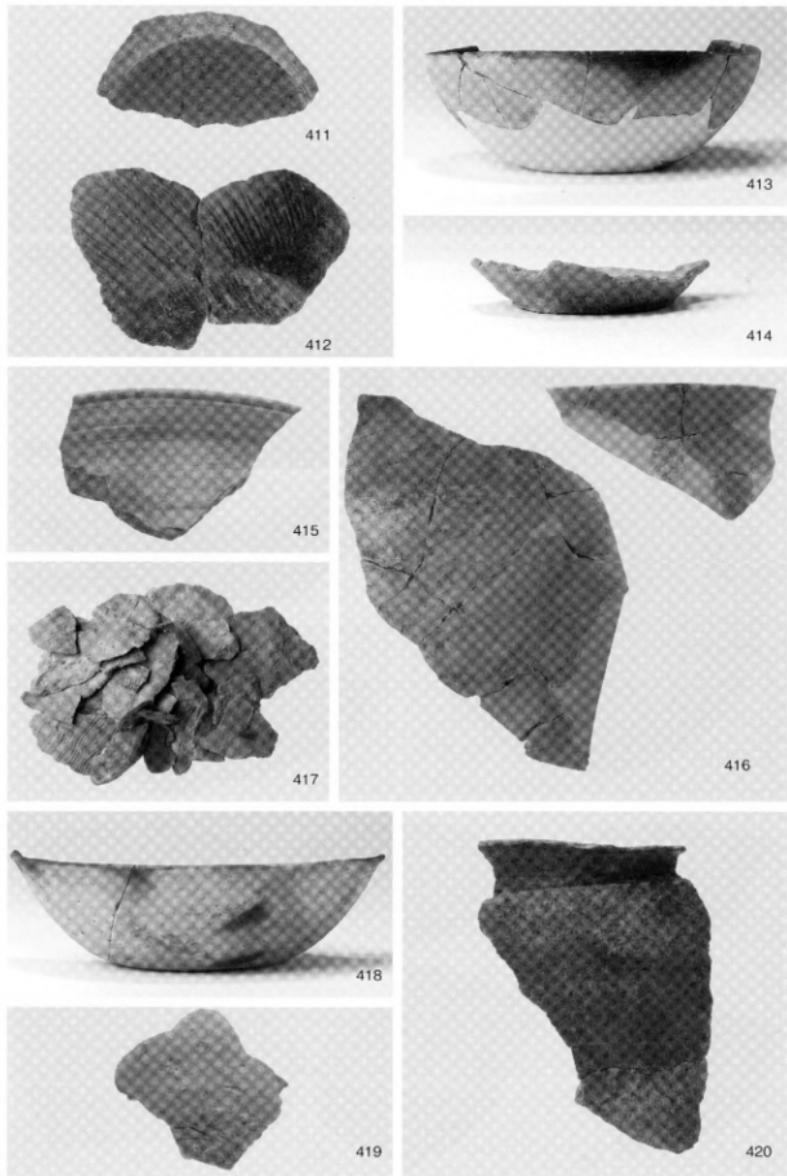
写真図版69 豊穴住居出土遺物 (SI0808)



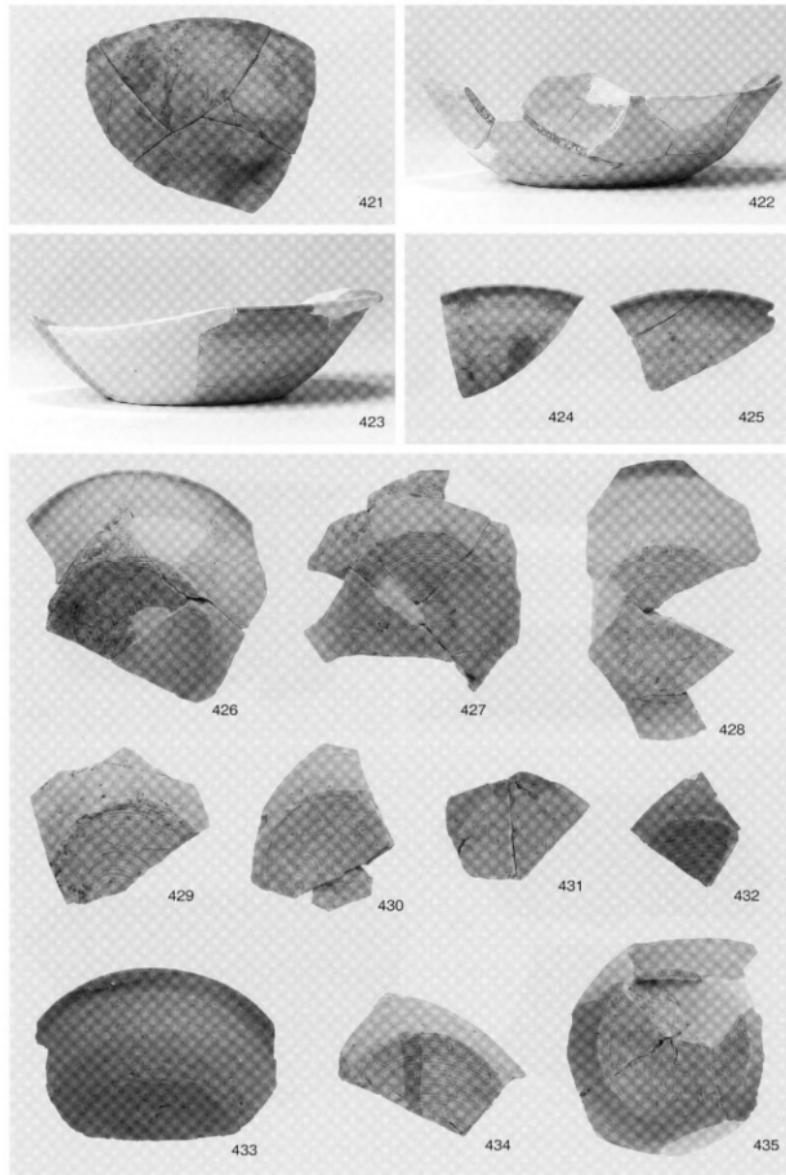
写真図版70 竪穴住居出土遺物 (SI0808・0809)



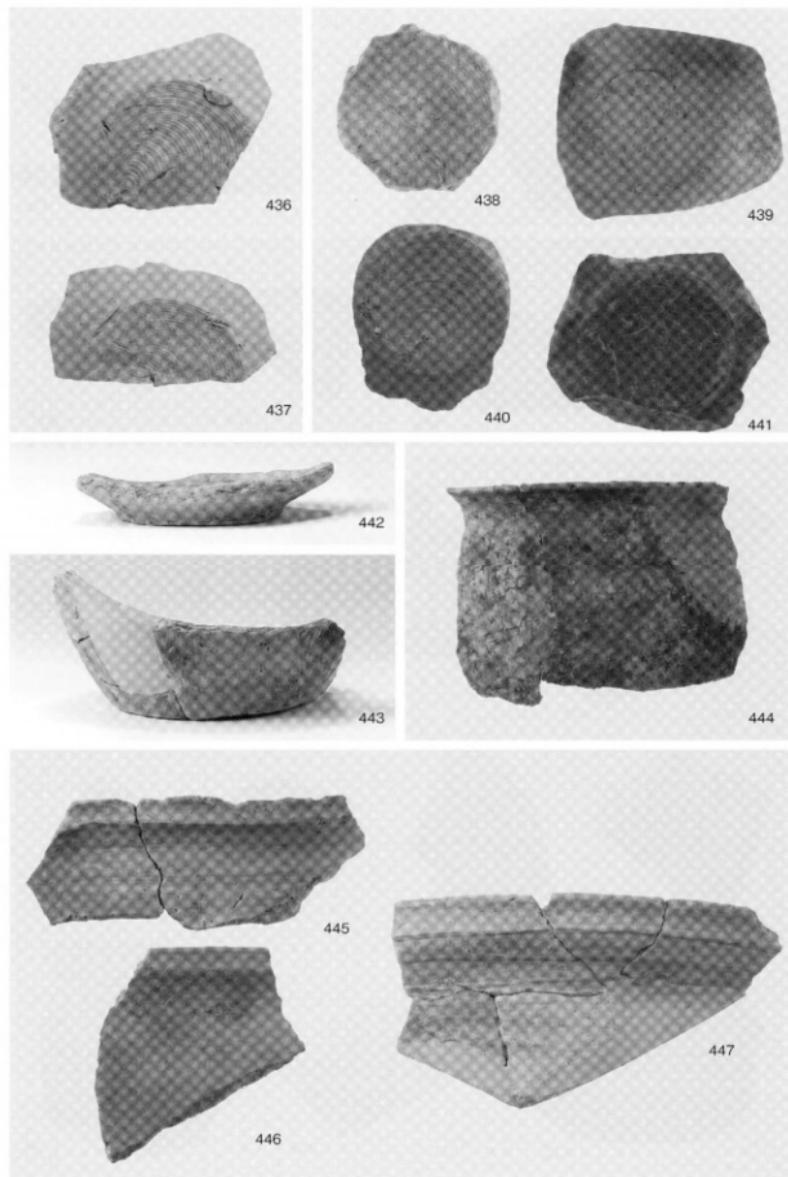
写真図版71 竪穴住居出土遺物 (SI0809)



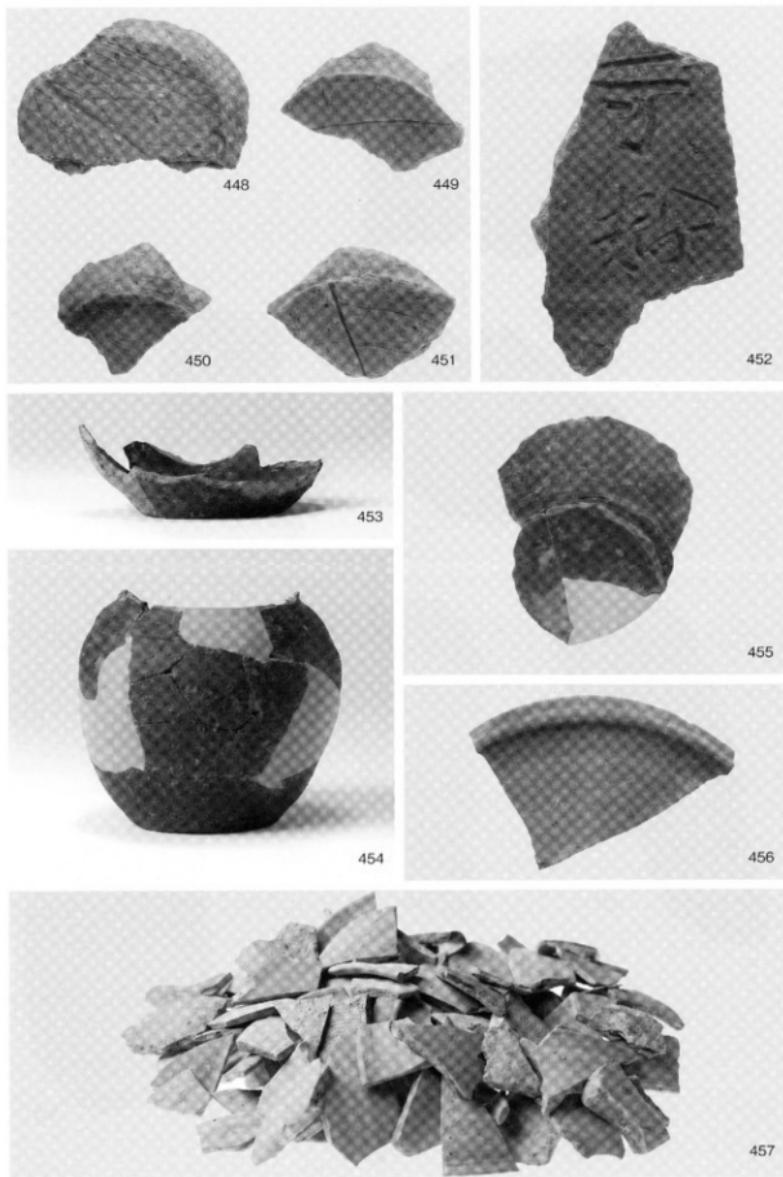
写真図版72 積穴住居出土遺物 (SI0809 ~ 0812)、土坑出土遺物 (SK0802・0805)



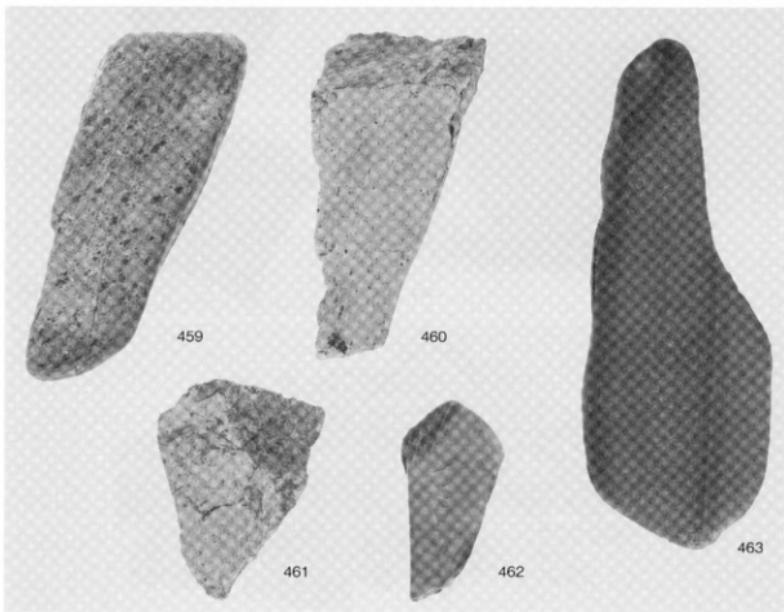
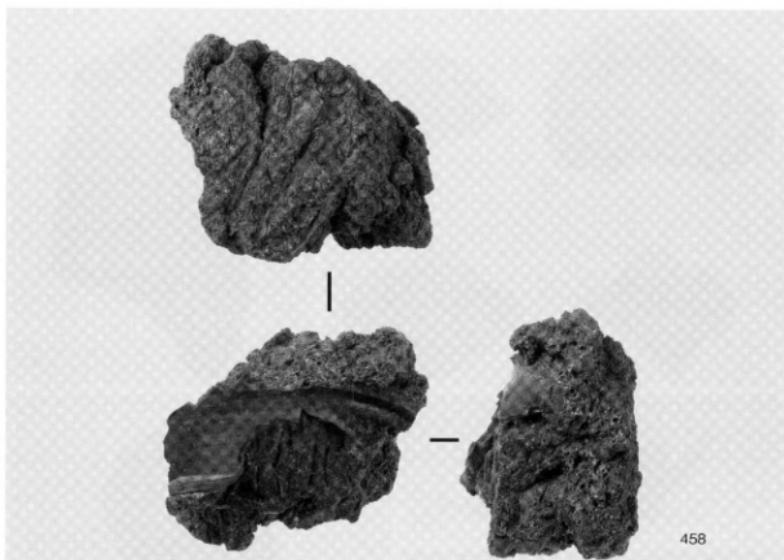
写真図版73 土坑出土遺物 (SK0805)、遺物包含層出土遺物



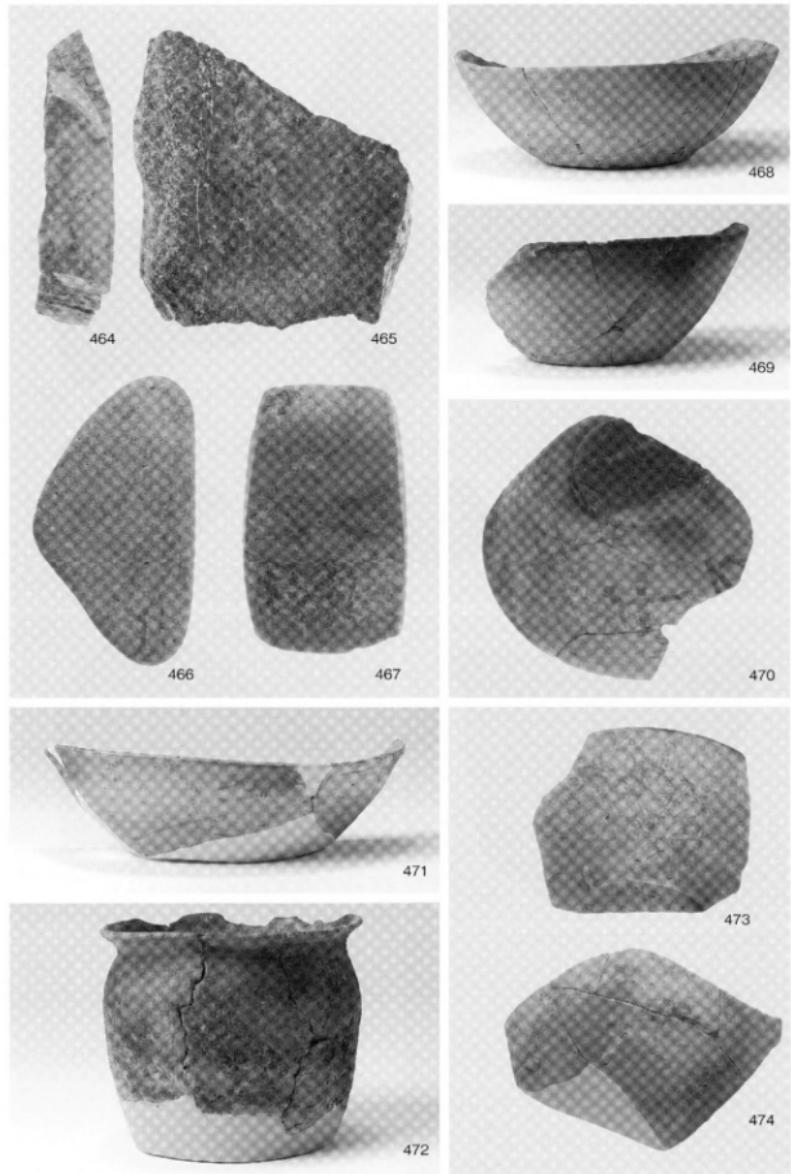
写真図版74 遺物包含層出土遺物



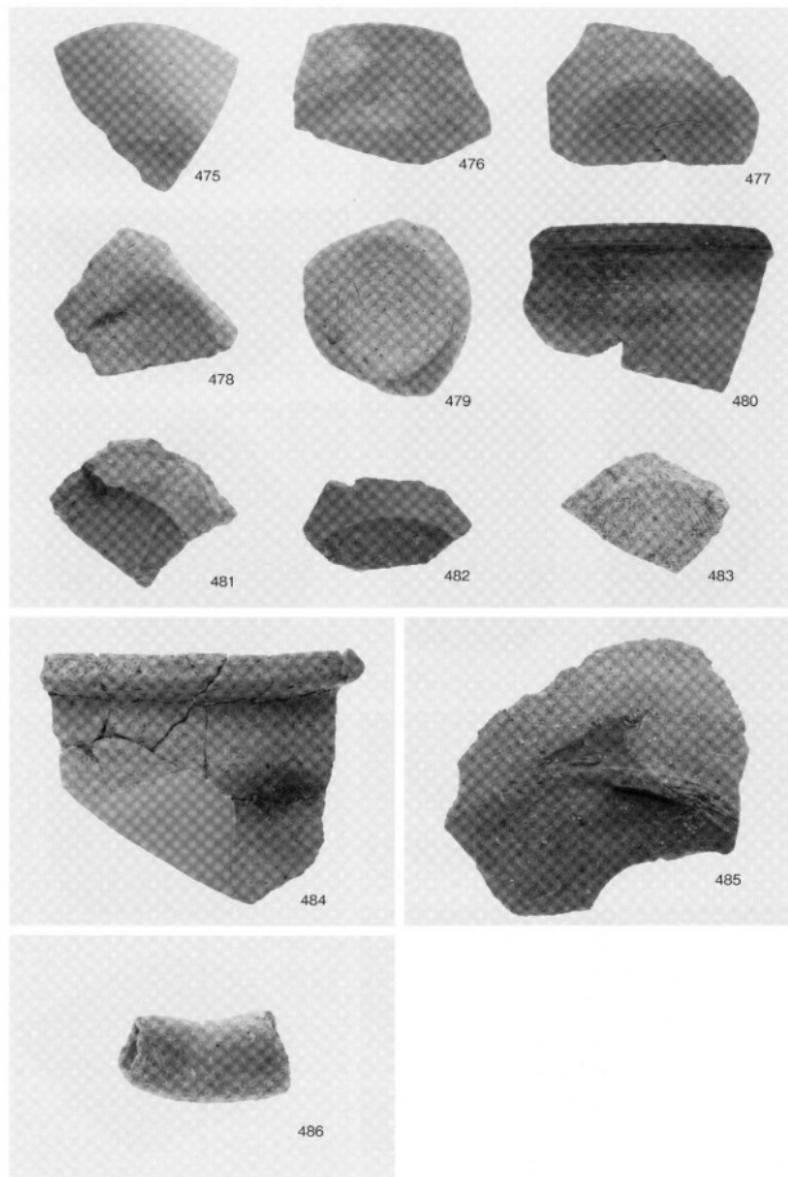
写真図版75 遺物包含層出土遺物



写真図版76 遺物包含層出土遺物、竪穴住居出土石製品



写真図版77 積穴住居出土石製品、遺構外出土遺物



写真図版78 通構外出土遺物

報告書抄録

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第547集

中嶋遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成22年2月15日

発 行 平成22年2月19日

編 集 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

発 行 國土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

〒020-0066 岩手県盛岡市上田四丁目2-2

電話 (019) 624-3131

(財) 岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 654-2235

印 刷 株式会社 光文社

〒020-0106 岩手県盛岡市東松園3-12-1

電話 (019) 661-3441(代)

